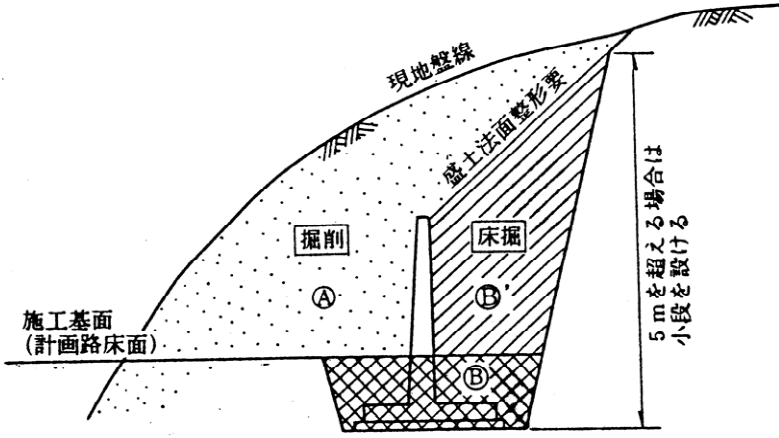
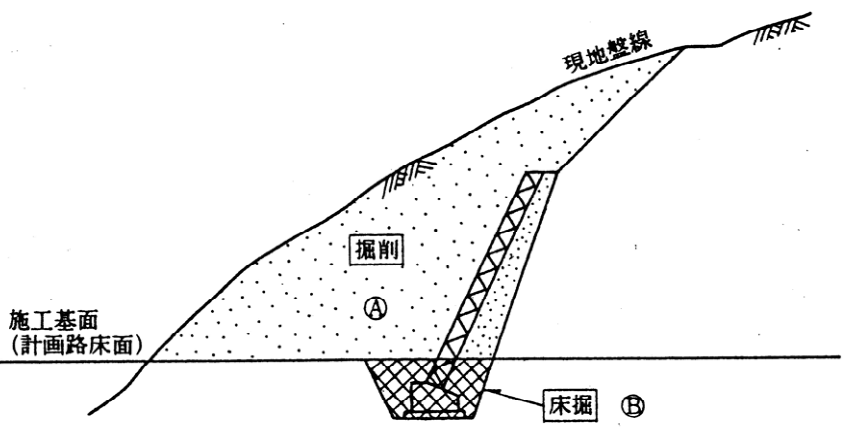
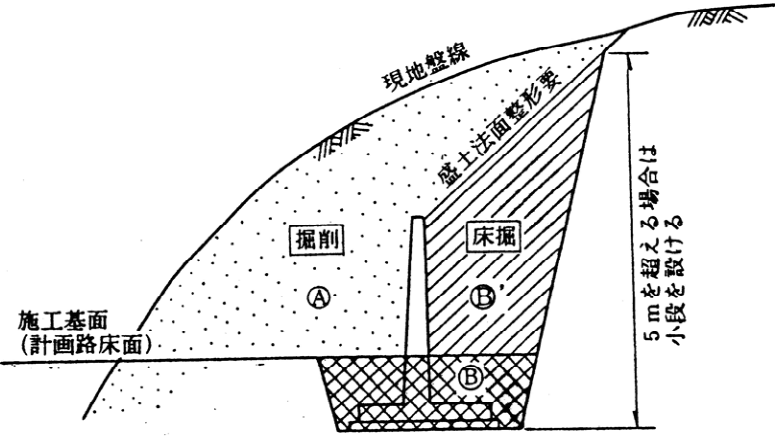
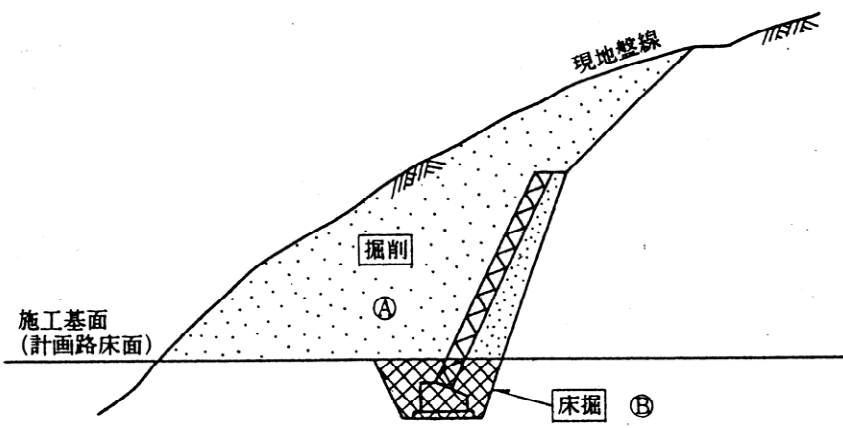
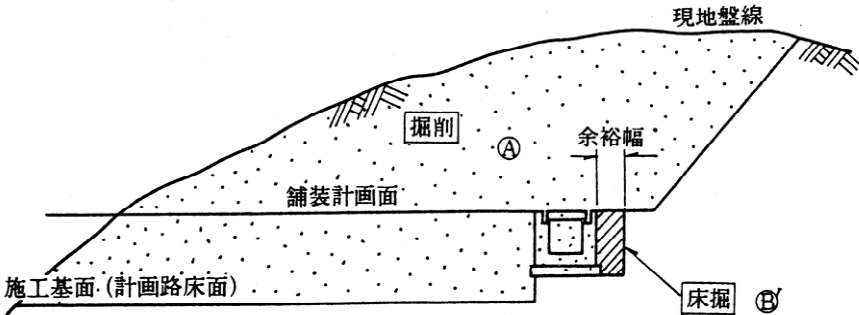
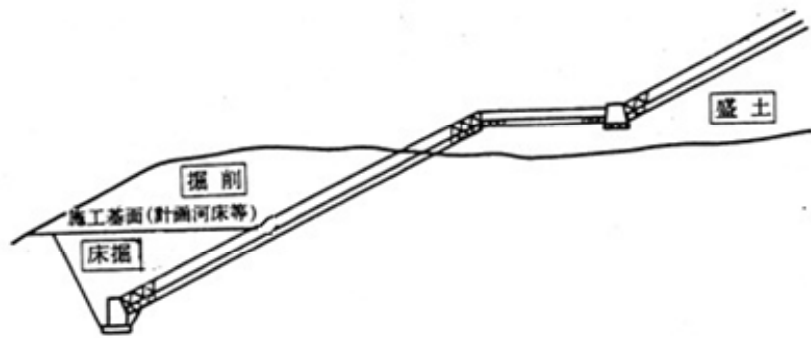
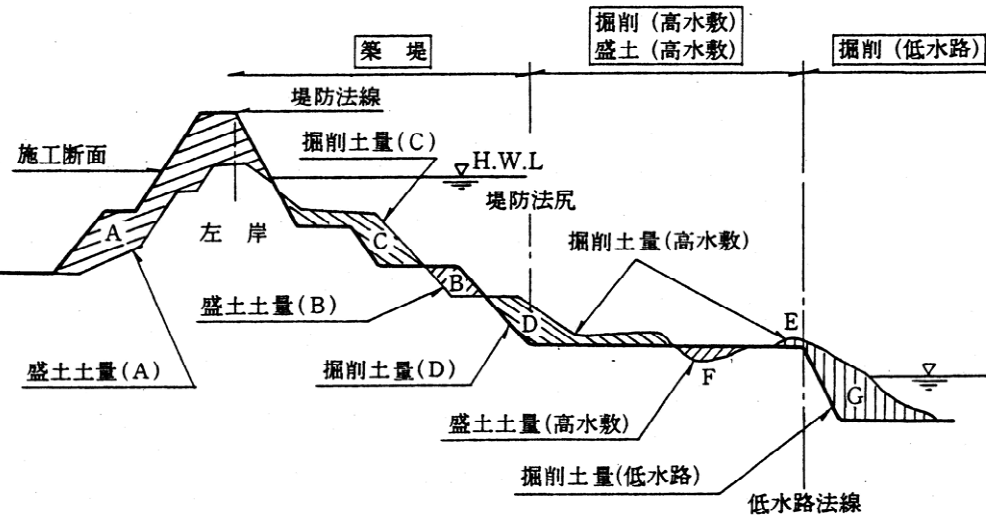
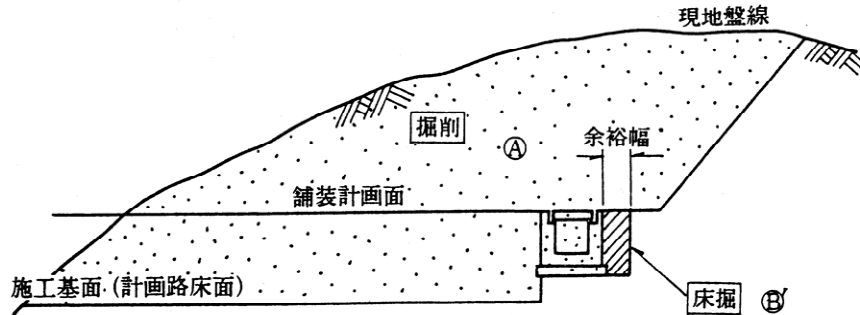
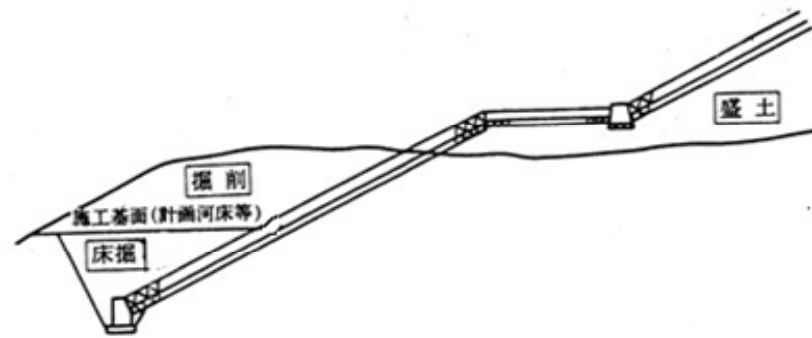
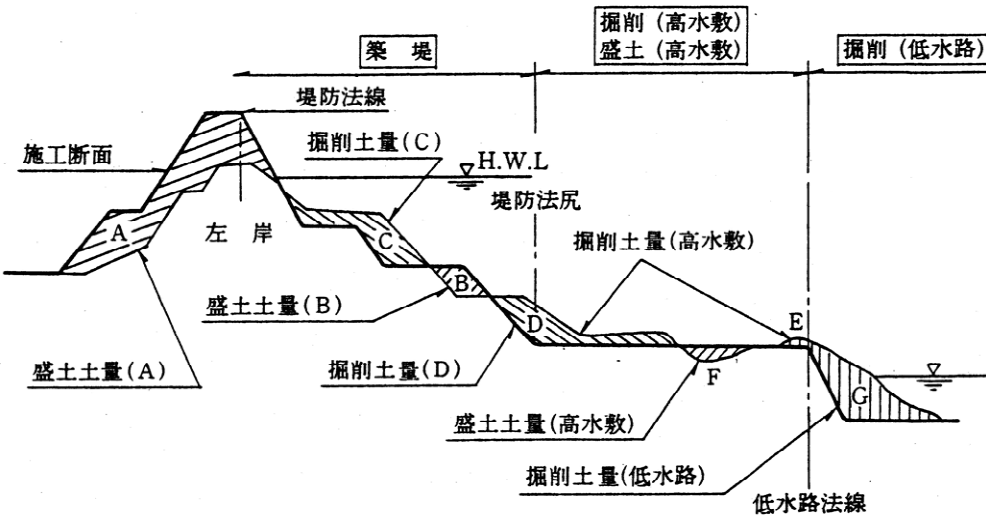


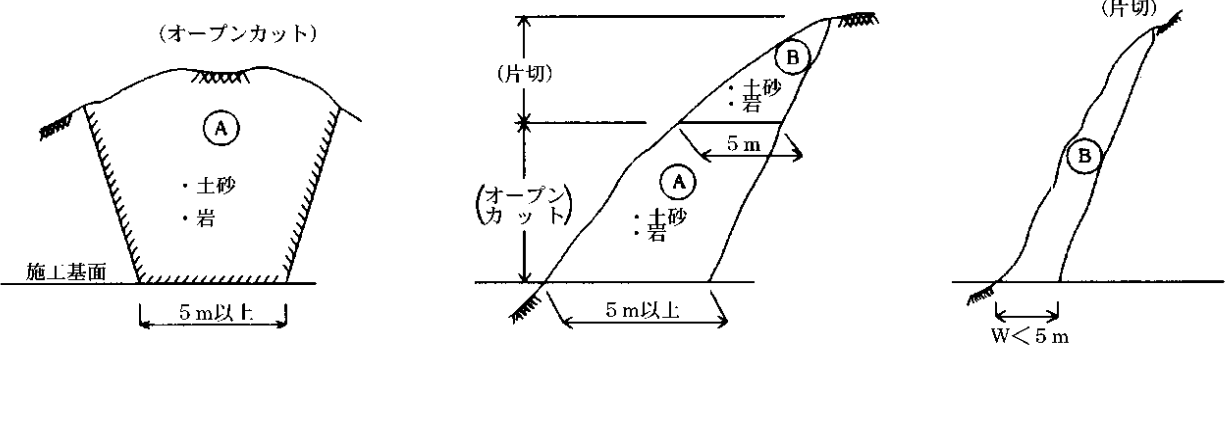
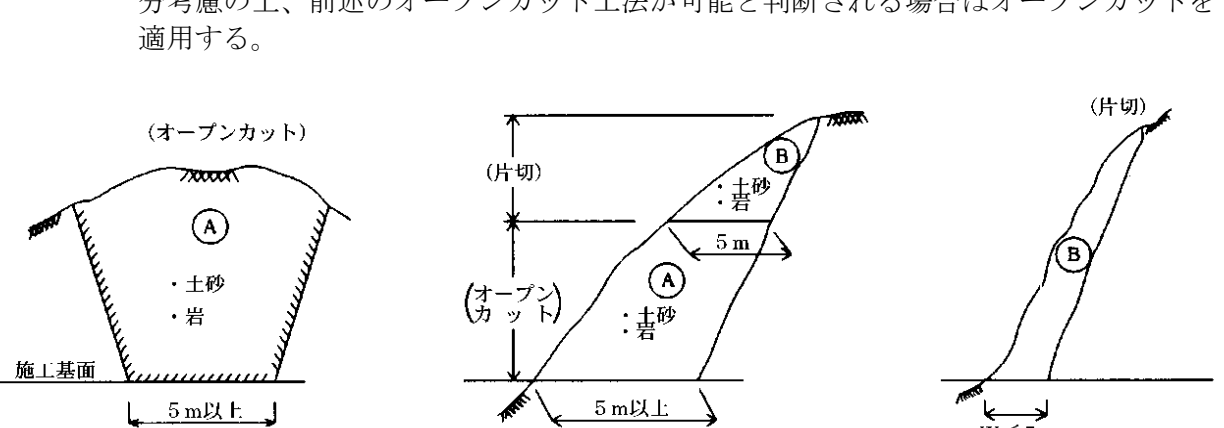
改正理由	現行	改正	改正現行	備考
	<p>2章 土工</p> <p>2.1 土工</p> <p>1. 適用</p> <p>河川、道路工事における土工に適用する。</p> <p>2. 数量算出項目</p> <p>掘削、盛土、床掘り、埋戻し、残土等処分の土量を区分ごとに算出する。</p> <p>(1) 掘削・床掘り（下図参照）</p> <p>「掘削」とは、現地盤線から施工基面までの土砂等を掘り下げる箇所であり、「埋戻し」を伴わない箇所である。</p> <p>また、「床掘り」とは、構造物の築造又は撤去を目的に、現地盤線又は施工基面から土砂等を掘り下げる箇所であり、「埋戻し」を伴う箇所である。</p> <p>(道路)</p>  <p>注) B' 領域については、実作業は「掘削」行為となるが、数量算出上は、「床掘り」として算出するものである。</p>  <p>積算上の注意事項</p>	<p>2章 土工</p> <p>2.1 土工</p> <p>2.1.1 土工</p> <p>1. 適用</p> <p>河川、道路工事における土工に適用する。</p> <p>2. 数量算出項目</p> <p>掘削、土砂等運搬、整地、路体(築堤)盛土、路床盛土、押土(ルーズ)、積込(ルーズ)、人力積込、転石破碎、床掘り、埋戻し、残土等処分の土量を区分ごとに算出する。</p> <p>(1) 掘削・床掘り（下図参照）</p> <p>「掘削」とは、現地盤線から施工基面までの土砂等を掘り下げる箇所であり、「埋戻し」を伴わない箇所である。</p> <p>また、「床掘り」とは、構造物の築造又は撤去を目的に、現地盤線又は施工基面から土砂等を掘り下げる箇所であり、「埋戻し」を伴う箇所である。</p> <p>(道路)</p>  <p>注) 1. B' 領域については、実作業は「掘削」行為となるが、数量算出上は、「床掘り」として算出するものである。</p> <p>2. 床掘りB' は、施工基面より下の部分Bと区分して数量をとりまとめる。</p> 	<p>「土工」の施工パッケージ化に伴う改正。</p> <p>土工に係る数量算出項目の修正。</p> <p>床掘りに関する注釈を追記。</p>	

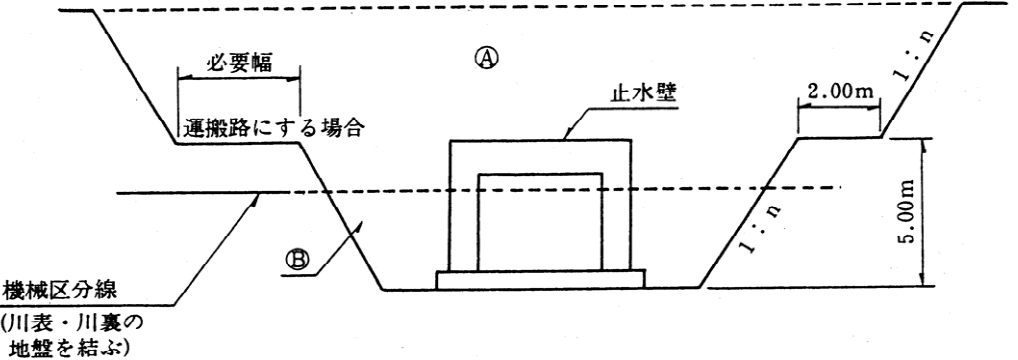
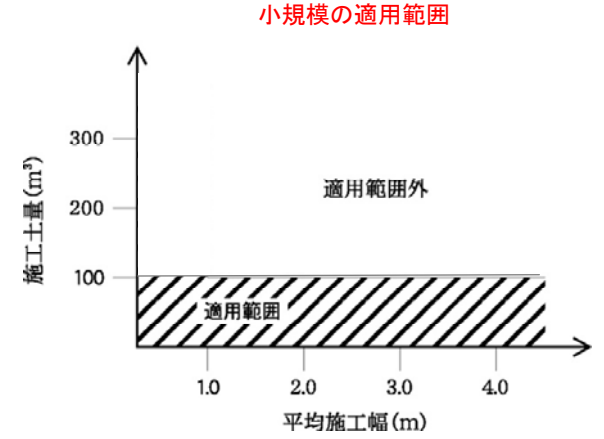
改正理由	現行	改正	改正 現行	備考
	 <p>注) 1. 掘削Aの領域は、施工基面（計画路床高）より上の部分で、構造物を施工する為に掘削される部分Bは含まない。 2. 床掘りB'は、施工基面より下の部分Bと区分して数量をとりまとめる。</p> <p>(河川)</p>  <p>(2) 盛土 (下図参照) 「盛土」とは、現地盤線又は計画埋戻し線より上に土砂を盛り立てる箇所である。</p> <p>(河川) ①路体 (築堤) 盛土と掘削</p>  <p>注) 1. 太線は計画線、細線は現況線を示す。 2. A~Dは路体 (築堤) 盛土、E、Fは高水敷土工、Gは低水路土工を示す。</p>	 <p>注) 1. 掘削Aの領域は、施工基面（計画路床高）より上の部分で、構造物を施工する為に掘削される部分Bは含まない。 2. 床掘りB'は、施工基面より下の部分Bと区分して数量をとりまとめる。</p> <p>(河川)</p>  <p>(2) 盛土 (下図参照) 「盛土」とは、現地盤線又は計画埋戻し線より上に土砂を盛り立てる箇所である。</p> <p>(河川) ①路体 (築堤) 盛土と掘削</p>  <p>注) 1. 太線は計画線、細線は現況線を示す。 2. A~Dは路体 (築堤) 盛土、E、Fは高水敷土工、Gは低水路土工を示す。</p>		
積算上の注意事項				

改正理由	現行	改正	改正現行	備考																																																																																																								
	<p>②路体(築堤)盛土と護岸</p> <p>注) 1. 太線は計画線、細線は現況線を示す。</p> <p>(3) 埋戻し 「埋戻し」とは、構造物の築造又は撤去後、現地盤線又は計画埋戻し線まで埋戻す箇所である。</p> <p>3. 区分</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 区分は、土質、構造物、施工形態、水陸とする。 </div> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1" data-bbox="154 1249 1190 1711"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>区分</th> <th>土質</th> <th>構造物</th> <th>施工形態</th> <th>水陸</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">土工</td> <td>掘削</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>m³</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>盛土</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>×</td> <td>m³</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="2">作業土工</td> <td>床掘り</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>m³</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>埋戻し</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>×</td> <td>m³</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td colspan="2">残土等処分</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>×</td> <td>m³</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>注) 1. 伐開除根および表土はぎにより生じた廃棄物については、別途数量を算出する。 2. 切土(発破)防護柵が必要な場合は、「第1編(共通編)11.8切土(発破)防護柵工」により算出する。</p>	項目	区分	土質	構造物	施工形態	水陸	単位	数量	備考	土工	掘削	○	○	○	○	m ³			盛土	○	○	○	×	m ³			作業土工	床掘り	○	○	○	○	m ³			埋戻し	○	○	○	×	m ³			残土等処分		○	○	○	×	m ³			<p>②路体(築堤)盛土と護岸</p> <p>注) 1. 太線は計画線、細線は現況線を示す。</p> <p>(3) 埋戻し 「埋戻し」とは、構造物の築造又は撤去後、現地盤線又は計画埋戻し線まで埋戻す箇所である。</p> <p>3. 区分</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 区分は、土質、構造物、施工形態、水陸とする。 </div> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1" data-bbox="1377 1249 2412 1711"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>区分</th> <th>土質</th> <th>構造物</th> <th>施工形態</th> <th>水陸</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">土工</td> <td>掘削</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>m³</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>盛土</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>×</td> <td>m³</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="2">作業土工</td> <td>床掘り</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>m³</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>埋戻し</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>×</td> <td>m³</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td colspan="2">残土等処分</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>×</td> <td>m³</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>注) 1. 伐開除根および表土はぎにより生じた廃棄物については、別途数量を算出する。 2. 切土(発破)防護柵が必要な場合は、「第1編(共通編)11.8切土(発破)防護柵工」により算出する。</p>	項目	区分	土質	構造物	施工形態	水陸	単位	数量	備考	土工	掘削	○	○	○	○	m ³			盛土	○	○	○	×	m ³			作業土工	床掘り	○	○	○	○	m³			埋戻し	○	○	○	×	m³			残土等処分		○	○	○	×	m ³				<p>「埋戻し」は別項を新設したため、削除。</p> <p>「床掘工」「埋戻工」の別項を新設したため、削除。</p>
項目	区分	土質	構造物	施工形態	水陸	単位	数量	備考																																																																																																				
土工	掘削	○	○	○	○	m ³																																																																																																						
	盛土	○	○	○	×	m ³																																																																																																						
作業土工	床掘り	○	○	○	○	m ³																																																																																																						
	埋戻し	○	○	○	×	m ³																																																																																																						
残土等処分		○	○	○	×	m ³																																																																																																						
項目	区分	土質	構造物	施工形態	水陸	単位	数量	備考																																																																																																				
土工	掘削	○	○	○	○	m ³																																																																																																						
	盛土	○	○	○	×	m ³																																																																																																						
作業土工	床掘り	○	○	○	○	m³																																																																																																						
	埋戻し	○	○	○	×	m³																																																																																																						
残土等処分		○	○	○	×	m ³																																																																																																						
積算上の注意事項																																																																																																												

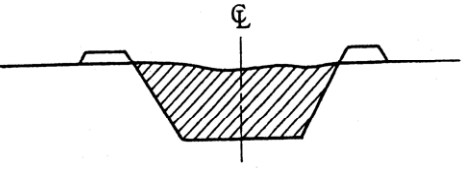
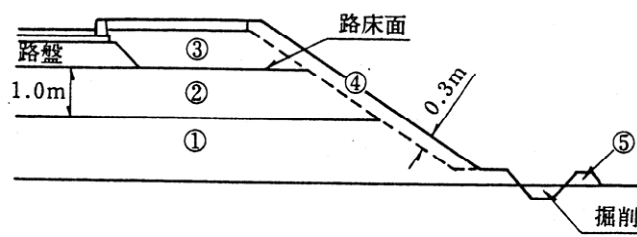
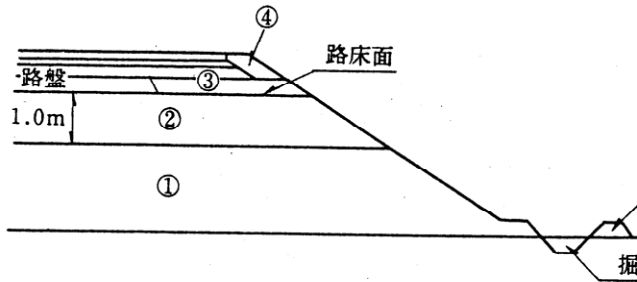
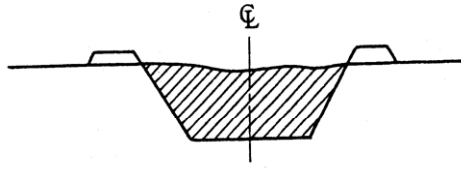
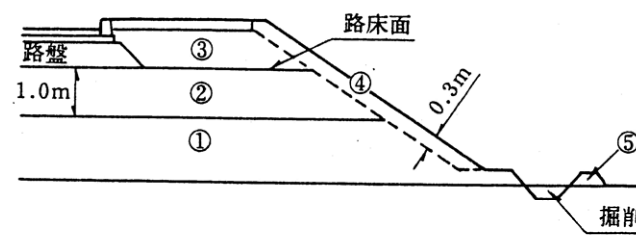
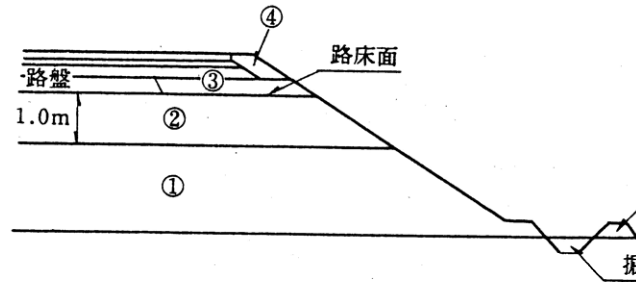
改正理由	現 行	改 正	改 正 現 行	備 考																																																																																														
	<p>(2) 土質区分 土質による区分は、下表のとおりとする。区分はC分類を標準とするが、土砂については、細分化が難しい場合はB分類として良い。</p> <p style="text-align: center;">土および岩の区分表</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th colspan="3">区 分</th> <th rowspan="2">説明</th> <th rowspan="2">摘要</th> </tr> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="4">土</td> <td>礫質土</td> <td>礫混り土</td> <td>礫の混入があつて掘削時の能率が低下するもの</td> <td>礫の多い砂、礫の多い砂質土、礫の多い粘性土 礫 (G) 礫質土 (GF)</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">砂質土及び砂</td> <td>砂</td> <td>バケットなどに山盛り形状になりにくいもの</td> <td>海岸砂丘の砂 マサ土 砂 (S)</td> </tr> <tr> <td>砂質土(普通土)</td> <td>掘削が容易で、バケット等に山盛り形状にし易く空げきの少ないもの</td> <td>砂質土、マサ土 粒度分布の良い砂 条件の良いローム 砂 (S) 砂質土 (SF) シルト (M)</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">粘性土</td> <td>粘性土</td> <td>バケット等に付着し易く空げきの多い状態になり易いもの、トラフィカビリティが問題となり易いもの</td> <td>ローム 粘性土 シルト (M) 粘性土 (C)</td> </tr> <tr> <td>高含水比粘性土</td> <td>バケット等に付着し易く、特にトラフィカビリティが悪いもの</td> <td>条件の悪いローム 条件の悪い粘性土 火山灰質粘性土 シルト (M) 粘性土 (C) 火山灰質粘性土 (V) 有機質土 (O)</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">岩</td> <td>岩塊玉石</td> <td>岩塊玉石</td> <td>岩塊、玉石が混入して掘削しにくく、バケット等に空げきのでき易いもの。岩塊、玉石は粒径7.5cm以上とし、まるみのあるのを玉石とする。</td> <td>玉石まじり土、岩塊破碎された岩、ごろごろした河床</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">軟岩</td> <td>軟岩 I</td> <td>第三紀の岩石で固結の程度が弱いもの。風化がはなはだしく、きわめてもろいもの。指先で離し得る程度のもので、亀裂の間隔は1～5cmぐらいのものおよび第三紀の岩石で固結の程度が良好なもの。風化が相当進み、多少変色を伴い軽い打撃で容易に割れるもの、離れ易いもので、き裂間隔は5～10cm程度のもの。</td> <td rowspan="2">地山弾性波速度 700～2800m/sec</td> </tr> <tr> <td>軟岩 II</td> <td>凝灰質で堅く固結しているもの。風化が目にして相当進んでいるもの。き裂間隔が10～30cm程度で軽い打撃により離し得る程度異質の硬い互層をなすもので層面を楽に離し得るもの。</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">硬岩</td> <td>中硬岩</td> <td>石灰岩、多孔質安山岩のように特にち密でなくても相当の硬さを有するもの。風化の程度があまり進んでいないもの。硬い岩石で間隔30～50cm程度のき裂を有するもの。</td> <td>地山弾性波速度 2000～4000m/sec</td> </tr> <tr> <td>硬岩 I</td> <td>花崗岩、結晶片岩等で全く変化していないもの。き裂間隔が1m内外で相当密着しているもの。硬い良好な石材を取り得るようなもの。</td> <td rowspan="2">地山弾性波速度 3000m/sec以上</td> </tr> <tr> <td>硬岩 II</td> <td>けい岩、角岩などの石英質に富む岩質で最も硬いもの。風化していない新鮮な状態のもの。き裂が少なくよく密着しているもの。</td> </tr> </tbody> </table>	区 分			説明	摘要	A	B	C	土	礫質土	礫混り土	礫の混入があつて掘削時の能率が低下するもの	礫の多い砂、礫の多い砂質土、礫の多い粘性土 礫 (G) 礫質土 (GF)	砂質土及び砂	砂	バケットなどに山盛り形状になりにくいもの	海岸砂丘の砂 マサ土 砂 (S)	砂質土(普通土)	掘削が容易で、バケット等に山盛り形状にし易く空げきの少ないもの	砂質土、マサ土 粒度分布の良い砂 条件の良いローム 砂 (S) 砂質土 (SF) シルト (M)	粘性土	粘性土	バケット等に付着し易く空げきの多い状態になり易いもの、トラフィカビリティが問題となり易いもの	ローム 粘性土 シルト (M) 粘性土 (C)	高含水比粘性土	バケット等に付着し易く、特にトラフィカビリティが悪いもの	条件の悪いローム 条件の悪い粘性土 火山灰質粘性土 シルト (M) 粘性土 (C) 火山灰質粘性土 (V) 有機質土 (O)	岩	岩塊玉石	岩塊玉石	岩塊、玉石が混入して掘削しにくく、バケット等に空げきのでき易いもの。岩塊、玉石は粒径7.5cm以上とし、まるみのあるのを玉石とする。	玉石まじり土、岩塊破碎された岩、ごろごろした河床	軟岩	軟岩 I	第三紀の岩石で固結の程度が弱いもの。風化がはなはだしく、きわめてもろいもの。指先で離し得る程度のもので、亀裂の間隔は1～5cmぐらいのものおよび第三紀の岩石で固結の程度が良好なもの。風化が相当進み、多少変色を伴い軽い打撃で容易に割れるもの、離れ易いもので、き裂間隔は5～10cm程度のもの。	地山弾性波速度 700～2800m/sec	軟岩 II	凝灰質で堅く固結しているもの。風化が目にして相当進んでいるもの。き裂間隔が10～30cm程度で軽い打撃により離し得る程度異質の硬い互層をなすもので層面を楽に離し得るもの。	硬岩	中硬岩	石灰岩、多孔質安山岩のように特にち密でなくても相当の硬さを有するもの。風化の程度があまり進んでいないもの。硬い岩石で間隔30～50cm程度のき裂を有するもの。	地山弾性波速度 2000～4000m/sec	硬岩 I	花崗岩、結晶片岩等で全く変化していないもの。き裂間隔が1m内外で相当密着しているもの。硬い良好な石材を取り得るようなもの。	地山弾性波速度 3000m/sec以上	硬岩 II	けい岩、角岩などの石英質に富む岩質で最も硬いもの。風化していない新鮮な状態のもの。き裂が少なくよく密着しているもの。	<p>(2) 土質区分 土質による区分は、下表のとおりとする。区分はC分類を標準とするが、土砂については、細分化が難しい場合はB分類として良い。</p> <p style="text-align: center;">土および岩の区分表</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th colspan="3">区 分</th> <th rowspan="2">説明</th> <th rowspan="2">摘要</th> </tr> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="4">土</td> <td>礫質土</td> <td>礫混り土</td> <td>礫の混入があつて掘削時の能率が低下するもの</td> <td>礫の多い砂、礫の多い砂質土、礫の多い粘性土 礫 (G) 礫質土 (GF)</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">砂質土及び砂</td> <td>砂</td> <td>バケットなどに山盛り形状になりにくいもの</td> <td>海岸砂丘の砂 マサ土 砂 (S)</td> </tr> <tr> <td>砂質土(普通土)</td> <td>掘削が容易で、バケット等に山盛り形状にし易く空げきの少ないもの</td> <td>砂質土、マサ土 粒度分布の良い砂 条件の良いローム 砂 (S) 砂質土 (SF) シルト (M)</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">粘性土</td> <td>粘性土</td> <td>バケット等に付着し易く空げきの多い状態になり易いもの、トラフィカビリティが問題となり易いもの</td> <td>ローム 粘性土 シルト (M) 粘性土 (C)</td> </tr> <tr> <td>高含水比粘性土</td> <td>バケット等に付着し易く、特にトラフィカビリティが悪いもの</td> <td>条件の悪いローム 条件の悪い粘性土 火山灰質粘性土 シルト (M) 粘性土 (C) 火山灰質粘性土 (V) 有機質土 (O)</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">岩</td> <td>岩塊玉石</td> <td>岩塊玉石</td> <td>岩塊、玉石が混入して掘削しにくく、バケット等に空げきのでき易いもの。岩塊、玉石は粒径7.5cm以上とし、まるみのあるのを玉石とする。</td> <td>玉石まじり土、岩塊破碎された岩、ごろごろした河床</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">軟岩</td> <td>軟岩 I</td> <td>第三紀の岩石で固結の程度が弱いもの。風化がはなはだしく、きわめてもろいもの。指先で離し得る程度のもので、亀裂の間隔は1～5cmぐらいのものおよび第三紀の岩石で固結の程度が良好なもの。風化が相当進み、多少変色を伴い軽い打撃で容易に割れるもの、離れ易いもので、き裂間隔は5～10cm程度のもの。</td> <td rowspan="2">地山弾性波速度 700～2800m/sec</td> </tr> <tr> <td>軟岩 II</td> <td>凝灰質で堅く固結しているもの。風化が目にして相当進んでいるもの。き裂間隔が10～30cm程度で軽い打撃により離し得る程度異質の硬い互層をなすもので層面を楽に離し得るもの。</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">硬岩</td> <td>中硬岩</td> <td>石灰岩、多孔質安山岩のように特にち密でなくても相当の硬さを有するもの。風化の程度があまり進んでいないもの。硬い岩石で間隔30～50cm程度のき裂を有するもの。</td> <td>地山弾性波速度 2000～4000m/sec</td> </tr> <tr> <td>硬岩 I</td> <td>花崗岩、結晶片岩等で全く変化していないもの。き裂間隔が1m内外で相当密着しているもの。硬い良好な石材を取り得るようなもの。</td> <td rowspan="2">地山弾性波速度 3000m/sec以上</td> </tr> <tr> <td>硬岩 II</td> <td>けい岩、角岩などの石英質に富む岩質で最も硬いもの。風化していない新鮮な状態のもの。き裂が少なくよく密着しているもの。</td> </tr> </tbody> </table>	区 分			説明	摘要	A	B	C	土	礫質土	礫混り土	礫の混入があつて掘削時の能率が低下するもの	礫の多い砂、礫の多い砂質土、礫の多い粘性土 礫 (G) 礫質土 (GF)	砂質土及び砂	砂	バケットなどに山盛り形状になりにくいもの	海岸砂丘の砂 マサ土 砂 (S)	砂質土(普通土)	掘削が容易で、バケット等に山盛り形状にし易く空げきの少ないもの	砂質土、マサ土 粒度分布の良い砂 条件の良いローム 砂 (S) 砂質土 (SF) シルト (M)	粘性土	粘性土	バケット等に付着し易く空げきの多い状態になり易いもの、トラフィカビリティが問題となり易いもの	ローム 粘性土 シルト (M) 粘性土 (C)	高含水比粘性土	バケット等に付着し易く、特にトラフィカビリティが悪いもの	条件の悪いローム 条件の悪い粘性土 火山灰質粘性土 シルト (M) 粘性土 (C) 火山灰質粘性土 (V) 有機質土 (O)	岩	岩塊玉石	岩塊玉石	岩塊、玉石が混入して掘削しにくく、バケット等に空げきのでき易いもの。岩塊、玉石は粒径7.5cm以上とし、まるみのあるのを玉石とする。	玉石まじり土、岩塊破碎された岩、ごろごろした河床	軟岩	軟岩 I	第三紀の岩石で固結の程度が弱いもの。風化がはなはだしく、きわめてもろいもの。指先で離し得る程度のもので、亀裂の間隔は1～5cmぐらいのものおよび第三紀の岩石で固結の程度が良好なもの。風化が相当進み、多少変色を伴い軽い打撃で容易に割れるもの、離れ易いもので、き裂間隔は5～10cm程度のもの。	地山弾性波速度 700～2800m/sec	軟岩 II	凝灰質で堅く固結しているもの。風化が目にして相当進んでいるもの。き裂間隔が10～30cm程度で軽い打撃により離し得る程度異質の硬い互層をなすもので層面を楽に離し得るもの。	硬岩	中硬岩	石灰岩、多孔質安山岩のように特にち密でなくても相当の硬さを有するもの。風化の程度があまり進んでいないもの。硬い岩石で間隔30～50cm程度のき裂を有するもの。	地山弾性波速度 2000～4000m/sec	硬岩 I	花崗岩、結晶片岩等で全く変化していないもの。き裂間隔が1m内外で相当密着しているもの。硬い良好な石材を取り得るようなもの。	地山弾性波速度 3000m/sec以上	硬岩 II	けい岩、角岩などの石英質に富む岩質で最も硬いもの。風化していない新鮮な状態のもの。き裂が少なくよく密着しているもの。		
区 分			説明	摘要																																																																																														
A	B	C																																																																																																
土	礫質土	礫混り土	礫の混入があつて掘削時の能率が低下するもの	礫の多い砂、礫の多い砂質土、礫の多い粘性土 礫 (G) 礫質土 (GF)																																																																																														
	砂質土及び砂	砂	バケットなどに山盛り形状になりにくいもの	海岸砂丘の砂 マサ土 砂 (S)																																																																																														
		砂質土(普通土)	掘削が容易で、バケット等に山盛り形状にし易く空げきの少ないもの	砂質土、マサ土 粒度分布の良い砂 条件の良いローム 砂 (S) 砂質土 (SF) シルト (M)																																																																																														
	粘性土	粘性土	バケット等に付着し易く空げきの多い状態になり易いもの、トラフィカビリティが問題となり易いもの	ローム 粘性土 シルト (M) 粘性土 (C)																																																																																														
高含水比粘性土		バケット等に付着し易く、特にトラフィカビリティが悪いもの	条件の悪いローム 条件の悪い粘性土 火山灰質粘性土 シルト (M) 粘性土 (C) 火山灰質粘性土 (V) 有機質土 (O)																																																																																															
岩	岩塊玉石	岩塊玉石	岩塊、玉石が混入して掘削しにくく、バケット等に空げきのでき易いもの。岩塊、玉石は粒径7.5cm以上とし、まるみのあるのを玉石とする。	玉石まじり土、岩塊破碎された岩、ごろごろした河床																																																																																														
	軟岩	軟岩 I	第三紀の岩石で固結の程度が弱いもの。風化がはなはだしく、きわめてもろいもの。指先で離し得る程度のもので、亀裂の間隔は1～5cmぐらいのものおよび第三紀の岩石で固結の程度が良好なもの。風化が相当進み、多少変色を伴い軽い打撃で容易に割れるもの、離れ易いもので、き裂間隔は5～10cm程度のもの。	地山弾性波速度 700～2800m/sec																																																																																														
		軟岩 II	凝灰質で堅く固結しているもの。風化が目にして相当進んでいるもの。き裂間隔が10～30cm程度で軽い打撃により離し得る程度異質の硬い互層をなすもので層面を楽に離し得るもの。																																																																																															
	硬岩	中硬岩	石灰岩、多孔質安山岩のように特にち密でなくても相当の硬さを有するもの。風化の程度があまり進んでいないもの。硬い岩石で間隔30～50cm程度のき裂を有するもの。	地山弾性波速度 2000～4000m/sec																																																																																														
硬岩 I		花崗岩、結晶片岩等で全く変化していないもの。き裂間隔が1m内外で相当密着しているもの。硬い良好な石材を取り得るようなもの。	地山弾性波速度 3000m/sec以上																																																																																															
硬岩 II	けい岩、角岩などの石英質に富む岩質で最も硬いもの。風化していない新鮮な状態のもの。き裂が少なくよく密着しているもの。																																																																																																	
区 分			説明	摘要																																																																																														
A	B	C																																																																																																
土	礫質土	礫混り土	礫の混入があつて掘削時の能率が低下するもの	礫の多い砂、礫の多い砂質土、礫の多い粘性土 礫 (G) 礫質土 (GF)																																																																																														
	砂質土及び砂	砂	バケットなどに山盛り形状になりにくいもの	海岸砂丘の砂 マサ土 砂 (S)																																																																																														
		砂質土(普通土)	掘削が容易で、バケット等に山盛り形状にし易く空げきの少ないもの	砂質土、マサ土 粒度分布の良い砂 条件の良いローム 砂 (S) 砂質土 (SF) シルト (M)																																																																																														
	粘性土	粘性土	バケット等に付着し易く空げきの多い状態になり易いもの、トラフィカビリティが問題となり易いもの	ローム 粘性土 シルト (M) 粘性土 (C)																																																																																														
高含水比粘性土		バケット等に付着し易く、特にトラフィカビリティが悪いもの	条件の悪いローム 条件の悪い粘性土 火山灰質粘性土 シルト (M) 粘性土 (C) 火山灰質粘性土 (V) 有機質土 (O)																																																																																															
岩	岩塊玉石	岩塊玉石	岩塊、玉石が混入して掘削しにくく、バケット等に空げきのでき易いもの。岩塊、玉石は粒径7.5cm以上とし、まるみのあるのを玉石とする。	玉石まじり土、岩塊破碎された岩、ごろごろした河床																																																																																														
	軟岩	軟岩 I	第三紀の岩石で固結の程度が弱いもの。風化がはなはだしく、きわめてもろいもの。指先で離し得る程度のもので、亀裂の間隔は1～5cmぐらいのものおよび第三紀の岩石で固結の程度が良好なもの。風化が相当進み、多少変色を伴い軽い打撃で容易に割れるもの、離れ易いもので、き裂間隔は5～10cm程度のもの。	地山弾性波速度 700～2800m/sec																																																																																														
		軟岩 II	凝灰質で堅く固結しているもの。風化が目にして相当進んでいるもの。き裂間隔が10～30cm程度で軽い打撃により離し得る程度異質の硬い互層をなすもので層面を楽に離し得るもの。																																																																																															
	硬岩	中硬岩	石灰岩、多孔質安山岩のように特にち密でなくても相当の硬さを有するもの。風化の程度があまり進んでいないもの。硬い岩石で間隔30～50cm程度のき裂を有するもの。	地山弾性波速度 2000～4000m/sec																																																																																														
硬岩 I		花崗岩、結晶片岩等で全く変化していないもの。き裂間隔が1m内外で相当密着しているもの。硬い良好な石材を取り得るようなもの。	地山弾性波速度 3000m/sec以上																																																																																															
硬岩 II	けい岩、角岩などの石英質に富む岩質で最も硬いもの。風化していない新鮮な状態のもの。き裂が少なくよく密着しているもの。																																																																																																	
積算上の注意事項																																																																																																		

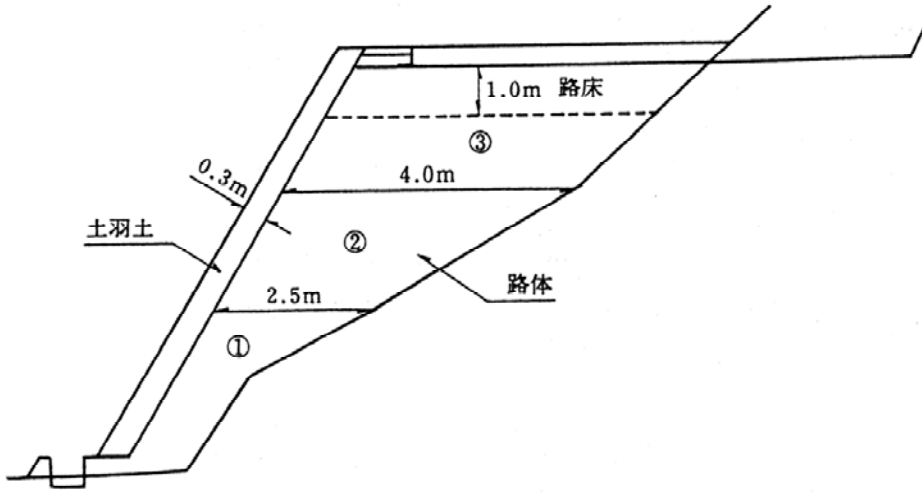
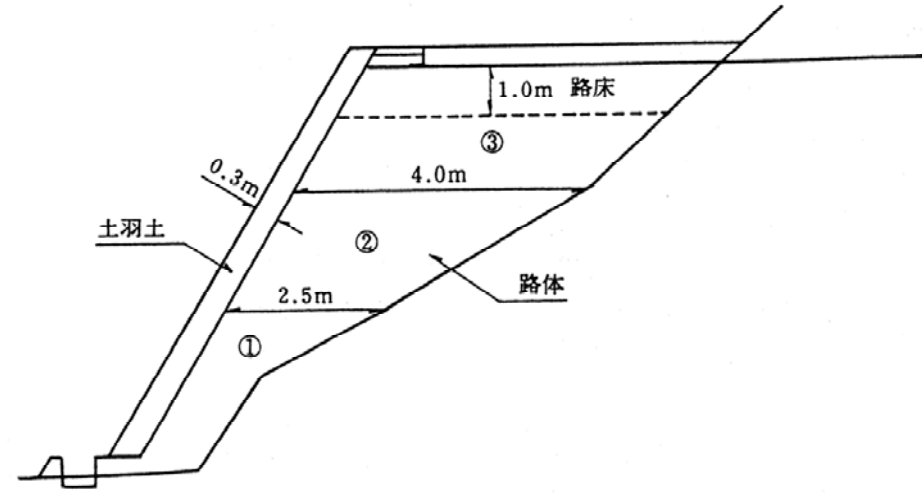
改正理由		改正 現行	
現行	改正	備考	
<p>(3) 構造物区分 構造物ごとに区分して算出する。 また、河川では、築堤、高水敷、低水路に区分して算出する。〔1. 適用(2)盛土〕参照)</p> <p>(4) 施工形態区分 「4. 数量算出方法」の断面積の算出方法による。</p>	<p>(3) 構造物区分 構造物ごとに区分して算出する。 また、河川では、築堤、高水敷、低水路に区分して算出する。〔1. 適用2. 数量算出項目(2)盛土〕参照)</p> <p>(4) 施工形態区分 「4. 数量算出方法」の断面積の算出方法による。</p>		
積算上の注意事項			

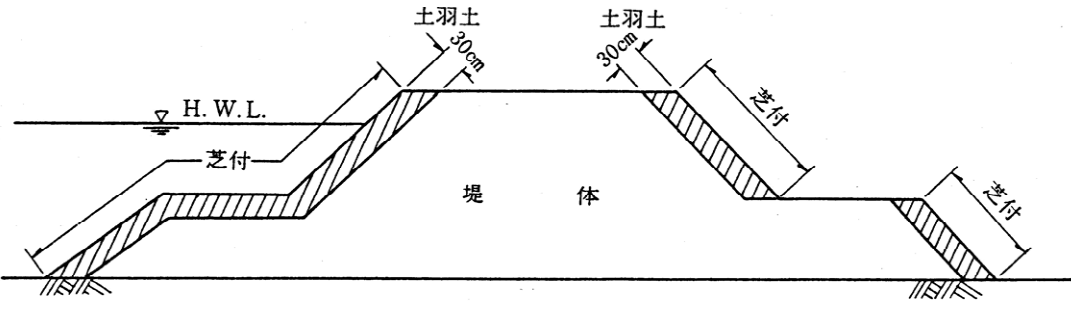
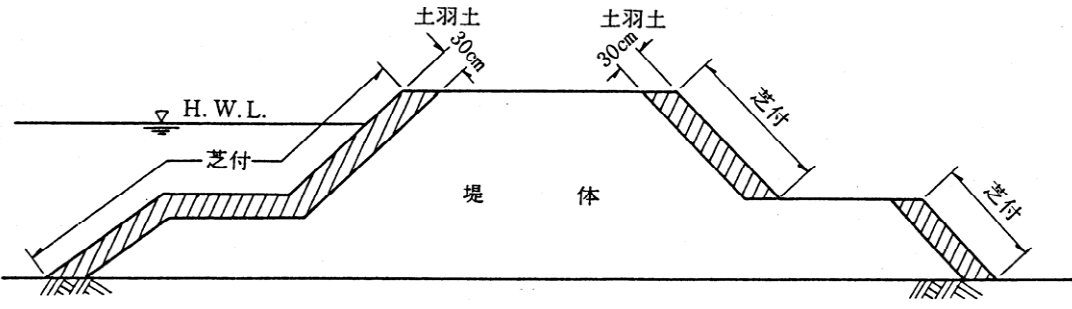
改正理由	現 行	改 正	改 正 現 行	備 考
	<p>4. 数量算出方法 数量の算出は、「第1編（共通編）1章基本事項」によるほか下記の方法によるものとする。</p> <p>平均断面法によることを標準とする。 土量＝平均断面積×延長 法面積＝平均法長×延長</p> <p>(1) 掘削</p> <p>1) 断面積（道路） 下記の項目に区分して算出する。</p> <p>掘 削</p> <ul style="list-style-type: none"> — オープンカット（土砂の場合、押土の有無） — 片切掘削 — 現場制約あり — 上記以外（小規模） <p>a) オープンカット 「オープンカット」は、下左図に示すような切取面が水平もしくは緩傾斜をなすように施工できる場合で、切取幅5m以上、かつ延長20m以上を標準とする。</p> <p>b) 片切掘削 「片切掘削」は、下中図および下右図に示すような切取幅5m未満の領域Bを施工する場合とする。</p> <p>c) 下中図に示すような箇所（領域A）にあっても、地形及び工事量等の現場条件を十分考慮の上、前述のオープンカット工法が可能と判断される場合はオープンカットを適用する。</p>  <p>d) 「現場制約あり」は、機械施工が不可能な場合に適用する。 e) 上記以外（小規模）は、1箇所当たり施工量が100m³以下の掘削・積込み作業に適用する。</p>	<p>4. 数量算出方法 数量の算出は、「第1編（共通編）1章基本事項」によるほか下記の方法によるものとする。</p> <p>平均断面法によることを標準とする。 土量＝平均断面積×延長 法面積＝平均法長×延長</p> <p>(1) 掘削</p> <p>1) 断面積（道路） 下記の項目に区分して算出する。</p> <p>掘 削</p> <ul style="list-style-type: none"> — オープンカット（土砂の場合、押土の有無） — 片切掘削 — 水中掘削 — 現場制約あり — 上記以外（小規模） <p>a) オープンカット 「オープンカット」は、下左図に示すような切取面が水平もしくは緩傾斜をなすように施工できる場合で、切取幅5m以上、かつ延長20m以上を標準とする。</p> <p>b) 片切掘削 「片切掘削」は、下中図および下右図に示すような切取幅5m未満の領域Bを施工する場合とする。</p> <p>c) 水中掘削 「水中掘削」は、土留・仮締切工の施工条件において掘削深さが5mを超える場合、又は掘削深さが5m以内でも土留・仮締切工の切梁等のためバックホウが使用できない場合で水中の掘削積込作業。</p> <p>e) d) 下中図に示すような箇所（領域A）にあっても、地形及び工事量等の現場条件を十分考慮の上、前述のオープンカット工法が可能と判断される場合はオープンカットを適用する。</p>  <p>e) f) 「現場制約あり」は、機械施工が不可能な場合に適用する。 e) f) 上記以外（小規模）は、1箇所当たり施工量が100m³以下の掘削・積込み作業に適用する。</p>	<p>「水中掘削」の追加。</p> <p>「水中掘削」の追加。</p>	
<p>積算上の注意事項</p>				

改正理由	現行	改正	改正 現行	備考
	<p>2) 断面積 (河川) 「1. 適用 (2) 盛土」を参照の上算出する。 また、堤防横断構造物の場合、下図のとおりA領域、B領域に区分して算出する。</p>  <p>注) 1. 余裕幅は、止水壁から0.5mを標準とする。 (止水壁の無い場合の余裕幅は0.5mを標準とする) 2. 法勾配(n)①砂地盤1:1.5 ②その他地盤1:1.0 上記は、一般的な場合であり、これにより難しい場合は、法面安定計算等により設定する。 3. 雪寒仮囲いを使用する場合は、必要幅を計上すること。</p>	<p>2) 断面積 (河川) 1. 適用 2. 数量算出項目 (2) 盛土」を参照の上算出する。 また、堤防横断構造物の場合、下図のとおりA領域、B領域に区分して算出する。</p>  <p>注) 1. 余裕幅は、止水壁から0.5mを標準とする。 (止水壁の無い場合の余裕幅は0.5mを標準とする) 2. 法勾配(n)①砂地盤1:1.5 ②その他地盤1:1.0 上記は、一般的な場合であり、これにより難しい場合は、法面安定計算等により設定する。 3. 雪寒仮囲いを使用する場合は、必要幅を計上すること。</p>		<p>「小規模の適用範囲」の追加。</p>
積算上の注意事項				

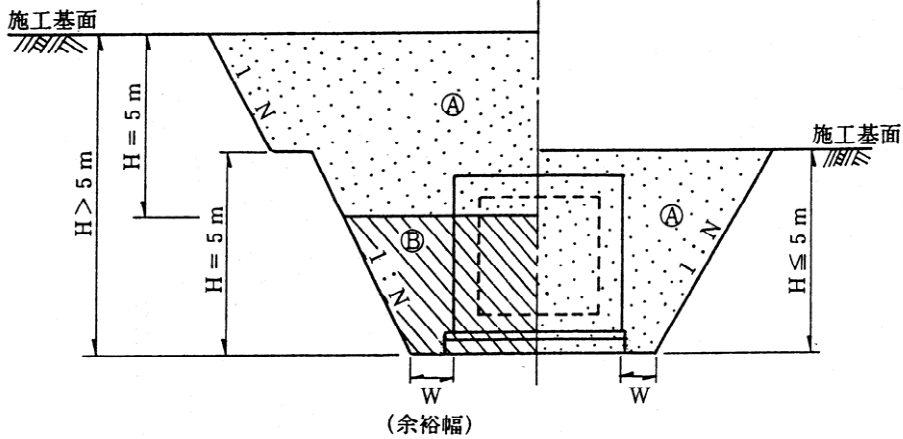
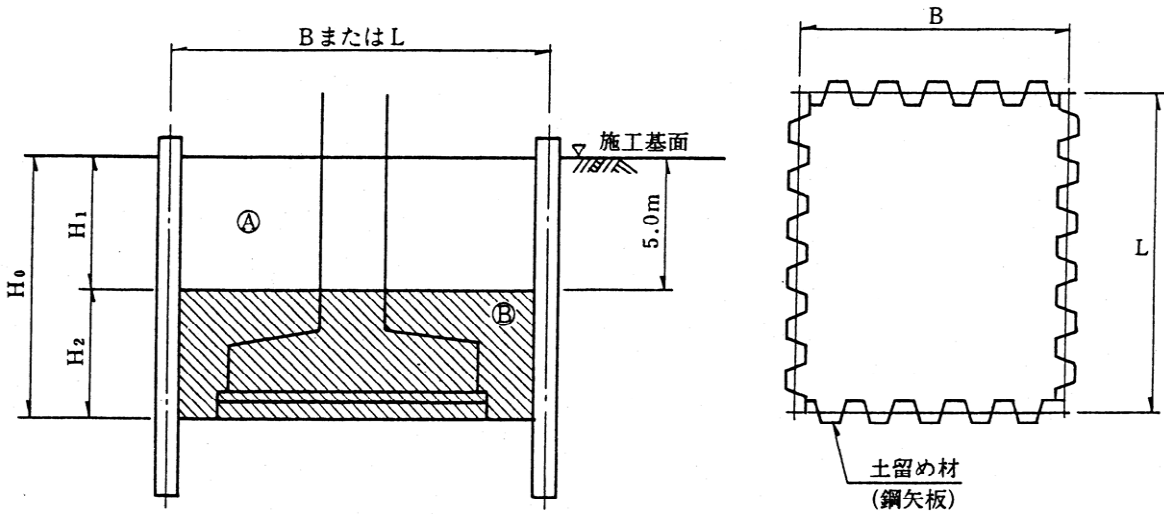
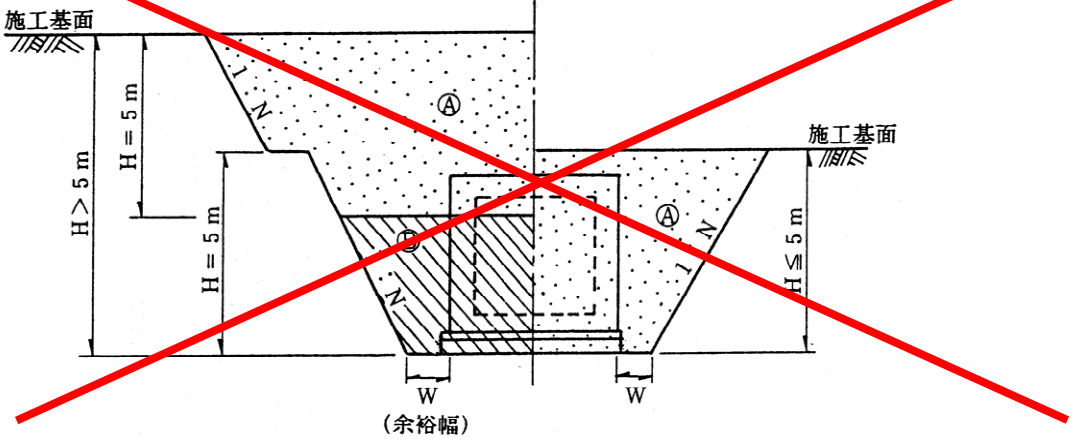
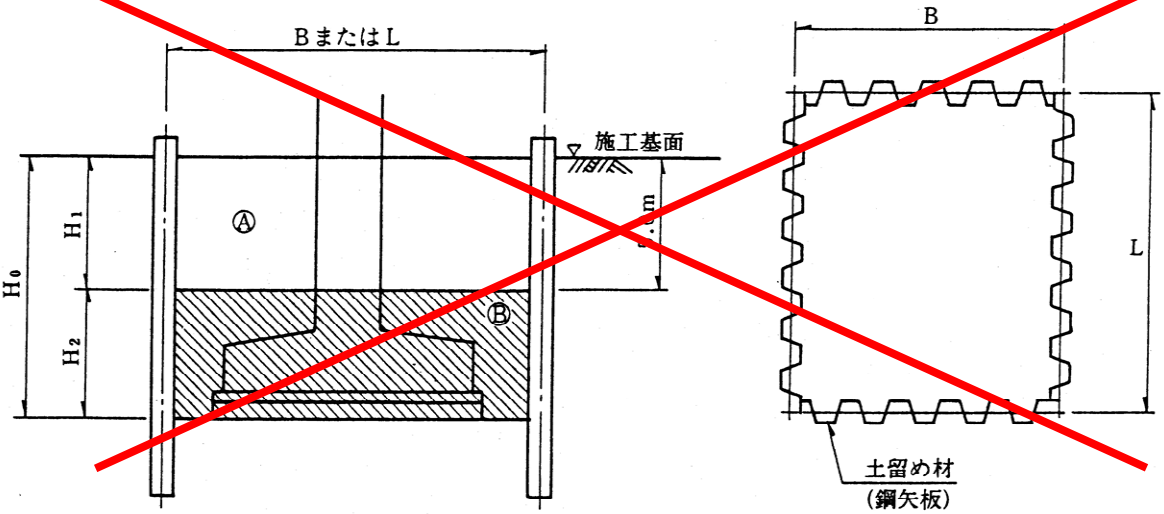
改正理由	現行	改正	改正 現行	備考
<p>3) 距離のとり方 (道路) 道路中心線上の距離とすることを標準とする。</p> <p>[参考] 半径の小さな曲線部 (道路中心線でR = 50 m未満) 等で、道路中心線上の距離をとることが適当でないときは、計算断面の図心位置での距離としてよい。</p>	<p>3) 距離のとり方 (道路) 道路中心線上の距離とすることを標準とする。</p> <p>[参考] 半径の小さな曲線部 (道路中心線でR = 50 m未満) 等で、道路中心線上の距離をとることが適当でないときは、計算断面の図心位置での距離としてよい。</p> <p>4) 距離のとり方 (河川) a) 高水敷部分 掘削横断面の基準線を設定し、距離を決める。</p>	<p>3) 距離のとり方 (道路) 道路中心線上の距離とすることを標準とする。</p> <p>[参考] 半径の小さな曲線部 (道路中心線でR = 50 m未満) 等で、道路中心線上の距離をとることが適当でないときは、計算断面の図心位置での距離としてよい。</p> <p>4) 距離のとり方 (河川) a) 高水敷部分 掘削横断面の基準線を設定し、距離を決める。</p>		
積算上の注意事項				

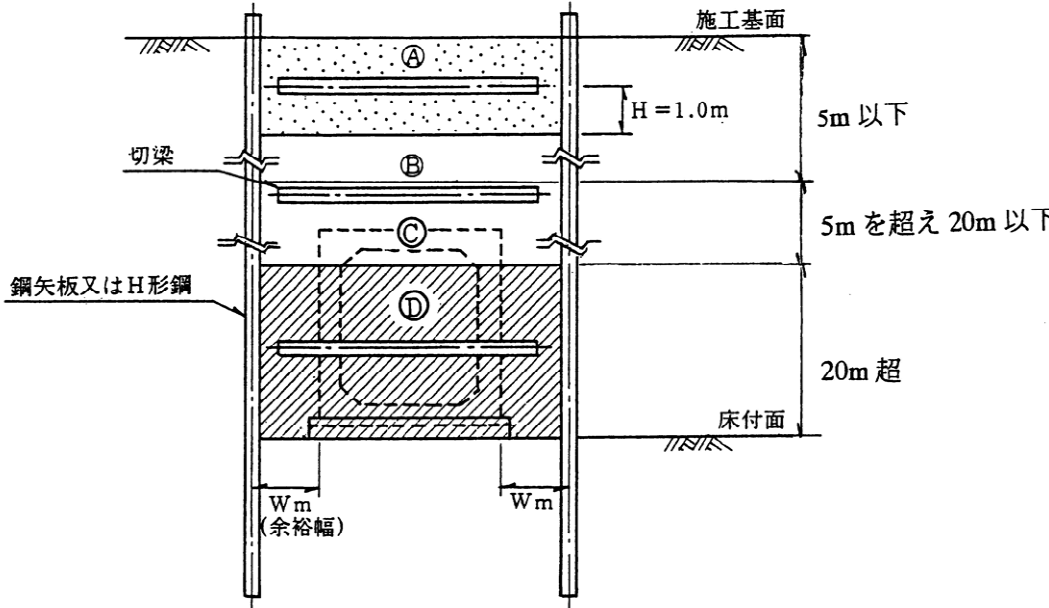
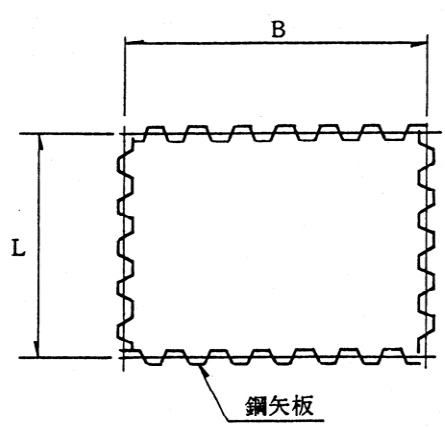
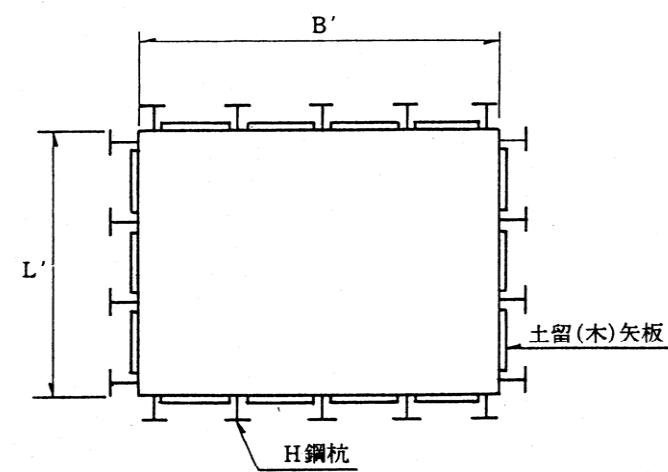
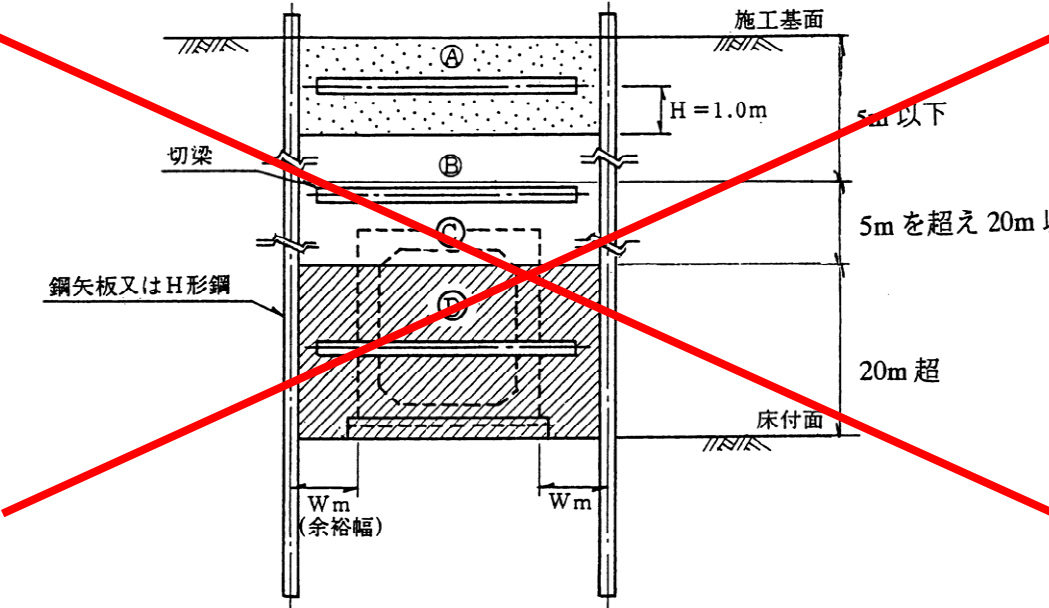
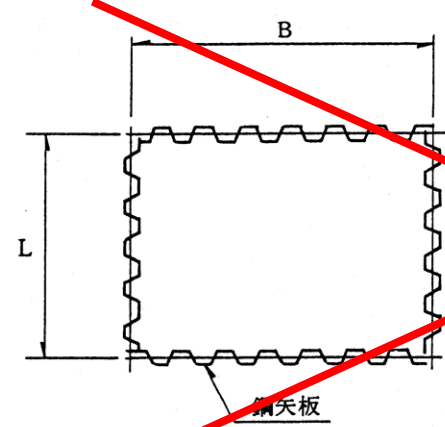
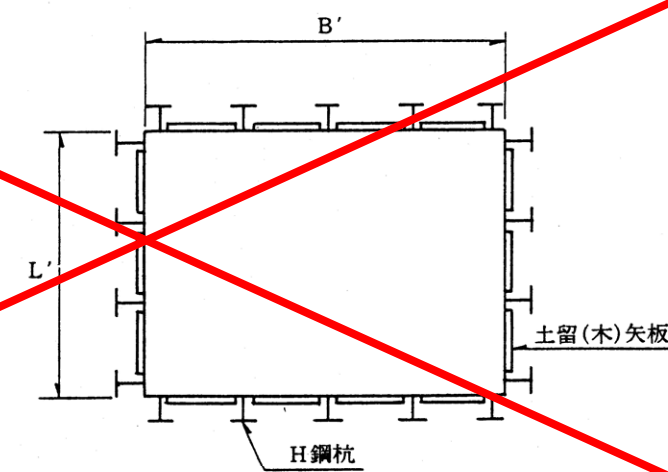
改正理由	現行	改正	改正現行	備考
	<p>b) 低水敷部分 低水路法線の距離を標準とする。ただし、曲線部でそれが不適当と判断される部分については、平均距離とする。 なお、水路等全断面掘削の場合は、下図のように中心線の距離を標準とする。</p>  <p>(2) 盛土</p> <p>1) 断面積 (道路) 下記の項目に区分して算出する。(下図参照)</p> <p>盛土</p> <ul style="list-style-type: none"> — 路体 (築堤) 盛土 — 路床盛土 — 小規模 — 現場制約あり — 土羽土 (必要により) <p>※ 土羽土V (m³) = A (m²) × 0.3 (m)</p> <p>a) 土羽土と路体等の材料が異なる場合</p>  <ul style="list-style-type: none"> ①路体盛土 ②路床盛土 ③歩道盛土 ④土羽土 ⑤畦畔盛土 <p>b) 土羽土と路体等の材料が同一の場合</p>  <ul style="list-style-type: none"> ①路体盛土 ②路床盛土 ③路肩盛土 ④土羽土 ⑤畦畔盛土 <p>注) 1. 路床は必要に応じて、上部路床と下部路床に区分して算出する。 2. 畦畔盛土は必要に応じ計上する。 3. 土羽土は、下記により必要に応じて区分して算出する。 ① 法面工が種子帯工及び筋芝の場合は、土羽土と路体等盛土が同一材料であっても区分する。 ② ①以外の法面工の場合は、土羽土と路体等盛土が同一材料でない場合に区分する。</p>	<p>b) 低水敷部分 低水路法線の距離を標準とする。ただし、曲線部でそれが不適当と判断される部分については、平均距離とする。 なお、水路等全断面掘削の場合は、下図のように中心線の距離を標準とする。</p>  <p>(2) 盛土</p> <p>1) 断面積 (道路) 下記の項目に区分して算出する。(下図参照)</p> <p>盛土</p> <ul style="list-style-type: none"> — 路体 (築堤) 盛土 — 路床盛土 — 小規模 — 現場制約あり — 土羽土 (必要により) <p>※ 土羽土V (m³) = A (m²) × 0.3 (m)</p> <p>a) 土羽土と路体等の材料が異なる場合</p>  <ul style="list-style-type: none"> ①路体盛土 ②路床盛土 ③歩道盛土 ④土羽土 ⑤畦畔盛土 <p>b) 土羽土と路体等の材料が同一の場合</p>  <ul style="list-style-type: none"> ①路体盛土 ②路床盛土 ③路肩盛土 ④土羽土 ⑤畦畔盛土 <p>注) 1. 路床は、必要に応じて、上部路床と下部路床に区分して算出する。 2. 畦畔盛土は、必要に応じ計上する。 3. 土羽土は、下記により必要に応じて区分して算出する。 ① 法面工が種子帯工及び筋芝の場合は、土羽土と路体等盛土が同一材料であっても区分する。 ② ①以外の法面工の場合は、土羽土と路体等盛土が同一材料でない場合に区分する。</p>		
積算上の注意事項				

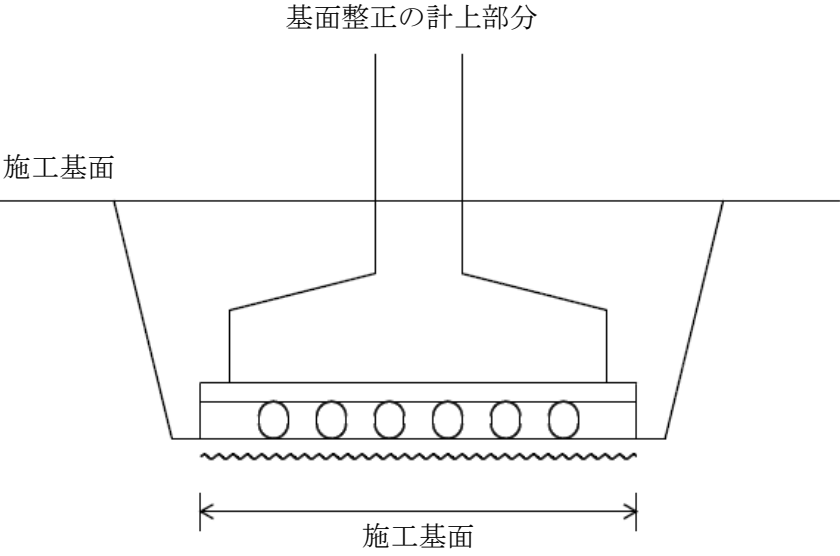
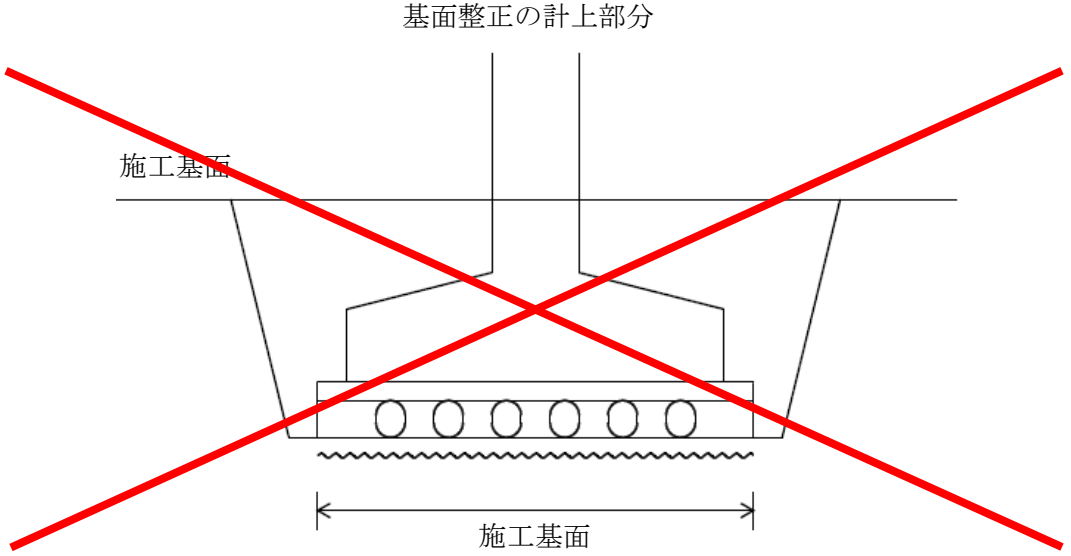
改正理由	現行	改正	改正 現行	備考
	<p>また、路体（築堤）盛土は施工幅員、路床盛土は平均幅員により下記のとおり区分して算出する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 2.5m未満 ② 2.5m以上4.0m未満 ③ 4.0m以上  <p>2) 断面積（河川） 「1. 適用（2）盛土」を参照の上算出する。 ただし、土羽土を計上する場合の堤体盛土量は、下記により算出する。</p> <p>盛土 ———— 路体（築堤）盛土 └── 土羽土（必要により）</p> <p>路体（築堤）盛土 $V_0 = \text{全体盛土} V - V_1$ 土羽土 $V_1 = A(m^2) \times 0.3(m)$ 面積 $A = \text{平均法長} (\ell) \times \text{延長} (L)$</p> <p>また、路体（築堤）盛土は施工幅員により下記のとおり区分して算出する。（1）断面積（盛土）参照</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 2.5m未満 ② 2.5m以上4.0m未満 ③ 4.0m以上 	<p>また、路体（築堤）盛土は施工幅員、路床盛土は平均幅員により下記のとおり区分して算出する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 2.5m未満 ② 2.5m以上4.0m未満 ③ 4.0m以上  <p>2) 断面積（河川） 「1. 適用 2. 数量算出項目（2）盛土」を参照の上算出する。 ただし、土羽土を計上する場合の堤体盛土量は、下記により算出する。</p> <p>盛土 ———— 路体（築堤）盛土 └── 土羽土（必要により）</p> <p>路体（築堤）盛土 $V_0 = \text{全体盛土} V - V_1$ 土羽土 $V_1 = A(m^2) \times 0.3(m)$ 面積 $A = \text{平均法長} (\ell) \times \text{延長} (L)$</p> <p>また、路体（築堤）盛土は、施工幅員により下記のとおり区分して算出する。（1）断面積（盛土道路）参照</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 2.5m未満 ② 2.5m以上4.0m未満 ③ 4.0m以上 		
積算上の注意事項				

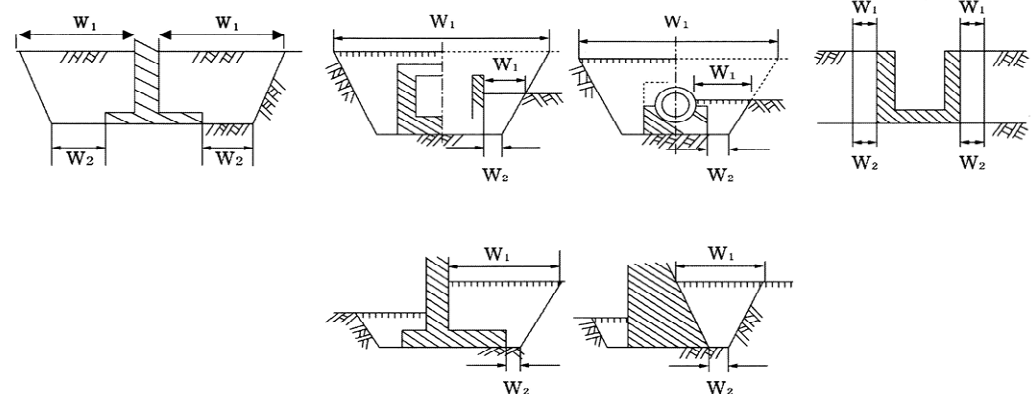
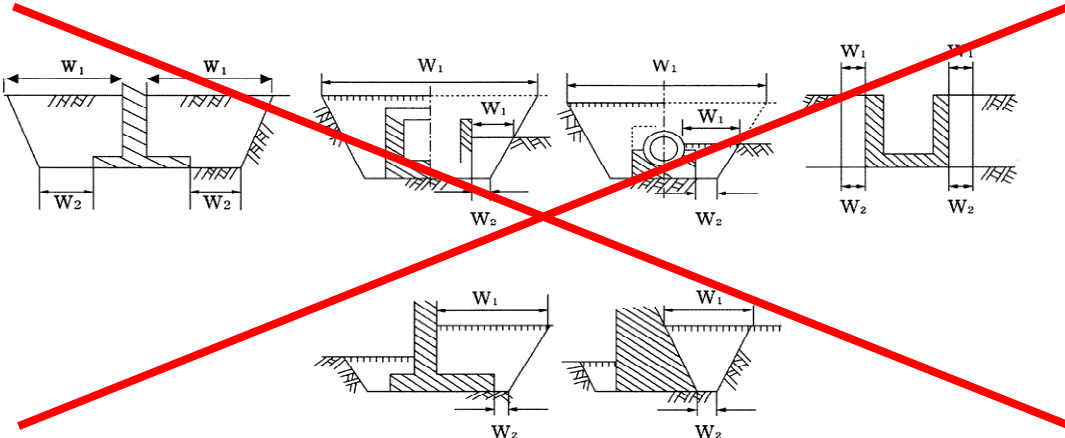
改正理由	現行	改正	備考
	 <p>注) 1. 小段の土羽土は、小段に芝付けを施工する場合に計上する。 2. 土羽土は、下記により必要に応じて区分して算出する。 ① 法面工が、種子帯工および筋芝の場合は、土羽土と堤体盛土が同一材料であっても区分する。 ② ①以外の法面工の場合は、土羽土と堤体盛土が同一材料でない場合に区分する。</p> <p>3) 距離の取り方 (道路) 道路中心線上の距離とすることを標準とする。 [参考] 半径の小さな曲線部 (道路中心線でR = 50m未満) 等で、道路中心線上の距離をとることが適当でないときは、「(1) 掘削3) 距離のとり方 (道路) [参考]」による。</p> <p>4) 距離のとり方 (河川) 築堤 (築堤部分の切土を含む) については、堤防法線 (川表天端肩) の距離を標準とする。ただし、曲線部でそれが不適当と判断される部分については平均距離とする。</p>	 <p>注) 1. 小段の土羽土は、小段に芝付けを施工する場合に計上する。 2. 土羽土は、下記により必要に応じて区分して算出する。 ① 法面工が、種子帯工および筋芝の場合は、土羽土と堤体盛土が同一材料であっても区分する。 ② ①以外の法面工の場合は、土羽土と堤体盛土が同一材料でない場合に区分する。</p> <p>3) 距離の取り方 (道路) 道路中心線上の距離とすることを標準とする。 [参考] 半径の小さな曲線部 (道路中心線でR = 50m未満) 等で、道路中心線上の距離をとることが適当でないときは、「(1) 掘削3) 距離のとり方 (道路) [参考]」による。</p> <p>4) 距離のとり方 (河川) 築堤 (築堤部分の切土を含む) については、堤防法線 (川表天端肩) の距離を標準とする。ただし、曲線部でそれが不適当と判断される部分については平均距離とする。</p>	
積算上の注意事項			

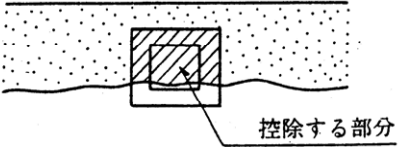
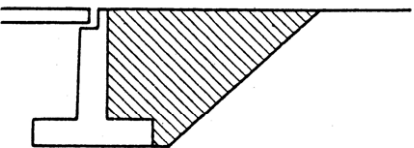
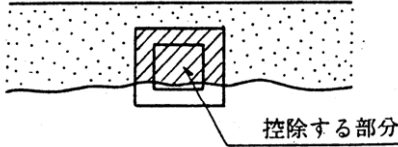
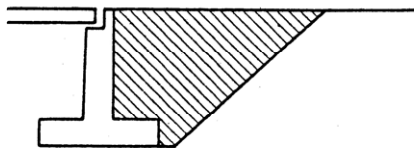
改正理由	現行	改正	改正現行	備考																																																																																																																					
	<p>(3) 床掘り</p> <p>1) 床掘り勾配及び余裕幅 オープン掘削の床掘り勾配は、下表のとおりとする。</p> <table border="1" data-bbox="216 401 1273 1146"> <thead> <tr> <th>土質区分</th> <th>掘削面の高さ</th> <th>床掘り勾配</th> <th>小段の幅</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">中硬岩・硬岩</td> <td>5 m未満</td> <td>直</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>全掘削高 5 m以上</td> <td>1 : 0.3</td> <td>下からH = 5 m毎に 1 m</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">軟岩 I・軟岩 II</td> <td>1 m未満</td> <td>直</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>1 m以上 5 m未満</td> <td>1 : 0.3</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>全掘削高 5 m以上</td> <td>1 : 0.3</td> <td>下からH = 5 m毎に 1 m</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">レキ質土・砂質土 粘性土・岩塊玉石</td> <td>1 m未満</td> <td>直</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>1 m以上 5 m未満</td> <td>1 : 0.5</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>全掘削高 5 m以上</td> <td>1 : 0.6</td> <td>下からH = 5 m毎に 1 m</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">砂</td> <td>5 m未満</td> <td>1 : 1.5</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>全掘削高 5 m以上</td> <td>1 : 1.5</td> <td>下からH = 5 m毎に 2 m</td> </tr> <tr> <td>発破などにより崩壊しやすい状態になっている地山</td> <td>2 m未満</td> <td>1 : 1.0</td> <td>下からH = 2 m毎に 2 m</td> </tr> </tbody> </table> <p>注) 上記により難しい場合は、別途考慮できる。</p> <p>余裕幅は、下表のとおりとする。</p> <table border="1" data-bbox="192 1249 905 1755"> <thead> <tr> <th>種別</th> <th>足場工の有無</th> <th>余裕幅</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">オープン掘削</td> <td>足場工なし</td> <td>50 cm</td> </tr> <tr> <td>足場工あり (フーチング高さ 2 m未満でフーチング上に足場を設置する場合)</td> <td>170 cm (50 cm)</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">土留掘削</td> <td>足場工なし (プレキャスト構造物で自立型土留めの場合)</td> <td>100 cm (70 cm)</td> </tr> <tr> <td>足場工あり (フーチング高さ 2 m未満でフーチング上に足場を設置する場合)</td> <td>220 cm (100 cm)</td> </tr> </tbody> </table> <div data-bbox="964 1249 1231 1743"> <p>鋼矢板</p> <p>H鋼親杭</p> <p>横矢板</p> </div> <p>注) 1. 余裕幅は本体コンクリート端からとする。 2. 矢板施工の余裕幅は矢板のセンターからの距離。 3. 足場工が必要な場合とは、H = 2 m以上の構造物。 4. 雪寒仮囲いを使用する場合は、必要幅を計上すること。 5. 小構造物等で、これによることが不適当な場合は別途余裕幅を考慮する。 6. 共同溝等の特殊な場合は、別途取り扱う。</p>	土質区分	掘削面の高さ	床掘り勾配	小段の幅	中硬岩・硬岩	5 m未満	直	—	全掘削高 5 m以上	1 : 0.3	下からH = 5 m毎に 1 m	軟岩 I・軟岩 II	1 m未満	直	—	1 m以上 5 m未満	1 : 0.3	—	全掘削高 5 m以上	1 : 0.3	下からH = 5 m毎に 1 m	レキ質土・砂質土 粘性土・岩塊玉石	1 m未満	直	—	1 m以上 5 m未満	1 : 0.5	—	全掘削高 5 m以上	1 : 0.6	下からH = 5 m毎に 1 m	砂	5 m未満	1 : 1.5	—	全掘削高 5 m以上	1 : 1.5	下からH = 5 m毎に 2 m	発破などにより崩壊しやすい状態になっている地山	2 m未満	1 : 1.0	下からH = 2 m毎に 2 m	種別	足場工の有無	余裕幅	オープン掘削	足場工なし	50 cm	足場工あり (フーチング高さ 2 m未満でフーチング上に足場を設置する場合)	170 cm (50 cm)	土留掘削	足場工なし (プレキャスト構造物で自立型土留めの場合)	100 cm (70 cm)	足場工あり (フーチング高さ 2 m未満でフーチング上に足場を設置する場合)	220 cm (100 cm)	<p>(3) 床掘り</p> <p>1) 床掘り勾配及び余裕幅 オープン掘削の床掘り勾配は、下表のとおりとする。</p> <table border="1" data-bbox="1439 401 2496 1146"> <thead> <tr> <th>土質区分</th> <th>掘削面の高さ</th> <th>床掘り勾配</th> <th>小段の幅</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>中硬岩・硬岩</td> <td>5 m未満</td> <td>直</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>中硬岩・硬岩</td> <td>全掘削高 5 m以上</td> <td>1 : 0.3</td> <td>下からH = 5 m毎に 1 m</td> </tr> <tr> <td>軟岩 I・軟岩 II</td> <td>1 m未満</td> <td>直</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>軟岩 I・軟岩 II</td> <td>1 m以上 5 m未満</td> <td>1 : 0.3</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>軟岩 I・軟岩 II</td> <td>全掘削高 5 m以上</td> <td>1 : 0.3</td> <td>下からH = 5 m毎に 1 m</td> </tr> <tr> <td>レキ質土・砂質土 粘性土・岩塊玉石</td> <td>1 m未満</td> <td>直</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>レキ質土・砂質土 粘性土・岩塊玉石</td> <td>1 m以上 5 m未満</td> <td>1 : 0.5</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>レキ質土・砂質土 粘性土・岩塊玉石</td> <td>全掘削高 5 m以上</td> <td>1 : 0.6</td> <td>下からH = 5 m毎に 1 m</td> </tr> <tr> <td>砂</td> <td>5 m未満</td> <td>1 : 1.5</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>砂</td> <td>全掘削高 5 m以上</td> <td>1 : 1.5</td> <td>下からH = 5 m毎に 2 m</td> </tr> <tr> <td>発破などにより崩壊しやすい状態になっている地山</td> <td>2 m未満</td> <td>1 : 1.0</td> <td>下からH = 2 m毎に 2 m</td> </tr> </tbody> </table> <p>注) 上記により難しい場合は、別途考慮できる。</p> <p>余裕幅は、下表のとおりとする。</p> <table border="1" data-bbox="1415 1249 2128 1755"> <thead> <tr> <th>種別</th> <th>足場工の有無</th> <th>余裕幅</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>オープン掘削</td> <td>足場工なし</td> <td>50 cm</td> </tr> <tr> <td>オープン掘削</td> <td>足場工あり (フーチング高さ 2 m未満でフーチング上に足場を設置する場合)</td> <td>170 cm (50 cm)</td> </tr> <tr> <td>土留掘削</td> <td>足場工なし (プレキャスト構造物で自立型土留めの場合)</td> <td>100 cm (70 cm)</td> </tr> <tr> <td>土留掘削</td> <td>足場工あり (フーチング高さ 2 m未満でフーチング上に足場を設置する場合)</td> <td>220 cm (100 cm)</td> </tr> </tbody> </table> <div data-bbox="2151 1228 2507 1743"> <p>鋼矢板</p> <p>H鋼親杭</p> <p>横矢板</p> </div> <p>注) 1. 余裕幅は本体コンクリート端からとする。 2. 矢板施工の余裕幅は矢板のセンターからの距離。 3. 足場工が必要な場合とは、H = 2 m以上の構造物。 4. 雪寒仮囲いを使用する場合は、必要幅を計上すること。 5. 小構造物等で、これによることが不適当な場合は別途余裕幅を考慮する。 6. 共同溝等の特殊な場合は、別途取り扱う。</p>	土質区分	掘削面の高さ	床掘り勾配	小段の幅	中硬岩・硬岩	5 m未満	直	—	中硬岩・硬岩	全掘削高 5 m以上	1 : 0.3	下からH = 5 m毎に 1 m	軟岩 I・軟岩 II	1 m未満	直	—	軟岩 I・軟岩 II	1 m以上 5 m未満	1 : 0.3	—	軟岩 I・軟岩 II	全掘削高 5 m以上	1 : 0.3	下からH = 5 m毎に 1 m	レキ質土・砂質土 粘性土・岩塊玉石	1 m未満	直	—	レキ質土・砂質土 粘性土・岩塊玉石	1 m以上 5 m未満	1 : 0.5	—	レキ質土・砂質土 粘性土・岩塊玉石	全掘削高 5 m以上	1 : 0.6	下からH = 5 m毎に 1 m	砂	5 m未満	1 : 1.5	—	砂	全掘削高 5 m以上	1 : 1.5	下からH = 5 m毎に 2 m	発破などにより崩壊しやすい状態になっている地山	2 m未満	1 : 1.0	下からH = 2 m毎に 2 m	種別	足場工の有無	余裕幅	オープン掘削	足場工なし	50 cm	オープン掘削	足場工あり (フーチング高さ 2 m未満でフーチング上に足場を設置する場合)	170 cm (50 cm)	土留掘削	足場工なし (プレキャスト構造物で自立型土留めの場合)	100 cm (70 cm)	土留掘削	足場工あり (フーチング高さ 2 m未満でフーチング上に足場を設置する場合)	220 cm (100 cm)	<p>「床掘り」は新しく追加した項「作業土工」に移動。</p>
土質区分	掘削面の高さ	床掘り勾配	小段の幅																																																																																																																						
中硬岩・硬岩	5 m未満	直	—																																																																																																																						
	全掘削高 5 m以上	1 : 0.3	下からH = 5 m毎に 1 m																																																																																																																						
軟岩 I・軟岩 II	1 m未満	直	—																																																																																																																						
	1 m以上 5 m未満	1 : 0.3	—																																																																																																																						
	全掘削高 5 m以上	1 : 0.3	下からH = 5 m毎に 1 m																																																																																																																						
レキ質土・砂質土 粘性土・岩塊玉石	1 m未満	直	—																																																																																																																						
	1 m以上 5 m未満	1 : 0.5	—																																																																																																																						
	全掘削高 5 m以上	1 : 0.6	下からH = 5 m毎に 1 m																																																																																																																						
砂	5 m未満	1 : 1.5	—																																																																																																																						
	全掘削高 5 m以上	1 : 1.5	下からH = 5 m毎に 2 m																																																																																																																						
発破などにより崩壊しやすい状態になっている地山	2 m未満	1 : 1.0	下からH = 2 m毎に 2 m																																																																																																																						
種別	足場工の有無	余裕幅																																																																																																																							
オープン掘削	足場工なし	50 cm																																																																																																																							
	足場工あり (フーチング高さ 2 m未満でフーチング上に足場を設置する場合)	170 cm (50 cm)																																																																																																																							
土留掘削	足場工なし (プレキャスト構造物で自立型土留めの場合)	100 cm (70 cm)																																																																																																																							
	足場工あり (フーチング高さ 2 m未満でフーチング上に足場を設置する場合)	220 cm (100 cm)																																																																																																																							
土質区分	掘削面の高さ	床掘り勾配	小段の幅																																																																																																																						
中硬岩・硬岩	5 m未満	直	—																																																																																																																						
中硬岩・硬岩	全掘削高 5 m以上	1 : 0.3	下からH = 5 m毎に 1 m																																																																																																																						
軟岩 I・軟岩 II	1 m未満	直	—																																																																																																																						
軟岩 I・軟岩 II	1 m以上 5 m未満	1 : 0.3	—																																																																																																																						
軟岩 I・軟岩 II	全掘削高 5 m以上	1 : 0.3	下からH = 5 m毎に 1 m																																																																																																																						
レキ質土・砂質土 粘性土・岩塊玉石	1 m未満	直	—																																																																																																																						
レキ質土・砂質土 粘性土・岩塊玉石	1 m以上 5 m未満	1 : 0.5	—																																																																																																																						
レキ質土・砂質土 粘性土・岩塊玉石	全掘削高 5 m以上	1 : 0.6	下からH = 5 m毎に 1 m																																																																																																																						
砂	5 m未満	1 : 1.5	—																																																																																																																						
砂	全掘削高 5 m以上	1 : 1.5	下からH = 5 m毎に 2 m																																																																																																																						
発破などにより崩壊しやすい状態になっている地山	2 m未満	1 : 1.0	下からH = 2 m毎に 2 m																																																																																																																						
種別	足場工の有無	余裕幅																																																																																																																							
オープン掘削	足場工なし	50 cm																																																																																																																							
オープン掘削	足場工あり (フーチング高さ 2 m未満でフーチング上に足場を設置する場合)	170 cm (50 cm)																																																																																																																							
土留掘削	足場工なし (プレキャスト構造物で自立型土留めの場合)	100 cm (70 cm)																																																																																																																							
土留掘削	足場工あり (フーチング高さ 2 m未満でフーチング上に足場を設置する場合)	220 cm (100 cm)																																																																																																																							
積算上の注意事項																																																																																																																									

改正理由	現行	改正	改正 現行	備考
	<p>2) 断面積</p> <p>a) オープン掘削の場合 施工基面からの床掘り深さにより、下図を参照して施工基面から5m以下の部分をA領域、施工基面から5mを超える部分をB領域に区分して算出する。</p>  <p>b) 土留掘削の場合 施工基面からの床掘り深さにより、下図を参照して施工基面から5m以下の部分をA領域、施工基面から5mを超える部分をB領域に区分して算出する。</p> <p>① 自立式土留工の場合</p>  <p>注) 1. 土留工の規模等により、A領域で同一機種による床掘りが不適当な場合は、別途その部分の断面積を区分できるものとする。 2. B領域においては、基礎杭等の作業障害がある場合とない場合に区分して算出する。</p>	<p>2) 断面積</p> <p>a) オープン掘削の場合 施工基面からの床掘り深さにより、下図を参照して施工基面から5m以下の部分をA領域、施工基面から5mを超える部分をB領域に区分して算出する。</p>  <p>b) 土留掘削の場合 施工基面からの床掘り深さにより、下図を参照して施工基面から5m以下の部分をA領域、施工基面から5mを超える部分をB領域に区分して算出する。</p> <p>① 自立式土留工の場合</p>  <p>注) 1. 土留工の規模等により、A領域で同一機種による床掘りが不適当な場合は、別途その部分の断面積を区分できるものとする。 2. B領域においては、基礎杭等の作業障害がある場合とない場合に区分して算出する。</p>	<p>「床掘り」は新しく追加した項「作業土工」に移動。</p>	
積算上の注意事項				

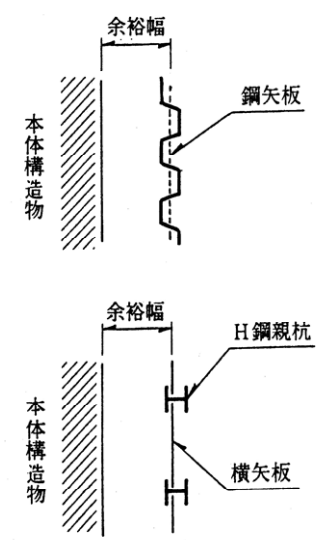
改正理由	現行	改正	改正現行	備考
	<p>② 切梁式土留工の場合 施工基面からの床掘り深さにより、下図を参照して施工基面から最上段切梁の下部1m以下の部分をA領域、施工基面から5m以下の部分をB領域、施工基面から5mを超え20m以下の部分をC領域、施工基面から20mを超える部分をD領域に区分して算出する。</p>  <p>注) 1. 最上部切梁の下部1mを超える部分 (B～D領域) は、作業障害ありを適用する。 2. 土留工の規模等により、A、B領域で同一機種による床掘りが不適當な場合は、別途その部分の断面積を区分できるものとする。</p> <p>3) 距離のとり方 構造物あるいは、鋼矢板 (センター) の距離とする。 ただし、H鋼親杭の場合は、H鋼前面までとする。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div data-bbox="148 1281 563 1764"> <p>鋼矢板の場合</p>  </div> <div data-bbox="593 1281 1216 1806"> <p>H鋼杭の場合</p>  </div> </div>	<p>② 切梁式土留工の場合 施工基面からの床掘り深さにより、下図を参照して施工基面から最上段切梁の下部1m以下の部分をA領域、施工基面から5m以下の部分をB領域、施工基面から5mを超え20m以下の部分をC領域、施工基面から20mを超える部分をD領域に区分して算出する。</p>  <p>注) 1. 最上部切梁の下部1mを超える部分 (B～D領域) は、作業障害ありを適用する。 2. 土留工の規模等により、A、B領域で同一機種による床掘りが不適當な場合は、別途その部分の断面積を区分できるものとする。</p> <p>3) 距離のとり方 構造物あるいは、鋼矢板 (センター) の距離とする。 ただし、H鋼親杭の場合は、H鋼前面までとする。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div data-bbox="1365 1281 1780 1764"> <p>鋼矢板の場合</p>  </div> <div data-bbox="1810 1281 2433 1806"> <p>H鋼杭の場合</p>  </div> </div>	<p>「床掘り」は新しく追加した項「作業土工」に移動。</p>	
積算上の注意事項				

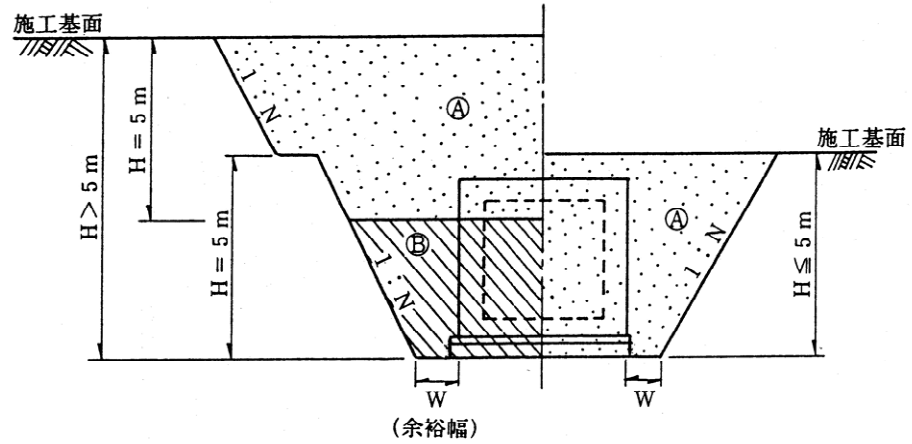
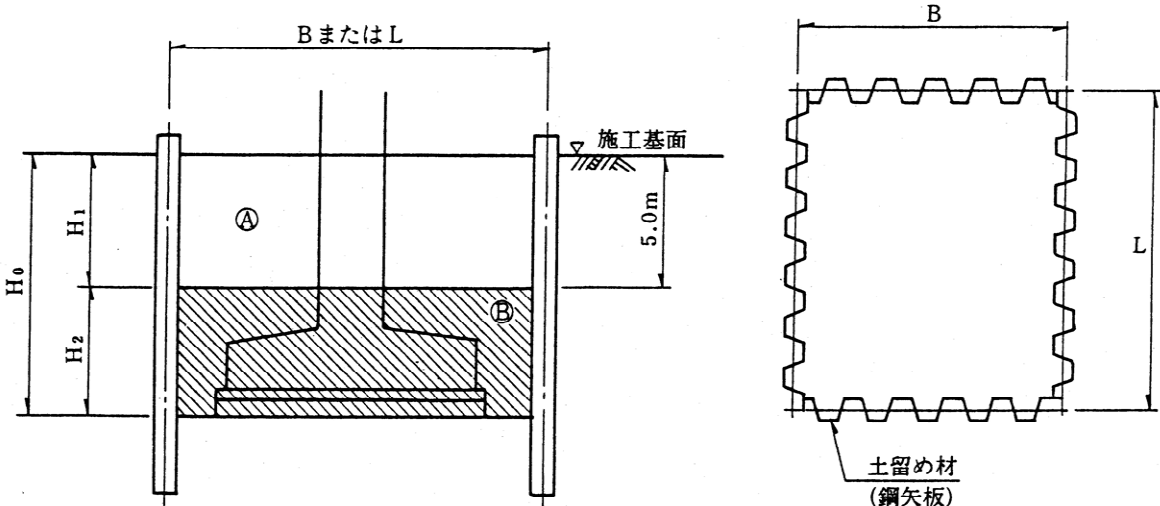
改正理由		改正 現行	備考
現行		改正	
<p>4) 基面整正 基面整正（機械で床掘りを行う場合に計上）の計上部分は下図のとおりとする。</p>	<p style="text-align: center;">基面整正の計上部分</p>  <p style="text-align: center;">施工基面</p>	<p>4) 基面整正 基面整正（機械で床掘りを行う場合に計上）の計上部分は下図のとおりとする。</p> <p style="text-align: center;">基面整正の計上部分</p>  <p style="text-align: center;">施工基面</p>	<p>「床掘り」は新しく追加した項「作業土工」に移動。</p>
積算上の注意事項			

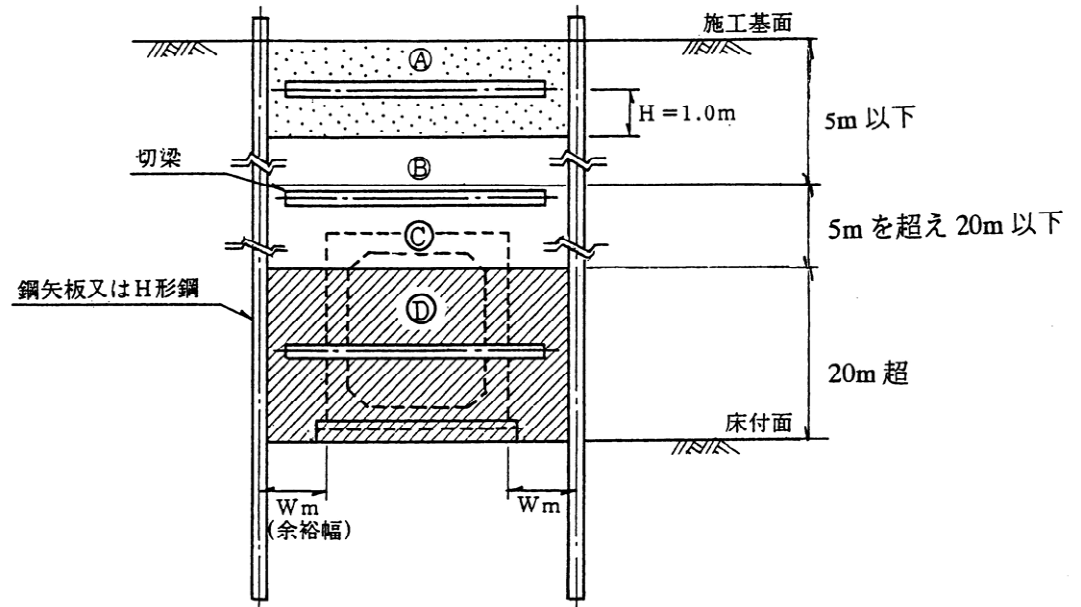
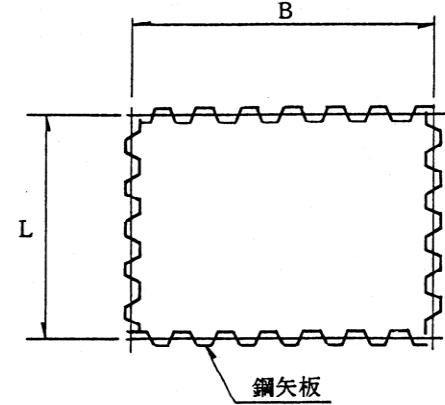
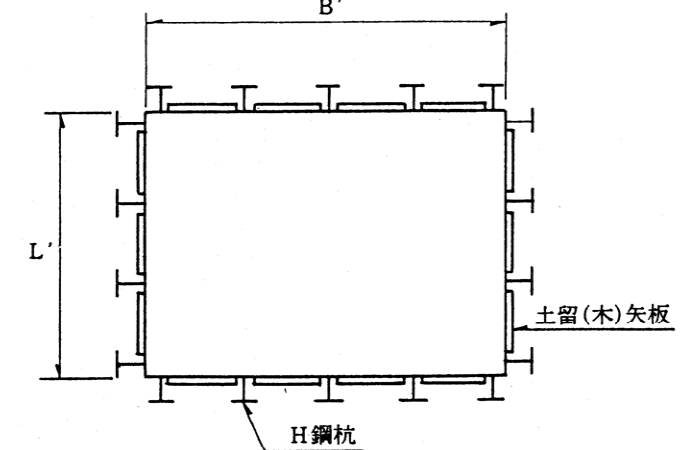
改正理由	現 行	改 正	改 正 現 行	備 考																								
	<p>(4) 埋戻し</p> <p>1) 断面積 下表のとおり区分して算出する。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <tr> <th>埋戻し種別</th> <th>埋 戻 し 幅</th> <th>埋戻し種別</th> <th>埋 戻 し 幅</th> </tr> <tr> <td>A</td> <td>$W_2 \geq 4\text{m}$</td> <td>C</td> <td>$1\text{m} \leq W_1 < 4\text{m}$</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>$W_1 \geq 4\text{m}$</td> <td>D</td> <td>$W_1 < 1\text{m}$</td> </tr> </table> <p>注) 1. 埋戻し幅W_1とは最大埋戻し幅、埋戻し幅W_2とは最小埋戻し幅を表し、下図のとおりとする。なお、擁壁等で前背面の最大埋戻し幅が異なる場合は、広い方の領域を基準とし、狭い方も同一種別を適用するものとする。 2. 締固め機械等の搬入が困難な場合又は、締固めを伴わない作業で上表によることが著しく不適と判断される場合は、施工形態を考慮した上で、別途に埋戻し幅を設定し区分することができる。 3. 共同溝等の特殊な場合は別途取り扱う。 4. 埋戻し幅W_2が4m以上の場合は、埋戻し種別Aを適用するものとする。</p>  <p>2) 距離のとり方 構造物あるいは、鋼矢板（センター）の距離とする。 ただし、H鋼親杭の場合は、H鋼前面までとする。</p> <p>(5) 残土等処分 残土等処分の土量は地山土量とし、埋戻しの土量変化率（C）を考慮する。 (例) 残土量＝床掘り量－埋戻し量×土量変化率（1／C）</p>	埋戻し種別	埋 戻 し 幅	埋戻し種別	埋 戻 し 幅	A	$W_2 \geq 4\text{m}$	C	$1\text{m} \leq W_1 < 4\text{m}$	B	$W_1 \geq 4\text{m}$	D	$W_1 < 1\text{m}$	<p>(4) 埋戻し</p> <p>1) 断面積 下表のとおり区分して算出する。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <tr> <th>埋戻し種別</th> <th>埋 戻 し 幅</th> <th>埋戻し種別</th> <th>埋 戻 し 幅</th> </tr> <tr> <td>A</td> <td>$W_2 \geq 4\text{m}$</td> <td>C</td> <td>$1\text{m} \leq W_1 < 4\text{m}$</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>$W_1 \geq 4\text{m}$</td> <td>D</td> <td>$W_1 < 1\text{m}$</td> </tr> </table> <p>注) 1. 埋戻し幅W_1とは最大埋戻し幅、埋戻し幅W_2とは最小埋戻し幅を表し、下図のとおりとする。なお、擁壁等で前背面の最大埋戻し幅が異なる場合は、広い方の領域を基準とし、狭い方も同一種別を適用するものとする。 2. 締固め機械等の搬入が困難な場合又は、締固めを伴わない作業で上表によることが著しく不適と判断される場合は、施工形態を考慮した上で、別途に埋戻し幅を設定し区分することができる。 3. 共同溝等の特殊な場合は別途取り扱う。 4. 埋戻し幅W_2が4m以上の場合は、埋戻し種別Aを適用するものとする。</p>  <p>2) 距離のとり方 構造物あるいは、鋼矢板（センター）の距離とする。 ただし、H鋼親杭の場合は、H鋼前面までとする。</p> <p>(5) 残土等処分 残土等処分の土量は地山土量とし、埋戻しの土量変化率（C）を考慮する。 (例) 残土量＝床掘り量－埋戻し量×土量変化率（1／C）</p>	埋戻し種別	埋 戻 し 幅	埋戻し種別	埋 戻 し 幅	A	$W_2 \geq 4\text{m}$	C	$1\text{m} \leq W_1 < 4\text{m}$	B	$W_1 \geq 4\text{m}$	D	$W_1 < 1\text{m}$		<p>「埋戻し」は新しく追加した項「埋戻し工」に移動。</p>
埋戻し種別	埋 戻 し 幅	埋戻し種別	埋 戻 し 幅																									
A	$W_2 \geq 4\text{m}$	C	$1\text{m} \leq W_1 < 4\text{m}$																									
B	$W_1 \geq 4\text{m}$	D	$W_1 < 1\text{m}$																									
埋戻し種別	埋 戻 し 幅	埋戻し種別	埋 戻 し 幅																									
A	$W_2 \geq 4\text{m}$	C	$1\text{m} \leq W_1 < 4\text{m}$																									
B	$W_1 \geq 4\text{m}$	D	$W_1 < 1\text{m}$																									
積算上の注意事項																												

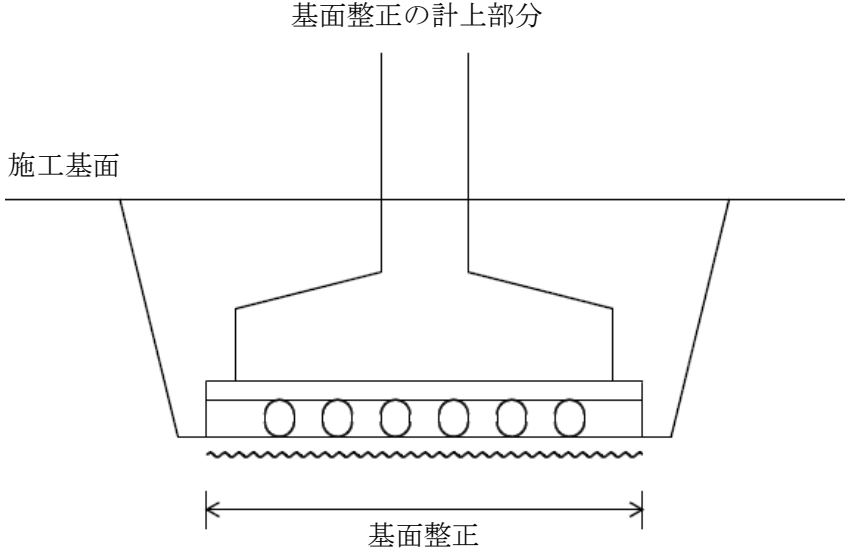
改正理由		改正 現行	備考
現行	改正		
<p>(6) 控除土量</p> <p>1) 横断構造物等（管渠、函渠、樋門等）において、現地盤線以上の断面積が 1 m^2 以上となる場合は、盛土量からこれを控除する。</p>  <p>2) 構造物に裏込め材を使用する場合には、盛土量からこれを控除し、別途裏込め材（セレクト材）の数量を算出する。</p>  <p>注) セレクト材 堤防断面箇所については、 堤体材料と同一材料とする</p>	<p>(6) (4) 控除土量</p> <p>1) 横断構造物等（管渠、函渠、樋門等）において、現地盤線以上の断面積が 1 m^2 以上となる場合は、盛土量からこれを控除する。</p>  <p>2) 構造物に裏込め材を使用する場合には、盛土量からこれを控除し、別途裏込め材（セレクト材）の数量を算出する。</p>  <p>注) セレクト材 堤防断面箇所については、 堤体材料と同一材料とする</p>		
積算上の注意事項			

改正理由	現行	改正	備考																		
		<p>2.1.2 作業土工</p> <p>2.1.2.1 床掘工</p> <p>1. 適用</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">河川・道路工事における床掘工に適用する。</div> <p>2. 数量算出項目</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">床掘りは、2.1.1 土工参照の上、算出するものとする。</div> <p>3. 区分</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">区分は、土質区分、施工方法、土留方式の種類、障害の有無とする。</div> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1" data-bbox="1380 835 2412 1033"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>区分</th> <th>土質区分</th> <th>施工方法</th> <th>土留方式の種類</th> <th>障害の有無</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>床掘り</td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>m3</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	項目	区分	土質区分	施工方法	土留方式の種類	障害の有無	単位	数量	備考	床掘り		○	○	○	○	m3			<p>「作業土工」の施工パッケージ化に伴い、新しく項立てして追記。</p>
項目	区分	土質区分	施工方法	土留方式の種類	障害の有無	単位	数量	備考													
床掘り		○	○	○	○	m3															
積算上の注意事項																					

改正理由	現 行	改 正	備 考																																																									
		<p>4. 数量算出方法 数量の算出は、「第1編（共通編）1章基本事項」によるほか下記の方法によるものとする。</p> <p>1) 床掘り勾配及び余裕幅 オープン掘削の床掘り勾配は、下表のとおりとする。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th>土質区分</th> <th>掘削面の高さ</th> <th>床掘り勾配</th> <th>小段の幅</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">中硬岩・硬岩</td> <td>5 m未満</td> <td>直</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>全掘削高 5 m以上</td> <td>1 : 0. 3</td> <td>下からH = 5 m毎に 1 m</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">軟岩Ⅰ・軟岩Ⅱ</td> <td>1 m未満</td> <td>直</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>1 m以上 5 m未満</td> <td>1 : 0. 3</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td rowspan="2"></td> <td>全掘削高 5 m以上</td> <td>1 : 0. 3</td> <td>下からH = 5 m毎に 1 m</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">レキ質土・砂質土 粘性土・岩塊玉石</td> <td>1 m未満</td> <td>直</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>1 m以上 5 m未満</td> <td>1 : 0. 5</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td rowspan="2"></td> <td>全掘削高 5 m以上</td> <td>1 : 0. 6</td> <td>下からH = 5 m毎に 1 m</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">砂</td> <td>5 m未満</td> <td>1 : 1. 5</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>全掘削高 5 m以上</td> <td>1 : 1. 5</td> <td>下からH = 5 m毎に 2 m</td> </tr> <tr> <td>発破などにより崩壊しやすい状態になっている地山</td> <td>2 m未満</td> <td>1 : 1. 0</td> <td>下からH = 2 m毎に 2 m</td> </tr> </tbody> </table> <p>注) 上記により難しい場合は、別途考慮できる。</p> <p>余裕幅は、下表のとおりとする。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th>種別</th> <th>足場工の有無</th> <th>余裕幅</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">オープン掘削</td> <td>足場工なし</td> <td>5 0 cm</td> </tr> <tr> <td>足場工あり (フーチング高さ 2 m未満でフーチング上に足場を設置する場合)</td> <td>1 7 0 cm (5 0 cm)</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">土留掘削</td> <td>足場工なし (プレキャスト構造物で自立型土留めの場合)</td> <td>1 0 0 cm (7 0 cm)</td> </tr> <tr> <td>足場工あり (フーチング高さ 2 m未満でフーチング上に足場を設置する場合)</td> <td>2 2 0 cm (1 0 0 cm)</td> </tr> </tbody> </table> <div style="display: flex; align-items: center; margin-top: 10px;">  </div> <p>注) 1. 余裕幅は本体コンクリート端からとする。 2. 矢板施工の余裕幅は矢板のセンターからの距離。 3. 足場工が必要な場合とは、H = 2 m以上の構造物。 4. 雪寒仮囲いを使用する場合は、必要幅を計上すること。 5. 小構造物等で、これによることが不適当な場合は別途余裕幅を考慮する。 6. 共同溝等の特殊な場合は、別途取り扱う。</p>	土質区分	掘削面の高さ	床掘り勾配	小段の幅	中硬岩・硬岩	5 m未満	直	—	全掘削高 5 m以上	1 : 0. 3	下からH = 5 m毎に 1 m	軟岩Ⅰ・軟岩Ⅱ	1 m未満	直	—	1 m以上 5 m未満	1 : 0. 3	—		全掘削高 5 m以上	1 : 0. 3	下からH = 5 m毎に 1 m	レキ質土・砂質土 粘性土・岩塊玉石	1 m未満	直	—	1 m以上 5 m未満	1 : 0. 5	—		全掘削高 5 m以上	1 : 0. 6	下からH = 5 m毎に 1 m	砂	5 m未満	1 : 1. 5	—	全掘削高 5 m以上	1 : 1. 5	下からH = 5 m毎に 2 m	発破などにより崩壊しやすい状態になっている地山	2 m未満	1 : 1. 0	下からH = 2 m毎に 2 m	種別	足場工の有無	余裕幅	オープン掘削	足場工なし	5 0 cm	足場工あり (フーチング高さ 2 m未満でフーチング上に足場を設置する場合)	1 7 0 cm (5 0 cm)	土留掘削	足場工なし (プレキャスト構造物で自立型土留めの場合)	1 0 0 cm (7 0 cm)	足場工あり (フーチング高さ 2 m未満でフーチング上に足場を設置する場合)	2 2 0 cm (1 0 0 cm)	
土質区分	掘削面の高さ	床掘り勾配	小段の幅																																																									
中硬岩・硬岩	5 m未満	直	—																																																									
	全掘削高 5 m以上	1 : 0. 3	下からH = 5 m毎に 1 m																																																									
軟岩Ⅰ・軟岩Ⅱ	1 m未満	直	—																																																									
	1 m以上 5 m未満	1 : 0. 3	—																																																									
	全掘削高 5 m以上	1 : 0. 3	下からH = 5 m毎に 1 m																																																									
	レキ質土・砂質土 粘性土・岩塊玉石	1 m未満	直	—																																																								
1 m以上 5 m未満		1 : 0. 5	—																																																									
	全掘削高 5 m以上	1 : 0. 6	下からH = 5 m毎に 1 m																																																									
	砂	5 m未満	1 : 1. 5	—																																																								
全掘削高 5 m以上		1 : 1. 5	下からH = 5 m毎に 2 m																																																									
発破などにより崩壊しやすい状態になっている地山	2 m未満	1 : 1. 0	下からH = 2 m毎に 2 m																																																									
種別	足場工の有無	余裕幅																																																										
オープン掘削	足場工なし	5 0 cm																																																										
	足場工あり (フーチング高さ 2 m未満でフーチング上に足場を設置する場合)	1 7 0 cm (5 0 cm)																																																										
土留掘削	足場工なし (プレキャスト構造物で自立型土留めの場合)	1 0 0 cm (7 0 cm)																																																										
	足場工あり (フーチング高さ 2 m未満でフーチング上に足場を設置する場合)	2 2 0 cm (1 0 0 cm)																																																										
積算上の注意事項																																																												

改正理由	現行	改正	現行	備考
		<p>2) 断面積</p> <p>a) オープン掘削の場合 施工基面からの床掘り深さにより、下図を参照して施工基面から5m以下の部分をA領域、施工基面から5mを超える部分をB領域に区分して算出する。</p>  <p>b) 土留掘削の場合 施工基面からの床掘り深さにより、下図を参照して施工基面から5m以下の部分をA領域、施工基面から5mを超える部分をB領域に区分して算出する。</p> <p>① 自立式土留工の場合</p>  <p>注) 1. 土留工の規模等により、A領域で同一機種による床掘りが不適当な場合は、別途その部分の断面積を区分できるものとする。 2. B領域においては、基礎杭等の作業障害がある場合とない場合に区分して算出する。</p>		
積算上の注意事項				

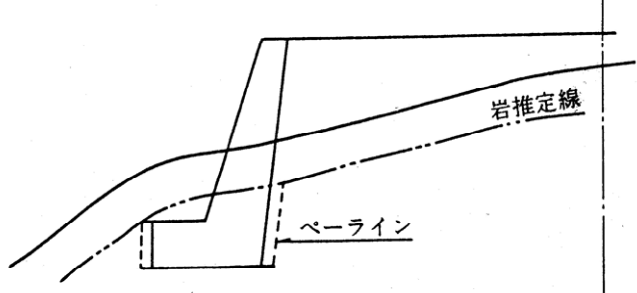
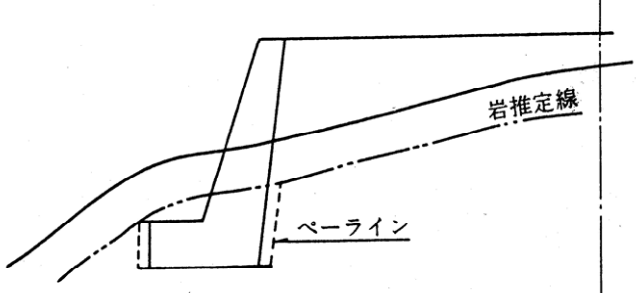
改正理由	現行	改正	備考
		<p>② 切梁式土留工の場合</p> <p>施工基面からの床掘り深さにより、下図を参照して施工基面から最上段切梁の下部1m以下の部分をA領域、施工基面から5m以下の部分をB領域、施工基面から5mを超え20m以下の部分をC領域、施工基面から20mを超える部分をD領域に区分して算出する。</p>  <p>注) 1. 最上部切梁の下部1mを超える部分(B～D領域)は、作業障害ありを適用する。 2. 土留工の規模等により、A、B領域で同一機種による床掘りが不適當な場合は、別途その部分の断面積を区分できるものとする。</p> <p>3) 距離のとり方 構造物あるいは、鋼矢板(センター)の距離とする。 ただし、H鋼親杭の場合は、H鋼前面までとする。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div data-bbox="1365 1260 1780 1743"> <p>鋼矢板の場合</p>  </div> <div data-bbox="1810 1260 2463 1785"> <p>H鋼杭の場合</p>  </div> </div>	
積算上の注意事項			

改正理由		改正 現行	
現行	改正		備考
	<p>4) 基面整正 基面整正（機械で床掘りを行う場合に計上）の計上部分は下図のとおりとする。</p> 		
積算上の注意事項			

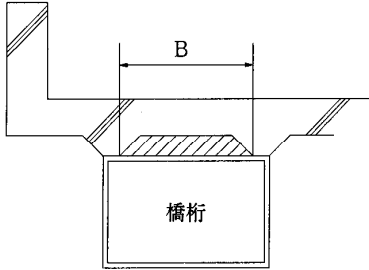
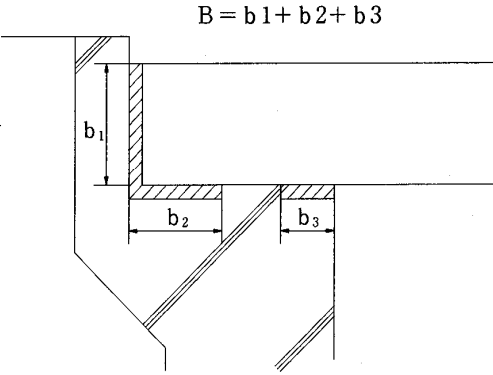
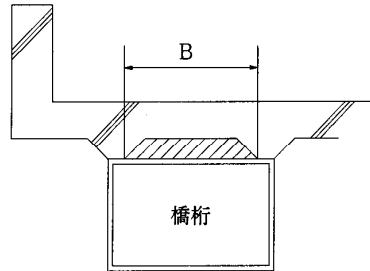
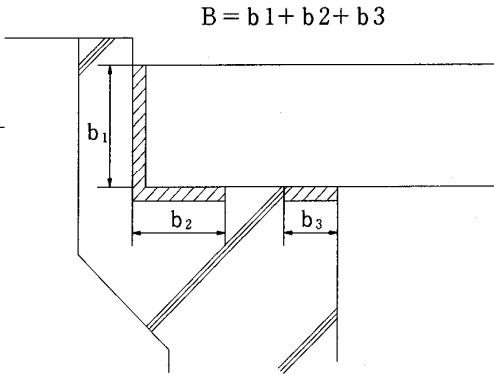
改正理由	現 行	改 正	改 正 現 行	備 考																																																						
		<p>2.1.2.1 埋戻工</p> <p>1. 適用</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 建造物の築造及び撤去後の床掘り部における埋戻しに適用する。 </div> <p>2. 数量算出項目</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 埋戻し、タンパ締固めの土量を区分ごとに算出する。 </div> <p>3. 区分</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 区分は、施工方法、土質区分、締固めの有無とする。 </div> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th style="width: 15%;">項 目</th> <th style="width: 10%;">区 分</th> <th style="width: 10%;">施 工 方 法</th> <th style="width: 10%;">土 質 区 分</th> <th style="width: 10%;">締 固 め の 有 無</th> <th style="width: 10%;">単 位</th> <th style="width: 10%;">数 量</th> <th style="width: 10%;">備 考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>埋戻し</td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>m3</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>タンパ締固め</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>m3</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>注) 1. 土量は、締固め後の土量である。</p> <p>(2) 施工方法区分 施工方法による区分は、以下のとおりとする。</p> <div style="margin-left: 40px;"> <table style="border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="padding-right: 10px;">施工方法</td> <td style="border-left: 1px solid black; border-right: 1px solid black; padding: 0 5px;">—</td> <td>最小埋戻幅 4m 以上</td> </tr> <tr> <td></td> <td style="border-left: 1px solid black; border-right: 1px solid black; padding: 0 5px;">—</td> <td>最大埋戻幅 4m 以上</td> </tr> <tr> <td></td> <td style="border-left: 1px solid black; border-right: 1px solid black; padding: 0 5px;">—</td> <td>最大埋戻幅 1m 以上 4m 未満</td> </tr> <tr> <td></td> <td style="border-left: 1px solid black; border-right: 1px solid black; padding: 0 5px;">—</td> <td>最大埋戻幅 1m 未満</td> </tr> <tr> <td></td> <td style="border-left: 1px solid black; border-right: 1px solid black; padding: 0 5px;">—</td> <td>上記以外(小規模)</td> </tr> <tr> <td></td> <td style="border-left: 1px solid black; border-right: 1px solid black; padding: 0 5px;">—</td> <td>現場制約あり</td> </tr> </table> </div> <p style="margin-left: 40px;">施工方法「現場制約あり」とは、機械施工が困難な場合。</p> <p>(3) 土質区分 土質区分による区分は、以下のとおりとする。</p> <div style="margin-left: 40px;"> <table style="border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="padding-right: 10px;">土質区分</td> <td style="border-left: 1px solid black; border-right: 1px solid black; padding: 0 5px;">—</td> <td>土砂</td> </tr> <tr> <td></td> <td style="border-left: 1px solid black; border-right: 1px solid black; padding: 0 5px;">—</td> <td>岩塊・玉石</td> </tr> </table> </div> <p>(4) 締固めの有無区分 締固めの有無による区分は、以下のとおりとする。</p> <div style="margin-left: 40px;"> <table style="border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="padding-right: 10px;">締固めの有無</td> <td style="border-left: 1px solid black; border-right: 1px solid black; padding: 0 5px;">—</td> <td>有り</td> </tr> <tr> <td></td> <td style="border-left: 1px solid black; border-right: 1px solid black; padding: 0 5px;">—</td> <td>無し</td> </tr> </table> </div>	項 目	区 分	施 工 方 法	土 質 区 分	締 固 め の 有 無	単 位	数 量	備 考	埋戻し		○	○	○	m3			タンパ締固め					m3			施工方法	—	最小埋戻幅 4m 以上		—	最大埋戻幅 4m 以上		—	最大埋戻幅 1m 以上 4m 未満		—	最大埋戻幅 1m 未満		—	上記以外(小規模)		—	現場制約あり	土質区分	—	土砂		—	岩塊・玉石	締固めの有無	—	有り		—	無し		<p>「埋戻工」の施工パッケージ化に伴い、新しく項立てして追記。</p>
項 目	区 分	施 工 方 法	土 質 区 分	締 固 め の 有 無	単 位	数 量	備 考																																																			
埋戻し		○	○	○	m3																																																					
タンパ締固め					m3																																																					
施工方法	—	最小埋戻幅 4m 以上																																																								
	—	最大埋戻幅 4m 以上																																																								
	—	最大埋戻幅 1m 以上 4m 未満																																																								
	—	最大埋戻幅 1m 未満																																																								
	—	上記以外(小規模)																																																								
	—	現場制約あり																																																								
土質区分	—	土砂																																																								
	—	岩塊・玉石																																																								
締固めの有無	—	有り																																																								
	—	無し																																																								
積算上の注意事項																																																										

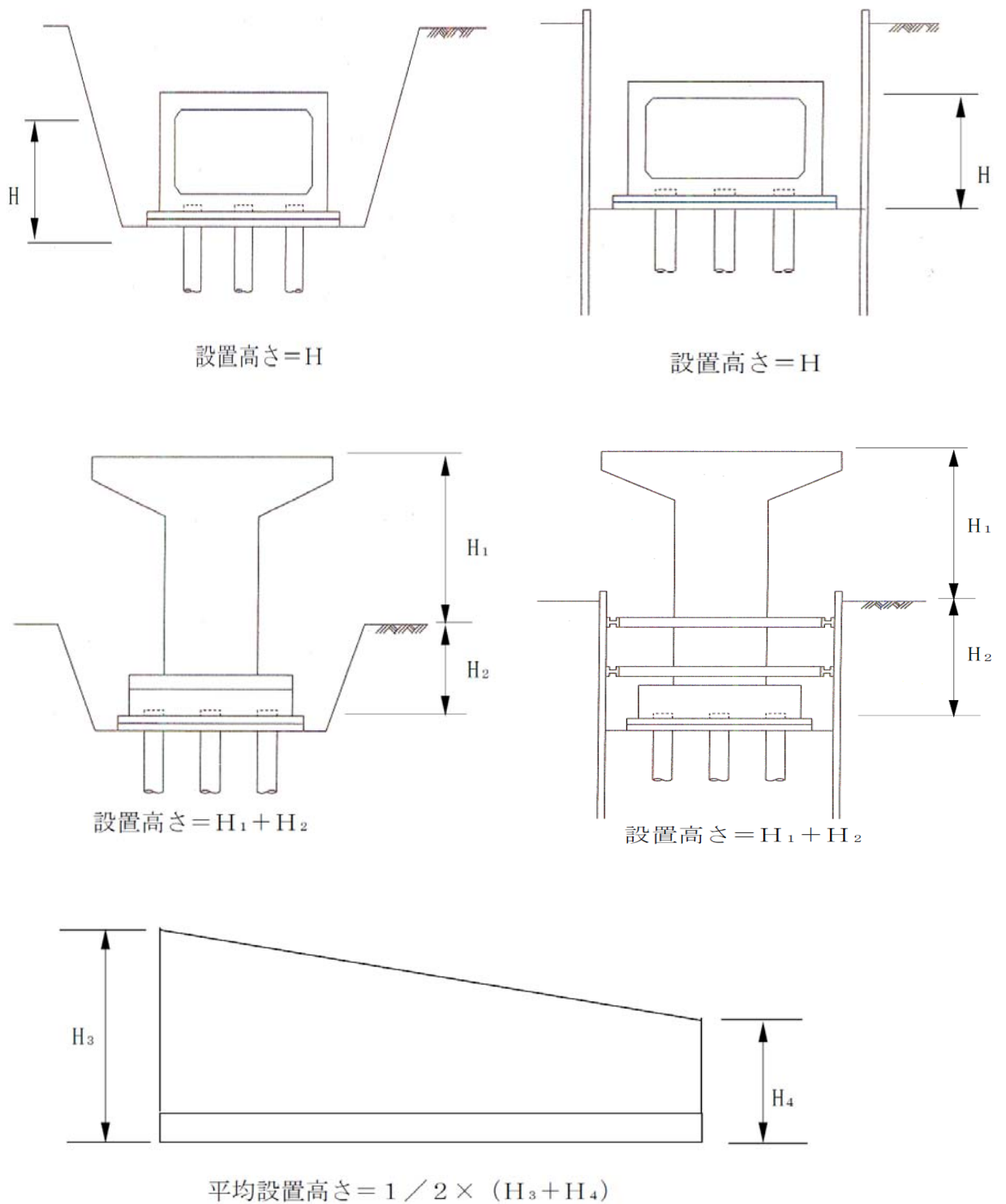
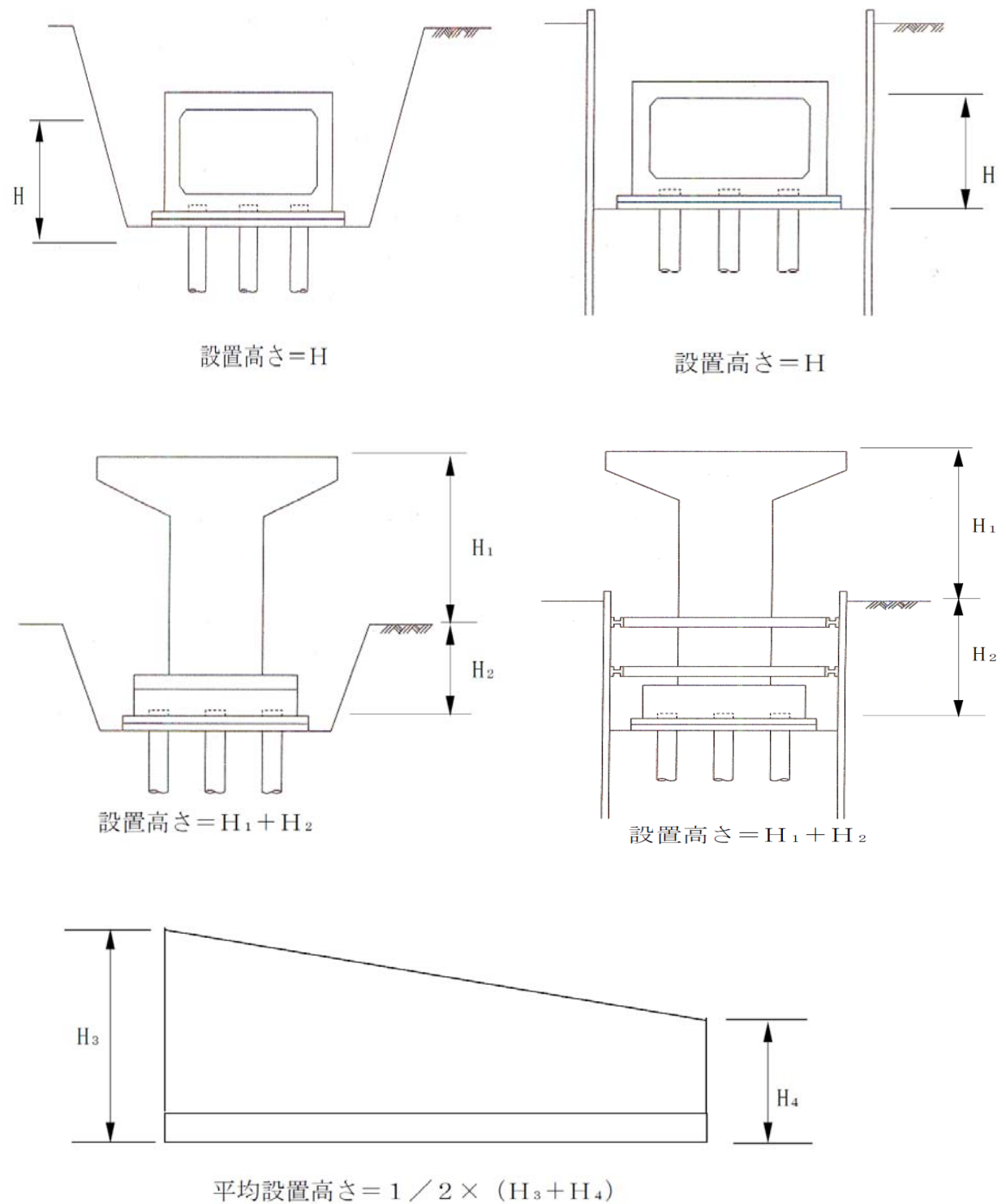
改正理由	現 行	改 正	備 考							
		<p>4. 数量算出方法 数量の算出は、「第1編（共通編）1章基本事項」によるほか、下記の方法によるものとする。</p> <p>1) 施工方法</p> <table border="1" style="margin-left: 40px; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <tr><td>施工方法</td></tr> <tr><td>最小埋戻幅 4m 以上</td></tr> <tr><td>最大埋戻幅 4m 以上</td></tr> <tr><td>最大埋戻幅 1m 以上 4m 未満</td></tr> <tr><td>最大埋戻幅 1m 未満</td></tr> <tr><td>上記以外(小規模)</td></tr> <tr><td>現場制約あり</td></tr> </table> <p>注) 1. 施工方法「上記以外(小規模)」とは、1箇所当たりの施工土量が100m³程度まで、又は平均施工幅1m未満の床掘りに伴う埋戻しで、「1箇所当り」とは、目的物1箇所当りであり、目的物が連続している場合は、連続している区間を1箇所とする。 2. 施工方法「現場制約あり」とは、機械施工が困難な場合。 3. 埋戻幅 最大埋戻幅：下図における埋戻幅(W₁) 最小埋戻幅：下図における埋戻幅(W₂) なお、擁壁等で前背面の最大埋戻幅が異なる場合は、広い方の領域を基準とし、狭い方も同一条件区分を適用するものとする。 4. 最小埋戻幅が4m以上の場合は、最大埋戻幅に関係なく、最小埋戻幅4m以上を適用する。</p> <div style="text-align: center;"> </div>	施工方法	最小埋戻幅 4m 以上	最大埋戻幅 4m 以上	最大埋戻幅 1m 以上 4m 未満	最大埋戻幅 1m 未満	上記以外(小規模)	現場制約あり	
施工方法										
最小埋戻幅 4m 以上										
最大埋戻幅 4m 以上										
最大埋戻幅 1m 以上 4m 未満										
最大埋戻幅 1m 未満										
上記以外(小規模)										
現場制約あり										
積算上の注意事項										

改正理由	現 行	改 正	改 正 現 行	備 考																																																					
	<p>第4章 コンクリート工</p> <p>4.1 コンクリート工</p> <p>1. 適用</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 一般的な構造物のコンクリート打設に適用する。 ただし、ダムコンクリート、トンネル覆工コンクリート、コンクリート舗装、消波根固めブロック工、コンクリート桁及び軽量コンクリート等の特殊コンクリート打設、第1編(共通編)6章6.4場所打擁壁工(1)(2)、7章函渠工(1)(2)、第3編(道路編)7章橋台・橋脚工(1)(2)、10章共同溝工(1)(2)には適用しない。 </div> <p>2. 数量算出項目</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> コンクリート、均しコンクリートの数量を区分ごとに算出する。 </div> <p>3. 区分</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 区分は、構造物、規格とする。 </div> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th>区 分</th> <th>構造物 (名称)</th> <th>規格</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>コンクリート</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>m³</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>均し コンクリート</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>m²</td> <td></td> <td>参考として施工厚さ(cm)及び 体積を算出する。</td> </tr> </tbody> </table> <p>(2) 構造物(名称)区分 構造物別に各部ごとに算出し集計する。</p>	区 分	構造物 (名称)	規格	単位	数量	備考	コンクリート	○	○	m ³			均し コンクリート	○	○	m ²		参考として施工厚さ(cm)及び 体積を算出する。	<p>第4章 コンクリート工</p> <p>4.1 コンクリート工</p> <p>1. 適用</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 一般的な構造物のコンクリート打設に適用する。 ただし、ダムコンクリート、トンネル覆工コンクリート、砂防コンクリート、コンクリート舗装、消波根固めブロック工、コンクリート桁及び軽量コンクリート等の特殊コンクリート打設、第1編(共通編)6章6.4場所打擁壁工(1)(2)、7章函渠工(1)(2)、第3編(道路編)7章橋台・橋脚工(1)(2)、10章共同溝工(1)(2)には適用しない。 </div> <p>2. 数量算出項目</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> コンクリート、均しコンクリートの数量を区分ごとに算出する。 </div> <p>3. 区分</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 区分は、構造物種別、施工条件、コンクリート規格、設計日打設量、養生工の種類、圧送管延長距離区分、現場内小運搬の有無、打設高さ、水平距離とする。 </div> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th>区 分</th> <th>構造物種別 (名称)</th> <th>施工条件</th> <th>コンクリート規格</th> <th>設計日打設量</th> <th>養生工の種類</th> <th>圧送管延長距離区分</th> <th>現場内小運搬の有無</th> <th>打設高さ、水平距離</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>コンクリート</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>m³</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>均し コンクリート</td> <td>○</td> <td></td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>m²</td> <td></td> <td>参考として施工厚さ(cm)及び 体積を算出する。</td> </tr> </tbody> </table> <p>(2) 構造物種別(名称)区分 構造物種別ごとに各部ごとの数量を算出し集計する。</p>	区 分	構造物種別 (名称)	施工条件	コンクリート規格	設計日打設量	養生工の種類	圧送管延長距離区分	現場内小運搬の有無	打設高さ、水平距離	単位	数量	備考	コンクリート	○	○	○	○	○	○	○	○	m ³			均し コンクリート	○		○						m ²		参考として施工厚さ(cm)及び 体積を算出する。	<p>「コンクリート工」の施工パッケージ化に伴う改正。</p> <p>「コンクリート」及び「均しコンクリート」の区分一覧表に修正。</p> <p>「</p>
区 分	構造物 (名称)	規格	単位	数量	備考																																																				
コンクリート	○	○	m ³																																																						
均し コンクリート	○	○	m ²		参考として施工厚さ(cm)及び 体積を算出する。																																																				
区 分	構造物種別 (名称)	施工条件	コンクリート規格	設計日打設量	養生工の種類	圧送管延長距離区分	現場内小運搬の有無	打設高さ、水平距離	単位	数量	備考																																														
コンクリート	○	○	○	○	○	○	○	○	m ³																																																
均し コンクリート	○		○						m ²		参考として施工厚さ(cm)及び 体積を算出する。																																														
積算上の注意事項																																																									

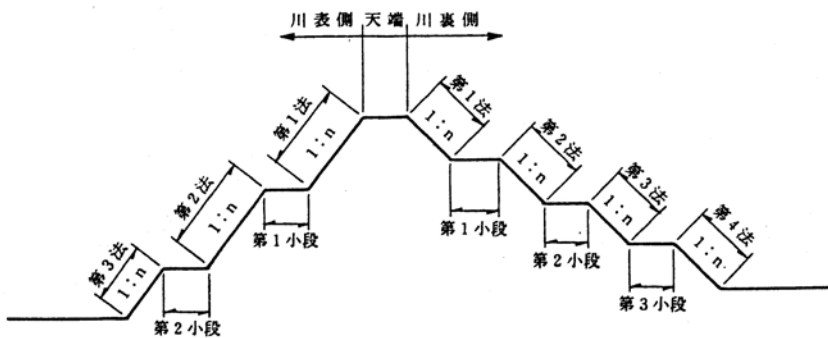
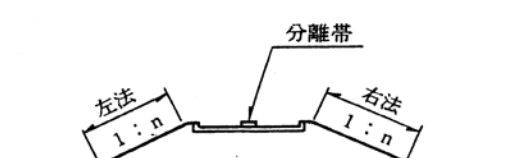
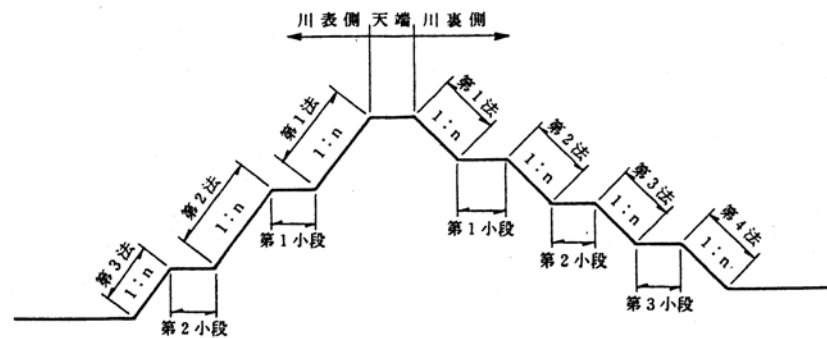
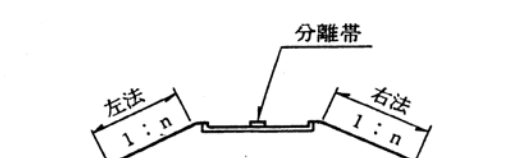
改正理由	現行	改正	改正 現行	備考
	<p>4. 数量算出方法 数量の算出は、「第1編（共通編）1章基本事項」によるほか下記の方法によるものとする。</p> <p>(1) 型枠を設置できない場合はペーラインを計上するものとする。 ペーラインコンクリート厚は以下のとおりとする。 岩着→10cm 土着→5cm</p> <p>(例)</p> 	<p>4. 数量算出方法 数量の算出は、「第1編（共通編）1章基本事項」によるほか下記の方法によるものとする。</p> <p>(1) 型枠を設置できない場合は、ペーラインを計上するものとする。 ペーラインコンクリート厚は、以下のとおりとする。 岩着→10cm 土着→5cm</p> <p>(例)</p> 		
積算上の注意事項				

改正理由		改正 現行																																																																
現 行	改 正	備 考																																																																
<p>4.2 型枠工</p> <p>1. 適用</p> <p>一般土木工事の構造物施工にかかる型枠工に適用する。 ただし、鋼橋床版、コンクリート桁、砂防、ダム、トンネル、第1編(共通編)6章6.4.1場所打擁壁工(1)、7章7.1.1函渠工(1)、第3編(道路編)7章7.1.1橋台・橋脚工(1)、10章10.1共同溝工(1)等には適用しない。</p> <p>2. 数量算出項目</p> <p>型枠の面積を区分ごとに算出する。</p> <p>3. 区分</p> <p>区分は、構造物、種別とする。</p> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1" data-bbox="166 884 1121 1289"> <thead> <tr> <th>区分 項目</th> <th>構造物 (名称)</th> <th>種 別</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備 考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="5">型 枠</td> <td rowspan="5">○</td> <td>一 般 型 枠</td> <td>m²</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>合 板 円 形 型 枠</td> <td>m²</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>撤 去 し な い 埋 設 型 枠 (床 版 部)</td> <td>m²</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>撤 去 し な い 埋 設 型 枠 (支 承 部 ・ 連 結 部)</td> <td>m²</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>均 し コ ン ク リ ー ト 型 枠</td> <td>m²</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>注) 1. 化粧型枠がある場合は区分する。 2. 撤去しない埋設型枠の発泡スチロールについては、平均厚を備考欄に明記する。 3. 均しコンクリート型枠は、均しコンクリートの区分に合わせて算出すること。 4. 合板円形型枠は、半径5m以下の円形部分に適用する。</p>	区分 項目	構造物 (名称)	種 別	単位	数量	備 考	型 枠	○	一 般 型 枠	m ²			合 板 円 形 型 枠	m ²			撤 去 し な い 埋 設 型 枠 (床 版 部)	m ²			撤 去 し な い 埋 設 型 枠 (支 承 部 ・ 連 結 部)	m ²			均 し コ ン ク リ ー ト 型 枠	m ²			<p>4.2 型枠工</p> <p>1. 適用</p> <p>一般土木工事の構造物施工にかかる型枠工に適用する。 ただし、鋼橋床版、コンクリート桁、砂防、ダム、トンネル、第1編(共通編)6章6.4.1場所打擁壁工(1)、7章7.1.1函渠工(1)、第3編(道路編)7章7.1.1橋台・橋脚工(1)、10章10.1共同溝工(1)等には適用しない。</p> <p>2. 数量算出項目</p> <p>型枠の面積を区分ごとに算出する。</p> <p>3. 区分</p> <p>区分は、構造物、種別型枠の種類、構造物の種類とする。</p> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1" data-bbox="1383 884 2359 1325"> <thead> <tr> <th>区分 項目</th> <th>構造物 (名称)</th> <th>種 別</th> <th>型枠 の 種類</th> <th>構造 物の 種類</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備 考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="6">型 枠</td> <td rowspan="6">○</td> <td>一 般 型 枠</td> <td rowspan="6">○</td> <td rowspan="6">○</td> <td>m²</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>合 板 円 形 型 枠</td> <td>m²</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>撤 去 し な い 埋 設 型 枠 (床 版 部)</td> <td>m²</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>撤 去 し な い 埋 設 型 枠 (支 承 部 ・ 連 結 部)</td> <td>m²</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>均 し コ ン ク リ ー ト 型 枠</td> <td>m²</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>注) 1. 化粧型枠がある場合は区分する。 2. 1. 撤去しない埋設型枠の発泡スチロールについては、平均厚を備考欄に明記する。 3. 均しコンクリート型枠は、均しコンクリートの区分に合わせて算出すること。 4. 2. 合板円形型枠鉄筋・無筋構造物(合板円形型枠使用)は、半径5m以下の円形部分に適用する。</p>	区分 項目	構造物 (名称)	種 別	型枠 の 種類	構造 物の 種類	単位	数量	備 考	型 枠	○	一 般 型 枠	○	○	m ²			合 板 円 形 型 枠	m²			撤 去 し な い 埋 設 型 枠 (床 版 部)	m²			撤 去 し な い 埋 設 型 枠 (支 承 部 ・ 連 結 部)	m²			均 し コ ン ク リ ー ト 型 枠	m²							<p>「型枠」「化粧型枠(材料費)」「撤去しない埋設型枠(材料費)」の施工パッケージ化に伴う改正。</p> <p>「型枠」の区分一覧表を修正</p>
区分 項目	構造物 (名称)	種 別	単位	数量	備 考																																																													
型 枠	○	一 般 型 枠	m ²																																																															
		合 板 円 形 型 枠	m ²																																																															
		撤 去 し な い 埋 設 型 枠 (床 版 部)	m ²																																																															
		撤 去 し な い 埋 設 型 枠 (支 承 部 ・ 連 結 部)	m ²																																																															
		均 し コ ン ク リ ー ト 型 枠	m ²																																																															
区分 項目	構造物 (名称)	種 別	型枠 の 種類	構造 物の 種類	単位	数量	備 考																																																											
型 枠	○	一 般 型 枠	○	○	m ²																																																													
		合 板 円 形 型 枠			m²																																																													
		撤 去 し な い 埋 設 型 枠 (床 版 部)			m²																																																													
		撤 去 し な い 埋 設 型 枠 (支 承 部 ・ 連 結 部)			m²																																																													
		均 し コ ン ク リ ー ト 型 枠			m²																																																													
積算上の注意事項																																																																		

改正理由	現 行	改 正	改 正 現 行	備 考
	<p>(2) 撤去しない埋設型枠の算出は、下記のとおりとする。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;"> <p>床 版 部</p>  <p>橋桁</p> </div> <div style="text-align: center;"> <p>支承部・連結部</p>  <p>$B = b_1 + b_2 + b_3$</p> </div> </div> <p>$A = B \times L$ A : 型枠面積 (m²) B : 設置幅 (m) L : 設置延長 (m)</p> <p>(3) 妻型枠については、小型構造物は計上しない。無筋構造物は施工手順を検討の上、必要数量を計上する。</p>	<p>(2) 型枠の種類区分 型枠の種類による区分は、以下のとおりとする。</p> <div style="margin-left: 20px;"> <p>型枠の種類</p> <ul style="list-style-type: none"> — 一般型枠 — 化粧型枠 — 撤去しない埋設型枠 </div> <p>(3) 構造物の種類区分 構造物の種類による区分は、以下のとおりとする。</p> <div style="margin-left: 20px;"> <p>構造物の種類</p> <ul style="list-style-type: none"> — 鉄筋・無筋構造物 — 小型構造物 — 鉄筋・無筋構造物(合板円形型枠使用) — 均しコンクリート — 床版部 — 支承部・連結部 </div> <p>(4) 撤去しない埋設型枠の型枠設置面積の算出は、下記のとおりとする。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;"> <p>床 版 部</p>  <p>橋桁</p> </div> <div style="text-align: center;"> <p>支承部・連結部</p>  <p>$B = b_1 + b_2 + b_3$</p> </div> </div> <p>$A = B \times L$ A : 型枠面積 (m²) B : 設置幅 (m) L : 設置延長 (m)</p> <p>支承部・連結部の発泡スチロールの使用量は、次式による。 使用量 (m²) = 設置面積 (m²) × (1 + K) K : ロス率 (+0.04)</p> <p>(5) 妻型枠については、小型構造物は計上しない。無筋構造物は、施工手順を検討の上、必要数量を計上する。</p>	<p>「型枠」の区分を追記。</p> <p>基準書の支承部・連結部の使用量の式を追記。</p>	
積算上の注意事項				

改正理由	現行	改正	備考
<p>(4) 型枠の設置高さ区分 型枠材の設置において、設置高さの平均が30mを超える場合は、その設置高さを備考欄に明記すること。</p>  <p>設置高さ = H</p> <p>設置高さ = H</p> <p>設置高さ = H₁ + H₂</p> <p>設置高さ = H₁ + H₂</p> <p>平均設置高さ = $1/2 \times (H_3 + H_4)$</p> <p>4. 数量算出方法 数量の算出は、「第1編（共通工）1章基本事項」による。</p>	<p>(4-6) 型枠の設置高さ区分 型枠材の設置において、設置高さの平均が30mを超える場合は、その設置高さを備考欄に明記すること。</p>  <p>設置高さ = H</p> <p>設置高さ = H</p> <p>設置高さ = H₁ + H₂</p> <p>設置高さ = H₁ + H₂</p> <p>平均設置高さ = $1/2 \times (H_3 + H_4)$</p> <p>4. 数量算出方法 数量の算出は、「第1編（共通工）1章基本事項」による。</p>		
積算上の注意事項			

改正理由	現 行	改 正	改 正 現 行	備 考																																																																																																																																																																																																																															
	<p>5.3 植生工</p> <p>1. 適用</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">植生基材吹付工、客土吹付工、種子散布工、植生マット工、植生シート工、植生筋工、筋芝工、張芝工、市松芝工（格子状に張る場合）、人工張芝工（ネット又はワラ付張芝）、野芝種子吹付工、繊維ネット工、法面施肥工に適用する。</div> <p>2. 数量算出項目</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">植生基材吹付、客土吹付、種子散布、植生マット、植生シート、植生筋、筋芝、張芝、市松芝、人工張芝、野芝種子吹付、繊維ネット、法面施肥の面積を区分ごとに算出する。</div> <p>3. 区分</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">区分は、吹付厚さ、種子配合、法長、垂直高とする。</div> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th>区分 項目</th> <th>吹付厚さ</th> <th>種子配合</th> <th>法長</th> <th>垂直高</th> <th>単位</th> <th>数 量</th> <th>備 考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>植生基材吹付</td><td>○</td><td>○</td><td>×</td><td>○</td><td>m²</td><td></td><td>注)1</td></tr> <tr><td>客土吹付</td><td>○</td><td>○</td><td>×</td><td>○</td><td>m²</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>種子散布</td><td>×</td><td>○</td><td>×</td><td>○</td><td>m²</td><td></td><td>注)5</td></tr> <tr><td>植生マット</td><td>×</td><td>○</td><td>×</td><td>×</td><td>m²</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>植生シート</td><td>×</td><td>○</td><td>×</td><td>×</td><td>m²</td><td></td><td>注)2</td></tr> <tr><td>植 生 筋</td><td>×</td><td>×</td><td>×</td><td>×</td><td>m²</td><td></td><td>注)3</td></tr> <tr><td>筋 芝</td><td>×</td><td>×</td><td>×</td><td>×</td><td>m²</td><td></td><td>注)3</td></tr> <tr><td>張 芝</td><td>×</td><td>×</td><td>×</td><td>×</td><td>m²</td><td></td><td>注)3、注)5</td></tr> <tr><td>市 松 芝</td><td>×</td><td>×</td><td>×</td><td>×</td><td>m²</td><td></td><td>注)3、注)4</td></tr> <tr><td>人 工 張 芝</td><td>×</td><td>×</td><td>×</td><td>×</td><td>m²</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>野芝種子吹付</td><td>×</td><td>×</td><td>×</td><td>×</td><td>m²</td><td></td><td>注)6</td></tr> <tr><td>繊維ネット</td><td>×</td><td>×</td><td>×</td><td>×</td><td>m²</td><td></td><td>注)7</td></tr> <tr><td>法面施肥</td><td>×</td><td>×</td><td>○</td><td>×</td><td>m²</td><td></td><td>注)8</td></tr> </tbody> </table> <p>注) 1. 植生基材吹付については、通常の吹付と枠内吹付に区分して算出する。また、施工基面（機械設置基面）から上面への施工か、下面への施工であるかを区分して算出する。 2. 植生シートについては、標準品と環境品（分解〔腐食〕型及び循環型〔間伐材等使用〕）に区分して算出する。 3. 植生筋、筋芝、張芝、市松芝は、材料の総面積ではなく、対象となる法面等の施工面積を算出する。 4. 市松芝は平面部への高麗芝、野芝の芝付と、法面部への高麗芝、野芝の芝付、耳芝のみの施工の場合、公園工事の場合に区分して算出するものとする。散水養生、施肥が必要な場合は別途算出する。 5. 種子散布及び張芝については、平面部・法面部に区分せず合計を算出する。 6. 被覆シート張工が必要な場合は別途算出する。 7. 繊維ネットは、肥料袋の有無でも区分して算出する。 8. 法面施肥は、肥料の使用量(g/m²)も算出する。また、法勾配を備考欄に明記する。</p>	区分 項目	吹付厚さ	種子配合	法長	垂直高	単位	数 量	備 考	植生基材吹付	○	○	×	○	m ²		注)1	客土吹付	○	○	×	○	m ²			種子散布	×	○	×	○	m ²		注)5	植生マット	×	○	×	×	m ²			植生シート	×	○	×	×	m ²		注)2	植 生 筋	×	×	×	×	m ²		注)3	筋 芝	×	×	×	×	m ²		注)3	張 芝	×	×	×	×	m ²		注)3、注)5	市 松 芝	×	×	×	×	m ²		注)3、注)4	人 工 張 芝	×	×	×	×	m ²			野芝種子吹付	×	×	×	×	m ²		注)6	繊維ネット	×	×	×	×	m ²		注)7	法面施肥	×	×	○	×	m ²		注)8	<p>5.3 植生工</p> <p>1. 適用</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">植生基材吹付工、客土吹付工、種子散布工、植生マット工、植生シート工、植生筋工、筋芝工、張芝工、市松芝工（格子状に張る場合）、人工張芝工（ネット又はワラ付張芝）、野芝種子吹付工、繊維ネット工、法面施肥工に適用する。</div> <p>2. 数量算出項目</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">植生基材吹付、客土吹付、種子散布、植生マット、植生シート、植生筋、筋芝、張芝、市松芝、人工張芝、野芝種子吹付、繊維ネット、法面施肥の面積を区分ごとに算出する。</div> <p>3. 区分</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">区分は、吹付厚さ、種子配合、法長、垂直高とする。</div> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th>区分 項目</th> <th>吹付厚さ</th> <th>種子配合</th> <th>法長</th> <th>垂直高</th> <th>単位</th> <th>数 量</th> <th>備 考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>植生基材吹付</td><td>○</td><td>○</td><td>×</td><td>○</td><td>m²</td><td></td><td>注)1</td></tr> <tr><td>客土吹付</td><td>○</td><td>○</td><td>×</td><td>○</td><td>m²</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>種子散布</td><td>×</td><td>○</td><td>×</td><td>○</td><td>m²</td><td></td><td>注)5</td></tr> <tr><td>植生マット</td><td>×</td><td>○</td><td>×</td><td>×</td><td>m²</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>植生シート</td><td>×</td><td>○</td><td>×</td><td>×</td><td>m²</td><td></td><td>注)2</td></tr> <tr><td>植 生 筋</td><td>×</td><td>×</td><td>×</td><td>×</td><td>m²</td><td></td><td>注)3</td></tr> <tr><td>筋 芝</td><td>×</td><td>×</td><td>×</td><td>×</td><td>m²</td><td></td><td>注)3</td></tr> <tr><td>張 芝</td><td>×</td><td>×</td><td>×</td><td>×</td><td>m²</td><td></td><td>注)3、注)5</td></tr> <tr><td>市 松 芝</td><td>×</td><td>×</td><td>×</td><td>×</td><td>m²</td><td></td><td>注)3、注)4</td></tr> <tr><td>人 工 張 芝</td><td>×</td><td>×</td><td>×</td><td>×</td><td>m²</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>野芝種子吹付</td><td>×</td><td>×</td><td>×</td><td>×</td><td>m²</td><td></td><td>注)6</td></tr> <tr><td>繊維ネット</td><td>×</td><td>×</td><td>×</td><td>×</td><td>m²</td><td></td><td>注)7</td></tr> <tr><td>法面施肥</td><td>×</td><td>×</td><td>○</td><td>×</td><td>m²</td><td></td><td>注)8</td></tr> </tbody> </table> <p>注) 1. 植生基材吹付については、通常の吹付と枠内吹付に区分して算出する。また、施工基面（機械設置基面）から上面への施工か、下面への施工であるかを区分して算出する。 2. 植生シートについては、標準品と環境品（分解〔腐食〕型及び循環型〔間伐材等使用〕）に区分して算出する。 3. 植生筋、筋芝、張芝、市松芝は、材料の総面積ではなく、対象となる法面等の施工面積を算出する。 4. 市松芝は平面部への高麗芝、野芝の芝付と、法面部への高麗芝、野芝の芝付、耳芝のみの施工の場合、公園工事の場合に区分して算出するものとする。散水養生、施肥が必要な場合は別途算出する。 5. 種子散布及び張芝については、平面部・法面部に区分せず合計を算出する。 6. 被覆シート張工、養生（散水養生）が必要な場合は、別途算出する。 7. 繊維ネットは、肥料袋の有無でも区分して算出する。 8. 法面施肥は、肥料の使用量(g/m²)も算出する。また、法勾配を備考欄に明記する。</p>	区分 項目	吹付厚さ	種子配合	法長	垂直高	単位	数 量	備 考	植生基材吹付	○	○	×	○	m ²		注)1	客土吹付	○	○	×	○	m ²			種子散布	×	○	×	○	m ²		注)5	植生マット	×	○	×	×	m ²			植生シート	×	○	×	×	m ²		注)2	植 生 筋	×	×	×	×	m ²		注)3	筋 芝	×	×	×	×	m ²		注)3	張 芝	×	×	×	×	m ²		注)3、注)5	市 松 芝	×	×	×	×	m ²		注)3、注)4	人 工 張 芝	×	×	×	×	m ²			野芝種子吹付	×	×	×	×	m ²		注)6	繊維ネット	×	×	×	×	m ²		注)7	法面施肥	×	×	○	×	m ²		注)8	<p>「野芝種子吹付工」の施工パッケージ化に伴う改正。</p>
区分 項目	吹付厚さ	種子配合	法長	垂直高	単位	数 量	備 考																																																																																																																																																																																																																												
植生基材吹付	○	○	×	○	m ²		注)1																																																																																																																																																																																																																												
客土吹付	○	○	×	○	m ²																																																																																																																																																																																																																														
種子散布	×	○	×	○	m ²		注)5																																																																																																																																																																																																																												
植生マット	×	○	×	×	m ²																																																																																																																																																																																																																														
植生シート	×	○	×	×	m ²		注)2																																																																																																																																																																																																																												
植 生 筋	×	×	×	×	m ²		注)3																																																																																																																																																																																																																												
筋 芝	×	×	×	×	m ²		注)3																																																																																																																																																																																																																												
張 芝	×	×	×	×	m ²		注)3、注)5																																																																																																																																																																																																																												
市 松 芝	×	×	×	×	m ²		注)3、注)4																																																																																																																																																																																																																												
人 工 張 芝	×	×	×	×	m ²																																																																																																																																																																																																																														
野芝種子吹付	×	×	×	×	m ²		注)6																																																																																																																																																																																																																												
繊維ネット	×	×	×	×	m ²		注)7																																																																																																																																																																																																																												
法面施肥	×	×	○	×	m ²		注)8																																																																																																																																																																																																																												
区分 項目	吹付厚さ	種子配合	法長	垂直高	単位	数 量	備 考																																																																																																																																																																																																																												
植生基材吹付	○	○	×	○	m ²		注)1																																																																																																																																																																																																																												
客土吹付	○	○	×	○	m ²																																																																																																																																																																																																																														
種子散布	×	○	×	○	m ²		注)5																																																																																																																																																																																																																												
植生マット	×	○	×	×	m ²																																																																																																																																																																																																																														
植生シート	×	○	×	×	m ²		注)2																																																																																																																																																																																																																												
植 生 筋	×	×	×	×	m ²		注)3																																																																																																																																																																																																																												
筋 芝	×	×	×	×	m ²		注)3																																																																																																																																																																																																																												
張 芝	×	×	×	×	m ²		注)3、注)5																																																																																																																																																																																																																												
市 松 芝	×	×	×	×	m ²		注)3、注)4																																																																																																																																																																																																																												
人 工 張 芝	×	×	×	×	m ²																																																																																																																																																																																																																														
野芝種子吹付	×	×	×	×	m ²		注)6																																																																																																																																																																																																																												
繊維ネット	×	×	×	×	m ²		注)7																																																																																																																																																																																																																												
法面施肥	×	×	○	×	m ²		注)8																																																																																																																																																																																																																												
積算上の注意事項																																																																																																																																																																																																																																			

改正理由	現行	改正	改正現行	備考																																
	<p>(2) 施工箇所区分 植生筋工、筋芝、張芝、市松芝については、略図に名称を明示し施工箇所ごとに区分して算出する。</p> <p>(河川略図例)</p>  <p>(道路略図例)</p> 	<p>(2) 施工箇所区分 植生筋工、筋芝、張芝、市松芝については、略図に名称を明示し施工箇所ごとに区分して算出する。</p> <p>(河川略図例)</p>  <p>(道路略図例)</p> 																																		
	<p>(3) 種子配合区分 種子配合毎に区分して算出する。</p>	<p>(3) 種子配合区分 種子配合毎に区分して算出する。</p>																																		
	<p>(4) 法長区分 法長による区分は、下表のとおりとする。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;">項 目</th> <th colspan="3">平均法長による区分</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>法 面 施 肥</td> <td>① 20m以下</td> <td>② 20mを超え50m以下</td> <td>③ 50mを超える</td> </tr> </tbody> </table>	項 目	平均法長による区分			法 面 施 肥	① 20m以下	② 20mを超え50m以下	③ 50mを超える	<p>(4) 法長区分 法長による区分は、下表のとおりとする。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;">項 目</th> <th colspan="3">平均法長による区分</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>法 面 施 肥</td> <td>① 20m以下</td> <td>② 20mを超え50m以下</td> <td>③ 50mを超える</td> </tr> </tbody> </table>	項 目	平均法長による区分			法 面 施 肥	① 20m以下	② 20mを超え50m以下	③ 50mを超える																		
項 目	平均法長による区分																																			
法 面 施 肥	① 20m以下	② 20mを超え50m以下	③ 50mを超える																																	
項 目	平均法長による区分																																			
法 面 施 肥	① 20m以下	② 20mを超え50m以下	③ 50mを超える																																	
	<p>(5) 垂直高区分 法面の垂直高による区分は、下表のとおりとする。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;">項 目</th> <th colspan="3">法面垂直高による区分</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>植生基材吹付</td> <td>① 40m以下</td> <td>② 40mを超え80m以下</td> <td>③ 80mを超える</td> </tr> <tr> <td>客土吹付工</td> <td>① 25m以下</td> <td colspan="2">② 25mを超える</td> </tr> <tr> <td>種子散布工</td> <td>① 30m以下</td> <td colspan="2">② 30mを超える</td> </tr> </tbody> </table> <p>注) 垂直高は、施工基面（機械設置基面）からの高さとする。</p>	項 目	法面垂直高による区分			植生基材吹付	① 40m以下	② 40mを超え80m以下	③ 80mを超える	客土吹付工	① 25m以下	② 25mを超える		種子散布工	① 30m以下	② 30mを超える		<p>(5) 垂直高区分 法面の垂直高による区分は、下表のとおりとする。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;">項 目</th> <th colspan="3">法面垂直高による区分</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>植生基材吹付</td> <td>① 40m以下</td> <td>② 40mを超え80m以下</td> <td>③ 80mを超える</td> </tr> <tr> <td>客土吹付工</td> <td>① 25m以下</td> <td colspan="2">② 25mを超える</td> </tr> <tr> <td>種子散布工</td> <td>① 30m以下</td> <td colspan="2">② 30mを超える</td> </tr> </tbody> </table> <p>注) 垂直高は、施工基面（機械設置基面）からの高さとする。</p>	項 目	法面垂直高による区分			植生基材吹付	① 40m以下	② 40mを超え80m以下	③ 80mを超える	客土吹付工	① 25m以下	② 25mを超える		種子散布工	① 30m以下	② 30mを超える			
項 目	法面垂直高による区分																																			
植生基材吹付	① 40m以下	② 40mを超え80m以下	③ 80mを超える																																	
客土吹付工	① 25m以下	② 25mを超える																																		
種子散布工	① 30m以下	② 30mを超える																																		
項 目	法面垂直高による区分																																			
植生基材吹付	① 40m以下	② 40mを超え80m以下	③ 80mを超える																																	
客土吹付工	① 25m以下	② 25mを超える																																		
種子散布工	① 30m以下	② 30mを超える																																		
積算上の注意事項																																				

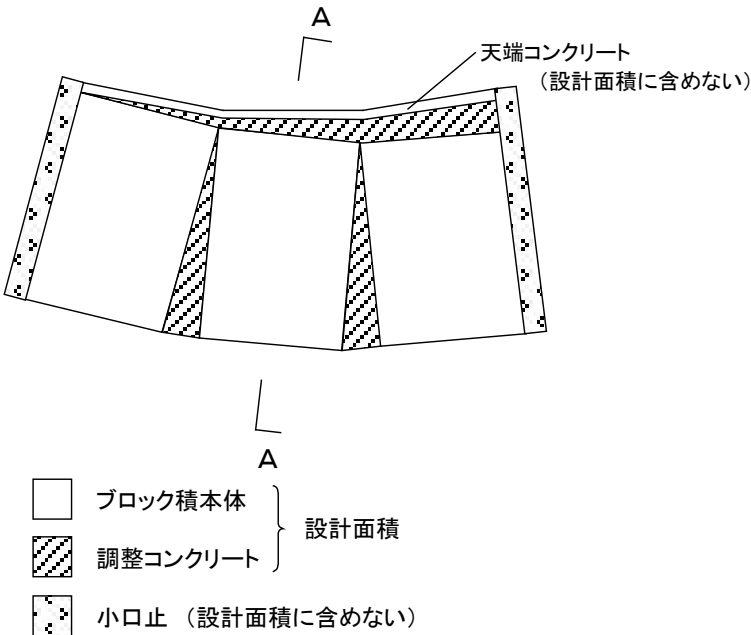
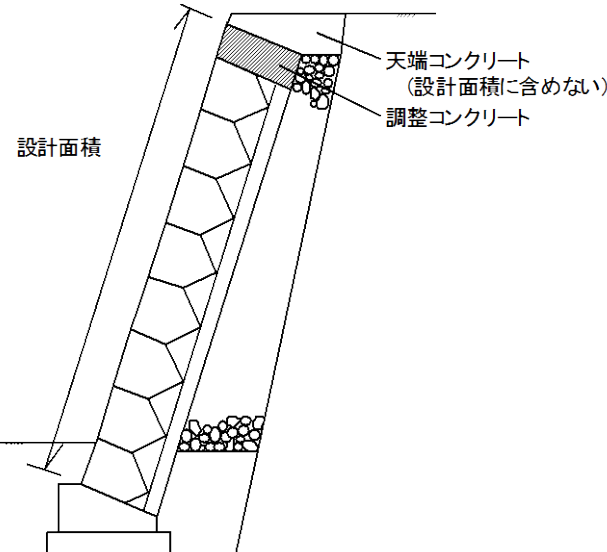
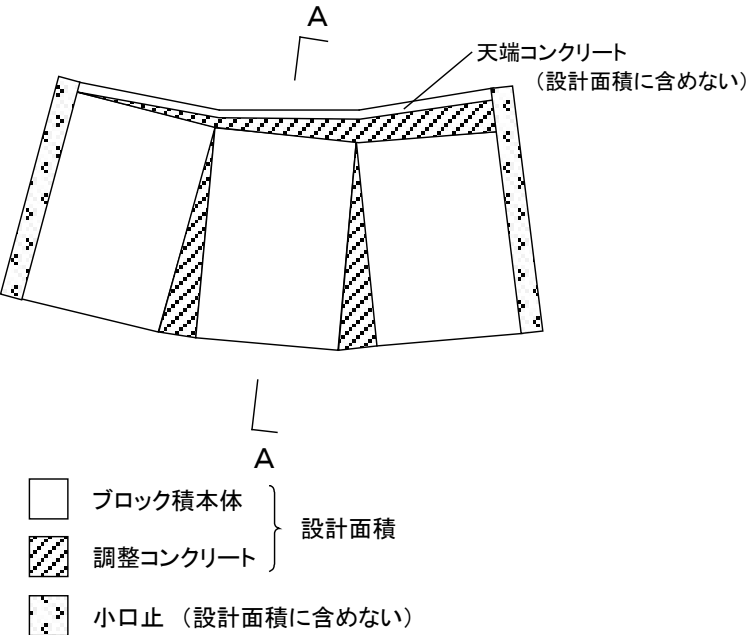
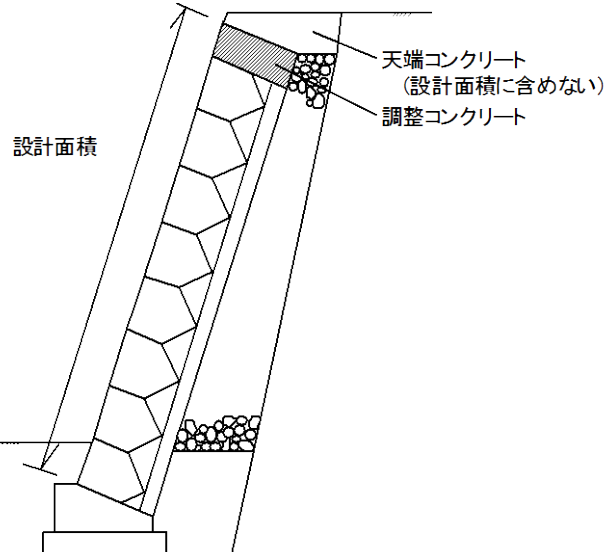
改正理由	現行	改正	備考
	<p>5.4 コンクリートブロック積(張)工</p> <p>1. 適用</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> コンクリートブロック積工、コンクリートブロック張工及び緑化ブロック積工に適用する。 </div> <p>2. 数量算出項目</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> コンクリートブロック積、コンクリートブロック張（間知ブロック張工、平ブロック張工・連節ブロック張工）、緑化ブロック積、基礎コンクリート、天端コンクリート、小口止、横帯コンクリート、巻止コンクリートの数量を区分ごとに算出する。 </div> <p>3. 区分</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 区分は、規格、構造とする。 </div>	<p>5.4 コンクリートブロック積(張)工</p> <p>1. 適用</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> コンクリートブロック積工、コンクリートブロック張工及び緑化ブロック積工に適用する。 </div> <p>2. 数量算出項目</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> コンクリートブロック積、コンクリートブロック張（間知ブロック張工、平ブロック張工・連節ブロック張工）、緑化ブロック積、胴込・裏込コンクリート、胴込・裏込材（砕石）、遮水シート張、吸出防止材（全面）設置、植樹、現場打基礎コンクリート、天端コンクリート、小口止、横帯コンクリート、巻止コンクリートの数量を区分ごとに算出する。 </div> <p>3. 区分</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 区分は、規格、構造とする。 </div>	<p style="color: red;">各種コンクリートブロック積(張)工の施工パッケージ化に伴う改正。</p> <p style="color: red;">施工パッケージ化に伴い、数量算出項目を修正。</p>
積算上の注意事項			

改正理由	現 行	改 正	改 正 現 行	備 考																																																																																																																									
	<p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <p>①コンクリートブロック積</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 15%;">項目</th> <th style="width: 10%;">区分</th> <th style="width: 10%;">規格</th> <th style="width: 10%;">構造</th> <th style="width: 10%;">単位</th> <th style="width: 10%;">数量</th> <th style="width: 10%;">備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ブロック積</td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td>m2</td> <td></td> <td>※</td> </tr> <tr> <td>胴込・裏込材</td> <td></td> <td rowspan="4">○</td> <td rowspan="4">×</td> <td>m3</td> <td></td> <td>※</td> </tr> <tr> <td>胴込・裏込コンクリート</td> <td>m3</td> <td></td> <td>※</td> </tr> <tr> <td>鉄筋</td> <td>t</td> <td></td> <td>※</td> </tr> <tr> <td>目地材</td> <td>m2</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>注) 1. コンクリートブロック積工は、勾配が1：1未満の場合である。 2. 施工箇所が点在する場合は、その施工箇所ごとに区分して算出する。 3. 必要に応じて数量を各項目ごとに算出する。 4. 備考欄に※があるものは、10m2当り数量も算出すること。なお、ブロック積については、ブロックの個数を10m2当りで算出すること。 5. 吸出防止材および水抜パイプの有無についても記載すること。</p> <p>②コンクリートブロック張 (間知ブロック張工)</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 15%;">項目</th> <th style="width: 10%;">区分</th> <th style="width: 10%;">規格</th> <th style="width: 10%;">使用量</th> <th style="width: 10%;">遮水シートの有無</th> <th style="width: 10%;">単位</th> <th style="width: 10%;">数量</th> <th style="width: 10%;">備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>間知ブロック張</td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>m2</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>注) 1. 間知ブロック張工は法勾配が1割以上、ブロック質量770kg/個以下の場合である。 2. 規格・使用量は、間知ブロックの規格、裏込材及び胴込・裏込コンクリートの規格及び10m2ごとの使用量に区分して算出する。</p>	項目	区分	規格	構造	単位	数量	備考	ブロック積		○	○	m2		※	胴込・裏込材		○	×	m3		※	胴込・裏込コンクリート	m3		※	鉄筋	t		※	目地材	m2			項目	区分	規格	使用量	遮水シートの有無	単位	数量	備考	間知ブロック張		○	○	○	m2			<p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <p>①コンクリートブロック積</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 15%;">項目</th> <th style="width: 10%;">区分</th> <th style="width: 10%;">規格</th> <th style="width: 10%;">構造</th> <th style="width: 10%;">単位</th> <th style="width: 10%;">数量</th> <th style="width: 10%;">備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ブロック積</td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td>m2</td> <td></td> <td>※</td> </tr> <tr> <td>胴込・裏込材</td> <td></td> <td rowspan="4">○</td> <td rowspan="4">×</td> <td>m3</td> <td></td> <td>※</td> </tr> <tr> <td>胴込・裏込コンクリート</td> <td>m3</td> <td></td> <td>※</td> </tr> <tr> <td>鉄筋</td> <td>t</td> <td></td> <td>※</td> </tr> <tr> <td>目地材</td> <td>m2</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>注) 1. コンクリートブロック積工は、勾配が1：1未満の場合である。 2. 施工箇所が点在する場合は、その施工箇所ごとに区分して算出する。 3. 必要に応じて数量を各項目ごとに算出する。 4. 備考欄に※があるものは、10m2当り数量も算出すること。なお、ブロック積については、ブロックの個数を10m2当りで算出すること。 5. 吸出防止材および水抜パイプの有無についても記載すること。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 15%;">項目</th> <th style="width: 10%;">区分</th> <th style="width: 10%;">鉄筋規格</th> <th style="width: 10%;">鉄筋10m2当り使用量</th> <th style="width: 10%;">単位</th> <th style="width: 10%;">数量</th> <th style="width: 10%;">備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>コンクリートブロック積</td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td>m2</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>注) 1. コンクリートブロック積工は、勾配1割未満、ブロック質量150kg/個以上2,600kg/個以下の場合である。 2. 設置面積は調整コンクリートを含んだ面積とし、小口止、天端コンクリートは別途計上する。 3. 施工箇所が点在する場合は、その施工箇所ごとに区分して算出する。</p> <p>②コンクリートブロック張 (間知ブロック張工)</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 15%;">項目</th> <th style="width: 10%;">区分</th> <th style="width: 10%;">規格</th> <th style="width: 10%;">使用量</th> <th style="width: 10%;">間知ブロック規格</th> <th style="width: 10%;">裏込材規格</th> <th style="width: 10%;">裏込材10m2当り使用量</th> <th style="width: 10%;">胴込・裏込コンクリート規格</th> <th style="width: 10%;">胴込・裏込コンクリート10m2当り使用量</th> <th style="width: 10%;">遮水シートの有無</th> <th style="width: 10%;">単位</th> <th style="width: 10%;">数量</th> <th style="width: 10%;">備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>間知ブロック張</td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>m2</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>注) 1. 間知ブロック張工は法勾配が1割以上、ブロック質量770kg/個以下の場合である。 2. 規格・使用量は、間知ブロックの規格、裏込材及び胴込・裏込コンクリートの規格及び10m2ごとの使用量に区分して算出する。 2. 設置面積は調整コンクリートを含んだ面積とし、小口止、横帯、天端コンクリートは別途計上する。 3. 間知ブロック張と遮水シート張は、同施工面積とする。</p>	項目	区分	規格	構造	単位	数量	備考	ブロック積		○	○	m2		※	胴込・裏込材		○	×	m3		※	胴込・裏込コンクリート	m3		※	鉄筋	t		※	目地材	m2			項目	区分	鉄筋規格	鉄筋10m2当り使用量	単位	数量	備考	コンクリートブロック積		○	○	m2			項目	区分	規格	使用量	間知ブロック規格	裏込材規格	裏込材10m2当り使用量	胴込・裏込コンクリート規格	胴込・裏込コンクリート10m2当り使用量	遮水シートの有無	単位	数量	備考	間知ブロック張		○	○	○	○	○	○	○	○	m2			<p>「コンクリートブロック積」及び「間知ブロック張」の施工パッケージ化に伴い、区分一覧表を修正。</p>
項目	区分	規格	構造	単位	数量	備考																																																																																																																							
ブロック積		○	○	m2		※																																																																																																																							
胴込・裏込材		○	×	m3		※																																																																																																																							
胴込・裏込コンクリート	m3				※																																																																																																																								
鉄筋	t				※																																																																																																																								
目地材	m2																																																																																																																												
項目	区分	規格	使用量	遮水シートの有無	単位	数量	備考																																																																																																																						
間知ブロック張		○	○	○	m2																																																																																																																								
項目	区分	規格	構造	単位	数量	備考																																																																																																																							
ブロック積		○	○	m2		※																																																																																																																							
胴込・裏込材		○	×	m3		※																																																																																																																							
胴込・裏込コンクリート	m3				※																																																																																																																								
鉄筋	t				※																																																																																																																								
目地材	m2																																																																																																																												
項目	区分	鉄筋規格	鉄筋10m2当り使用量	単位	数量	備考																																																																																																																							
コンクリートブロック積		○	○	m2																																																																																																																									
項目	区分	規格	使用量	間知ブロック規格	裏込材規格	裏込材10m2当り使用量	胴込・裏込コンクリート規格	胴込・裏込コンクリート10m2当り使用量	遮水シートの有無	単位	数量	備考																																																																																																																	
間知ブロック張		○	○	○	○	○	○	○	○	m2																																																																																																																			
積算上の注意事項																																																																																																																													

改正理由	現行	改正	改正行	備考																																																																																																																																										
	<p>③コンクリートブロック張 (平ブロック張工・連節ブロック張工)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>区分</th> <th>規格</th> <th>構造</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ブロック張</td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td>m2</td> <td></td> <td>※</td> </tr> <tr> <td>胴込・裏込材</td> <td></td> <td rowspan="7">○</td> <td rowspan="7">×</td> <td>m3</td> <td></td> <td>※</td> </tr> <tr> <td>胴込・裏込コンクリート</td> <td></td> <td>m3</td> <td></td> <td>※</td> </tr> <tr> <td>遮水シート</td> <td></td> <td>m2</td> <td></td> <td>※</td> </tr> <tr> <td>連結金具</td> <td></td> <td>個</td> <td></td> <td>※、平ブロックの場合</td> </tr> <tr> <td>連節鉄筋(鋼線)</td> <td></td> <td>t</td> <td></td> <td>※、連節ブロックの場合</td> </tr> <tr> <td>目地材</td> <td></td> <td>m2</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>注) 1. コンクリートブロック張工は法勾配が1:1以上の場合である。 2. 施工箇所が点在する場合は、その施工箇所ごとに区分し、河川護岸においてはさらに低水・高水護岸に区分して算出する。 3. 必要に応じて数量を各項目ごとに算出する。 4. 備考欄に※があるものは、10m2当り数量も算出すること。なお、ブロック張については、ブロックの個数を10m2当りで算出すること。 5. 吸出防止材、水抜パイプ及び目地モルタルの有無についても記載すること。</p>	項目	区分	規格	構造	単位	数量	備考	ブロック張		○	○	m2		※	胴込・裏込材		○	×	m3		※	胴込・裏込コンクリート		m3		※	遮水シート		m2		※	連結金具		個		※、平ブロックの場合	連節鉄筋(鋼線)		t		※、連節ブロックの場合	目地材		m2			<p>③コンクリートブロック張 (平ブロック張工・連節ブロック張工)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>区分</th> <th>規格</th> <th>構造</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ブロック張</td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td>m2</td> <td></td> <td>※</td> </tr> <tr> <td>胴込・裏込材</td> <td></td> <td rowspan="7">○</td> <td rowspan="7">×</td> <td>m3</td> <td></td> <td>※</td> </tr> <tr> <td>胴込・裏込コンクリート</td> <td></td> <td>m3</td> <td></td> <td>※</td> </tr> <tr> <td>遮水シート</td> <td></td> <td>m2</td> <td></td> <td>※</td> </tr> <tr> <td>連結金具</td> <td></td> <td>個</td> <td></td> <td>※、平ブロックの場合</td> </tr> <tr> <td>連節鉄筋(鋼線)</td> <td></td> <td>t</td> <td></td> <td>※、連節ブロックの場合</td> </tr> <tr> <td>目地材</td> <td></td> <td>m2</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>注) 1. コンクリートブロック張工は法勾配が1:1以上の場合である。 2. 施工箇所が点在する場合は、その施工箇所ごとに区分し、河川護岸においてはさらに低水・高水護岸に区分して算出する。 3. 必要に応じて数量を各項目ごとに算出する。 4. 備考欄に※があるものは、10m2当り数量も算出すること。なお、ブロック張については、ブロックの個数を10m2当りで算出すること。 5. 吸出防止材、水抜パイプ及び目地モルタルの有無についても記載すること。</p> <p>③平ブロック張</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>区分</th> <th>ブロックの質量</th> <th>平ブロック規格</th> <th>裏込材規格</th> <th>裏込材10m2当り使用量</th> <th>遮水シートの有無</th> <th>吸出防止材の有無</th> <th>連結金具の有無</th> <th>連結金具10m2当り使用量</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平ブロック張</td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>m2</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>注) 1. 平ブロックの張工 (勾配1割以上、ブロック質量770kg/個以下) の場合である。 2. 平ブロック張と遮水シート張は、同施工面積とする。 3. 設計面積は、調整コンクリートを含んだ面積とし、小口止、天端コンクリートは別途計上する。 4. 施工箇所が点在する場合は、その施工箇所ごとに区分し、河川護岸においてはさらに低水・高水護岸に区分して算出する。</p> <p>④連節ブロック張</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>区分</th> <th>作業区分</th> <th>ブロックの質量</th> <th>連節鉄筋(鋼線)規格</th> <th>遮水シートの有無</th> <th>吸出し防止材の有無</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>連節ブロック張</td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>m2</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>注) 1. 連節ブロックの張工 (勾配1割以上、ブロック質量770kg/個以下) の場合である。 2. 連節ブロック張と遮水シート張は、同施工面積とする。 3. 設計面積は、調整コンクリートを含んだ面積とし、小口止、天端コンクリートは別途計上する。 4. 施工箇所が点在する場合は、その施工箇所ごとに区分し、河川護岸においてはさらに低水・高水護岸に区分して算出する。</p>	項目	区分	規格	構造	単位	数量	備考	ブロック張		○	○	m2		※	胴込・裏込材		○	×	m3		※	胴込・裏込コンクリート		m3		※	遮水シート		m2		※	連結金具		個		※、平ブロックの場合	連節鉄筋(鋼線)		t		※、連節ブロックの場合	目地材		m2			項目	区分	ブロックの質量	平ブロック規格	裏込材規格	裏込材10m2当り使用量	遮水シートの有無	吸出防止材の有無	連結金具の有無	連結金具10m2当り使用量	単位	数量	備考	平ブロック張		○	○	○	○	○	○	○	○	m2			項目	区分	作業区分	ブロックの質量	連節鉄筋(鋼線)規格	遮水シートの有無	吸出し防止材の有無	単位	数量	備考	連節ブロック張		○	○	○	○	○	m2				<p>「平ブロック張」及び「連節ブロック張」の施工パッケージ化に伴い、区分一覧表を修正。</p>
項目	区分	規格	構造	単位	数量	備考																																																																																																																																								
ブロック張		○	○	m2		※																																																																																																																																								
胴込・裏込材		○	×	m3		※																																																																																																																																								
胴込・裏込コンクリート				m3		※																																																																																																																																								
遮水シート				m2		※																																																																																																																																								
連結金具				個		※、平ブロックの場合																																																																																																																																								
連節鉄筋(鋼線)				t		※、連節ブロックの場合																																																																																																																																								
目地材				m2																																																																																																																																										
項目	区分			規格	構造	単位	数量	備考																																																																																																																																						
ブロック張		○	○	m2		※																																																																																																																																								
胴込・裏込材		○	×	m3		※																																																																																																																																								
胴込・裏込コンクリート				m3		※																																																																																																																																								
遮水シート				m2		※																																																																																																																																								
連結金具				個		※、平ブロックの場合																																																																																																																																								
連節鉄筋(鋼線)				t		※、連節ブロックの場合																																																																																																																																								
目地材				m2																																																																																																																																										
項目	区分			ブロックの質量	平ブロック規格	裏込材規格	裏込材10m2当り使用量	遮水シートの有無	吸出防止材の有無	連結金具の有無	連結金具10m2当り使用量	単位	数量	備考																																																																																																																																
平ブロック張		○	○	○	○	○	○	○	○	m2																																																																																																																																				
項目	区分	作業区分	ブロックの質量	連節鉄筋(鋼線)規格	遮水シートの有無	吸出し防止材の有無	単位	数量	備考																																																																																																																																					
連節ブロック張		○	○	○	○	○	m2																																																																																																																																							
積算上の注意事項																																																																																																																																														

改正理由	現行	改正	改正現行	備考																																																																																																																																																																
	<p>④緑化ブロック積</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>区分</th> <th>規格</th> <th>構造</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>緑化ブロック積</td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td>m2</td> <td></td> <td>※</td> </tr> <tr> <td>天端ブロック</td> <td></td> <td rowspan="7">○</td> <td rowspan="7">×</td> <td>個</td> <td></td> <td>※</td> </tr> <tr> <td>胴込・裏込材</td> <td></td> <td>m3</td> <td></td> <td>※</td> </tr> <tr> <td>胴込・裏込コンクリート</td> <td></td> <td>m3</td> <td></td> <td>※</td> </tr> <tr> <td>目地材</td> <td></td> <td>m2</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>客土材</td> <td></td> <td>m3</td> <td></td> <td>※</td> </tr> <tr> <td>植樹</td> <td></td> <td>本</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>注) 1. 緑化ブロック積工は、勾配が1：1未満の場合である。 2. 施工箇所が点在する場合は、その施工箇所ごとに区分して算出する。 3. 必要に応じて数量を各項目ごとに算出する。 4. 備考欄に※があるものは、10m2当り数量も算出すること。なお、緑化ブロック積については、ブロックの個数を10m2当りで算出すること。</p>	項目	区分	規格	構造	単位	数量	備考	緑化ブロック積		○	○	m2		※	天端ブロック		○	×	個		※	胴込・裏込材		m3		※	胴込・裏込コンクリート		m3		※	目地材		m2			客土材		m3		※	植樹		本			<p>④⑤緑化ブロック積</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>区分</th> <th>規格</th> <th>構造</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>緑化ブロック積</td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td>m2</td> <td></td> <td>※</td> </tr> <tr> <td>天端ブロック</td> <td></td> <td rowspan="7">○</td> <td rowspan="7">×</td> <td>個</td> <td></td> <td>※</td> </tr> <tr> <td>胴込・裏込材</td> <td></td> <td>m3</td> <td></td> <td>※</td> </tr> <tr> <td>胴込・裏込コンクリート</td> <td></td> <td>m3</td> <td></td> <td>※</td> </tr> <tr> <td>目地材</td> <td></td> <td>m2</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>客土材</td> <td></td> <td>m3</td> <td></td> <td>※</td> </tr> <tr> <td>植樹</td> <td></td> <td>本</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>注) 1. 緑化ブロック積工は、勾配が1：1未満の場合である。 2. 施工箇所が点在する場合は、その施工箇所ごとに区分して算出する。 3. 必要に応じて数量を各項目ごとに算出する。 4. 備考欄に※があるものは、10m2当り数量も算出すること。なお、緑化ブロック積については、ブロックの個数を10m2当りで算出すること。</p> <table border="1" style="width: 100%; margin-top: 10px;"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>区分</th> <th>緑化ブロックの質量</th> <th>裏込材規格</th> <th>裏込材10m2当り使用量</th> <th>胴込・裏込コンクリート規格</th> <th>胴込・裏込コンクリート10m2当り使用量</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>緑化ブロック積</td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>m2</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>注) 1. 緑化ブロックの積工（勾配1割未満、ブロック質量980kg/個以下）の場合である。 2. 設置面積は調整コンクリートを含んだ面積とし、小口止、天端コンクリートは別途計上する。 3. 施工箇所が点在する場合は、その施工箇所ごとに区分して算出する。</p> <p>⑥胴込・裏込コンクリート、胴込・裏込材（碎石）、遮水シート張、吸出し防止材（全面）設置、植樹</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>区分</th> <th>生コンクリート規格</th> <th>ブロックの種類</th> <th>胴込・裏込材規格</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>胴込・裏込コンクリート</td> <td></td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td>m3</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>胴込・裏込材（碎石）</td> <td></td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td>m3</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>遮水シート張</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>m2</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>吸出し防止材（全面）設置</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>m2</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>植樹</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>本</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>注) 1. 施工箇所が点在する場合は、その施工箇所ごとに区分して算出する。</p>	項目	区分	規格	構造	単位	数量	備考	緑化ブロック積		○	○	m2		※	天端ブロック		○	×	個		※	胴込・裏込材		m3		※	胴込・裏込コンクリート		m3		※	目地材		m2			客土材		m3		※	植樹		本			項目	区分	緑化ブロックの質量	裏込材規格	裏込材10m2当り使用量	胴込・裏込コンクリート規格	胴込・裏込コンクリート10m2当り使用量	単位	数量	備考	緑化ブロック積		○	○	○	○	○	m2			項目	区分	生コンクリート規格	ブロックの種類	胴込・裏込材規格	単位	数量	備考	胴込・裏込コンクリート		○			m3			胴込・裏込材（碎石）			○	○	m3			遮水シート張					m2			吸出し防止材（全面）設置					m2			植樹					本				<p>「緑化ブロック積」「胴込・裏込コンクリート」「胴込・裏込材（碎石）」「遮水シート張」「吸出し防止材（全面）設置」「植樹」の施工パッケージ化に伴い、区分一覧表を修正。</p>
項目	区分	規格	構造	単位	数量	備考																																																																																																																																																														
緑化ブロック積		○	○	m2		※																																																																																																																																																														
天端ブロック		○	×	個		※																																																																																																																																																														
胴込・裏込材				m3		※																																																																																																																																																														
胴込・裏込コンクリート				m3		※																																																																																																																																																														
目地材				m2																																																																																																																																																																
客土材				m3		※																																																																																																																																																														
植樹				本																																																																																																																																																																
項目	区分			規格	構造	単位	数量	備考																																																																																																																																																												
緑化ブロック積		○	○	m2		※																																																																																																																																																														
天端ブロック		○	×	個		※																																																																																																																																																														
胴込・裏込材				m3		※																																																																																																																																																														
胴込・裏込コンクリート				m3		※																																																																																																																																																														
目地材				m2																																																																																																																																																																
客土材				m3		※																																																																																																																																																														
植樹				本																																																																																																																																																																
項目	区分			緑化ブロックの質量	裏込材規格	裏込材10m2当り使用量	胴込・裏込コンクリート規格	胴込・裏込コンクリート10m2当り使用量	単位	数量	備考																																																																																																																																																									
緑化ブロック積		○	○	○	○	○	m2																																																																																																																																																													
項目	区分	生コンクリート規格	ブロックの種類	胴込・裏込材規格	単位	数量	備考																																																																																																																																																													
胴込・裏込コンクリート		○			m3																																																																																																																																																															
胴込・裏込材（碎石）			○	○	m3																																																																																																																																																															
遮水シート張					m2																																																																																																																																																															
吸出し防止材（全面）設置					m2																																																																																																																																																															
植樹					本																																																																																																																																																															
積算上の注意事項																																																																																																																																																																				

改正理由	現 行	改 正	改 正 現 行	備 考																																																																																																																																																																																																																	
	<p>⑤基礎コンクリート</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>区分</th> <th>規格</th> <th>構造</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>基礎コンクリート</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>m</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>目地材</td> <td></td> <td>○</td> <td>×</td> <td>m2</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>基礎砕石</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>m2</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>注) 1. 必要に応じて数量を各項目ごとに算出する。 2. 基礎コンクリートについては、体積(m3)も算出すること。</p> <p>⑥天端コンクリート</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>区分</th> <th>規格</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>天端コンクリート</td> <td></td> <td>○</td> <td>m3</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>注) 1. 必要に応じて数量を各項目ごとに算出する。</p> <p>⑦小口止、横帯コンクリート、巻止コンクリート</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>区分</th> <th>規格</th> <th>構造</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>小口止</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>m</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>横帯コンクリート</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>m</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>巻止コンクリート</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>m</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>型枠</td> <td></td> <td>○</td> <td>×</td> <td>m2</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>裏込材</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>m2</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>目地材</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>m2</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>基礎砕石</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>m2</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>注) 1. 必要に応じて数量を各項目ごとに算出する。 2. 小口止、横帯コンクリート及び巻止コンクリートについては、体積(m3)も算出すること。</p> <p>(2) 規格区分 コンクリートブロック積、コンクリートブロック張及び緑化ブロック積は、ブロックの種類、質量、形状及び大きさごとに区分して算出する。 基礎コンクリート、小口止、横帯コンクリート及び巻止コンクリートは、形状及び寸法ごとに区分して算出する。 天端コンクリートは、コンクリートの規格、打設条件、養生工の種類ごとに区分して算出する。</p> <p>(3) 構造区分 空積（張）及び練積（張）に区分して算出する。</p>	項目	区分	規格	構造	単位	数量	備考	基礎コンクリート				m			目地材		○	×	m2			基礎砕石				m2			項目	区分	規格	単位	数量	備考	天端コンクリート		○	m3			項目	区分	規格	構造	単位	数量	備考	小口止				m			横帯コンクリート				m			巻止コンクリート				m			型枠		○	×	m2			裏込材				m2			目地材				m2			基礎砕石				m2			<p>⑥⑦現場打基礎コンクリート</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>区分</th> <th>生コンクリート規格</th> <th>構造</th> <th>養生工の種類</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>基礎コンクリート</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>m</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>目地材</td> <td></td> <td>⊖</td> <td>×</td> <td></td> <td>m2</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>基礎砕石</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>m2</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>現場打基礎コンクリート</td> <td></td> <td>○</td> <td></td> <td>○</td> <td>m3</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>注) 1. 必要に応じて数量を各項目ごとに算出する。 2. 基礎コンクリートについては、体積(m3)も算出すること。</p> <p>⑥⑧天端コンクリート</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>区分</th> <th>生コンクリート規格</th> <th>コンクリート打設条件</th> <th>養生工の種類</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>天端コンクリート</td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>m3</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>注) 1. 必要に応じて数量を各項目ごとに算出する。</p> <p>⑥⑨小口止、横帯コンクリート、巻止コンクリート</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>区分</th> <th>規格</th> <th>構造</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>小口止</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>m</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>横帯コンクリート</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>m</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>巻止コンクリート</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>m</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>型枠</td> <td></td> <td>○</td> <td>×</td> <td>m2</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>裏込材</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>m2</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>目地材</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>m2</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>基礎砕石</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>m2</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>注) 1. 必要に応じて数量を項目ごとに算出する。 2. 小口止、横帯コンクリート及び巻止コンクリートについては、体積(m3)も算出すること。</p> <p>(2) 規格区分 コンクリートブロック積、コンクリートブロック張及び緑化ブロック積は、ブロックの種類、質量、形状及び大きさごとに区分して算出する。 基礎コンクリート、小口止、横帯コンクリート及び巻止コンクリートは、形状及び寸法ごとに区分して算出する。 天端コンクリートは、コンクリートの規格、打設条件、養生工の種類ごとに区分して算出する。</p> <p>(3) 構造区分 空積（張）及び練積（張）に区分して算出する。</p>	項目	区分	生コンクリート規格	構造	養生工の種類	単位	数量	備考	基礎コンクリート					m			目地材		⊖	×		m2			基礎砕石					m2			現場打基礎コンクリート		○		○	m3			項目	区分	生コンクリート規格	コンクリート打設条件	養生工の種類	単位	数量	備考	天端コンクリート		○	○	○	m3			項目	区分	規格	構造	単位	数量	備考	小口止				m			横帯コンクリート				m			巻止コンクリート				m			型枠		○	×	m2			裏込材				m2			目地材				m2			基礎砕石				m2					<p>「現場打基礎コンクリート」の施工パッケージ化に伴い、区分一覧表を修正。</p> <p>他のコンクリートブロック積（張）工の施工パッケージ化に伴い、区分一覧表の表現を統一。</p> <p>他のコンクリートブロック積（張）工の施工パッケージ化に伴い、区分一覧表の表現を統一。</p>
項目	区分	規格	構造	単位	数量	備考																																																																																																																																																																																																															
基礎コンクリート				m																																																																																																																																																																																																																	
目地材		○	×	m2																																																																																																																																																																																																																	
基礎砕石				m2																																																																																																																																																																																																																	
項目	区分	規格	単位	数量	備考																																																																																																																																																																																																																
天端コンクリート		○	m3																																																																																																																																																																																																																		
項目	区分	規格	構造	単位	数量	備考																																																																																																																																																																																																															
小口止				m																																																																																																																																																																																																																	
横帯コンクリート				m																																																																																																																																																																																																																	
巻止コンクリート				m																																																																																																																																																																																																																	
型枠		○	×	m2																																																																																																																																																																																																																	
裏込材				m2																																																																																																																																																																																																																	
目地材				m2																																																																																																																																																																																																																	
基礎砕石				m2																																																																																																																																																																																																																	
項目	区分	生コンクリート規格	構造	養生工の種類	単位	数量	備考																																																																																																																																																																																																														
基礎コンクリート					m																																																																																																																																																																																																																
目地材		⊖	×		m2																																																																																																																																																																																																																
基礎砕石					m2																																																																																																																																																																																																																
現場打基礎コンクリート		○		○	m3																																																																																																																																																																																																																
項目	区分	生コンクリート規格	コンクリート打設条件	養生工の種類	単位	数量	備考																																																																																																																																																																																																														
天端コンクリート		○	○	○	m3																																																																																																																																																																																																																
項目	区分	規格	構造	単位	数量	備考																																																																																																																																																																																																															
小口止				m																																																																																																																																																																																																																	
横帯コンクリート				m																																																																																																																																																																																																																	
巻止コンクリート				m																																																																																																																																																																																																																	
型枠		○	×	m2																																																																																																																																																																																																																	
裏込材				m2																																																																																																																																																																																																																	
目地材				m2																																																																																																																																																																																																																	
基礎砕石				m2																																																																																																																																																																																																																	
積算上の注意事項																																																																																																																																																																																																																					

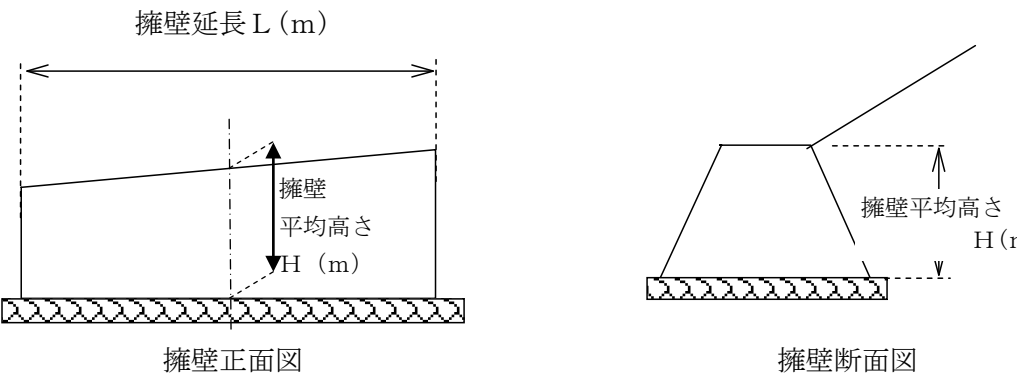
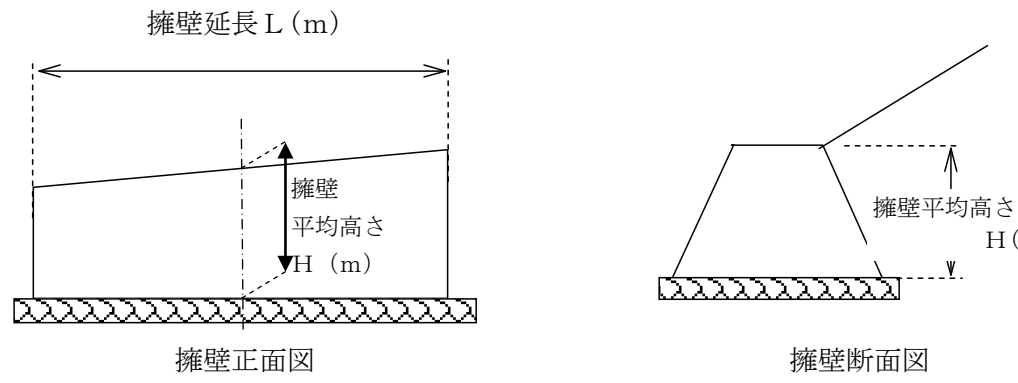
改正理由		改正 現行		
現行		改正		
<p>4. コンクリートブロック積工の参考図</p> <div data-bbox="189 344 385 415" style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content;">正面図</div>  <div data-bbox="189 1115 385 1186" style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content;">A-A断面</div> 		<p>4. コンクリートブロック積工の参考図</p> <div data-bbox="1415 344 1611 415" style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content;">正面図</div>  <div data-bbox="1415 1115 1611 1186" style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content;">A-A断面</div> 		備考
積算上の注意事項				

改正理由	現 行	改 正	改 正 現 行	備 考																																																																																																																																																																																																																								
	<p>5.5 石積(張)工</p> <p>5.5.1 多自然護岸工(巨石積(張)工)</p> <p>1. 適用</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">河川における多自然護岸工の巨石積工(練)及び巨石張工(練・空)、巨石採取に適用する。</div> <p>2. 数量算出項目</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">巨石積(張)面積を区分ごとに算出する。</div> <p>3. 区分</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">区分は、巨石の径、構造とする。</div> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>区 分</th> <th>規 格</th> <th>構 造</th> <th>単 位</th> <th>数 量</th> <th>備 考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>巨石積(張)</td> <td></td> <td>○</td> <td rowspan="6">○</td> <td>m²</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>裏込材</td> <td></td> <td>○</td> <td>m³</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>胴込コンクリート</td> <td></td> <td>○</td> <td>m³</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>裏込コンクリート</td> <td></td> <td>○</td> <td>m³</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>巨石採取</td> <td></td> <td>○</td> <td>個</td> <td></td> <td>機械により現地採取する場合</td> </tr> <tr> <td>吸出防止材</td> <td></td> <td>○</td> <td>m²</td> <td></td> <td>必要に応じて計上</td> </tr> <tr> <td>遮水・止水シート</td> <td></td> <td>○</td> <td>m²</td> <td></td> <td>必要に応じて計上</td> </tr> </tbody> </table> <p>(注1) 基礎コンクリート工、天端コンクリート工は、「第1編(共通編)5章法覆工5.4コンクリートブロック積(張)工3.区分」によるものとする。 (注2) 巨石積工は法勾配1:1未満、巨石張工は法勾配1:1以上の場合である。</p>	項目	区 分	規 格	構 造	単 位	数 量	備 考	巨石積(張)		○	○	m ²			裏込材		○	m ³			胴込コンクリート		○	m ³			裏込コンクリート		○	m ³			巨石採取		○	個		機械により現地採取する場合	吸出防止材		○	m ²		必要に応じて計上	遮水・止水シート		○	m ²		必要に応じて計上	<p>5.5 石積(張)工</p> <p>5.5.1 多自然護岸工(巨石積(張)工)</p> <p>1. 適用</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">河川における多自然護岸工の巨石積工(練)及び巨石張工(練・空)、巨石採取に適用する。</div> <p>2. 数量算出項目</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">巨石積(張)面積を区分ごとに算出する。また、巨石採取の個数を算出する。</div> <p>3. 区分</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">区分は、巨石の径区分、構造遮水シートの有無、止水シートの有無、吸出し防止材の有無、裏込め材の有無、裏込め材規格、胴込め材規格、胴込・裏込コンクリート使用量、胴込・裏込コンクリート規格とする。</div> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">項目</th> <th colspan="2">区 分</th> <th rowspan="2">巨石径区分</th> <th rowspan="2">遮水シートの有無</th> <th rowspan="2">止水シートの有無</th> <th rowspan="2">吸出し防止材の有無</th> <th rowspan="2">裏込材の有無</th> <th rowspan="2">裏込材規格</th> <th rowspan="2">胴込材規格</th> <th rowspan="2">胴込・裏込コンクリート使用量</th> <th rowspan="2">胴込・裏込コンクリート規格</th> <th rowspan="2">単 位</th> <th rowspan="2">数 量</th> <th rowspan="2">備 考</th> </tr> <tr> <th>規 格</th> <th>構 造</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>巨石張(練)</td> <td></td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>×</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>×</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>m²</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>巨石張(空)</td> <td></td> <td></td> <td>○</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>m²</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>巨石積(練)</td> <td></td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>×</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>×</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>m²</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>巨石積(張)</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>m²</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>裏込材</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>m³</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>胴込コンクリート</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>m³</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>裏込コンクリート</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>m³</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>巨石採取</td> <td></td> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>個</td> <td></td> <td>機械により現地採取する場合</td> </tr> <tr> <td>吸出防止材</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>m²</td> <td></td> <td>必要に応じて計上</td> </tr> <tr> <td>遮水・止水シート</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>m²</td> <td></td> <td>必要に応じて計上</td> </tr> </tbody> </table> <p>(注1) 基礎コンクリート工、天端コンクリート工は、「第1編(共通編)5章法覆工5.4コンクリートブロック積(張)工3.区分」によるものとする。 (注2) 巨石積工は法勾配1:1未満、巨石張工は法勾配1:1以上の場合である。</p>	項目	区 分		巨石径区分	遮水シートの有無	止水シートの有無	吸出し防止材の有無	裏込材の有無	裏込材規格	胴込材規格	胴込・裏込コンクリート使用量	胴込・裏込コンクリート規格	単 位	数 量	備 考	規 格	構 造	巨石張(練)			○	○	○	×	○	○	×	○	○	m ²			巨石張(空)			○	×	×	○	○	○	○	×	×	m ²			巨石積(練)			○	○	○	×	○	○	×	○	○	m ²			巨石積(張)	○											m²			裏込材	○											m³			胴込コンクリート	○											m³			裏込コンクリート	○											m³			巨石採取			×	×	×	×	×	×	×	×	×	個		機械により現地採取する場合	吸出防止材												m²		必要に応じて計上	遮水・止水シート												m²		必要に応じて計上	<p>「巨石積(張)工」の施工パッケージ化に伴う改正。</p> <p>巨石採取を追記。</p> <p>「巨石積(張)工」の区分一覧表を修正。</p>
項目	区 分	規 格	構 造	単 位	数 量	備 考																																																																																																																																																																																																																						
巨石積(張)		○	○	m ²																																																																																																																																																																																																																								
裏込材		○		m ³																																																																																																																																																																																																																								
胴込コンクリート		○		m ³																																																																																																																																																																																																																								
裏込コンクリート		○		m ³																																																																																																																																																																																																																								
巨石採取		○		個		機械により現地採取する場合																																																																																																																																																																																																																						
吸出防止材		○		m ²		必要に応じて計上																																																																																																																																																																																																																						
遮水・止水シート		○	m ²		必要に応じて計上																																																																																																																																																																																																																							
項目	区 分		巨石径区分	遮水シートの有無	止水シートの有無	吸出し防止材の有無	裏込材の有無	裏込材規格	胴込材規格	胴込・裏込コンクリート使用量	胴込・裏込コンクリート規格	単 位	数 量	備 考																																																																																																																																																																																																														
	規 格	構 造																																																																																																																																																																																																																										
巨石張(練)			○	○	○	×	○	○	×	○	○	m ²																																																																																																																																																																																																																
巨石張(空)			○	×	×	○	○	○	○	×	×	m ²																																																																																																																																																																																																																
巨石積(練)			○	○	○	×	○	○	×	○	○	m ²																																																																																																																																																																																																																
巨石積(張)	○											m²																																																																																																																																																																																																																
裏込材	○											m³																																																																																																																																																																																																																
胴込コンクリート	○											m³																																																																																																																																																																																																																
裏込コンクリート	○											m³																																																																																																																																																																																																																
巨石採取			×	×	×	×	×	×	×	×	×	個		機械により現地採取する場合																																																																																																																																																																																																														
吸出防止材												m²		必要に応じて計上																																																																																																																																																																																																														
遮水・止水シート												m²		必要に応じて計上																																																																																																																																																																																																														
積算上の注意事項																																																																																																																																																																																																																												

改正理由	現 行	改 正	改 正 現 行	備 考																																																										
	<p>(2) 巨石の径区分 巨石積（張）の面積を巨石の径で区分して算出する。なお、巨石の径は、最大径と最小径の平均値とする。</p> <p>(3) 構造区分 巨石積（張）の面積を空石張及び練積（張）に区分して算出する。</p> <p>4. 数量算出方法 数量の算出は、「第1編（共通編）1章基本事項」によるほか下記の方法によるものとする。</p> <p>(1) 基本数量の算出基準 石材及び胴込・裏込材の基本数量の算出</p> <div style="text-align: center;"> <p>1個当りの占有面積</p> $A' = \frac{\sqrt{3}}{2} D^2$ <p>D: 石材の直径</p> <p>胴込材は、径の1/2まで入れる。</p> </div> <div style="text-align: center;"> <p>石材の基本数量表</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>径 (m)</th> <th>体積 (m³/個)</th> <th>面積 (m²/個)</th> <th>占有面積 (m²/個)</th> <th>10 m²当り基本数量 (個)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>D</td> <td>$V = \pi D^3 / 6$</td> <td>$A = (\pi D^2 / 4)$</td> <td>$A' = (3^{1/2}) D^2 / 2$</td> <td>$N = 10 / A'$</td> </tr> </tbody> </table> </div> <div style="text-align: center;"> <p>裏込・胴込材の基本数量表</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">工 種</th> <th colspan="2">裏 込 材</th> <th colspan="2">胴 込 材</th> </tr> <tr> <th>種 類</th> <th>10 m²当り基本数量(m³)</th> <th>種 類</th> <th>10 m²当り基本数量(m³)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>空石張</td> <td>砕石等</td> <td>施工厚(m) × 10 (m³)</td> <td>雑割石 割栗石 玉石等</td> <td>$[(D \times 10 \text{ m}^2) - (V \times N)] / 2$</td> </tr> <tr> <td>練石張 及び 練石積</td> <td>砕石等 及び コンクリート</td> <td>施工厚(m) × 10 (m³)</td> <td>コンクリート</td> <td>$[(D \times 10 \text{ m}^2) - (V \times N)] / 2$</td> </tr> </tbody> </table> </div>	径 (m)	体積 (m ³ /個)	面積 (m ² /個)	占有面積 (m ² /個)	10 m ² 当り基本数量 (個)	D	$V = \pi D^3 / 6$	$A = (\pi D^2 / 4)$	$A' = (3^{1/2}) D^2 / 2$	$N = 10 / A'$	工 種	裏 込 材		胴 込 材		種 類	10 m ² 当り基本数量(m ³)	種 類	10 m ² 当り基本数量(m ³)	空石張	砕石等	施工厚(m) × 10 (m ³)	雑割石 割栗石 玉石等	$[(D \times 10 \text{ m}^2) - (V \times N)] / 2$	練石張 及び 練石積	砕石等 及び コンクリート	施工厚(m) × 10 (m ³)	コンクリート	$[(D \times 10 \text{ m}^2) - (V \times N)] / 2$	<p>(2) 巨石の径区分 巨石積（張）の面積を巨石の径で区分して算出する。なお、巨石の径は、最大径と最小径の平均値とする。</p> <p>(3) 構造区分 巨石積（張）の面積を空石張及び練積（張）に区分して算出する。</p> <p>4. 数量算出方法 数量の算出は、「第1編（共通編）1章基本事項」によるほか下記の方法によるものとする。</p> <p>(1) 基本数量の算出基準 石材及び胴込・裏込材の基本数量の算出</p> <div style="text-align: center;"> <p>1個当りの占有面積</p> $A' = \frac{\sqrt{3}}{2} D^2$ <p>D: 石材の直径</p> <p>胴込材は、径の1/2まで入れる。</p> </div> <div style="text-align: center;"> <p>石材の基本数量表</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>径 (m)</th> <th>体積 (m³/個)</th> <th>面積 (m²/個)</th> <th>占有面積 (m²/個)</th> <th>10 m²当り基本数量 (個)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>D</td> <td>$V = \pi D^3 / 6$</td> <td>$A = (\pi D^2 / 4)$</td> <td>$A' = (3^{1/2}) D^2 / 2$</td> <td>$N = 10 / A'$</td> </tr> </tbody> </table> </div> <div style="text-align: center;"> <p>裏込・胴込材の基本数量表</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">工 種</th> <th colspan="2">裏 込 材</th> <th colspan="2">胴 込 材</th> </tr> <tr> <th>種 類</th> <th>10 m²当り基本数量(m³)</th> <th>種 類</th> <th>10 m²当り基本数量(m³)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>空石張</td> <td>砕石等</td> <td>施工厚(m) × 10 (m³)</td> <td>雑割石 割栗石 玉石等</td> <td>$[(D \times 10 \text{ m}^2) - (V \times N)] / 2$</td> </tr> <tr> <td>練石張 及び 練石積</td> <td>砕石等 及び コンクリート</td> <td>施工厚(m) × 10 (m³)</td> <td>コンクリート</td> <td>$[(D \times 10 \text{ m}^2) - (V \times N)] / 2$</td> </tr> </tbody> </table> </div>	径 (m)	体積 (m ³ /個)	面積 (m ² /個)	占有面積 (m ² /個)	10 m ² 当り基本数量 (個)	D	$V = \pi D^3 / 6$	$A = (\pi D^2 / 4)$	$A' = (3^{1/2}) D^2 / 2$	$N = 10 / A'$	工 種	裏 込 材		胴 込 材		種 類	10 m ² 当り基本数量(m ³)	種 類	10 m ² 当り基本数量(m ³)	空石張	砕石等	施工厚(m) × 10 (m ³)	雑割石 割栗石 玉石等	$[(D \times 10 \text{ m}^2) - (V \times N)] / 2$	練石張 及び 練石積	砕石等 及び コンクリート	施工厚(m) × 10 (m ³)	コンクリート	$[(D \times 10 \text{ m}^2) - (V \times N)] / 2$		
径 (m)	体積 (m ³ /個)	面積 (m ² /個)	占有面積 (m ² /個)	10 m ² 当り基本数量 (個)																																																										
D	$V = \pi D^3 / 6$	$A = (\pi D^2 / 4)$	$A' = (3^{1/2}) D^2 / 2$	$N = 10 / A'$																																																										
工 種	裏 込 材		胴 込 材																																																											
	種 類	10 m ² 当り基本数量(m ³)	種 類	10 m ² 当り基本数量(m ³)																																																										
空石張	砕石等	施工厚(m) × 10 (m ³)	雑割石 割栗石 玉石等	$[(D \times 10 \text{ m}^2) - (V \times N)] / 2$																																																										
練石張 及び 練石積	砕石等 及び コンクリート	施工厚(m) × 10 (m ³)	コンクリート	$[(D \times 10 \text{ m}^2) - (V \times N)] / 2$																																																										
径 (m)	体積 (m ³ /個)	面積 (m ² /個)	占有面積 (m ² /個)	10 m ² 当り基本数量 (個)																																																										
D	$V = \pi D^3 / 6$	$A = (\pi D^2 / 4)$	$A' = (3^{1/2}) D^2 / 2$	$N = 10 / A'$																																																										
工 種	裏 込 材		胴 込 材																																																											
	種 類	10 m ² 当り基本数量(m ³)	種 類	10 m ² 当り基本数量(m ³)																																																										
空石張	砕石等	施工厚(m) × 10 (m ³)	雑割石 割栗石 玉石等	$[(D \times 10 \text{ m}^2) - (V \times N)] / 2$																																																										
練石張 及び 練石積	砕石等 及び コンクリート	施工厚(m) × 10 (m ³)	コンクリート	$[(D \times 10 \text{ m}^2) - (V \times N)] / 2$																																																										
積算上の注意事項																																																														

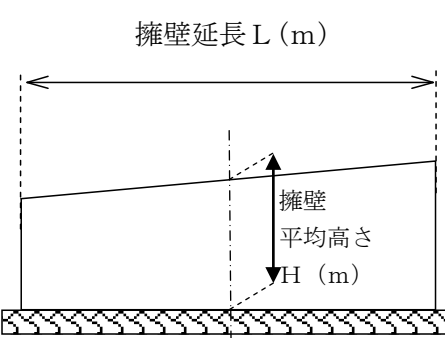
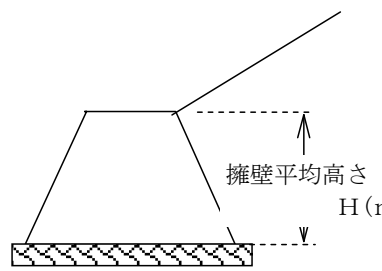
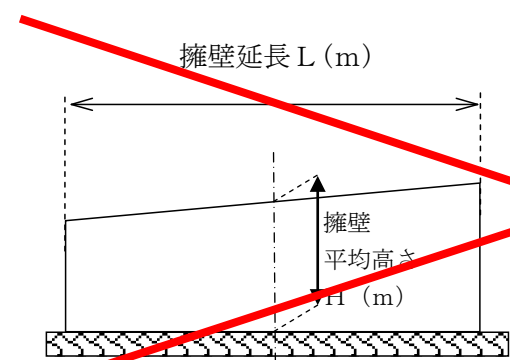
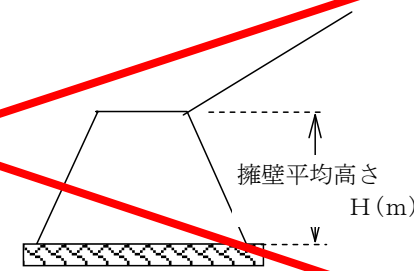
改正理由	現 行	改 正	改 正 現 行	備 考
	<p>6.4 場所打擁壁工</p> <p>6.4.1 場所打擁壁工(1)</p> <p>6.4.1.1 小型擁壁(A)、重力式擁壁</p> <p>1. 適用</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>擁壁工（現場打ちの小型擁壁[擁壁平均高さ0.5m以上1m以下、コンクリート打設地上高さが2m以下]、重力式擁壁[擁壁平均高さ1mを超え5m以下]）の施工に適用する。</p> </div> <p>2. 数量算出項目</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>擁壁本体の設計コンクリート（つま先版、かかと版、突起を含む）、ペーラインコンクリート数量を区分ごとに算出する。 また、基礎砕石（厚さ20cm以下）、均しコンクリート、については必要の有無を、養生については種類を確認する。</p> </div> <p>注) 1. 基礎砕石厚さ20cmを超える場合は、「第1編（共通編）9.1 砕石基礎工」によるものとする。 2. ペーラインコンクリートについては、「第1編（共通編）4.1 コンクリート工」によるものとする。 3. コンクリート打設機械の作業範囲（30m）を超える場合は、作業範囲（30m）を超えた部分は「第1編（共通編）6.4.1.3 圧送管組立・撤去（場所打擁壁工）」によるものとする。</p> <p>3. 区分</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>区分は、擁壁種類、平均擁壁高さ、規格とする。</p> </div>	<p>6.4 場所打擁壁工</p> <p>6.4.1 場所打擁壁工(1)</p> <p>6.4.1.1 小型擁壁(A)、重力式擁壁</p> <p>1. 適用</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>擁壁工（現場打ちの小型擁壁[擁壁平均高さ0.5m以上1m以下、コンクリート打設地上高さが2m以下]、重力式擁壁[擁壁平均高さ1mを超え5m以下]）の施工に適用する。</p> </div> <p>2. 数量算出項目</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>擁壁本体の設計コンクリート（つま先版、かかと版、突起を含む）小型擁壁（A）、小型擁壁（B）、重力式擁壁、もたれ式擁壁、逆T型擁壁、L型擁壁、ペーラインコンクリートの数量を区分ごとに算出する。 また、基礎砕石（厚さ20cm以下）、均しコンクリート、については必要の有無を、養生については種類を確認する。</p> </div> <p>注) 1. 基礎砕石厚さ20cmを超える場合は、「第1編（共通編）9.1 砕石基礎工」によるものとする。 2. ペーラインコンクリートについては、「第1編（共通編）4.1 コンクリート工」によるものとする。 3. コンクリート打設機械の作業範囲（30m）を超える場合は、作業範囲（30m）を超えた部分は「第1編（共通編）6.4.1.3 圧送管組立・撤去（場所打擁壁工）」によるものとする。</p> <p>3. 区分</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>区分は、擁壁種類、平均擁壁高さ、コンクリート規格、施工条件、鉄筋量、基礎砕石の有無、均しコンクリートの有無、養生工の種類、圧送管延長距離区分とする。</p> </div>	<p>改 正 現 行</p>	<p>「場所打ち擁壁工(1)」の施工パッケージ化に伴う改正。</p> <p>6.4.1.1と6.4.1.2の統合による修正。</p> <p>施工パッケージ化に伴う数量算出項目の修正。</p> <p>施工パッケージ化に伴う区分の修正。</p>
積算上の注意事項				

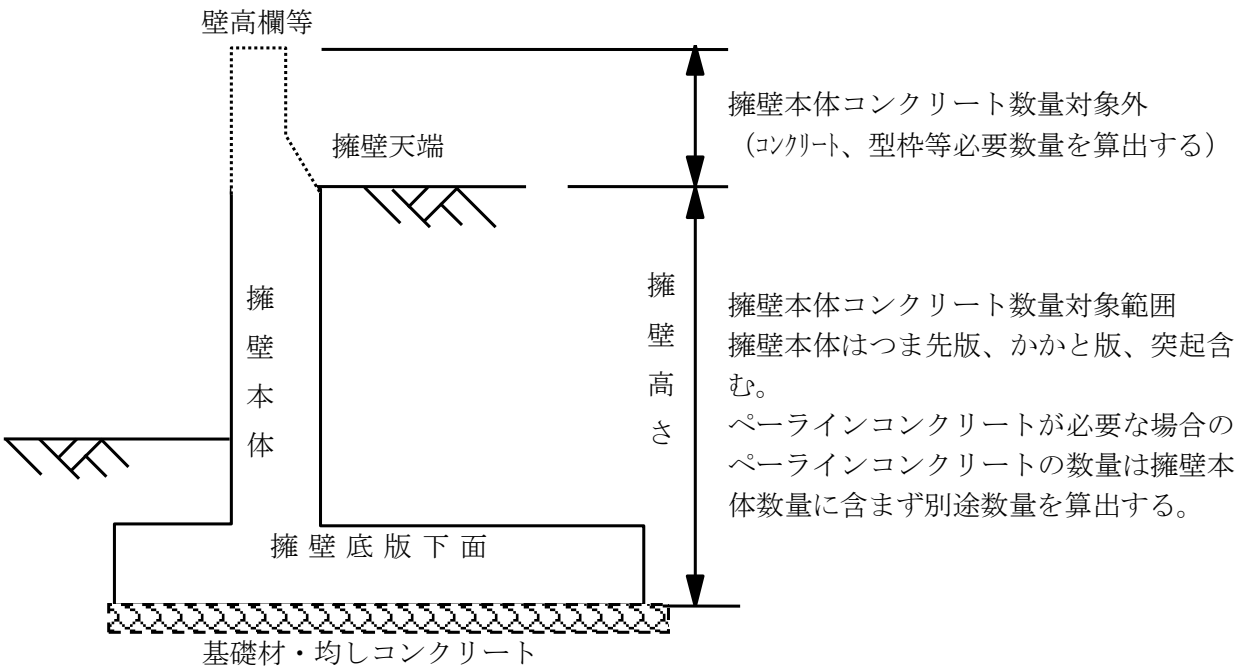
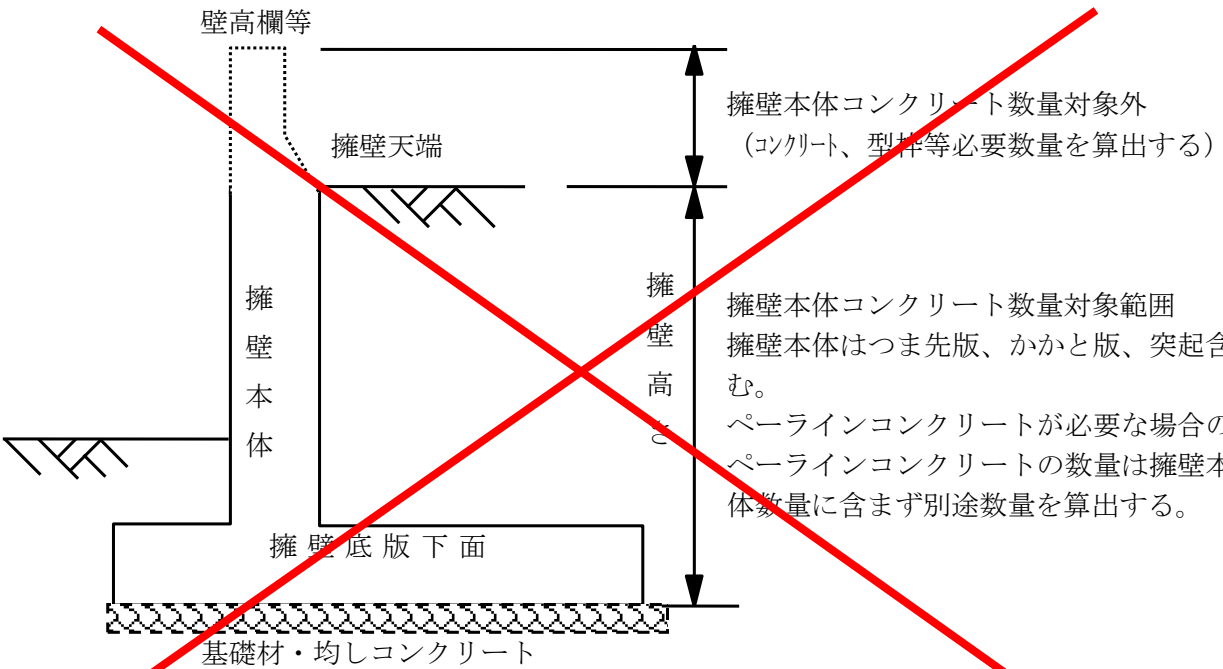
改正理由	現 行	改 正	改 正 現 行	備 考																																																																																																																																																																																																																																																										
	<p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>区分</th> <th>擁壁種類</th> <th>擁壁平均高さ</th> <th>規格</th> <th>必要の有無</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備 考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>擁壁本体コンクリート</td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>—</td> <td>m³</td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="2">基礎 砕 石</td> <td>20cm超え</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>○</td> <td>—</td> <td>m²</td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>20cm以下</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>○</td> <td>—</td> <td>×</td> <td></td> </tr> <tr> <td>均しコンクリート</td> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>○</td> <td>—</td> <td>×</td> <td></td> </tr> <tr> <td>養生</td> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> <td>○</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>×</td> <td></td> </tr> <tr> <td>ペーラインコンクリート</td> <td></td> <td>○</td> <td>×</td> <td>○</td> <td>—</td> <td>m³</td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>化粧型枠</td> <td></td> <td>○</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>—</td> <td>m²</td> <td>○</td> <td>必要となる面積のみ計上</td> </tr> <tr> <td>足場</td> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>(×)</td> <td>—</td> <td>×</td> <td>※注3</td> </tr> </tbody> </table> <p>注) 1. 擁壁本体コンクリート及びペーラインコンクリートの規格はコンクリート規格とする。 2. 養生の規格は養生の種類とする。 3. 仮囲い内ジェットヒーター養生による場合は、足場の必要の有無を「×」とし別途数量を算出する。なお、一般養生または特殊養生(練炭・ジェットヒータ)による場合は必要の有無を記載する必要はない。</p>	項目	区分	擁壁種類	擁壁平均高さ	規格	必要の有無	単位	数量	備 考	擁壁本体コンクリート		○	○	○	—	m ³	○		基礎 砕 石	20cm超え	×	×	○	—	m ²	○		20cm以下	×	×	×	○	—	×		均しコンクリート		×	×	×	○	—	×		養生		×	×	○	—	—	×		ペーラインコンクリート		○	×	○	—	m ³	○		化粧型枠		○	×	×	—	m ²	○	必要となる面積のみ計上	足場		×	×	×	(×)	—	×	※注3	<p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>区分</th> <th>擁壁種類</th> <th>擁壁平均高さ</th> <th>規格</th> <th>必要の有無</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備 考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>擁壁本体コンクリート</td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>—</td> <td>m³</td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="2">基礎 砕 石</td> <td>20cm超え</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>○</td> <td>—</td> <td>m²</td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>20cm以下</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>○</td> <td>—</td> <td>×</td> <td></td> </tr> <tr> <td>均しコンクリート</td> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>○</td> <td>—</td> <td>×</td> <td></td> </tr> <tr> <td>養生</td> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> <td>○</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>×</td> <td></td> </tr> <tr> <td>ペーラインコンクリート</td> <td></td> <td>○</td> <td>×</td> <td>○</td> <td>—</td> <td>m³</td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>化粧型枠</td> <td></td> <td>○</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>—</td> <td>m²</td> <td>○</td> <td>必要となる面積のみ計上</td> </tr> <tr> <td>足場</td> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>(×)</td> <td>—</td> <td>×</td> <td>※注3</td> </tr> </tbody> </table> <p>注) 1. 擁壁本体コンクリート及びペーラインコンクリートの規格はコンクリート規格とする。 2. 養生の規格は養生の種類とする。 3. 仮囲い内ジェットヒーター養生による場合は、足場の必要の有無を「×」とし別途数量を算出する。なお、一般養生または特殊養生(練炭・ジェットヒータ)による場合は必要の有無を記載する必要はない。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>区分</th> <th>平均擁壁高さ</th> <th>コンクリート規格</th> <th>施工条件</th> <th>鉄筋量</th> <th>基礎砕石の有無</th> <th>均しコンクリートの有無</th> <th>養生の種類</th> <th>圧送管延長距離区分</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>小型擁壁 (A)</td> <td></td> <td></td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> <td>m3</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>小型擁壁 (B)</td> <td></td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> <td>m3</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>重力式擁壁</td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>m3</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>もたれ式擁壁</td> <td></td> <td></td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>m3</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>逆T型擁壁</td> <td></td> <td></td> <td>○</td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>m3</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>L型擁壁</td> <td></td> <td></td> <td>○</td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>m3</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>注) 1. 設計数量は、つま先版、突起を含む擁壁本体コンクリートの数量とする。 2. 基礎砕石の敷均し厚は、20 cm以下を標準としており、これにより難しい場合は別途考慮する。 3. 擁壁平均高さは、擁壁の前面勾配或いは背面勾配、天端幅、擁壁種類が同一の構造形式のブロックにて判断すること。</p> <p>(2) 擁壁種類 擁壁種類は、以下のとおりとする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小型擁壁 (A)・・・コンクリート打設地上高さH≦2m ・重力式擁壁 	項目	区分	擁壁種類	擁壁平均高さ	規格	必要の有無	単位	数量	備 考	擁壁本体コンクリート		○	○	○	—	m³	○		基礎 砕 石	20cm超え	×	×	○	—	m²	○		20cm以下	×	×	×	○	—	×		均しコンクリート		×	×	×	○	—	×		養生		×	×	○	—	—	×		ペーラインコンクリート		○	×	○	—	m³	○		化粧型枠		○	×	×	—	m²	○	必要となる面積のみ計上	足場		×	×	×	(×)	—	×	※注3	項目	区分	平均擁壁高さ	コンクリート規格	施工条件	鉄筋量	基礎砕石の有無	均しコンクリートの有無	養生の種類	圧送管延長距離区分	単位	数量	備考	小型擁壁 (A)			○			○	○	○		m3			小型擁壁 (B)			○	○		○	○	○		m3			重力式擁壁		○	○			○	○	○	○	m3			もたれ式擁壁			○			○	○	○	○	m3			逆T型擁壁			○		○	○	○	○	○	m3			L型擁壁			○		○	○	○	○	○	m3			<p>施工パッケージ化に伴い、6.4.1.1 と 6.4.1.2 の統合に伴う修正。</p>
項目	区分	擁壁種類	擁壁平均高さ	規格	必要の有無	単位	数量	備 考																																																																																																																																																																																																																																																						
擁壁本体コンクリート		○	○	○	—	m ³	○																																																																																																																																																																																																																																																							
基礎 砕 石	20cm超え	×	×	○	—	m ²	○																																																																																																																																																																																																																																																							
	20cm以下	×	×	×	○	—	×																																																																																																																																																																																																																																																							
均しコンクリート		×	×	×	○	—	×																																																																																																																																																																																																																																																							
養生		×	×	○	—	—	×																																																																																																																																																																																																																																																							
ペーラインコンクリート		○	×	○	—	m ³	○																																																																																																																																																																																																																																																							
化粧型枠		○	×	×	—	m ²	○	必要となる面積のみ計上																																																																																																																																																																																																																																																						
足場		×	×	×	(×)	—	×	※注3																																																																																																																																																																																																																																																						
項目	区分	擁壁種類	擁壁平均高さ	規格	必要の有無	単位	数量	備 考																																																																																																																																																																																																																																																						
擁壁本体コンクリート		○	○	○	—	m³	○																																																																																																																																																																																																																																																							
基礎 砕 石	20cm超え	×	×	○	—	m²	○																																																																																																																																																																																																																																																							
	20cm以下	×	×	×	○	—	×																																																																																																																																																																																																																																																							
均しコンクリート		×	×	×	○	—	×																																																																																																																																																																																																																																																							
養生		×	×	○	—	—	×																																																																																																																																																																																																																																																							
ペーラインコンクリート		○	×	○	—	m³	○																																																																																																																																																																																																																																																							
化粧型枠		○	×	×	—	m²	○	必要となる面積のみ計上																																																																																																																																																																																																																																																						
足場		×	×	×	(×)	—	×	※注3																																																																																																																																																																																																																																																						
項目	区分	平均擁壁高さ	コンクリート規格	施工条件	鉄筋量	基礎砕石の有無	均しコンクリートの有無	養生の種類	圧送管延長距離区分	単位	数量	備考																																																																																																																																																																																																																																																		
小型擁壁 (A)			○			○	○	○		m3																																																																																																																																																																																																																																																				
小型擁壁 (B)			○	○		○	○	○		m3																																																																																																																																																																																																																																																				
重力式擁壁		○	○			○	○	○	○	m3																																																																																																																																																																																																																																																				
もたれ式擁壁			○			○	○	○	○	m3																																																																																																																																																																																																																																																				
逆T型擁壁			○		○	○	○	○	○	m3																																																																																																																																																																																																																																																				
L型擁壁			○		○	○	○	○	○	m3																																																																																																																																																																																																																																																				
積算上の注意事項																																																																																																																																																																																																																																																														

改正理由	現 行	改 正	改 正 現 行	備 考
	<p>(3) 擁壁平均高さ 擁壁平均高さによる区分及び算出方法は、以下のとおりとする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小型擁壁 (A)・・・0.5 m以上1 m以下 ・重力式擁壁 <ul style="list-style-type: none"> └── 1 mを超え2 m未満 └── 2 m以上5 m以下 <p>注) 擁壁平均高さは、擁壁の全面勾配或いは背面勾配、天端幅、擁壁種類が同一の構造形式のブロックにて算出すること。</p> <p>[参考図] 擁壁高さが変化する場合の擁壁平均高さH (m)</p> <p>$H = A / L$ (m) A = 正面図での擁壁面積 (m²) L = 擁壁延長 (m)</p> 	<p>(3) 擁壁平均高さ 擁壁平均高さによる区分及び算出方法は、以下のとおりとする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小型擁壁 (A)・・・0.5 m以上1 m以下 ・重力式擁壁 <ul style="list-style-type: none"> └── 1 mを超え2 m未満 └── 2 m以上5 m以下 <p>注) 擁壁平均高さは、擁壁の全面勾配或いは背面勾配、天端幅、擁壁種類が同一の構造形式のブロックにて算出すること。</p> <p>[参考図] 擁壁高さが変化する場合の擁壁平均高さH (m)</p> <p>$H = A / L$ (m) A = 正面図での擁壁面積 (m²) L = 擁壁延長 (m)</p> 		
積算上の注意事項				

改正理由		改正 現行	
現行		改正	
	<p>(4) 擁壁本体コンクリート数量に含めないもの 擁壁本体コンクリート数量に含めないものについては、コンクリート数量を本体と区分して計上する。 ・擁壁本体コンクリート打設後に打設する付属物（擁壁天端に施工する壁高欄等）については、別途コンクリート、型枠、目地材等必要数量を算出する。</p> <p>[参考図] 擁壁本体コンクリート数量の範囲</p> <p>The diagram shows a cross-section of a retaining wall. At the top, a horizontal line is labeled '壁高欄等' (Wall height railing). Below it is the '擁壁天端' (Retaining wall top edge). The main vertical section is labeled '擁壁本体' (Retaining wall body). At the bottom, there is a '擁壁底版下面' (Retaining wall base slab bottom surface) and a hatched area labeled '基礎材・均しコンクリート' (Foundation material/leveling concrete). A vertical double-headed arrow on the right indicates the '擁壁高さ' (Retaining wall height). Text to the right of the diagram states: '擁壁本体コンクリート数量対象範囲 擁壁本体はつま先版、かかと版、突起含む。ペーラインコンクリートが必要な場合のペーラインコンクリートの数量は擁壁本体数量に含まず別途数量を算出する。' (Retaining wall body concrete quantity target range. Retaining wall body includes toe plate, heel plate, and protrusion. When leveling concrete is required, the quantity of leveling concrete is not included in the retaining wall body quantity and is calculated separately.)</p>	<p>4. 数量算出方法 (4) 擁壁本体コンクリート数量に含めないもの 擁壁本体コンクリート数量に含めないものについては、コンクリート数量を本体と区分して計上する。 ・擁壁本体コンクリート打設後に打設する付属物（擁壁天端に施工する壁高欄等）については、別途コンクリート、型枠、目地材等必要数量を算出する。</p> <p>[参考図] 擁壁本体コンクリート数量の範囲</p> <p>This diagram is identical to the one in the 'Current' column, showing the same cross-section of the retaining wall with labels for '壁高欄等', '擁壁天端', '擁壁本体', '擁壁底版下面', and '基礎材・均しコンクリート'. The vertical arrow is labeled '擁壁高さ'. The text to the right is also identical: '擁壁本体コンクリート数量対象範囲 擁壁本体はつま先版、かかと版、突起含む。ペーラインコンクリートが必要な場合のペーラインコンクリートの数量は擁壁本体数量に含まず別途数量を算出する。'</p>	備考
積算上の注意事項			

改正理由	現 行	改 正	改 正 行 現	備 考																																																																																																																																																																																																																																																							
	<p>6.4.1.2 小型擁壁(B)、もたれ式擁壁、逆T型擁壁、L型擁壁</p> <p>1. 適用</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>擁壁工（現場打ちの小型擁壁[擁壁平均高さ0.5m以上1m以下、コンクリート打設地上高さが2mを超え2.8m以下かつ水平打設距離2.0m以下]、もたれ式擁壁[擁壁平均高さ3mから8mまで]、逆T型擁壁[擁壁平均高さ3mから1.0mまで]、L型擁壁[擁壁平均高さ3mから7mまで]）の施工に適用する。</p> </div> <p>2. 数量算出項目</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>擁壁本体の設計コンクリート（つま先版、かかと版、突起を含む）、裏込材、ペーラインコンクリート、化粧型枠数量を区分ごとに算出する。 また、基礎砕石（厚さ20cm以下）、均しコンクリート、目地材、水抜パイプ、吸出し防止材（点在設置）については必要の有無を確認する。</p> </div> <p>注）1. 鉄筋工については、「第1編（共通編）4.3.1鉄筋工」によるものとする。 2. 裏込材については、「第1編（共通編）5.4コンクリートブロック積（張）工」によるものとする。 3. 基礎砕石厚さ20cmを超える場合は、「第1編（共通編）9.1砕石基礎工」によるものとする。 4. 吸出防止材が帯状または全面設置の場合は、別途算出する。 5. ペーラインコンクリートについては、「第1編（共通編）4.1コンクリート工」によるものとする。 6. コンクリート打設機械の作業範囲（30m）を超える場合は、作業範囲（30m）を超えた部分は「第1編（共通編）6.4.1.3圧送管組立・撤去（場所打擁壁工）」によるものとする。</p> <p>3. 区分</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>区分は、擁壁種類、擁壁平均高さ、規格とする。</p> </div> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>区分</th> <th>擁壁種類</th> <th>擁壁平均高さ</th> <th>規格</th> <th>必要の有無</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>擁壁本体コンクリート</td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>—</td> <td>m³</td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="2">基礎砕石</td> <td>20cm超え</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>○</td> <td>—</td> <td>m²</td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>20cm以下</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>○</td> <td>—</td> <td>×</td> <td></td> </tr> <tr> <td>均しコンクリート</td> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>○</td> <td>—</td> <td>×</td> <td></td> </tr> <tr> <td>目地材</td> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>○</td> <td>—</td> <td>×</td> <td></td> </tr> <tr> <td>水抜パイプ</td> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>○</td> <td>—</td> <td>×</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="2">吸出し防止材</td> <td>点在</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>○</td> <td>—</td> <td>×</td> <td></td> </tr> <tr> <td>帯状・全面</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>○</td> <td>—</td> <td>m²</td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>鉄筋</td> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> <td>○</td> <td>—</td> <td>t</td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>裏込材</td> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> <td>○</td> <td>—</td> <td>m³</td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>ペーラインコンクリート</td> <td></td> <td>○</td> <td>×</td> <td>○</td> <td>—</td> <td>m³</td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>化粧型枠</td> <td></td> <td>○</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>—</td> <td>m²</td> <td>○</td> <td>必要となる面積のみ計上</td> </tr> <tr> <td>足場</td> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>(×)</td> <td>—</td> <td>×</td> <td>※注2</td> </tr> </tbody> </table>	項目	区分	擁壁種類	擁壁平均高さ	規格	必要の有無	単位	数量	備考	擁壁本体コンクリート		○	○	○	—	m ³	○		基礎砕石	20cm超え	×	×	○	—	m ²	○		20cm以下	×	×	×	○	—	×		均しコンクリート		×	×	×	○	—	×		目地材		×	×	×	○	—	×		水抜パイプ		×	×	×	○	—	×		吸出し防止材	点在	×	×	×	○	—	×		帯状・全面	×	×	○	—	m ²	○		鉄筋		×	×	○	—	t	○		裏込材		×	×	○	—	m ³	○		ペーラインコンクリート		○	×	○	—	m ³	○		化粧型枠		○	×	×	—	m ²	○	必要となる面積のみ計上	足場		×	×	×	(×)	—	×	※注2	<p>6.4.1.2 小型擁壁(B)、もたれ式擁壁、逆T型擁壁、L型擁壁</p> <p>1. 適用</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>擁壁工（現場打ちの小型擁壁[擁壁平均高さ0.5m以上1m以下、コンクリート打設地上高さが2mを超え2.8m以下かつ水平打設距離2.0m以下]、もたれ式擁壁[擁壁平均高さ3mから8mまで]、逆T型擁壁[擁壁平均高さ3mから1.0mまで]、L型擁壁[擁壁平均高さ3mから7mまで]）の施工に適用する。</p> </div> <p>2. 数量算出項目</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>擁壁本体の設計コンクリート（つま先版、かかと版、突起を含む）、裏込材、ペーラインコンクリート、化粧型枠数量を区分ごとに算出する。 また、基礎砕石（厚さ20cm以下）、均しコンクリート、目地材、水抜パイプ、吸出し防止材（点在設置）については必要の有無を確認する。</p> </div> <p>注）1. 鉄筋工については、「第1編（共通編）4.3.1鉄筋工」によるものとする。 2. 裏込材については、「第1編（共通編）5.4コンクリートブロック積（張）工」によるものとする。 3. 基礎砕石厚さ20cmを超える場合は、「第1編（共通編）9.1砕石基礎工」によるものとする。 4. 吸出防止材が帯状または全面設置の場合は、別途算出する。 5. ペーラインコンクリートについては、「第1編（共通編）4.1コンクリート工」によるものとする。 6. コンクリート打設機械の作業範囲（30m）を超える場合は、作業範囲（30m）を超えた部分は「第1編（共通編）6.4.1.3圧送管組立・撤去（場所打擁壁工）」によるものとする。</p> <p>3. 区分</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>区分は、擁壁種類、擁壁平均高さ、規格とする。</p> </div> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>区分</th> <th>擁壁種類</th> <th>擁壁平均高さ</th> <th>規格</th> <th>必要の有無</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>擁壁本体コンクリート</td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>—</td> <td>m³</td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="2">基礎砕石</td> <td>20cm超え</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>○</td> <td>—</td> <td>m²</td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>20cm以下</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>○</td> <td>—</td> <td>×</td> <td></td> </tr> <tr> <td>均しコンクリート</td> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>○</td> <td>—</td> <td>×</td> <td></td> </tr> <tr> <td>目地材</td> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>○</td> <td>—</td> <td>×</td> <td></td> </tr> <tr> <td>水抜パイプ</td> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>○</td> <td>—</td> <td>×</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="2">吸出し防止材</td> <td>点在</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>○</td> <td>—</td> <td>×</td> <td></td> </tr> <tr> <td>帯状・全面</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>○</td> <td>—</td> <td>m²</td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>鉄筋</td> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> <td>○</td> <td>—</td> <td>t</td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>裏込材</td> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> <td>○</td> <td>—</td> <td>m³</td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>ペーラインコンクリート</td> <td></td> <td>○</td> <td>×</td> <td>○</td> <td>—</td> <td>m³</td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>化粧型枠</td> <td></td> <td>○</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>—</td> <td>m²</td> <td>○</td> <td>必要となる面積のみ計上</td> </tr> <tr> <td>足場</td> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>(×)</td> <td>—</td> <td>×</td> <td>※注2</td> </tr> </tbody> </table>	項目	区分	擁壁種類	擁壁平均高さ	規格	必要の有無	単位	数量	備考	擁壁本体コンクリート		○	○	○	—	m³	○		基礎砕石	20cm超え	×	×	○	—	m²	○		20cm以下	×	×	×	○	—	×		均しコンクリート		×	×	×	○	—	×		目地材		×	×	×	○	—	×		水抜パイプ		×	×	×	○	—	×		吸出し防止材	点在	×	×	×	○	—	×		帯状・全面	×	×	○	—	m²	○		鉄筋		×	×	○	—	t	○		裏込材		×	×	○	—	m³	○		ペーラインコンクリート		○	×	○	—	m³	○		化粧型枠		○	×	×	—	m²	○	必要となる面積のみ計上	足場		×	×	×	(×)	—	×	※注2	<p>6.4.1.1と6.4.1.2の統合により削除。</p>
項目	区分	擁壁種類	擁壁平均高さ	規格	必要の有無	単位	数量	備考																																																																																																																																																																																																																																																			
擁壁本体コンクリート		○	○	○	—	m ³	○																																																																																																																																																																																																																																																				
基礎砕石	20cm超え	×	×	○	—	m ²	○																																																																																																																																																																																																																																																				
	20cm以下	×	×	×	○	—	×																																																																																																																																																																																																																																																				
均しコンクリート		×	×	×	○	—	×																																																																																																																																																																																																																																																				
目地材		×	×	×	○	—	×																																																																																																																																																																																																																																																				
水抜パイプ		×	×	×	○	—	×																																																																																																																																																																																																																																																				
吸出し防止材	点在	×	×	×	○	—	×																																																																																																																																																																																																																																																				
	帯状・全面	×	×	○	—	m ²	○																																																																																																																																																																																																																																																				
鉄筋		×	×	○	—	t	○																																																																																																																																																																																																																																																				
裏込材		×	×	○	—	m ³	○																																																																																																																																																																																																																																																				
ペーラインコンクリート		○	×	○	—	m ³	○																																																																																																																																																																																																																																																				
化粧型枠		○	×	×	—	m ²	○	必要となる面積のみ計上																																																																																																																																																																																																																																																			
足場		×	×	×	(×)	—	×	※注2																																																																																																																																																																																																																																																			
項目	区分	擁壁種類	擁壁平均高さ	規格	必要の有無	単位	数量	備考																																																																																																																																																																																																																																																			
擁壁本体コンクリート		○	○	○	—	m³	○																																																																																																																																																																																																																																																				
基礎砕石	20cm超え	×	×	○	—	m²	○																																																																																																																																																																																																																																																				
	20cm以下	×	×	×	○	—	×																																																																																																																																																																																																																																																				
均しコンクリート		×	×	×	○	—	×																																																																																																																																																																																																																																																				
目地材		×	×	×	○	—	×																																																																																																																																																																																																																																																				
水抜パイプ		×	×	×	○	—	×																																																																																																																																																																																																																																																				
吸出し防止材	点在	×	×	×	○	—	×																																																																																																																																																																																																																																																				
	帯状・全面	×	×	○	—	m²	○																																																																																																																																																																																																																																																				
鉄筋		×	×	○	—	t	○																																																																																																																																																																																																																																																				
裏込材		×	×	○	—	m³	○																																																																																																																																																																																																																																																				
ペーラインコンクリート		○	×	○	—	m³	○																																																																																																																																																																																																																																																				
化粧型枠		○	×	×	—	m²	○	必要となる面積のみ計上																																																																																																																																																																																																																																																			
足場		×	×	×	(×)	—	×	※注2																																																																																																																																																																																																																																																			
積算上の注意事項																																																																																																																																																																																																																																																											

改 正 理 由	現 行	改 正	備 考
	<p>注) 1. 擁壁本体コンクリート及びペーラインコンクリートの規格はコンクリート規格とする。 2. 雪寒仮囲い等で足場が必要な場合及び特殊な足場を別途計上する必要がある場合は必要の有無を「×」とし別途数量を算出する。なお、一般的な施工をする場合は必要の有無を記載する必要はない。</p> <p>(2) 擁壁種類 擁壁種類は、以下のとおりとする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小型擁壁 (B)・・・コンクリートをクレーン車で打設 (打設地上高さ $2\text{ m} < H \leq 2.8\text{ m}$、水平打設距離 $L \leq 2.0\text{ m}$) ・もたれ式擁壁 ・逆T型擁壁 ・L型擁壁 <p>(3) 擁壁平均高さ 擁壁平均高さによる区分及び算出方法は、以下のとおりとする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小型擁壁 (B)・・・0.5 mから1 mまで ・もたれ式擁壁・・・3 mから8 mまで ・逆T型擁壁・・・3 mから10 mまで ・L型擁壁・・・3 mから7 mまで <p>注) 擁壁平均高さは、擁壁の全面勾配或いは背面勾配、天端幅、擁壁種類が同一の構造形式のブロックにて算出すること。</p> <p>[参考図] 擁壁高さが変化する場合の擁壁平均高さH (m)</p> <p>$H = A / L$ (m) A = 正面図での擁壁面積 (㎡) L = 擁壁延長 (m)</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>擁壁正面図</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>擁壁断面図</p> </div> </div>	<p>注) 1. 擁壁本体コンクリート及びペーラインコンクリートの規格はコンクリート規格とする。 2. 雪寒仮囲い等で足場が必要な場合及び特殊な足場を別途計上する必要がある場合は必要の有無を「×」とし別途数量を算出する。なお、一般的な施工をする場合は必要の有無を記載する必要はない。</p> <p>(2) 擁壁種類 擁壁種類は、以下のとおりとする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小型擁壁 (B)・・・コンクリートをクレーン車で打設 (打設地上高さ $2\text{ m} < H \leq 2.8\text{ m}$、水平打設距離 $L \leq 2.0\text{ m}$) ・もたれ式擁壁 ・逆T型擁壁 ・L型擁壁 <p>(3) 擁壁平均高さ 擁壁平均高さによる区分及び算出方法は、以下のとおりとする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小型擁壁 (B)・・・0.5 mから1 mまで ・もたれ式擁壁・・・3 mから8 mまで ・逆T型擁壁・・・3 mから10 mまで ・L型擁壁・・・3 mから7 mまで <p>注) 擁壁平均高さは、擁壁の全面勾配或いは背面勾配、天端幅、擁壁種類が同一の構造形式のブロックにて算出すること。</p> <p>[参考図] 擁壁高さが変化する場合の擁壁平均高さH (m)</p> <p>$H = A / L$ (m) A = 正面図での擁壁面積 (㎡) L = 擁壁延長 (m)</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>擁壁正面図</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>擁壁断面図</p> </div> </div>	
積算上の注意事項			

改正理由	現行	改正	改正 現行	備考
	<p>(4) 擁壁本体コンクリート数量に含めないもの 擁壁本体コンクリート数量に含めないものについては、コンクリート数量を本体と区分して計上する。 ・擁壁本体コンクリート打設後に打設する付属物（擁壁天端に施工する壁高欄等）については、別途コンクリート、型枠、目地材等必要数量を算出する。</p> <p>[参考図] 擁壁本体コンクリート数量の範囲</p>  <p>擁壁本体コンクリート数量対象外 (コンクリート、型枠等必要数量を算出する)</p> <p>擁壁本体コンクリート数量対象範囲 擁壁本体はつま先版、かかと版、突起含む。 ペーラインコンクリートが必要な場合の ペーラインコンクリートの数量は擁壁本体 数量に含まず別途数量を算出する。</p>	<p>(4) 擁壁本体コンクリート数量に含めないもの 擁壁本体コンクリート数量に含めないものについては、コンクリート数量を本体と区分して計上する。 ・擁壁本体コンクリート打設後に打設する付属物（擁壁天端に施工する壁高欄等）については、別途コンクリート、型枠、目地材等必要数量を算出する。</p> <p>[参考図] 擁壁本体コンクリート数量の範囲</p>  <p>擁壁本体コンクリート数量対象外 (コンクリート、型枠等必要数量を算出する)</p> <p>擁壁本体コンクリート数量対象範囲 擁壁本体はつま先版、かかと版、突起含む。 ペーラインコンクリートが必要な場合の ペーラインコンクリートの数量は擁壁本体 数量に含まず別途数量を算出する。</p>		
積算上の注意事項				

改正理由	現行	改正	備考																																												
	<p>6.4.1.3 圧送管組立撤去(場所打擁壁工)</p> <p>1. 適用</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">場所打擁壁においてコンクリートポンプ車配管打設にて施工する場合の圧送管組立・撤去に適用する。</div> <p>2. 数量算出項目</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">コンクリート打設機械及びコンクリートポンプ車から作業範囲30mを超えた部分の圧送管延長を算出する。</div> <p>注) 1. 圧送管組立・撤去は日々組立撤去に適用する。</p> <p>3. 区分</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">区分は、圧送管延長とする。</div> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">項目</th> <th colspan="2">区分</th> <th rowspan="2">圧送管延長</th> <th rowspan="2">単位</th> <th rowspan="2">数量</th> <th rowspan="2">備考</th> </tr> <tr> <th>30m超え</th> <th>30m以下</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">圧送管組立・撤去</td> <td>30m超え</td> <td></td> <td>○</td> <td>m</td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>30m以下</td> <td></td> <td>×</td> <td>—</td> <td>×</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>注) 数量は、作業半径30mを超えた部分の圧送管延長とする。</p>	項目	区分		圧送管延長	単位	数量	備考	30m超え	30m以下	圧送管組立・撤去	30m超え		○	m	○		30m以下		×	—	×		<p>6.4.1. 32 圧送管組立撤去(場所打擁壁工)</p> <p>1. 適用</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">場所打擁壁において、コンクリートポンプ車配管打設にて施工する場合の圧送管組立・撤去に適用する。</div> <p>2. 数量算出項目</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">コンクリート打設機械及びコンクリートポンプ車から作業範囲30mを超えた部分の圧送管延長を算出する。</div> <p>注) 1. 圧送管組立・撤去は日々組立撤去に適用する。</p> <p>3. 区分</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">区分は、圧送管延長とする。</div> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">項目</th> <th colspan="2">区分</th> <th rowspan="2">圧送管延長</th> <th rowspan="2">単位</th> <th rowspan="2">数量</th> <th rowspan="2">備考</th> </tr> <tr> <th>30m超え</th> <th>30m以下</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">圧送管組立・撤去</td> <td>30m超え</td> <td></td> <td>○</td> <td>m</td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>30m以下</td> <td></td> <td>×</td> <td>—</td> <td>×</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>注) 数量は、作業半径30mを超えた部分の圧送管延長とする。</p>	項目	区分		圧送管延長	単位	数量	備考	30m超え	30m以下	圧送管組立・撤去	30m超え		○	m	○		30m以下		×	—	×		項番号の修正。
項目	区分		圧送管延長	単位					数量	備考																																					
	30m超え	30m以下																																													
圧送管組立・撤去	30m超え		○	m	○																																										
	30m以下		×	—	×																																										
項目	区分		圧送管延長	単位	数量	備考																																									
	30m超え	30m以下																																													
圧送管組立・撤去	30m超え		○	m	○																																										
	30m以下		×	—	×																																										
積算上の注意事項																																															

改 正 理 由	現 行	改 正	改 正 現 行	備 考
	<p>7章 函渠工</p> <p>7.1 函渠工</p> <p>7.1.1 函渠工(1)</p> <p>1. 適用</p> <p>以下のいずれかに該当する函渠工（現場打カルバート工）の施工に適用する。 (1)土被り範囲9m以下で1層の現場打ちボックスカルバート（アーチ等形状は問わない） (2)土被り範囲9m以下で1層2連の現場打ちボックスカルバート また、適用を外れる現場打カルバート工については、函渠工（2）を適用する。</p> <p>2. 数量算出項目</p> <p>函渠本体コンクリート（ウイング、段落ち防止用枕を含む）、化粧型枠、鉄筋の数量を区分毎に算出する。 また、基礎砕石（敷均し厚20cm以下）、均しコンクリート、目地・止水板（I型）については必要の有無を確認する。</p> <p>注）1. 鉄筋工については、「第1編（共通編）4. 3. 1鉄筋工」によるものとする。 2. 基礎砕石（敷均し厚 20cm を超える場合）については、「第1編（共通編）9. 1 砕石基礎工」によるものとする。 3. 目地・止水板（I型以外の形状）については別途考慮するものとする。 4. 冬期の施工で雪寒仮囲いが必要な場合については、「第1編（共通編）11. 6. 2 雪寒仮囲い工」によるものとする。</p>	<p>7章 函渠工</p> <p>7.1 函渠工</p> <p>7.1.1 函渠工(1)</p> <p>1. 適用</p> <p>以下のいずれかに該当する函渠工（現場打カルバート工）の施工に適用する。 (1)土被り範囲9m以下で1層の現場打ちボックスカルバート（アーチ等形状は問わない） (2)土被り範囲9m以下で1層2連の現場打ちボックスカルバート (3)コンクリート打設機械からの圧送管延長距離が340m以下の場合 また、適用を外れる現場打カルバート工については、函渠工（2）を適用する。</p> <p>2. 数量算出項目</p> <p>函渠本体コンクリート（ウイング、段落ち防止用枕を含む）、化粧型枠、鉄筋の数量を区分毎に算出する。 また、基礎砕石（敷均し厚20cm以下）、均しコンクリート、目地・止水板（I型）については必要の有無を確認する。</p> <p>注）1. 鉄筋工については、「第1編（共通編）4. 3. 1鉄筋工」によるものとする。 ⇒1. 基礎砕石（敷均し厚 20cm を超える場合）については、「第1編（共通編）9. 1 砕石基礎工」によるものとする。 ⇒2. 目地・止水板（I型以外の形状）については、別途考慮するものとする。 ⇒3. 冬期の施工で雪寒仮囲いが必要な場合については、「第1編（共通編）11. 6. 2 雪寒仮囲い工」によるものとする。</p>		<p>「函渠工(1)」に圧送管を含めたことによる修正（「圧送管組立・撤去」の廃止）。</p> <p>「化粧型枠」及び「化粧型枠(材料)」の施工パッケージ化に伴う改正。</p>
	積算上の注意事項			

改正理由	現 行	改 正	改 正 現 行	備 考																																																																																																																																																																																																																								
	<p>3. 区分</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">区分は、規格、内空寸法とする。</div> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th colspan="2">区 分</th> <th>規 格</th> <th>内空寸法</th> <th>必要性の有無</th> <th>養生工の種類</th> <th>単 位</th> <th>数 量</th> <th>備 考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="2">函渠本体コンクリート</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>—</td> <td>○</td> <td>m³</td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="2">基礎 砕石</td> <td>敷均し厚20cm以下</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>○</td> <td>×</td> <td>—</td> <td>×</td> <td></td> </tr> <tr> <td>敷均し厚20cm超え</td> <td>○</td> <td>×</td> <td>—</td> <td>×</td> <td>m²</td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td colspan="2">均しコンクリート</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>○</td> <td>×</td> <td>—</td> <td>×</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="2">目地・ 止水板</td> <td>I 型</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>○</td> <td>×</td> <td>—</td> <td>×</td> <td></td> </tr> <tr> <td>I 型以外の形状</td> <td>○</td> <td>×</td> <td>—</td> <td>×</td> <td>備考</td> <td>○</td> <td>m²及び m</td> </tr> <tr> <td colspan="2">化粧型枠</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>—</td> <td>×</td> <td>m²</td> <td>○</td> <td>必要量 計上</td> </tr> <tr> <td colspan="2">鉄筋</td> <td>○</td> <td>×</td> <td>—</td> <td>×</td> <td>t</td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td colspan="2">足場</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>(×)</td> <td>×</td> <td>—</td> <td>×</td> <td>注) 2</td> </tr> </tbody> </table> <p>注) 1. 函渠本体コンクリートの規格はコンクリート規格とする。 2. 雪寒仮囲い等で足場が必要な場合及び特殊な足場を別途計上する必要がある場合は、必要の有無を「×」とし別途算出する。 なお、一般的な施工をする場合は必要の有無を記載する必要はない。</p>	区 分		規 格	内空寸法	必要性の有無	養生工の種類	単 位	数 量	備 考	函渠本体コンクリート		○	○	—	○	m ³	○		基礎 砕石	敷均し厚20cm以下	×	×	○	×	—	×		敷均し厚20cm超え	○	×	—	×	m ²	○		均しコンクリート		×	×	○	×	—	×		目地・ 止水板	I 型	×	×	○	×	—	×		I 型以外の形状	○	×	—	×	備考	○	m ² 及び m	化粧型枠		×	×	—	×	m ²	○	必要量 計上	鉄筋		○	×	—	×	t	○		足場		×	×	(×)	×	—	×	注) 2	<p>3. 区分</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">区分は、コンクリート規格、内空寸法、養生工の種類、基礎砕石の有無、均しコンクリートの有無、目地・止水板の有無、圧送管延長距離とする。</div> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th colspan="2">区 分</th> <th>コンクリート規格</th> <th>内空寸法</th> <th>必要性の有無</th> <th>養生工の種類</th> <th>基礎砕石の有無</th> <th>均しコンクリートの有無</th> <th>目地・止水板の有無</th> <th>圧送管延長距離</th> <th>単 位</th> <th>数 量</th> <th>備 考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="2">函渠本体コンクリート</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>—</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>m³</td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="2">基礎 砕石</td> <td>敷均し厚20cm以下</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>○</td> <td>×</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>—</td> <td>×</td> <td></td> </tr> <tr> <td>敷均し厚20cm超え</td> <td>○</td> <td>×</td> <td>—</td> <td>×</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>m²</td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td colspan="2">均しコンクリート</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>○</td> <td>×</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>—</td> <td>×</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="2">目地・ 止水板</td> <td>I 型</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>○</td> <td>×</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>—</td> <td>×</td> <td></td> </tr> <tr> <td>I 型以外の形状</td> <td>○</td> <td>×</td> <td>—</td> <td>×</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>備考</td> <td>○</td> <td>m²及び m</td> </tr> <tr> <td colspan="2">化粧型枠</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>—</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>m²</td> <td>○</td> <td>必要量 計上</td> </tr> <tr> <td colspan="2">鉄筋</td> <td>○</td> <td>×</td> <td>—</td> <td>×</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>t</td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td colspan="2">足場</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>(×)</td> <td>×</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>—</td> <td>×</td> <td>注) 2</td> </tr> </tbody> </table> <p>注) 1. 函渠本体コンクリートの規格はコンクリート規格とする。 2. 雪寒仮囲い等で足場が必要な場合及び特殊な足場を別途計上する必要がある場合は、必要の有無を「×」とし別途算出する。 なお、一般的な施工をする場合は必要の有無を記載する必要はない。</p>	区 分		コンクリート規格	内空寸法	必要性の有無	養生工の種類	基礎砕石の有無	均しコンクリートの有無	目地・止水板の有無	圧送管延長距離	単 位	数 量	備 考	函渠本体コンクリート		○	○	—	○	○	○	○	○	m ³	○		基礎 砕石	敷均し厚20cm以下	×	×	○	×					—	×		敷均し厚20cm超え	○	×	—	×					m²	○		均しコンクリート		×	×	○	×					—	×		目地・ 止水板	I 型	×	×	○	×					—	×		I 型以外の形状	○	×	—	×					備考	○	m²及び m	化粧型枠		×	×	—	×	×	×	×	×	m²	○	必要量 計上	鉄筋		○	×	—	×					t	○		足場		×	×	(×)	×					—	×	注) 2		<p>「函渠工(1)」に圧送管組立・撤去を含めたことによる修正。</p>
区 分		規 格	内空寸法	必要性の有無	養生工の種類	単 位	数 量	備 考																																																																																																																																																																																																																				
函渠本体コンクリート		○	○	—	○	m ³	○																																																																																																																																																																																																																					
基礎 砕石	敷均し厚20cm以下	×	×	○	×	—	×																																																																																																																																																																																																																					
	敷均し厚20cm超え	○	×	—	×	m ²	○																																																																																																																																																																																																																					
均しコンクリート		×	×	○	×	—	×																																																																																																																																																																																																																					
目地・ 止水板	I 型	×	×	○	×	—	×																																																																																																																																																																																																																					
	I 型以外の形状	○	×	—	×	備考	○	m ² 及び m																																																																																																																																																																																																																				
化粧型枠		×	×	—	×	m ²	○	必要量 計上																																																																																																																																																																																																																				
鉄筋		○	×	—	×	t	○																																																																																																																																																																																																																					
足場		×	×	(×)	×	—	×	注) 2																																																																																																																																																																																																																				
区 分		コンクリート規格	内空寸法	必要性の有無	養生工の種類	基礎砕石の有無	均しコンクリートの有無	目地・止水板の有無	圧送管延長距離	単 位	数 量	備 考																																																																																																																																																																																																																
函渠本体コンクリート		○	○	—	○	○	○	○	○	m ³	○																																																																																																																																																																																																																	
基礎 砕石	敷均し厚20cm以下	×	×	○	×					—	×																																																																																																																																																																																																																	
	敷均し厚20cm超え	○	×	—	×					m²	○																																																																																																																																																																																																																	
均しコンクリート		×	×	○	×					—	×																																																																																																																																																																																																																	
目地・ 止水板	I 型	×	×	○	×					—	×																																																																																																																																																																																																																	
	I 型以外の形状	○	×	—	×					備考	○	m²及び m																																																																																																																																																																																																																
化粧型枠		×	×	—	×	×	×	×	×	m²	○	必要量 計上																																																																																																																																																																																																																
鉄筋		○	×	—	×					t	○																																																																																																																																																																																																																	
足場		×	×	(×)	×					—	×	注) 2																																																																																																																																																																																																																
積算上の注意事項																																																																																																																																																																																																																												

改正理由	現 行	改 正	備 考																																																																														
	<p>(2) 内空寸法</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>内空幅：B (m)</th> <th>内空高：H (m)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>①</td><td>$1.0 \leq B < 2.5$</td><td>$1.0 \leq H < 2.5$</td></tr> <tr><td>②</td><td>$2.5 \leq B \leq 4.0$</td><td>$1.0 \leq H < 2.5$</td></tr> <tr><td>③</td><td>$1.0 \leq B < 2.5$</td><td>$2.5 \leq H \leq 4.0$</td></tr> <tr><td>④</td><td>$2.5 \leq B < 4.0$</td><td>$2.5 \leq H \leq 4.0$</td></tr> <tr><td>⑤</td><td>$4.0 \leq B < 5.5$</td><td>$2.5 \leq H < 4.0$</td></tr> <tr><td>⑥</td><td>$5.5 \leq B \leq 7.0$</td><td>$2.5 \leq H < 4.0$</td></tr> <tr><td>⑦</td><td>$4.0 \leq B < 5.5$</td><td>$4.0 \leq H < 5.5$</td></tr> <tr><td>⑧</td><td>$5.5 \leq B < 7.0$</td><td>$4.0 \leq H < 5.5$</td></tr> <tr><td>⑨</td><td>$7.0 \leq B < 8.5$</td><td>$4.0 \leq H \leq 5.5$</td></tr> <tr><td>⑩</td><td>$8.5 \leq B \leq 10.0$</td><td>$4.0 \leq H \leq 5.5$</td></tr> <tr><td>⑪</td><td>$4.0 \leq B < 5.5$</td><td>$5.5 \leq H \leq 7.0$</td></tr> <tr><td>⑫</td><td>$5.5 \leq B \leq 7.0$</td><td>$5.5 \leq H \leq 7.0$</td></tr> </tbody> </table> <p>注) 1層2連の場合の考え方は、以下のとおりである。 ・同一断面の場合 : 1連分のB、Hで決定 ・異形断面の場合 : 大きい断面のB、Hで決定</p> <p>4. 数量算出方法 数量算出は、「第1編(共通編)1章基本事項」によるものとする。</p>	区分	内空幅：B (m)	内空高：H (m)	①	$1.0 \leq B < 2.5$	$1.0 \leq H < 2.5$	②	$2.5 \leq B \leq 4.0$	$1.0 \leq H < 2.5$	③	$1.0 \leq B < 2.5$	$2.5 \leq H \leq 4.0$	④	$2.5 \leq B < 4.0$	$2.5 \leq H \leq 4.0$	⑤	$4.0 \leq B < 5.5$	$2.5 \leq H < 4.0$	⑥	$5.5 \leq B \leq 7.0$	$2.5 \leq H < 4.0$	⑦	$4.0 \leq B < 5.5$	$4.0 \leq H < 5.5$	⑧	$5.5 \leq B < 7.0$	$4.0 \leq H < 5.5$	⑨	$7.0 \leq B < 8.5$	$4.0 \leq H \leq 5.5$	⑩	$8.5 \leq B \leq 10.0$	$4.0 \leq H \leq 5.5$	⑪	$4.0 \leq B < 5.5$	$5.5 \leq H \leq 7.0$	⑫	$5.5 \leq B \leq 7.0$	$5.5 \leq H \leq 7.0$	<p>(2) 内空寸法区分</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>内空幅：B (m)</th> <th>内空高：H (m)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>①</td><td>$1.0 \leq B < 2.5$</td><td>$1.0 \leq H < 2.5$</td></tr> <tr><td>②</td><td>$2.5 \leq B \leq 4.0$</td><td>$1.0 \leq H < 2.5$</td></tr> <tr><td>③</td><td>$1.0 \leq B < 2.5$</td><td>$2.5 \leq H \leq 4.0$</td></tr> <tr><td>④</td><td>$2.5 \leq B < 4.0$</td><td>$2.5 \leq H \leq 4.0$</td></tr> <tr><td>⑤</td><td>$4.0 \leq B < 5.5$</td><td>$2.5 \leq H < 4.0$</td></tr> <tr><td>⑥</td><td>$5.5 \leq B \leq 7.0$</td><td>$2.5 \leq H < 4.0$</td></tr> <tr><td>⑦</td><td>$4.0 \leq B < 5.5$</td><td>$4.0 \leq H < 5.5$</td></tr> <tr><td>⑧</td><td>$5.5 \leq B < 7.0$</td><td>$4.0 \leq H < 5.5$</td></tr> <tr><td>⑨</td><td>$7.0 \leq B < 8.5$</td><td>$4.0 \leq H \leq 5.5$</td></tr> <tr><td>⑩</td><td>$8.5 \leq B \leq 10.0$</td><td>$4.0 \leq H \leq 5.5$</td></tr> <tr><td>⑪</td><td>$4.0 \leq B < 5.5$</td><td>$5.5 \leq H \leq 7.0$</td></tr> <tr><td>⑫</td><td>$5.5 \leq B \leq 7.0$</td><td>$5.5 \leq H \leq 7.0$</td></tr> </tbody> </table> <p>注) 1層2連の場合の考え方は、以下のとおりである。 ・同一断面の場合 : 1連分のB、Hで決定 ・異形断面の場合 : 大きい断面のB、Hで決定</p> <p>4. 数量算出方法 数量算出は、「第1編(共通編)1章基本事項」によるものとする。</p>	区分	内空幅：B (m)	内空高：H (m)	①	$1.0 \leq B < 2.5$	$1.0 \leq H < 2.5$	②	$2.5 \leq B \leq 4.0$	$1.0 \leq H < 2.5$	③	$1.0 \leq B < 2.5$	$2.5 \leq H \leq 4.0$	④	$2.5 \leq B < 4.0$	$2.5 \leq H \leq 4.0$	⑤	$4.0 \leq B < 5.5$	$2.5 \leq H < 4.0$	⑥	$5.5 \leq B \leq 7.0$	$2.5 \leq H < 4.0$	⑦	$4.0 \leq B < 5.5$	$4.0 \leq H < 5.5$	⑧	$5.5 \leq B < 7.0$	$4.0 \leq H < 5.5$	⑨	$7.0 \leq B < 8.5$	$4.0 \leq H \leq 5.5$	⑩	$8.5 \leq B \leq 10.0$	$4.0 \leq H \leq 5.5$	⑪	$4.0 \leq B < 5.5$	$5.5 \leq H \leq 7.0$	⑫	$5.5 \leq B \leq 7.0$	$5.5 \leq H \leq 7.0$	
区分	内空幅：B (m)	内空高：H (m)																																																																															
①	$1.0 \leq B < 2.5$	$1.0 \leq H < 2.5$																																																																															
②	$2.5 \leq B \leq 4.0$	$1.0 \leq H < 2.5$																																																																															
③	$1.0 \leq B < 2.5$	$2.5 \leq H \leq 4.0$																																																																															
④	$2.5 \leq B < 4.0$	$2.5 \leq H \leq 4.0$																																																																															
⑤	$4.0 \leq B < 5.5$	$2.5 \leq H < 4.0$																																																																															
⑥	$5.5 \leq B \leq 7.0$	$2.5 \leq H < 4.0$																																																																															
⑦	$4.0 \leq B < 5.5$	$4.0 \leq H < 5.5$																																																																															
⑧	$5.5 \leq B < 7.0$	$4.0 \leq H < 5.5$																																																																															
⑨	$7.0 \leq B < 8.5$	$4.0 \leq H \leq 5.5$																																																																															
⑩	$8.5 \leq B \leq 10.0$	$4.0 \leq H \leq 5.5$																																																																															
⑪	$4.0 \leq B < 5.5$	$5.5 \leq H \leq 7.0$																																																																															
⑫	$5.5 \leq B \leq 7.0$	$5.5 \leq H \leq 7.0$																																																																															
区分	内空幅：B (m)	内空高：H (m)																																																																															
①	$1.0 \leq B < 2.5$	$1.0 \leq H < 2.5$																																																																															
②	$2.5 \leq B \leq 4.0$	$1.0 \leq H < 2.5$																																																																															
③	$1.0 \leq B < 2.5$	$2.5 \leq H \leq 4.0$																																																																															
④	$2.5 \leq B < 4.0$	$2.5 \leq H \leq 4.0$																																																																															
⑤	$4.0 \leq B < 5.5$	$2.5 \leq H < 4.0$																																																																															
⑥	$5.5 \leq B \leq 7.0$	$2.5 \leq H < 4.0$																																																																															
⑦	$4.0 \leq B < 5.5$	$4.0 \leq H < 5.5$																																																																															
⑧	$5.5 \leq B < 7.0$	$4.0 \leq H < 5.5$																																																																															
⑨	$7.0 \leq B < 8.5$	$4.0 \leq H \leq 5.5$																																																																															
⑩	$8.5 \leq B \leq 10.0$	$4.0 \leq H \leq 5.5$																																																																															
⑪	$4.0 \leq B < 5.5$	$5.5 \leq H \leq 7.0$																																																																															
⑫	$5.5 \leq B \leq 7.0$	$5.5 \leq H \leq 7.0$																																																																															
積算上の注意事項																																																																																	

改正理由	現 行	改 正	改 正 現 行	備 考																																																																													
	<p>8.3 粉体噴射攪拌工(DJM工法)</p> <p>1. 適用</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">粘性土、砂質土、シルト及び有機質土等の軟弱地盤を対象として行う粉体噴射攪拌工（改良材がセメント系及び石灰系の場合）に適用する。</div> <p>2. 数量算出項目</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">杭施工本数、改良材供給設備現場内移設回数を区分ごとに算出する。</div> <p>3. 区分</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">区分は、現場制約の有無、打設長、杭長、規格、改良材使用量とする。</div> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>区分</th> <th>現場制約の有無</th> <th>施工方法</th> <th>打設長</th> <th>杭長</th> <th>規格</th> <th>改良材使用量</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>粉体噴射攪拌工</td> <td></td> <td>○</td> <td>—</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>本</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>改良材供給設備現場内移設</td> <td></td> <td>—</td> <td>○</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>回</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>注) 1. 2軸施工の1日当り杭施工本数は、1軸当り1本として計上する。 2. バックホウによる先掘が必要な場合は別途算出する。</p> <p>(2) 施工方法区分 施工方法による区分は以下の通りとする。 ①単軸施工 ②2軸施工</p>	項目	区分	現場制約の有無	施工方法	打設長	杭長	規格	改良材使用量	単位	数量	備考	粉体噴射攪拌工		○	—	○	○	○	○	本			改良材供給設備現場内移設		—	○	—	—	—	—	回			<p>8.3 粉体噴射攪拌工(DJM工法)</p> <p>1. 適用</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">粘性土、砂質土、シルト及び有機質土等の軟弱地盤を対象として行う粉体噴射攪拌工（改良材がセメント系及び石灰系の場合）に適用する。</div> <p>2. 数量算出項目</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">杭施工本数、改良材供給設備現場内移設回数、軸間変更回数を区分ごとに算出する。</div> <p>3. 区分</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">区分は、現場制約の有無、施工方法、打設長、杭長、規格、改良材使用量とする。</div> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>区分</th> <th>現場制約の有無</th> <th>施工方法</th> <th>打設長</th> <th>杭長</th> <th>規格</th> <th>改良材使用量</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>粉体噴射攪拌工</td> <td></td> <td>○</td> <td>—</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>本</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>改良材供給設備現場内 粉体噴射攪拌(移設)</td> <td></td> <td>—</td> <td>○</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>回</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>粉体噴射攪拌(軸間変更)</td> <td></td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>回</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>注) 1. 2軸施工の1日当り杭施工本数は、1軸当り1本として計上する。 2. バックホウによる先掘が必要な場合は、別途算出する。</p> <p>(2) 施工方法区分 施工方法による区分は、以下の通とおりとする。 ①単軸施工 ②2軸施工</p>	項目	区分	現場制約の有無	施工方法	打設長	杭長	規格	改良材使用量	単位	数量	備考	粉体噴射攪拌工		○	—	○	○	○	○	本			改良材供給設備現場内 粉体噴射攪拌(移設)		—	○	—	—	—	—	回			粉体噴射攪拌(軸間変更)		—	—	—	—	—	—	回				<p>「粉体噴射攪拌(移設)」及び「粉体噴射攪拌(軸間変更)」の施工パッケージ化に伴う改正。</p> <p>移設の数量算出項目を修正し、軸間変更回数を追記。</p> <p>移設の区分を修正し、軸間変更回数を追記。</p>
項目	区分	現場制約の有無	施工方法	打設長	杭長	規格	改良材使用量	単位	数量	備考																																																																							
粉体噴射攪拌工		○	—	○	○	○	○	本																																																																									
改良材供給設備現場内移設		—	○	—	—	—	—	回																																																																									
項目	区分	現場制約の有無	施工方法	打設長	杭長	規格	改良材使用量	単位	数量	備考																																																																							
粉体噴射攪拌工		○	—	○	○	○	○	本																																																																									
改良材供給設備現場内 粉体噴射攪拌(移設)		—	○	—	—	—	—	回																																																																									
粉体噴射攪拌(軸間変更)		—	—	—	—	—	—	回																																																																									
積算上の注意事項																																																																																	

改正理由	現 行	改 正	改 正 現 行	備 考																																																																																																																																
	<p>(3) 打設長、杭長区分 杭施工本数を、打設長及び杭長ごとに区分して算出する。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 15%;">現場制約の有無</th> <th style="width: 20%;">打設長</th> <th style="width: 65%;">杭長</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td rowspan="20" style="text-align: center;">有り</td><td rowspan="5">3m 超え 6m 未満</td><td>2m 未満</td></tr> <tr><td>2m 以上 3m 未満</td></tr> <tr><td>3m 以上 4m 未満</td></tr> <tr><td>4m 以上 5m 未満</td></tr> <tr><td>5m 以上 6m 未満</td></tr> <tr><td rowspan="5">6m 以上 10m 未満</td><td>4m 以上 5m 未満</td></tr> <tr><td>5m 以上 6m 未満</td></tr> <tr><td>6m 以上 7m 未満</td></tr> <tr><td>7m 以上 8m 未満</td></tr> <tr><td>8m 以上 9m 未満</td></tr> <tr><td rowspan="5">10m 以上 14m 未満</td><td>9m 以上 10m 未満</td></tr> <tr><td>8m 以上 9m 未満</td></tr> <tr><td>9m 以上 10m 未満</td></tr> <tr><td>10m 以上 12m 未満</td></tr> <tr><td>12m 以上 14m 未満</td></tr> <tr><td rowspan="3">14m 以上 17m 未満</td><td>12m 以上 14m 未満</td></tr> <tr><td>14m 以上 15m 未満</td></tr> <tr><td>15m 以上 17m 未満</td></tr> <tr><td rowspan="2">17m 以上 20m 以下</td><td>15m 以上 17m 未満</td></tr> <tr><td>17m 以上 20m 以下</td></tr> </tbody> </table> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 15%;">現場制約の有無</th> <th style="width: 20%;">打設長</th> <th style="width: 65%;">杭長</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td rowspan="20" style="text-align: center;">無し</td><td rowspan="5">3m 超え 6m 未満</td><td>2m 未満</td></tr> <tr><td>2m 以上 3m 未満</td></tr> <tr><td>3m 以上 4m 未満</td></tr> <tr><td>4m 以上 5m 未満</td></tr> <tr><td>5m 以上 6m 未満</td></tr> <tr><td rowspan="5">6m 以上 10m 未満</td><td>4m 以上 5m 未満</td></tr> <tr><td>5m 以上 6m 未満</td></tr> <tr><td>6m 以上 7m 未満</td></tr> <tr><td>7m 以上 8m 未満</td></tr> <tr><td>8m 以上 9m 未満</td></tr> <tr><td rowspan="5">10m 以上 15m 未満</td><td>9m 以上 10m 未満</td></tr> <tr><td>10m 以上 12m 未満</td></tr> <tr><td>12m 以上 14m 未満</td></tr> <tr><td>14m 以上 15m 未満</td></tr> <tr><td>12m 以上 14m 未満</td></tr> <tr><td rowspan="4">15m 以上 20m 未満</td><td>14m 以上 15m 未満</td></tr> <tr><td>15m 以上 17m 未満</td></tr> <tr><td>17m 以上 20m 以下</td></tr> <tr><td>17m 以上 20m 以下</td></tr> <tr><td rowspan="3">20m 以上 27m 未満</td><td>20m 超え 23m 未満</td></tr> <tr><td>23m 以上 27m 未満</td></tr> <tr><td>23m 以上 27m 未満</td></tr> <tr><td rowspan="2">27m 以上 33m 以下</td><td>27m 以上 32m 未満</td></tr> <tr><td>32m 以上 33m 以下</td></tr> </tbody> </table>	現場制約の有無	打設長	杭長	有り	3m 超え 6m 未満	2m 未満	2m 以上 3m 未満	3m 以上 4m 未満	4m 以上 5m 未満	5m 以上 6m 未満	6m 以上 10m 未満	4m 以上 5m 未満	5m 以上 6m 未満	6m 以上 7m 未満	7m 以上 8m 未満	8m 以上 9m 未満	10m 以上 14m 未満	9m 以上 10m 未満	8m 以上 9m 未満	9m 以上 10m 未満	10m 以上 12m 未満	12m 以上 14m 未満	14m 以上 17m 未満	12m 以上 14m 未満	14m 以上 15m 未満	15m 以上 17m 未満	17m 以上 20m 以下	15m 以上 17m 未満	17m 以上 20m 以下	現場制約の有無	打設長	杭長	無し	3m 超え 6m 未満	2m 未満	2m 以上 3m 未満	3m 以上 4m 未満	4m 以上 5m 未満	5m 以上 6m 未満	6m 以上 10m 未満	4m 以上 5m 未満	5m 以上 6m 未満	6m 以上 7m 未満	7m 以上 8m 未満	8m 以上 9m 未満	10m 以上 15m 未満	9m 以上 10m 未満	10m 以上 12m 未満	12m 以上 14m 未満	14m 以上 15m 未満	12m 以上 14m 未満	15m 以上 20m 未満	14m 以上 15m 未満	15m 以上 17m 未満	17m 以上 20m 以下	17m 以上 20m 以下	20m 以上 27m 未満	20m 超え 23m 未満	23m 以上 27m 未満	23m 以上 27m 未満	27m 以上 33m 以下	27m 以上 32m 未満	32m 以上 33m 以下	<p>(3) 現場制約の有無、打設長、杭長区分 杭施工本数を、打設長（空打部長さ+杭長）及び杭長ごとに区分して算出する。 施工本数は、杭間の移動、位置決め、貫入、引抜き（改良材噴射）までの一連の作業のものである。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 15%;">現場制約の有無</th> <th style="width: 20%;">打設長</th> <th style="width: 65%;">杭長</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td rowspan="20" style="text-align: center;">有り</td><td rowspan="5">3m 超え 6m 未満</td><td>2m 未満</td></tr> <tr><td>2m 以上 3m 未満</td></tr> <tr><td>3m 以上 4m 未満</td></tr> <tr><td>4m 以上 5m 未満</td></tr> <tr><td>5m 以上 6m 未満</td></tr> <tr><td rowspan="5">6m 以上 10m 未満</td><td>4m 以上 5m 未満</td></tr> <tr><td>5m 以上 6m 未満</td></tr> <tr><td>6m 以上 7m 未満</td></tr> <tr><td>7m 以上 8m 未満</td></tr> <tr><td>8m 以上 9m 未満</td></tr> <tr><td rowspan="5">10m 以上 14m 未満</td><td>9m 以上 10m 未満</td></tr> <tr><td>8m 以上 9m 未満</td></tr> <tr><td>9m 以上 10m 未満</td></tr> <tr><td>10m 以上 12m 未満</td></tr> <tr><td>12m 以上 14m 未満</td></tr> <tr><td rowspan="3">14m 以上 17m 未満</td><td>12m 以上 14m 未満</td></tr> <tr><td>14m 以上 15m 未満</td></tr> <tr><td>15m 以上 17m 未満</td></tr> <tr><td rowspan="2">17m 以上 20m 以下</td><td>15m 以上 17m 未満</td></tr> <tr><td>17m 以上 20m 以下</td></tr> </tbody> </table> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 15%;">現場制約の有無</th> <th style="width: 20%;">打設長</th> <th style="width: 65%;">杭長</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td rowspan="20" style="text-align: center;">無し</td><td rowspan="5">3m 超え 6m 未満</td><td>2m 未満</td></tr> <tr><td>2m 以上 3m 未満</td></tr> <tr><td>3m 以上 4m 未満</td></tr> <tr><td>4m 以上 5m 未満</td></tr> <tr><td>5m 以上 6m 未満</td></tr> <tr><td rowspan="5">6m 以上 10m 未満</td><td>4m 以上 5m 未満</td></tr> <tr><td>5m 以上 6m 未満</td></tr> <tr><td>6m 以上 7m 未満</td></tr> <tr><td>7m 以上 8m 未満</td></tr> <tr><td>8m 以上 9m 未満</td></tr> <tr><td rowspan="5">10m 以上 15m 未満</td><td>9m 以上 10m 未満</td></tr> <tr><td>10m 以上 12m 未満</td></tr> <tr><td>12m 以上 14m 未満</td></tr> <tr><td>14m 以上 15m 未満</td></tr> <tr><td>12m 以上 14m 未満</td></tr> <tr><td rowspan="4">15m 以上 20m 未満</td><td>12m 以上 14m 未満</td></tr> <tr><td>14m 以上 15m 未満</td></tr> <tr><td>14m 以上 15m 未満</td></tr> <tr><td>15m 以上 17m 未満</td></tr> <tr><td rowspan="3">20m 以上 27m 未満</td><td>17m 以上 20m 以下</td></tr> <tr><td>17m 以上 20m 以下</td></tr> <tr><td>20m 超え 23m 未満</td></tr> <tr><td rowspan="2">27m 以上 33m 以下</td><td>23m 以上 27m 未満</td></tr> <tr><td>27m 以上 32m 未満</td></tr> <tr><td></td><td>32m 以上 33m 以下</td></tr> </tbody> </table>	現場制約の有無	打設長	杭長	有り	3m 超え 6m 未満	2m 未満	2m 以上 3m 未満	3m 以上 4m 未満	4m 以上 5m 未満	5m 以上 6m 未満	6m 以上 10m 未満	4m 以上 5m 未満	5m 以上 6m 未満	6m 以上 7m 未満	7m 以上 8m 未満	8m 以上 9m 未満	10m 以上 14m 未満	9m 以上 10m 未満	8m 以上 9m 未満	9m 以上 10m 未満	10m 以上 12m 未満	12m 以上 14m 未満	14m 以上 17m 未満	12m 以上 14m 未満	14m 以上 15m 未満	15m 以上 17m 未満	17m 以上 20m 以下	15m 以上 17m 未満	17m 以上 20m 以下	現場制約の有無	打設長	杭長	無し	3m 超え 6m 未満	2m 未満	2m 以上 3m 未満	3m 以上 4m 未満	4m 以上 5m 未満	5m 以上 6m 未満	6m 以上 10m 未満	4m 以上 5m 未満	5m 以上 6m 未満	6m 以上 7m 未満	7m 以上 8m 未満	8m 以上 9m 未満	10m 以上 15m 未満	9m 以上 10m 未満	10m 以上 12m 未満	12m 以上 14m 未満	14m 以上 15m 未満	12m 以上 14m 未満	15m 以上 20m 未満	12m 以上 14m 未満	14m 以上 15m 未満	14m 以上 15m 未満	15m 以上 17m 未満	20m 以上 27m 未満	17m 以上 20m 以下	17m 以上 20m 以下	20m 超え 23m 未満	27m 以上 33m 以下	23m 以上 27m 未満	27m 以上 32m 未満		32m 以上 33m 以下		<p>打設長及び施工本数の説明を追記。</p>
現場制約の有無	打設長	杭長																																																																																																																																		
有り	3m 超え 6m 未満	2m 未満																																																																																																																																		
		2m 以上 3m 未満																																																																																																																																		
		3m 以上 4m 未満																																																																																																																																		
		4m 以上 5m 未満																																																																																																																																		
		5m 以上 6m 未満																																																																																																																																		
	6m 以上 10m 未満	4m 以上 5m 未満																																																																																																																																		
		5m 以上 6m 未満																																																																																																																																		
		6m 以上 7m 未満																																																																																																																																		
		7m 以上 8m 未満																																																																																																																																		
		8m 以上 9m 未満																																																																																																																																		
	10m 以上 14m 未満	9m 以上 10m 未満																																																																																																																																		
		8m 以上 9m 未満																																																																																																																																		
		9m 以上 10m 未満																																																																																																																																		
		10m 以上 12m 未満																																																																																																																																		
		12m 以上 14m 未満																																																																																																																																		
	14m 以上 17m 未満	12m 以上 14m 未満																																																																																																																																		
		14m 以上 15m 未満																																																																																																																																		
		15m 以上 17m 未満																																																																																																																																		
	17m 以上 20m 以下	15m 以上 17m 未満																																																																																																																																		
		17m 以上 20m 以下																																																																																																																																		
現場制約の有無	打設長	杭長																																																																																																																																		
無し	3m 超え 6m 未満	2m 未満																																																																																																																																		
		2m 以上 3m 未満																																																																																																																																		
		3m 以上 4m 未満																																																																																																																																		
		4m 以上 5m 未満																																																																																																																																		
		5m 以上 6m 未満																																																																																																																																		
	6m 以上 10m 未満	4m 以上 5m 未満																																																																																																																																		
		5m 以上 6m 未満																																																																																																																																		
		6m 以上 7m 未満																																																																																																																																		
		7m 以上 8m 未満																																																																																																																																		
		8m 以上 9m 未満																																																																																																																																		
	10m 以上 15m 未満	9m 以上 10m 未満																																																																																																																																		
		10m 以上 12m 未満																																																																																																																																		
		12m 以上 14m 未満																																																																																																																																		
		14m 以上 15m 未満																																																																																																																																		
		12m 以上 14m 未満																																																																																																																																		
	15m 以上 20m 未満	14m 以上 15m 未満																																																																																																																																		
		15m 以上 17m 未満																																																																																																																																		
		17m 以上 20m 以下																																																																																																																																		
		17m 以上 20m 以下																																																																																																																																		
	20m 以上 27m 未満	20m 超え 23m 未満																																																																																																																																		
23m 以上 27m 未満																																																																																																																																				
23m 以上 27m 未満																																																																																																																																				
27m 以上 33m 以下	27m 以上 32m 未満																																																																																																																																			
	32m 以上 33m 以下																																																																																																																																			
現場制約の有無	打設長	杭長																																																																																																																																		
有り	3m 超え 6m 未満	2m 未満																																																																																																																																		
		2m 以上 3m 未満																																																																																																																																		
		3m 以上 4m 未満																																																																																																																																		
		4m 以上 5m 未満																																																																																																																																		
		5m 以上 6m 未満																																																																																																																																		
	6m 以上 10m 未満	4m 以上 5m 未満																																																																																																																																		
		5m 以上 6m 未満																																																																																																																																		
		6m 以上 7m 未満																																																																																																																																		
		7m 以上 8m 未満																																																																																																																																		
		8m 以上 9m 未満																																																																																																																																		
	10m 以上 14m 未満	9m 以上 10m 未満																																																																																																																																		
		8m 以上 9m 未満																																																																																																																																		
		9m 以上 10m 未満																																																																																																																																		
		10m 以上 12m 未満																																																																																																																																		
		12m 以上 14m 未満																																																																																																																																		
	14m 以上 17m 未満	12m 以上 14m 未満																																																																																																																																		
		14m 以上 15m 未満																																																																																																																																		
		15m 以上 17m 未満																																																																																																																																		
	17m 以上 20m 以下	15m 以上 17m 未満																																																																																																																																		
		17m 以上 20m 以下																																																																																																																																		
現場制約の有無	打設長	杭長																																																																																																																																		
無し	3m 超え 6m 未満	2m 未満																																																																																																																																		
		2m 以上 3m 未満																																																																																																																																		
		3m 以上 4m 未満																																																																																																																																		
		4m 以上 5m 未満																																																																																																																																		
		5m 以上 6m 未満																																																																																																																																		
	6m 以上 10m 未満	4m 以上 5m 未満																																																																																																																																		
		5m 以上 6m 未満																																																																																																																																		
		6m 以上 7m 未満																																																																																																																																		
		7m 以上 8m 未満																																																																																																																																		
		8m 以上 9m 未満																																																																																																																																		
	10m 以上 15m 未満	9m 以上 10m 未満																																																																																																																																		
		10m 以上 12m 未満																																																																																																																																		
		12m 以上 14m 未満																																																																																																																																		
		14m 以上 15m 未満																																																																																																																																		
		12m 以上 14m 未満																																																																																																																																		
	15m 以上 20m 未満	12m 以上 14m 未満																																																																																																																																		
		14m 以上 15m 未満																																																																																																																																		
		14m 以上 15m 未満																																																																																																																																		
		15m 以上 17m 未満																																																																																																																																		
	20m 以上 27m 未満	17m 以上 20m 以下																																																																																																																																		
17m 以上 20m 以下																																																																																																																																				
20m 超え 23m 未満																																																																																																																																				
27m 以上 33m 以下	23m 以上 27m 未満																																																																																																																																			
	27m 以上 32m 未満																																																																																																																																			
	32m 以上 33m 以下																																																																																																																																			
積算上の注意事項																																																																																																																																				

改正理由		改正 現行	
現行	改正	備考	
<p>(4) 規格区分 粉体噴射攪拌工の改良材の種類とする。</p> <p>(5) 改良材使用量区分 1) 改良材使用量を杭施工本数ごとに区分して算出する。また、杭長1m当り改良材使用量についても算出する。</p> <p>2) 改良材の杭一本当り使用量は次式により算出する。</p> $V = v \times L1$ <p>V : 杭一本当り改良材使用量 (t/本) v : 杭長1m当り改良材使用量 (t/m) L1 : 杭長 (m)</p> <p>4. 参考図 (施工図)</p> 	<p>(4) 規格区分 粉体噴射攪拌工の改良材の種類とする。</p> <p>(5) 改良材使用量区分 1) 改良材使用量を杭施工本数ごとに区分して算出する。また、杭長1m当り改良材使用量についても算出する。 改良材は、セメント系、石灰系を標準とし、現場条件により決定する。なお、改良材のロス(損失+杭頭・着底部処理を含む)を含んでいるので、改良材使用量は、実数量(ロスによる割増をしない数量)とする。</p> <p>2) 改良材の杭一本当り使用量は、次式により算出する。</p> $V = v \times L1$ <p>V : 杭一本当り改良材使用量 (t/本) v : 杭長1m当り改良材使用量 (t/m) L1 : 杭長 (m)</p> <p>4. 参考図 (施工図)</p> 	<p>改良材使用量区分の説明を追記。</p>	
積算上の注意事項			

改正理由	現 行	改 正	改 正 現 行	備 考																																																																																																																			
	<p>9章 基礎工</p> <p>9.1 碎石基礎工</p> <p>1. 適用</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">土木構造物の碎石基礎工に適用する。</div> <p>2. 数量算出項目</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">基礎材の面積を区分ごとに算出する。</div> <p>3. 区分</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">区分は、構造物、規格・寸法とする。</div> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th>項 目</th> <th>区 分</th> <th>構造物</th> <th>規格・寸法</th> <th>単 位</th> <th>数 量</th> <th>備 考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>基 礎 材</td> <td></td> <td>○</td> <td>規 格 施工厚t=m</td> <td>m²</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	項 目	区 分	構造物	規格・寸法	単 位	数 量	備 考	基 礎 材		○	規 格 施工厚t=m	m ²			<p>9章 基礎工</p> <p>9.1 碎石基礎工基礎・裏込碎石工、基礎・裏込栗石工</p> <p>1. 適用</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">土木構造物の碎石基礎工無筋構造物、鉄筋構造物、小型構造物の基礎・裏込碎石工及び基礎・裏込栗石工に適用する。</div> <p>2. 数量算出項目</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">基礎材碎石、基礎栗石の面積、裏込碎石、裏込栗石、採取小割の体積を区分ごとに算出する。</div> <p>3. 区分</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">区分は、構造物、規格・寸法碎石の厚さ、碎石の種類、栗石の厚さ、栗石の種類、作業区分、敷並べ間隙充填材料、採取小割区分とする。</div> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">項目</th> <th rowspan="2">区分</th> <th rowspan="2">構造物</th> <th rowspan="2">規格・寸法</th> <th rowspan="2">碎石の厚さ</th> <th rowspan="2">碎石の種類</th> <th rowspan="2">栗石の厚さ</th> <th rowspan="2">栗石の種類</th> <th rowspan="2">作業区分</th> <th rowspan="2">敷並べ間隙充填材料</th> <th rowspan="2">採取小割区分</th> <th>単 位</th> <th>数 量</th> <th>備 考</th> </tr> <tr> <th>単 位</th> <th>数 量</th> <th>備 考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>基礎材</td> <td></td> <td>○</td> <td>規 格 施工厚t=m</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>m²</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>基礎碎石</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>m²</td> <td></td> <td>注1</td> </tr> <tr> <td>裏込碎石</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>m³</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>基礎栗石</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> <td>m²</td> <td></td> <td>注2</td> </tr> <tr> <td>裏込栗石</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td>m³</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>採取小割</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>○</td> <td>m³</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>注) 1. 基礎碎石の敷均し厚は、30cmを上限とする。 2. 基礎栗石の敷均し及び敷並べ厚は、30cmを上限とする。</p>	項目	区分	構造物	規格・寸法	碎石の厚さ	碎石の種類	栗石の厚さ	栗石の種類	作業区分	敷並べ間隙充填材料	採取小割区分	単 位	数 量	備 考	単 位	数 量	備 考	基礎材		○	規 格 施工厚t=m								m²			基礎碎石				○	○						m ²		注1	裏込碎石					○						m ³			基礎栗石						○	○	○	○		m ²		注2	裏込栗石							○	○			m ³			採取小割										○	m ³				<p>「基礎・裏込碎石工、基礎・裏込栗石工」の施工パッケージ化に伴う改正。</p> <p>「基礎碎石」「裏込碎石」「基礎栗石」「裏込栗石」「採取小割」の数量算出項目と区分の修正。</p>
項 目	区 分	構造物	規格・寸法	単 位	数 量	備 考																																																																																																																	
基 礎 材		○	規 格 施工厚t=m	m ²																																																																																																																			
項目	区分	構造物	規格・寸法	碎石の厚さ	碎石の種類	栗石の厚さ	栗石の種類	作業区分	敷並べ間隙充填材料	採取小割区分	単 位	数 量	備 考																																																																																																										
											単 位	数 量	備 考																																																																																																										
基礎材		○	規 格 施工厚t=m								m²																																																																																																												
基礎碎石				○	○						m ²		注1																																																																																																										
裏込碎石					○						m ³																																																																																																												
基礎栗石						○	○	○	○		m ²		注2																																																																																																										
裏込栗石							○	○			m ³																																																																																																												
採取小割										○	m ³																																																																																																												
積算上の注意事項																																																																																																																							

改正理由	現 行	改 正	改 正 現 行	備 考																																																																																																																																										
	<h2>10章 構造物取壊し工</h2> <h3>10.1 構造物取壊し工</h3> <p>1. 適用</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 土木工事におけるコンクリート構造物等の取壊し工に適用する。 ただし、建築物および舗装版の取壊し工及びブロック施工による旧橋撤去には適用しない。 </div> <p>2. 数量算出項目</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> コンクリート構造物等の取壊しの数量を区分ごとに算出する。 </div> <p>3. 区分</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 石積取壊し（人力）とコンクリートはつりの区分は、種別、形状とする。 吹付法面とりこわしの区分は、種別、形状、集積積込の有無とする。 </div> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>区分</th> <th>種 別</th> <th>形 状</th> <th>集積積込の有無</th> <th>単 位</th> <th>数 量</th> <th>備 考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">コンクリート構造物取壊し</td> <td rowspan="2"></td> <td>無筋構造物</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>m³</td> <td></td> <td>注)4, 5, 6</td> </tr> <tr> <td>鉄筋構造物</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>m³</td> <td></td> <td>注)4, 5, 6</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">石 積 取 壊 し (人 力)</td> <td rowspan="4">練積</td> <td rowspan="4">空積</td> <td>控え 35cm以上 45cm未満</td> <td>—</td> <td>(m³) m²</td> <td>()</td> <td></td> </tr> <tr> <td>控え 45cm未満</td> <td>—</td> <td>(m³) m²</td> <td>()</td> <td></td> </tr> <tr> <td>控え 45cm以上 60cm未満</td> <td>—</td> <td>(m³) m²</td> <td>()</td> <td></td> </tr> <tr> <td>控え 60cm以上 90cm未満</td> <td>—</td> <td>(m³) m²</td> <td>()</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="2">コンクリートはつり</td> <td rowspan="2">コンクリート構造物</td> <td>平均はつり厚さ 3cm以下</td> <td>—</td> <td>(m³) m²</td> <td>()</td> <td></td> </tr> <tr> <td>平均はつり厚さ 3cmを超え6cm以下</td> <td>—</td> <td>(m³) m²</td> <td>()</td> <td></td> </tr> <tr> <td>吹付法面とりこわし</td> <td></td> <td>モルタル</td> <td>厚さ 5cm以上 15cm以下</td> <td>○</td> <td>(m³) m²</td> <td>()</td> <td>人力施工と機械施工に区分し数量を算出する。</td> </tr> </tbody> </table> <p>注) 1. 形状の範囲外の場合も区分して算出する。 2. Co 塊等を工事区間外へ搬出する場合は、運搬距離についても算出し、「第1編（共通編）10. 5 殻運搬」により別途算出する。 3. 取壊し数量 (m³) については、取壊す前の数量とする。 4. PC・RC 橋上部、鋼橋床版の取壊しは、コンクリート構造物取壊しの鉄筋構造物を適用する。 5. コンクリート構造物取壊しにおいて、施工基面（機械設置基面）より上下5mを超える場合については、区分して算出する。 6. 乾燥収縮によるひび割れ対策の鉄筋程度を含むものは無筋構造物とする。</p>	項目	区分	種 別	形 状	集積積込の有無	単 位	数 量	備 考	コンクリート構造物取壊し		無筋構造物	—	—	m ³		注)4, 5, 6	鉄筋構造物	—	—	m ³		注)4, 5, 6	石 積 取 壊 し (人 力)	練積	空積	控え 35cm以上 45cm未満	—	(m ³) m ²	()		控え 45cm未満	—	(m ³) m ²	()		控え 45cm以上 60cm未満	—	(m ³) m ²	()		控え 60cm以上 90cm未満	—	(m ³) m ²	()		コンクリートはつり	コンクリート構造物	平均はつり厚さ 3cm以下	—	(m ³) m ²	()		平均はつり厚さ 3cmを超え6cm以下	—	(m ³) m ²	()		吹付法面とりこわし		モルタル	厚さ 5cm以上 15cm以下	○	(m ³) m ²	()	人力施工と機械施工に区分し数量を算出する。	<h2>10章 構造物取壊し工</h2> <h3>10.1 構造物取壊し工</h3> <p>1. 適用</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 土木工事におけるコンクリート構造物等の取壊し工に適用する。 ただし、建築物および舗装版の取壊し工及びブロック施工による旧橋撤去には適用しない。 </div> <p>2. 数量算出項目</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> コンクリート構造物等の取壊しの数量を区分ごとに算出する。 </div> <p>3. 区分</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 石積取壊し（人力）とコンクリートはつりの区分は、種別、形状とする。 吹付法面とりこわしの区分は、種別、形状、集積積込の有無とする。 </div> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>区分</th> <th>種 別</th> <th>形 状</th> <th>集積積込の有無</th> <th>単 位</th> <th>数 量</th> <th>備 考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">コンクリート構造物取壊し</td> <td rowspan="2"></td> <td>無筋構造物</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>m³</td> <td></td> <td>注)4, 5, 6</td> </tr> <tr> <td>鉄筋構造物</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>m³</td> <td></td> <td>注)4, 5, 6</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">石 積 取 壊 し (人 力)</td> <td rowspan="4">練積</td> <td rowspan="4">空積</td> <td>控え 35cm以上 45cm未満</td> <td>—</td> <td>(m³) m²</td> <td>()</td> <td>注)3</td> </tr> <tr> <td>控え 45cm未満</td> <td>—</td> <td>(m³) m²</td> <td>()</td> <td>注)3</td> </tr> <tr> <td>控え 45cm以上 60cm未満</td> <td>—</td> <td>(m³) m²</td> <td>()</td> <td>注)3</td> </tr> <tr> <td>控え 60cm以上 90cm未満</td> <td>—</td> <td>(m³) m²</td> <td>()</td> <td>注)3</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">コンクリートはつり</td> <td rowspan="2">コンクリート構造物</td> <td>平均はつり厚さ 3cm以下</td> <td>—</td> <td>(m³) m²</td> <td>()</td> <td>注)3</td> </tr> <tr> <td>平均はつり厚さ 3cmを超え6cm以下</td> <td>—</td> <td>(m³) m²</td> <td>()</td> <td>注)3</td> </tr> <tr> <td>積込 (コンクリート殻)</td> <td></td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>m³</td> <td>()</td> <td>注)3</td> </tr> <tr> <td>吹付法面とりこわし</td> <td></td> <td>モルタル</td> <td>厚さ 5cm以上 15cm以下</td> <td>○</td> <td>(m³) m²</td> <td>()</td> <td>注)3 人力施工と機械施工に区分し数量を算出する。</td> </tr> </tbody> </table> <p>注) 1. 形状の範囲外の場合も区分して算出する。 2. Co 塊等を工事区間外へ搬出する場合は、運搬距離についても算出し、「第1編（共通編）10. 5 殻運搬」により別途算出する。 3. 取壊し数量 (m³) については、取壊す前の数量とする。石積取壊し（人力）の施工数量は、石積取壊し前の面積とし、積込（コンクリート殻）の施工量は、取壊し構造物の破砕前の体積とする。</p>	項目	区分	種 別	形 状	集積積込の有無	単 位	数 量	備 考	コンクリート構造物取壊し		無筋構造物	—	—	m ³		注)4, 5, 6	鉄筋構造物	—	—	m ³		注)4, 5, 6	石 積 取 壊 し (人 力)	練積	空積	控え 35cm以上 45cm未満	—	(m ³) m ²	()	注)3	控え 45cm未満	—	(m ³) m ²	()	注)3	控え 45cm以上 60cm未満	—	(m ³) m ²	()	注)3	控え 60cm以上 90cm未満	—	(m ³) m ²	()	注)3	コンクリートはつり	コンクリート構造物	平均はつり厚さ 3cm以下	—	(m ³) m ²	()	注)3	平均はつり厚さ 3cmを超え6cm以下	—	(m ³) m ²	()	注)3	積込 (コンクリート殻)		—	—	—	m ³	()	注)3	吹付法面とりこわし		モルタル	厚さ 5cm以上 15cm以下	○	(m ³) m ²	()	注)3 人力施工と機械施工に区分し数量を算出する。		<p style="color: red;">「積込（コンクリート殻）」の施工パッケージ化に伴う改正。</p> <p style="color: red;">積込（コンクリート殻）を区分一覧表に追記。</p> <p style="color: red;">積込（コンクリート殻）の施工量の説明を追記。</p>
項目	区分	種 別	形 状	集積積込の有無	単 位	数 量	備 考																																																																																																																																							
コンクリート構造物取壊し		無筋構造物	—	—	m ³		注)4, 5, 6																																																																																																																																							
		鉄筋構造物	—	—	m ³		注)4, 5, 6																																																																																																																																							
石 積 取 壊 し (人 力)	練積	空積	控え 35cm以上 45cm未満	—	(m ³) m ²	()																																																																																																																																								
			控え 45cm未満	—	(m ³) m ²	()																																																																																																																																								
			控え 45cm以上 60cm未満	—	(m ³) m ²	()																																																																																																																																								
			控え 60cm以上 90cm未満	—	(m ³) m ²	()																																																																																																																																								
コンクリートはつり	コンクリート構造物	平均はつり厚さ 3cm以下	—	(m ³) m ²	()																																																																																																																																									
		平均はつり厚さ 3cmを超え6cm以下	—	(m ³) m ²	()																																																																																																																																									
吹付法面とりこわし		モルタル	厚さ 5cm以上 15cm以下	○	(m ³) m ²	()	人力施工と機械施工に区分し数量を算出する。																																																																																																																																							
項目	区分	種 別	形 状	集積積込の有無	単 位	数 量	備 考																																																																																																																																							
コンクリート構造物取壊し		無筋構造物	—	—	m ³		注)4, 5, 6																																																																																																																																							
		鉄筋構造物	—	—	m ³		注)4, 5, 6																																																																																																																																							
石 積 取 壊 し (人 力)	練積	空積	控え 35cm以上 45cm未満	—	(m ³) m ²	()	注)3																																																																																																																																							
			控え 45cm未満	—	(m ³) m ²	()	注)3																																																																																																																																							
			控え 45cm以上 60cm未満	—	(m ³) m ²	()	注)3																																																																																																																																							
			控え 60cm以上 90cm未満	—	(m ³) m ²	()	注)3																																																																																																																																							
コンクリートはつり	コンクリート構造物	平均はつり厚さ 3cm以下	—	(m ³) m ²	()	注)3																																																																																																																																								
		平均はつり厚さ 3cmを超え6cm以下	—	(m ³) m ²	()	注)3																																																																																																																																								
積込 (コンクリート殻)		—	—	—	m ³	()	注)3																																																																																																																																							
吹付法面とりこわし		モルタル	厚さ 5cm以上 15cm以下	○	(m ³) m ²	()	注)3 人力施工と機械施工に区分し数量を算出する。																																																																																																																																							
積算上の注意事項																																																																																																																																														

改正理由			改正 現行	
現行		改正		備考
		<p>4. PC・RC 橋上部、鋼橋床版の取壊しは、コンクリート構造物取壊しの鉄筋構造物を適用する。</p> <p>5. コンクリート構造物取壊しにおいて、施工基面（機械設置基面）より上下5mを超える場合については、区分して算出する。</p> <p>6. 乾燥収縮によるひび割れ対策の鉄筋程度を含むものは、無筋構造物とする。</p>		
積算上の注意事項				

改正理由	現 行	改 正	改 正 現 行	備 考																												
	<p>10.5 殻運搬</p> <p>1. 適用</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 構造物撤去工、舗装版破砕及びモルタルの吹付法面のとりこわし作業における殻運搬に適用する。 ただし、路面切削作業で発生したアスファルト殻の場合、自動車専用道路を利用する場合、運搬距離が60kmを超える場合には適用しない。 </div> <p>2. 数量算出項目</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 運搬体積を区分ごとに算出する。 </div> <p>3. 区分</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 区分は、殻発生作業、積込工法区分、運搬距離とする。 </div> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th>区 分</th> <th>殻発生作業</th> <th>積込工法区分</th> <th>運搬距離</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備 考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>殻 運 搬</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>m³</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>注) 設計数量は、構造物をとりこわす前の体積とする。</p> <p>(2) 殻発生作業と積込工法区分</p> <ul style="list-style-type: none"> ①コンクリート（無筋・鉄筋） <ul style="list-style-type: none"> —— 機械積込 —— 人力積込 ②舗装版破砕 <ul style="list-style-type: none"> —— 機械積込（騒音対策不要、舗装版厚 15cm 超） —— 機械積込（騒音対策必要） —— 人力積込 —— 機械積込（騒音対策不要、舗装版厚 15cm 以下） —— 機械積込（小規模土工） ③舗装版破砕積込み（電線共同溝） —— 機械積込 ④吹付法面取壊し（モルタル） —— 機械積込 <p>4. 数量算出方法</p> <p>数量の算出は、「第1編（共通編）1章基本事項」によるものとする。</p>	区 分	殻発生作業	積込工法区分	運搬距離	単位	数量	備 考	殻 運 搬	○	○	○	m ³			<p>10.5 殻運搬</p> <p>1. 適用</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 構造物撤去工、舗装版破砕及びモルタルの吹付法面のとりこわし作業における殻運搬に適用する。 ただし、路面切削作業で発生したアスファルト殻の場合、自動車専用道路を利用する場合、運搬距離が60kmを超える場合には適用しない。 </div> <p>2. 数量算出項目</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 運搬体積を区分ごとに算出する。 </div> <p>3. 区分</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 区分は、殻発生作業、積込工法区分、運搬距離とする。 </div> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th>区 分</th> <th>殻発生作業</th> <th>積込工法区分</th> <th>運搬距離</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備 考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>殻 運 搬</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>m³</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>注) 設計数量は、構造物をとりこわす前の体積とする。</p> <p>(2) 殻発生作業と積込工法区分</p> <ul style="list-style-type: none"> ①コンクリート（無筋・鉄筋） <ul style="list-style-type: none"> —— 機械積込 —— 人力積込 ②舗装版破砕 <ul style="list-style-type: none"> —— 機械積込（騒音対策不要、舗装版厚 15cm 超） —— 機械積込（騒音対策必要） —— 人力積込 —— 機械積込（騒音対策不要、舗装版厚 15cm 以下） —— 機械積込（小規模土工） ③舗装版破砕積込み（電線共同溝） —— 機械積込 ④吹付法面取壊し（モルタル） —— 機械積込 <p>4. 数量算出方法</p> <p>数量の算出は、「第1編（共通編）1章基本事項」によるものとする。</p>	区 分	殻発生作業	積込工法区分	運搬距離	単位	数量	備 考	殻 運 搬	○	○	○	m ³				
区 分	殻発生作業	積込工法区分	運搬距離	単位	数量	備 考																										
殻 運 搬	○	○	○	m ³																												
区 分	殻発生作業	積込工法区分	運搬距離	単位	数量	備 考																										
殻 運 搬	○	○	○	m ³																												
積算上の注意事項				「運搬（電線共同溝）」の施工パッケージ化に伴う削除。																												

改正理由	現 行	改 正 現 行	備 考																																																													
	<p>11.10 アンカー工</p> <p>1. 適用 ロータリーパーカッション式ボーリングマシンにより削孔を行い引張鋼材にてアンカーを施工するものに適用する。</p> <p>2. 数量算出項目 アンカーを区分ごとに算出する。</p> <p>3. 区分 区分は、呼び径、土質、規格とする。</p> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1" data-bbox="157 913 1222 1037"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>区分</th> <th>呼び径</th> <th>土質</th> <th>規格</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>アンカー</td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>本</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	項目	区分	呼び径	土質	規格	単位	数量	備考	アンカー		○	○	○	本			<p>11.10 アンカー工(ロータリーパーカッション式)</p> <p>1. 適用 ロータリーパーカッション式ボーリングマシンにより削孔を行い、引張鋼材にてアンカーを施工し、長期に供用するものに適用する。</p> <p>2. 数量算出項目 削孔(アンカー)、アンカー鋼材加工・組立、挿入、緊張・定着・頭部処理(アンカー)、グラウト注入(アンカー)、ボーリングマシン移設(アンカー)、足場工(アンカー)を区分ごとに算出する。</p> <p>3. 区分 区分は、足場工の有無、方式、呼び径、土質、規格防食方式、アンカー鋼材、削孔長、設計荷重、頭部処理の有無とする。</p> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1" data-bbox="1383 913 2484 1249"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>区分</th> <th>足場工の有無</th> <th>方式</th> <th>呼び径</th> <th>土質</th> <th>規格</th> <th>防食方式</th> <th>アンカー鋼材</th> <th>削孔長</th> <th>設計荷重</th> <th>頭部処理の有無</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>削孔(アンカー)</td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>⊖</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>本</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>アンカー鋼材加工・組立、挿入、緊張・定着・頭部処理(アンカー)</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>本</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	項目	区分	足場工の有無	方式	呼び径	土質	規格	防食方式	アンカー鋼材	削孔長	設計荷重	頭部処理の有無	単位	数量	備考	削孔(アンカー)		○	○	○	○	⊖						本			アンカー鋼材加工・組立、挿入、緊張・定着・頭部処理(アンカー)							○	○	○	○	○	本			<p>適用の文章に追記。</p> <p>削孔(アンカー)を修正し、アンカー鋼材加工・組立、挿入、緊張・定着・頭部処理(アンカー)、グラウト注入(アンカー)、ボーリングマシン移設(アンカー)、足場工(アンカー)の区分及び区分一覧表に追記。</p> <p>「打設」を「設計」に修正。</p>
項目	区分	呼び径	土質	規格	単位	数量	備考																																																									
アンカー		○	○	○	本																																																											
項目	区分	足場工の有無	方式	呼び径	土質	規格	防食方式	アンカー鋼材	削孔長	設計荷重	頭部処理の有無	単位	数量	備考																																																		
削孔(アンカー)		○	○	○	○	⊖						本																																																				
アンカー鋼材加工・組立、挿入、緊張・定着・頭部処理(アンカー)							○	○	○	○	○	本																																																				
積算上の注意事項																																																																

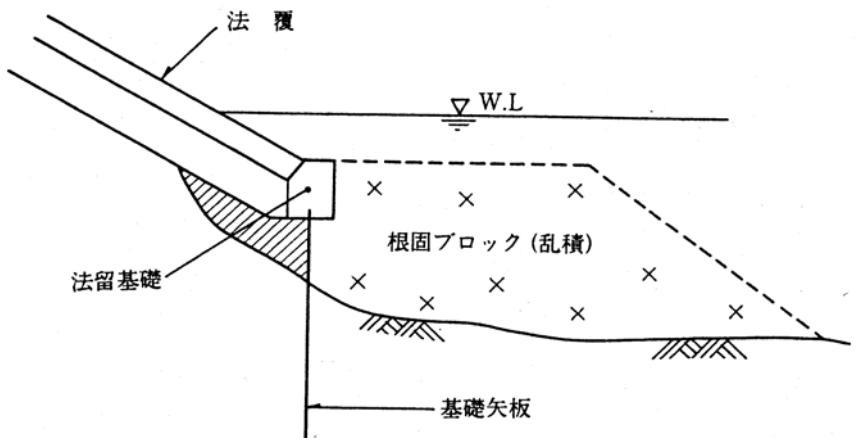
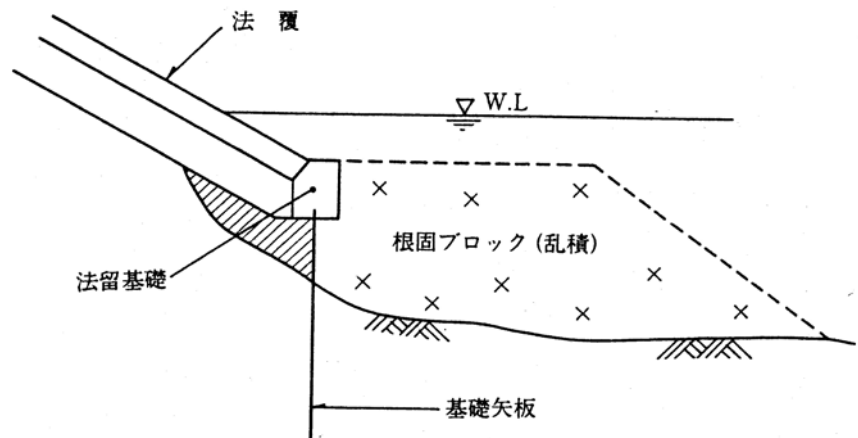
改正理由	現 行	改 正	改 正 現 行	備 考
	<p>(2) 呼び径区分 呼び径による区分は、以下の通りとする。</p> <p>呼び径</p> <ul style="list-style-type: none"> φ 90mm φ 115mm φ 135mm φ 146mm <p>(3) 土質区分 土質区分は、以下の通りとする。</p> <p>土質区分</p> <ul style="list-style-type: none"> 粘性土、砂質土 レキ質土 玉石混り土 軟岩 硬岩 <p>(4) 規格 規格区分は、以下の通りとする。</p> <p>規 格</p> <ul style="list-style-type: none"> 単管 二重管 <p>注) 土砂を貫通して岩部分にアンカーを定着する場合は二重管掘削を標準とする。</p>	<p>(2) 呼び径区分 呼び径による区分は、以下のとおりとする。呼び径とは、ドリルパイプ外径 (mm) をいう。</p> <p>呼び径</p> <ul style="list-style-type: none"> φ 90mm (単管方式・二重管方式) φ 115mm (単管方式・二重管方式) φ 135mm (単管方式・二重管方式) φ 146mm (二重管方式) <p>(3) 土質区分 土質区分は、以下のとおりとする。</p> <p>土質区分</p> <ul style="list-style-type: none"> 粘性土、砂質土 (単管方式・二重管方式) レキ質土 (単管方式・二重管方式) 玉石混り土 (単管方式・二重管方式) 軟岩 (二重管方式) 硬岩 (二重管方式) <p>注) 1. 硬岩は、コンクリートを含む。 2. 土砂を貫通して岩部分にアンカーを定着する場合は、二重管削孔を標準とする。</p> <p>(4) 規格方式 規格方式は、以下のとおりとする。</p> <p>規 格 方 式</p> <ul style="list-style-type: none"> 単管 二重管 <p>注) 土砂を貫通して岩部分にアンカーを定着する場合は、二重管掘削削孔を標準とする。</p>		<p>「掘削」を「削孔」に修正。</p> <p>「規格」を「方式」にして記述を復活。</p>
積算上の注意事項				

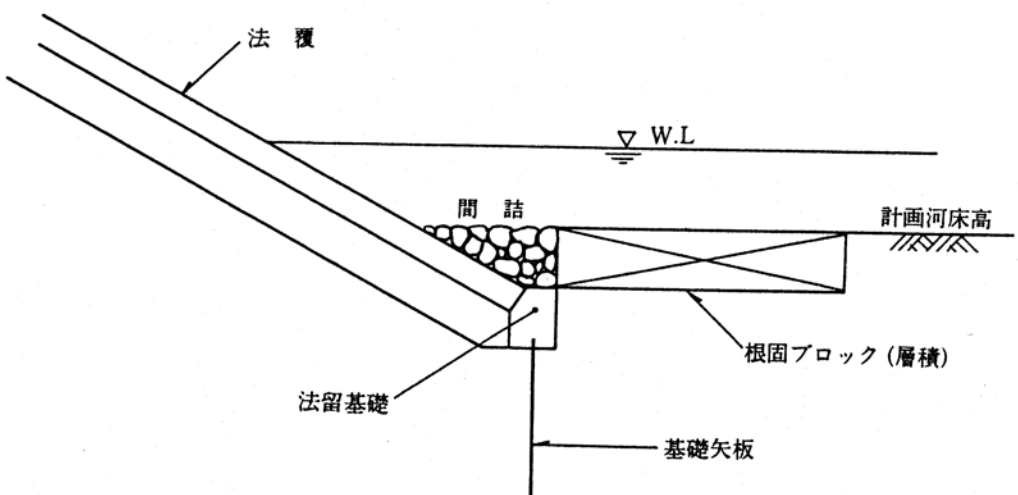
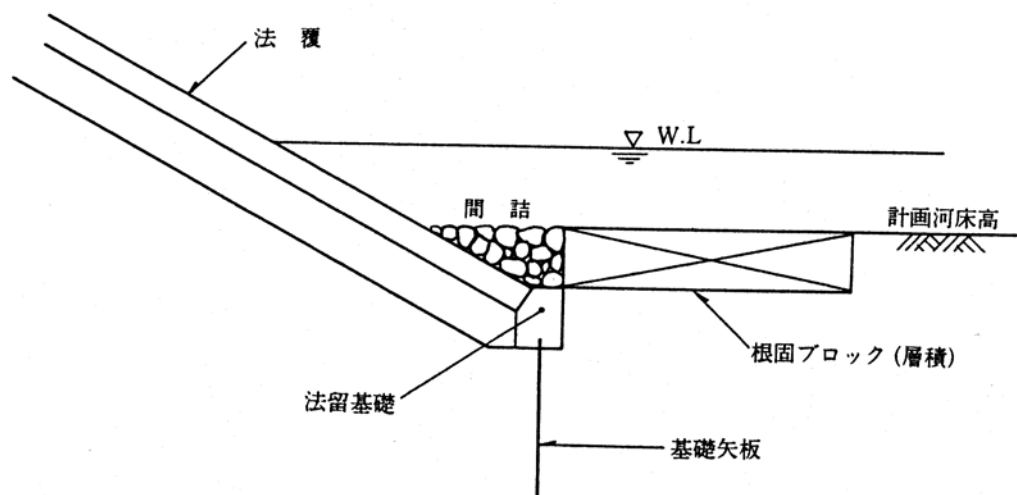
改正理由	現 行	改 正	改 正 現 行	備 考																																																																																																												
	<p>4. 数量算出方法 数量の算出は、「第1編（共通編）1章基本事項」によるほか下記の方法によるものとする。</p> <p>(1) アンカーの内訳は下記の項目で算出する。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>区 分</th> <th>規 格</th> <th>単 位</th> <th>数 量</th> <th>備 考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>アンカー鋼材</td> <td></td> <td>○</td> <td>m</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>注入パイプ</td> <td></td> <td>○</td> <td>m</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>シ ー ス</td> <td></td> <td>○</td> <td>m</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>防 錆 材</td> <td></td> <td>○</td> <td>Kg</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>定着加工用具</td> <td></td> <td>○</td> <td>組</td> <td></td> <td>ハ イロ ッ ト キ ャ ッ プ ス ペ ー ス 等</td> </tr> <tr> <td>アンカー定着具</td> <td></td> <td>○</td> <td>組</td> <td></td> <td>ア ン カ ー ヘ ッ ト 、 プ レ ー ト 、 ク ャ ッ プ 等</td> </tr> <tr> <td>グ ラ ウ ト</td> <td></td> <td>○</td> <td>m³</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>足 場</td> <td></td> <td>○</td> <td>空m³</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>(注) 数量は、必要量（ロスを含む）を算出すること。</p> <p>(2) アンカー鋼材 アンカー鋼材は以下の区分で算出する。</p> <div style="margin-left: 20px;"> <p>設計荷重</p> <ul style="list-style-type: none"> 400kN (40.8 t) 未満 400kN (40.8 t) 以上 1,300kN (132.7 t) 未満 1,300kN (132.7 t) 以上 2,000kN (204.1 t) 未満 <p>削孔長</p> <ul style="list-style-type: none"> 1.0 m 以内 1.0 を超え 2.0 m 以内 2.0 m を超える </div> <p>(3) 足場 足場は施工場所が既設の構造物（斜面）等で、必要な場所に計上する。 又、作業面の足場幅は、4.5m を標準とする。</p>	項目	区 分	規 格	単 位	数 量	備 考	アンカー鋼材		○	m			注入パイプ		○	m			シ ー ス		○	m			防 錆 材		○	Kg			定着加工用具		○	組		ハ イロ ッ ト キ ャ ッ プ ス ペ ー ス 等	アンカー定着具		○	組		ア ン カ ー ヘ ッ ト 、 プ レ ー ト 、 ク ャ ッ プ 等	グ ラ ウ ト		○	m ³			足 場		○	空m ³			<p>4. 数量算出方法 数量の算出は、「第1編（共通編）1章基本事項」によるほか、下記の方法によるものとする。</p> <p>(1) アンカーの内訳は下記の項目で算出する。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>区 分</th> <th>規 格</th> <th>単 位</th> <th>数 量</th> <th>備 考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>アンカー鋼材</td> <td></td> <td>○</td> <td>m</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>注入パイプ</td> <td></td> <td>○</td> <td>m</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>シ ー ス</td> <td></td> <td>○</td> <td>m</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>防 錆 材</td> <td></td> <td>○</td> <td>Kg</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>定着加工用具</td> <td></td> <td>○</td> <td>組</td> <td></td> <td>ハ イロ ッ ト キ ャ ッ プ ス ペ ー ス 等</td> </tr> <tr> <td>アンカー定着具</td> <td></td> <td>○</td> <td>組</td> <td></td> <td>ア ン カ ー ヘ ッ ト 、 プ レ ー ト 、 ク ャ ッ プ 等</td> </tr> <tr> <td>グ ラ ウ ト</td> <td></td> <td>○</td> <td>m³</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>足 場</td> <td></td> <td>○</td> <td>空m³</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>(注) 数量は、必要量（ロスを含む）を算出すること。</p> <p>(2) 削孔長区分 削孔長による区分は、以下のとおりとする。</p> <div style="margin-left: 20px;"> <p>削 孔 長</p> <ul style="list-style-type: none"> 1.0 m 以内 1.0 を超え 2.0 m 以内 2.0 1.0 m を超える </div> <p>(3) アンカー鋼材設計荷重区分 アンカー鋼材設計荷重は、以下の区分で算出する。</p> <div style="margin-left: 20px;"> <p>設計荷重</p> <ul style="list-style-type: none"> f < 400kN (40.8 t) 未満 400kN (40.8 t) ≤ f < 以上 1,300kN (132.7 t) 未 満 1,300kN (132.7 t) ≤ f < 以上 2,000kN (204.1 t) 未 満 </div> <p>(4) 頭部処理の有無区分 頭部処理の有無による区分は、以下のとおりとする。</p> <div style="margin-left: 20px;"> <p>頭部処理の有無</p> <ul style="list-style-type: none"> 有り 無し </div> <p>(5) 足場 足場は、施工場所が既設の構造物（斜面）等で必要な場所に計上する。 また、作業面の足場幅は、4.5m を標準とする。</p>	項目	区 分	規 格	単 位	数 量	備 考	アンカー鋼材		○	m			注入パイプ		○	m			シ ー ス		○	m			防 錆 材		○	Kg			定着加工用具		○	組		ハ イロ ッ ト キ ャ ッ プ ス ペ ー ス 等	アンカー定着具		○	組		ア ン カ ー ヘ ッ ト 、 プ レ ー ト 、 ク ャ ッ プ 等	グ ラ ウ ト		○	m ³			足 場		○	空m ³				<p>アンカー鋼材加工・組立、挿入、緊張・定着・頭部処理（アンカー）の区分の説明を修正。</p>
項目	区 分	規 格	単 位	数 量	備 考																																																																																																											
アンカー鋼材		○	m																																																																																																													
注入パイプ		○	m																																																																																																													
シ ー ス		○	m																																																																																																													
防 錆 材		○	Kg																																																																																																													
定着加工用具		○	組		ハ イロ ッ ト キ ャ ッ プ ス ペ ー ス 等																																																																																																											
アンカー定着具		○	組		ア ン カ ー ヘ ッ ト 、 プ レ ー ト 、 ク ャ ッ プ 等																																																																																																											
グ ラ ウ ト		○	m ³																																																																																																													
足 場		○	空m ³																																																																																																													
項目	区 分	規 格	単 位	数 量	備 考																																																																																																											
アンカー鋼材		○	m																																																																																																													
注入パイプ		○	m																																																																																																													
シ ー ス		○	m																																																																																																													
防 錆 材		○	Kg																																																																																																													
定着加工用具		○	組		ハ イロ ッ ト キ ャ ッ プ ス ペ ー ス 等																																																																																																											
アンカー定着具		○	組		ア ン カ ー ヘ ッ ト 、 プ レ ー ト 、 ク ャ ッ プ 等																																																																																																											
グ ラ ウ ト		○	m ³																																																																																																													
足 場		○	空m ³																																																																																																													
積算上の注意事項																																																																																																																

改正理由		改正 現行	
現行	改正		備考
<p>(4) グラウト 1) グラウトの使用量 グラウトの使用量は次式を参考とし、材料の補正（ロス）を含んだ数量を算出する。</p> $V = \frac{D^2 \times \pi}{4 \times 10^6} \times L \times (1 + K)$ <p>V：注入量 (m³) D：ドリルパイプの外径 (mm) L：削孔長 (m) K：補正係数 (注) 補正係数は 2.2 を標準とするが、過去の実績や地質条件等により本係数を使用することが不適当な場合は、別途考慮すること。</p>	<p>(46) グラウト 1) グラウトの使用量 グラウトの使用量は、次式を参考とし、材料の補正（ロス）を含んだ数量を算出する。</p> $V = \frac{D^2 \times \pi}{4 \times 10^6} \times L \times (1 + K)$ <p>V：注入量 (m³) D：ドリルパイプの外径 (mm) L：削孔長 (m) K：補正係数 (注) 補正係数は 2.2 を標準とするが、過去の実績や地質条件等により本係数を使用することが不適当な場合は、別途考慮すること。</p>		
積算上の注意事項			

改正理由	現 行	改 正	改 正 現 行	備 考																																																																															
	<p>1章 護岸根固め工</p> <p>1.1 消波根固めブロック工</p> <p>1.1.1 消波根固めブロック工</p> <p>1. 適用</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 河川、砂防、海岸、道路工事に使用する11.0t以下（実質量とする）の消波根固めブロック工に適用する。 </div> <p>2. 数量算出項目</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 消波根固めブロックの個数を区分ごとに算出する。 横取り～積込～運搬～荷卸の一連の作業で行う場合は、運搬と仮置で算出する。異なる場合は、消波根固めブロック（層積・乱積）で算出する。 </div> <p>3. 区分</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 消波根固めブロック運搬の区分は、作業区分、規格とする。 消波根固めブロック仮置の区分は、規格とする。 消波根固めブロック（層積・乱積）の区分は、施工箇所、作業区分、規格とする。 </div> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>区 分</th> <th>施 工 箇 所</th> <th>作 業 区 分</th> <th>規 格</th> <th>単 位</th> <th>数 量</th> <th>備 考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>消波根固め ブロック運搬</td> <td></td> <td>—</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>個</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>消波根固め ブロック仮置</td> <td></td> <td>—</td> <td>—</td> <td>○</td> <td>個</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>消波根固め ブロック（層積）</td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>個</td> <td></td> <td>注) 1</td> </tr> <tr> <td>消波根固め ブロック（乱積）</td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>個</td> <td></td> <td>注) 1</td> </tr> </tbody> </table> <p>注) 1. 型枠の種類（プラスチック・鋼製等）について、備考欄に明記する。 2. ブロック規格は、ブロック実質量とする。</p>	項目	区 分	施 工 箇 所	作 業 区 分	規 格	単 位	数 量	備 考	消波根固め ブロック運搬		—	○	○	個			消波根固め ブロック仮置		—	—	○	個			消波根固め ブロック（層積）		○	○	○	個		注) 1	消波根固め ブロック（乱積）		○	○	○	個		注) 1	<p>1章 護岸根固め工</p> <p>1.1 消波根固めブロック工</p> <p>1.1.1 消波根固めブロック工</p> <p>1. 適用</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 河川、砂防、海岸、道路工事に使用する11.0t以下（実質量とする）の消波根固めブロック工に適用する。 </div> <p>2. 数量算出項目</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 消波根固めブロックの個数を区分ごとに算出する。 横取り～積込～運搬～荷卸の一連の作業で行う場合は、運搬と仮置で算出する。異なる場合は、消波根固めブロック（層積・乱積）で算出する。 </div> <p>3. 区分</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 区分は、数量算出項目及び区分一覧表によるものとする。 消波根固めブロック運搬の区分は、作業区分、規格とする。 消波根固めブロック仮置の区分は、規格とする。 消波根固めブロック（層積・乱積）の区分は、施工箇所、作業区分、規格とする。 </div> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th>項 目</th> <th>区 分</th> <th>施 工 箇 所</th> <th>作 業 区 分</th> <th>規 格</th> <th>単 位</th> <th>数 量</th> <th>備 考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>消波根固め ブロック運搬</td> <td></td> <td>—</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>個</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>消波根固め ブロック仮置</td> <td></td> <td>—</td> <td>—</td> <td>○</td> <td>個</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>消波根固め ブロック（層積）</td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>個</td> <td></td> <td>注) 1</td> </tr> <tr> <td>消波根固め ブロック（乱積）</td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>個</td> <td></td> <td>注) 1</td> </tr> </tbody> </table> <p>注) 1. 型枠の種類（プラスチック・鋼製等）について、備考欄に明記する。 2. ブロック規格は、ブロック実質量とする。</p>	項 目	区 分	施 工 箇 所	作 業 区 分	規 格	単 位	数 量	備 考	消波根固め ブロック運搬		—	○	○	個			消波根固め ブロック仮置		—	—	○	個			消波根固め ブロック（層積）		○	○	○	個		注) 1	消波根固め ブロック（乱積）		○	○	○	個		注) 1	<p>「消波根固めブロック工」の施工パッケージ化に伴う改正。</p> <p>「消波根固めブロック工」の施工パッケージ化に伴い、区分を修正。</p> <p>各数量算出項目毎に区分を整理したため左記表は削除。</p>
項目	区 分	施 工 箇 所	作 業 区 分	規 格	単 位	数 量	備 考																																																																												
消波根固め ブロック運搬		—	○	○	個																																																																														
消波根固め ブロック仮置		—	—	○	個																																																																														
消波根固め ブロック（層積）		○	○	○	個		注) 1																																																																												
消波根固め ブロック（乱積）		○	○	○	個		注) 1																																																																												
項 目	区 分	施 工 箇 所	作 業 区 分	規 格	単 位	数 量	備 考																																																																												
消波根固め ブロック運搬		—	○	○	個																																																																														
消波根固め ブロック仮置		—	—	○	個																																																																														
消波根固め ブロック（層積）		○	○	○	個		注) 1																																																																												
消波根固め ブロック（乱積）		○	○	○	個		注) 1																																																																												
積算上の注意事項																																																																																			

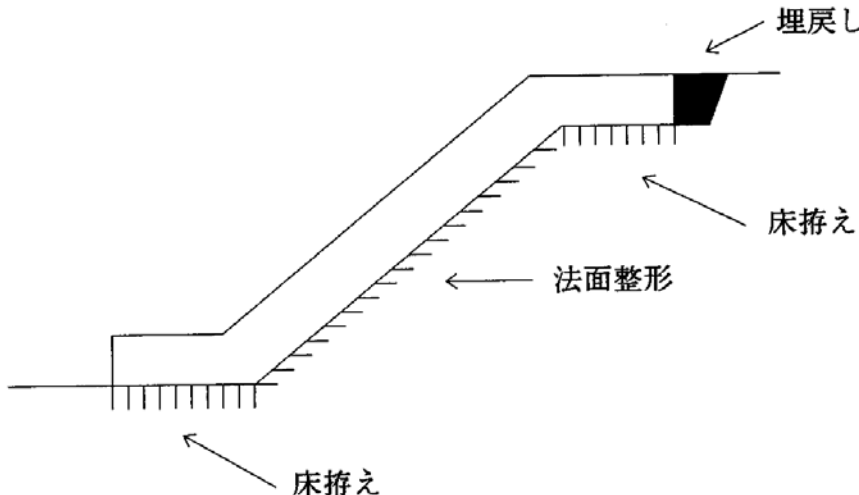
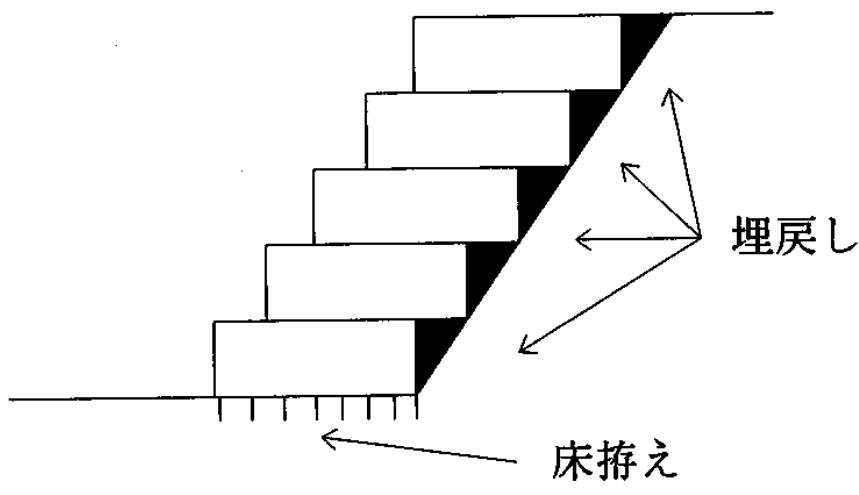
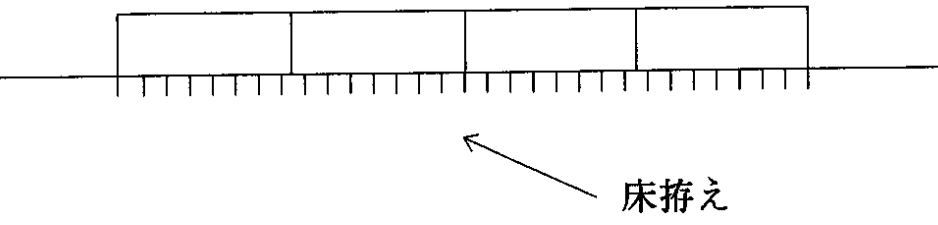
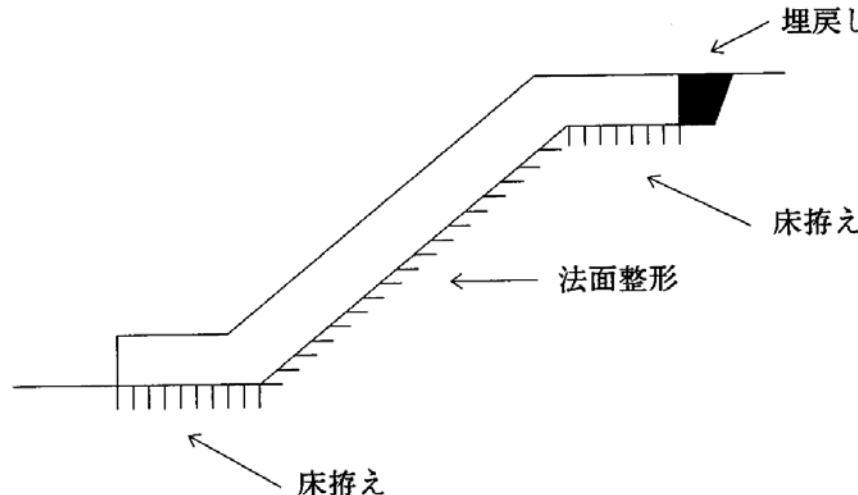
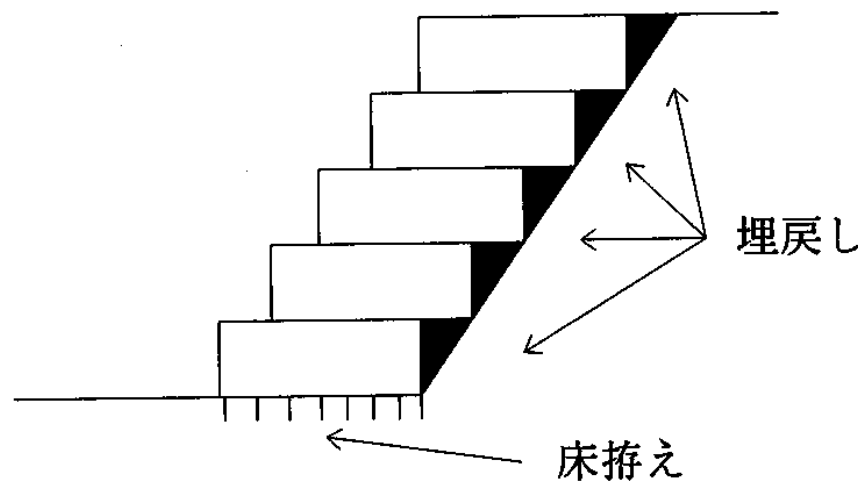
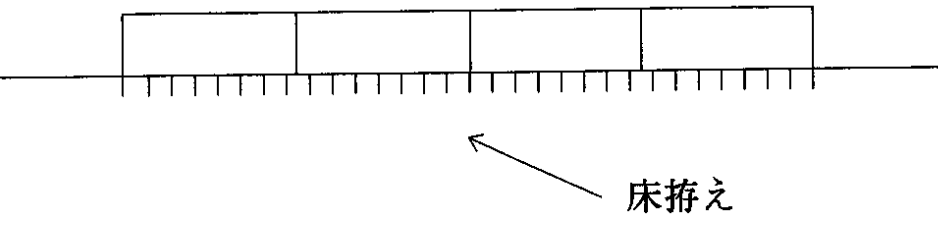
改正理由	現 行	改 正	改 正 現 行	備 考																																																																																				
	<p>(2) 施工箇所区分 海岸、樋管、水制等に区分して算出する。 ただし、点在する場合はその施工箇所ごとに区分して算出する。</p> <p>(3) 作業区分 消波根固めブロック運搬の作業区分は、積込・荷卸、積込・据付（乱積）、積込・据付（層積）、トラック積載個数、運搬距離に区分して算出する。 消波根固めブロック仮置の作業区分は、仮設ヤードでの横取り作業の有無、クレーン規格に区分して算出する。 消波根固めブロック（層積・乱積）の作業区分は、陸上、水中に区分して算出する。</p>	<p>(2) 施工箇所区分 海岸、樋管、水制等に区分して算出する。 ただし、点在する場合はその施工箇所ごとに区分して算出する。</p> <p>(3) 作業区分 消波根固めブロック運搬の作業区分は、積込・荷卸、積込・据付（乱積）、積込・据付（層積）、トラック積載個数、運搬距離に区分して算出する。 消波根固めブロック仮置の作業区分は、仮設ヤードでの横取り作業の有無、クレーン規格に区分して算出する。 消波根固めブロック（層積・乱積）の作業区分は、陸上、水中に区分して算出する。</p> <p>①消波根固めブロック製作</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;">項目</th> <th style="width: 5%;">区分</th> <th style="width: 10%;">ブロック規格</th> <th style="width: 10%;">型枠の種類</th> <th style="width: 10%;">生コンクリート規格</th> <th style="width: 10%;">1個当りコンクリート設計量</th> <th style="width: 10%;">1個当り型枠面積</th> <th style="width: 10%;">養生工の種類</th> <th style="width: 10%;">単位</th> <th style="width: 10%;">数量</th> <th style="width: 10%;">備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>消波根固めブロック製作</td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>個</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>②消波根固めブロック据付</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;">項目</th> <th style="width: 5%;">区分</th> <th style="width: 5%;">ブロック規格</th> <th style="width: 5%;">据付場所</th> <th style="width: 5%;">施工ヤード又は仮置ヤードでの横取り作業の有無</th> <th style="width: 5%;">積込作業の有無</th> <th style="width: 5%;">荷卸作業の有無</th> <th style="width: 5%;">据付現場ヤードでの横取り作業の有無</th> <th style="width: 5%;">ブロック10個当り連結金具設置数量</th> <th style="width: 5%;">据付方法</th> <th style="width: 5%;">クレーン機種</th> <th style="width: 5%;">単位</th> <th style="width: 5%;">数量</th> <th style="width: 5%;">備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>消波根固めブロック据付</td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>実数</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>個</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>注) 1. 据付け（水中）とは、据付作業の内、玉外し作業又はブロックの据付位置の確認作業を水中で行う場合に適用する。 2. 横取り作業は、クレーンによるブロックの移動距離 50m 未満の範囲とする。</p> <p>③消波根固めブロック運搬</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;">項目</th> <th style="width: 5%;">区分</th> <th style="width: 10%;">ブロック規格</th> <th style="width: 10%;">作業区分</th> <th style="width: 10%;">トラック1台当りブロック積載個数</th> <th style="width: 10%;">トラック1台当り運搬距離</th> <th style="width: 10%;">単位</th> <th style="width: 10%;">数量</th> <th style="width: 10%;">備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>消波根固めブロック運搬</td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>個</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>注) 1. 運搬距離は片道であり、往路と復路が異なる場合は、平均値とする。片道運搬距離が 15km を超える場合は、別途考慮すること。</p> <p>④消波根固めブロック仮置</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;">項目</th> <th style="width: 5%;">区分</th> <th style="width: 10%;">ブロック規格</th> <th style="width: 10%;">施工ヤードでの横取り作業の有無</th> <th style="width: 10%;">クレーン機種</th> <th style="width: 10%;">単位</th> <th style="width: 10%;">数量</th> <th style="width: 10%;">備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>消波根固めブロック仮置</td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>個</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>注) 1. 横取り作業は、クレーンによるブロックの移動距離 50m 未満の範囲とする。横取り作業は1回のみとする。</p>	項目	区分	ブロック規格	型枠の種類	生コンクリート規格	1個当りコンクリート設計量	1個当り型枠面積	養生工の種類	単位	数量	備考	消波根固めブロック製作		○	○	○	○	○	○	個			項目	区分	ブロック規格	据付場所	施工ヤード又は仮置ヤードでの横取り作業の有無	積込作業の有無	荷卸作業の有無	据付現場ヤードでの横取り作業の有無	ブロック10個当り連結金具設置数量	据付方法	クレーン機種	単位	数量	備考	消波根固めブロック据付		○	○	○	○	○	○	実数	○	○	個			項目	区分	ブロック規格	作業区分	トラック1台当りブロック積載個数	トラック1台当り運搬距離	単位	数量	備考	消波根固めブロック運搬		○	○	○	○	個			項目	区分	ブロック規格	施工ヤードでの横取り作業の有無	クレーン機種	単位	数量	備考	消波根固めブロック仮置		○	○	○	個				数量算出項目毎に区分一覧表を作成。
項目	区分	ブロック規格	型枠の種類	生コンクリート規格	1個当りコンクリート設計量	1個当り型枠面積	養生工の種類	単位	数量	備考																																																																														
消波根固めブロック製作		○	○	○	○	○	○	個																																																																																
項目	区分	ブロック規格	据付場所	施工ヤード又は仮置ヤードでの横取り作業の有無	積込作業の有無	荷卸作業の有無	据付現場ヤードでの横取り作業の有無	ブロック10個当り連結金具設置数量	据付方法	クレーン機種	単位	数量	備考																																																																											
消波根固めブロック据付		○	○	○	○	○	○	実数	○	○	個																																																																													
項目	区分	ブロック規格	作業区分	トラック1台当りブロック積載個数	トラック1台当り運搬距離	単位	数量	備考																																																																																
消波根固めブロック運搬		○	○	○	○	個																																																																																		
項目	区分	ブロック規格	施工ヤードでの横取り作業の有無	クレーン機種	単位	数量	備考																																																																																	
消波根固めブロック仮置		○	○	○	個																																																																																			
積算上の注意事項																																																																																								

改正理由	現 行	改 正	備 考
	<p>4. 数量算出方法 数量の算出は、「第1編（共通編）1章基本事項」によるほか下記の方法によるものとする。</p> <p>(1) 乱積 乱積の場合は、横断面図より空体積を計算し、コンクリートブロックの空隙率を考慮し、次式より算出する。</p> $N = \frac{V(1-a)}{v}$ <p style="margin-left: 150px;">N=個数（個） V=空体積（m³） v=1個当り空体積（m³/個） a=空隙率</p> <p>(2) 層積 層積における設置間隔については、ブロックメーカーのカタログによるものとする。</p> <p>(3) ブロック1個当りコンクリート設計量（m³/個）、型枠面積（m²/個）及び必要に応じて鉄筋（連結用フックを含む）量（t/個）を径毎に算出する。</p> <p>(4) 間詰が必要な場合は別途算出する。</p> <p>(5) 連結金具が必要な場合は別途算出する。</p>	<p>4. 数量算出方法 数量の算出は、「第1編（共通編）1章基本事項」によるほか、下記の方法によるものとする。</p> <p>(1) 乱積 乱積の場合は、横断面図より空体積を計算し、コンクリートブロックの空隙率を考慮し、次式より算出する。</p> $N = \frac{V(1-a)}{v}$ <p style="margin-left: 150px;">N=個数（個） V=空体積（m³） v=1個当り空体積（m³/個） a=空隙率</p> <p>(2) 層積 層積における設置間隔については、ブロックメーカーのカタログによるものとする。</p> <p>(3) ブロック1個当りコンクリート設計量（m³/個）、型枠面積（m²/個）及び必要に応じて鉄筋（連結用フックを含む）量（t/個）を径毎に算出する。</p> <p>(4) 間詰が必要な場合は別途算出する。</p> <p>(5) 連結金具が必要な場合は別途算出する。</p> <p>(3) トラック1台当りブロック積載個数(n)はブロックの形状、寸法及びトラック等の荷台寸法、積載質量を考慮して決定するが、一般の場合は、下記による。</p> $n = X/W \text{ (小数以下切り捨て)}$ <p style="margin-left: 40px;">X : トラック等の積載質量 (t) W : ブロック1個当りの質量 (実質量) (t)</p>	<p>積算基準書に記載の注釈を追記。</p>
	<p>5. 参考図 (1) 乱 積</p> 	<p>5. 参考図 (1) 乱 積</p> 	
積算上の注意事項			

改正理由		改正 現行	備考
現行		改正	
	<p>(2)層積</p>  <p>法覆</p> <p>W.L.</p> <p>間詰</p> <p>計画河床高</p> <p>根固ブロック(層積)</p> <p>法留基礎</p> <p>基礎矢板</p>	<p>(2)層積</p>  <p>法覆</p> <p>W.L.</p> <p>間詰</p> <p>計画河床高</p> <p>根固ブロック(層積)</p> <p>法留基礎</p> <p>基礎矢板</p>	
積算上の注意事項			

改正理由	現行	改正	備考																																
	<p>1. 1. 2 消波根固めブロック工(ブロック撤去工)(0.25t以上 35.5t以下)</p> <p>1. 適用 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">根固め工における根固めブロック撤去に適用する。</div></p> <p>2. 数量算出項目 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">消波根固めブロックの個数を区分ごとに算出する。</div></p> <p>3. 区分 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">区分は、ブロック質量、作業区分、堆砂の有無、クレーン機種とする。</div></p> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th>項目 \ 区分</th> <th>ブロック質量</th> <th>作業区分</th> <th>堆砂の有無</th> <th>クレーン機種</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>消波根固め ブロック撤去</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>個</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>注) 1. ブロック質量は、ブロック実質量とする。</p> <p>(2) 作業区分 作業区分は、撤去・仮置き、撤去・据付け(乱積)、撤去・据付け(層積)、撤去・積込みに区分して算出する。</p>	項目 \ 区分	ブロック質量	作業区分	堆砂の有無	クレーン機種	単位	数量	備考	消波根固め ブロック撤去	○	○	○	○	個			<p>1. 1. 2 消波根固めブロック工(ブロック撤去工)(0.25t以上 35.5t以下)</p> <p>1. 適用 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">根固め工における根固めブロック撤去に適用する。</div></p> <p>2. 数量算出項目 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">消波根固めブロックの個数を区分ごとに算出する。</div></p> <p>3. 区分 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">区分は、ブロック質量、作業区分、堆砂の有無、クレーン機種とする。</div></p> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th>項目 \ 区分</th> <th>ブロック質量</th> <th>作業区分</th> <th>堆砂の有無</th> <th>クレーン機種</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>消波根固め ブロック撤去</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>個</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>注) 1. ブロック質量は、ブロック実質量とする。</p> <p>(2) 作業区分 作業区分は、撤去・仮置き、撤去・据付け(乱積)、撤去・据付け(層積)、撤去・積込みに区分して算出する。</p>	項目 \ 区分	ブロック質量	作業区分	堆砂の有無	クレーン機種	単位	数量	備考	消波根固め ブロック撤去	○	○	○	○	個			
項目 \ 区分	ブロック質量	作業区分	堆砂の有無	クレーン機種	単位	数量	備考																												
消波根固め ブロック撤去	○	○	○	○	個																														
項目 \ 区分	ブロック質量	作業区分	堆砂の有無	クレーン機種	単位	数量	備考																												
消波根固め ブロック撤去	○	○	○	○	個																														
積算上の注意事項																																			

改正理由	現行	改正	改正 現行	備考																																																																																			
	<p>1.3 かご工</p> <p>1. 適用</p> <p>地すべり防止施設及び急傾斜崩壊対策施設におけるかご工を除くかご工のうち、じゃかご（径45、60cm）、ふとんかご（パネル式、高さ40～60cm、幅120cm）及びかごマット（厚さ30、50cm）の施工に適用する。</p> <p>2. 数量算出項目</p> <p>じゃかご、ふとんかご、かごマット等の数量を区分ごとに算出する。</p> <p>3. 区分</p> <p>区分は、施工箇所、規格とする。</p> <p>(1) 数量算出項目および区分一覧表</p> <table border="1" data-bbox="160 863 1187 1155"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>区分</th> <th>作業区分</th> <th>規格</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>じゃかご</td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td>m</td> <td></td> <td>長さは総延長を記入</td> </tr> <tr> <td>ふとんかご</td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td>m</td> <td></td> <td>〃</td> </tr> <tr> <td>じゃかご止杭</td> <td></td> <td>×</td> <td>○</td> <td>本</td> <td></td> <td>必要に応じて</td> </tr> <tr> <td>かごマット</td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td>m²</td> <td></td> <td>面積は総面積を記入</td> </tr> <tr> <td>掘削・盛土</td> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> <td>m²</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>(2) 作業区分 設置、撤去に区分して算出する。</p> <p>(3) 規格区分 じゃかごについては径、鉄線の規格（線径、網目、材料等）ごとに区分し、ふとんかごについてはふとんかご種別（スロープ式、階段式）、高さ、幅、鉄線の規格ごとに区分して算出する。かごマットについては厚さ、かご本体材質、詰石の種類・規格、鉄線の規格ごとに区分して算出する。 なお、曲線部の施工等で特別製作するものは、別途区分して算出する。</p> <p>4. 数量算出方法 数量の算出は、「第1編（共通編）1章基本事項」によるほか下記の方法によるものとする。</p> <p>(1) じゃかご及びふとんかごについては総延長、かごマットについては総面積を上記区分ごとに算出する。 なお、じゃかごにおいて止杭を使用する場合は必要本数を算出する。</p>	項目	区分	作業区分	規格	単位	数量	備考	じゃかご		○	○	m		長さは総延長を記入	ふとんかご		○	○	m		〃	じゃかご止杭		×	○	本		必要に応じて	かごマット		○	○	m ²		面積は総面積を記入	掘削・盛土		×	×	m ²			<p>1.3 かご工</p> <p>1. 適用</p> <p>地すべり防止施設及び急傾斜崩壊対策施設におけるかご工を除くかご工のうち、じゃかご（径45、60cm）、ふとんかご（パネル式、高さ40～60cm、幅120cm）及びかごマット（厚さ30、50cm）の施工に適用する。</p> <p>2. 数量算出項目</p> <p>じゃかご、ふとんかご、かごマット等の数量を区分ごとに算出する。</p> <p>3. 区分</p> <p>区分は、施工箇所作業区分、規格とする。</p> <p>(1) 数量算出項目および区分一覧表</p> <table border="1" data-bbox="1386 869 2412 1188"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>区分</th> <th>作業区分</th> <th>規格</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>じゃかご</td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td>m</td> <td></td> <td>長さは総延長を記入</td> </tr> <tr> <td>ふとんかご</td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td>m</td> <td></td> <td>〃</td> </tr> <tr> <td>じゃかご止杭打込</td> <td></td> <td>×</td> <td>⊖ ×</td> <td>本</td> <td></td> <td>必要に応じて</td> </tr> <tr> <td>かごマット</td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td>m²</td> <td></td> <td>面積は総面積を記入</td> </tr> <tr> <td>掘削・盛土</td> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> <td>m²</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>(2) 作業区分 設置、撤去に区分して算出する。</p> <p>(3) 規格区分 じゃかごについては、径、鉄線の規格（線径、網目、材料等）ごとに区分し、ふとんかごについては、ふとんかご種別（スロープ式、階段式）、高さ、幅、鉄線の規格ごとに区分して算出する。かごマットについては、厚さ、かご本体材質、詰石の種類・規格、鉄線の規格ごとに区分して算出する。 なお、曲線部の施工等で特別製作するものは、別途区分して算出する。</p> <p>4. 数量算出方法 数量の算出は、「第1編（共通編）1章基本事項」によるほか、下記の方法によるものとする。</p> <p>(1) じゃかご及びふとんかごについては、総延長、かごマットについては、総面積を上記区分ごとに算出する。 なお、じゃかごにおいて止杭を使用する場合は、必要本数を算出する。</p> <p>(2) 止杭打込は、1本当たり松丸太末口9cm、長さ1.5mを標準とする。</p>	項目	区分	作業区分	規格	単位	数量	備考	じゃかご		○	○	m		長さは総延長を記入	ふとんかご		○	○	m		〃	じゃかご 止杭打込		×	⊖ ×	本		必要に応じて	かごマット		○	○	m ²		面積は総面積を記入	掘削・盛土		×	×	m ²			<p>「止杭打込」の施工パッケージ化に伴う改正。</p> <p>「止杭打込」の区分一覧表を修正。</p> <p>「止杭打込」の標準規格を追記。</p>
項目	区分	作業区分	規格	単位	数量	備考																																																																																	
じゃかご		○	○	m		長さは総延長を記入																																																																																	
ふとんかご		○	○	m		〃																																																																																	
じゃかご止杭		×	○	本		必要に応じて																																																																																	
かごマット		○	○	m ²		面積は総面積を記入																																																																																	
掘削・盛土		×	×	m ²																																																																																			
項目	区分	作業区分	規格	単位	数量	備考																																																																																	
じゃかご		○	○	m		長さは総延長を記入																																																																																	
ふとんかご		○	○	m		〃																																																																																	
じゃかご 止杭打込		×	⊖ ×	本		必要に応じて																																																																																	
かごマット		○	○	m ²		面積は総面積を記入																																																																																	
掘削・盛土		×	×	m ²																																																																																			
積算上の注意事項																																																																																							

改正理由	現行	改正	備考
	<p>5. 参考図</p> <p>1. じゃかご</p>  <p>2. ふとんかご (階段式)</p>  <p>3. ふとんかご (スロープ式)</p> 	<p>5. 参考図</p> <p>1. じゃかご</p>  <p>2. ふとんかご (階段式)</p>  <p>3. ふとんかご (スロープ式)</p> 	
積算上の注意事項			

改正理由	現 行	改 正	改 正 現 行	備 考																																																				
	<p>1.5 護岸基礎ブロック据付け工</p> <p>1. 適用</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">河川における護岸のプレキャスト基礎ブロック（ブロック製品長2m、3.3m、4m、5m）据付工に適用する。</div> <p>2. 数量算出項目</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">基礎ブロックの延長、中詰材の体積を区分ごとに算出する。</div> <p>3. 区分</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">区分は、規格とする。</div> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>区分</th> <th>規格</th> <th>単 位</th> <th>数 量</th> <th>備 考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>基礎ブロック</td> <td></td> <td>○</td> <td>m</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>中詰コンクリート</td> <td></td> <td>○</td> <td>m³</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>(2) 規格区分 基礎ブロックの規格（ブロック製品長、ブロック下幅）ごとに以下の区分で算出する。</p> <div style="margin-left: 20px;"> <p>基礎ブロック製品長（2m、3.3m、4m、5m）</p> <ul style="list-style-type: none"> — ブロック下幅 500mm 以上 600mm 未満 — ブロック下幅 600mm 以上 700mm 未満 — ブロック下幅 700mm 以上 900mm 未満 — ブロック下幅 900mm 以上 1,100mm 未満 — ブロック下幅 1,100mm <p>目地施工 — 有 — 無</p> <p>中 詰 材 — コンクリート — 土砂等 — 必要なし</p> </div>	項目	区分	規格	単 位	数 量	備 考	基礎ブロック		○	m			中詰コンクリート		○	m ³			<p>1.5 護岸基礎ブロック据付け工</p> <p>1. 適用</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">河川における護岸のプレキャスト基礎ブロック（ブロック製品長2m、3.3m、4m、5m）の施工に適用する。</div> <p>2. 数量算出項目</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">基礎ブロックの延長、中詰材の体積を区分ごとに算出する。</div> <p>3. 区分</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">区分は、規格中詰材の種類、ブロック製品長、ブロック下幅、中詰コンクリート設計量、生コンクリート規格とする。</div> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>区分</th> <th>規格</th> <th>中詰材の種類</th> <th>ブロック製品長</th> <th>ブロック下幅</th> <th>中詰コンクリート設計量</th> <th>生コンクリート規格</th> <th>単 位</th> <th>数 量</th> <th>備 考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>プレキャスト基礎ブロック</td> <td></td> <td>⊖</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>m</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>中詰コンクリート</td> <td></td> <td>⊖</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>○</td> <td>m³</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>(2) 規格区分 基礎ブロックの規格（ブロック製品長、ブロック下幅）ごとに以下の区分で算出する。</p> <div style="margin-left: 20px;"> <p>基礎ブロック製品長（2m、3.3m、4m、5m）</p> <ul style="list-style-type: none"> — ブロック下幅 500mm 以上 600mm 未満 — ブロック下幅 600mm 以上 700mm 未満 — ブロック下幅 700mm 以上 900mm 未満 — ブロック下幅 900mm 以上 1,100mm 未満 — ブロック下幅 1,100mm <p>目地施工 — 有 — 無</p> <p>中 詰 材 — コンクリート — 土砂等その他 — 必要なし</p> </div>	項目	区分	規格	中詰材の種類	ブロック製品長	ブロック下幅	中詰コンクリート設計量	生コンクリート規格	単 位	数 量	備 考	プレキャスト基礎ブロック		⊖	○	○	○	○	○	m			中詰コンクリート		⊖	×	×	×	×	○	m ³					<p>「護岸基礎ブロック工(1)」及び「護岸基礎ブロック工(2)」の施工パッケージ化に伴う改正。</p> <p>「プレキャスト基礎」及び「中詰コンクリート」の区分一覧表を修正。</p>
項目	区分	規格	単 位	数 量	備 考																																																			
基礎ブロック		○	m																																																					
中詰コンクリート		○	m ³																																																					
項目	区分	規格	中詰材の種類	ブロック製品長	ブロック下幅	中詰コンクリート設計量	生コンクリート規格	単 位	数 量	備 考																																														
プレキャスト基礎ブロック		⊖	○	○	○	○	○	m																																																
中詰コンクリート		⊖	×	×	×	×	○	m ³																																																
積算上の注意事項																																																								

改正理由	現 行	改 正	改 正 現 行	備 考																																																																																																	
	<p>4.5 塵芥処理工</p> <p>1. 適用</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">河川堤防、高水敷又は中州等の陸上部にある塵芥の収集・集積、現場外搬出に適用する。</div> <p>2. 数量算出項目</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">散在塵芥の収集面積、堆積塵芥の収集体積を区分ごとに算出する。</div> <p>(1) 数量算出項目一覧表</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th>項 目</th> <th>作業内容</th> <th>規 格</th> <th>単 位</th> <th>数 量</th> <th>備 考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>散在塵芥の収集・集積</td> <td>○</td> <td>×</td> <td>m²</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>堆積塵芥の収集・集積</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>m³</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>(2) 項目分類 塵芥量が1 m³/1000m²程度以下の場合は散在塵芥収集とし、それ以上の場合は堆積塵芥収集を標準とする。</p> <p>(3) 作業内容区分 各項目（散在塵芥の収集・集積、堆積塵芥の収集・集積）の作業内容は、各項目ごとに運搬作業の有無を区分して算出する。</p> <p>(4) 規格 堆積塵芥の規格は、塵芥の種類であり、以下の区分で算出する。</p> <div style="margin-left: 20px;"> 塵芥の種類 <ul style="list-style-type: none"> └── 木片・空缶・枯草等のかさ高物 └── コンクリート塊等の重量物 </div>	項 目	作業内容	規 格	単 位	数 量	備 考	散在塵芥の収集・集積	○	×	m ²			堆積塵芥の収集・集積	○	○	m ³			<p>4.5 塵芥処理工</p> <p>1. 適用</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">河川堤防、高水敷又は中州等の陸上部にある塵芥の収集・集積、現場外搬出に適用する。</div> <p>2. 数量算出項目</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">散在塵芥の収集面積、堆積塵芥の収集体積を区分ごとに算出する。</div> <p>3. 区分</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">区分は、作業区分、塵芥の種類、DID区間の有無、運搬距離とする。</div> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th>項 目</th> <th>作業 内容 区分</th> <th>規 格</th> <th>塵芥 の 種類</th> <th>DID 区間の 有無</th> <th>運搬 距離</th> <th>ダンプ トラック 持込・ 貸与</th> <th>単 位</th> <th>数 量</th> <th>備 考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>散在塵芥の収集・集積</td> <td>○</td> <td>×</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>m²</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>堆積塵芥の収集・集積</td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>m³</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>散在塵芥収集</td> <td>×</td> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>m²</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>運搬（散在塵芥処理）</td> <td>×</td> <td></td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>m²</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>堆積塵芥の収集 （機械処理）</td> <td>×</td> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>m³</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>堆積塵芥の収集 （人力処理）</td> <td>×</td> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>m³</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>運搬（堆積塵芥処理）</td> <td>○</td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>m³</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>(2) 項目分類 塵芥量が1 m³/1000m²程度以下の場合は、散在塵芥収集とし、それ以上の場合は、堆積塵芥収集を標準とする。</p> <p>(3) 作業内容区分 各項目（散在塵芥の収集・集積、堆積塵芥の収集・集積）の作業内容区分は、各項目ごとに運搬作業の有無を区分して算出する以下のとおりとする。</p> <div style="margin-left: 20px;"> 作業区分 <ul style="list-style-type: none"> └── 機械 └── 人力 </div> <p>(4) 規格塵芥の種類区分 堆積塵芥の規格は、塵芥の種類であり、以下の区分で算出するによる区分は、以下のとおりとする。</p> <div style="margin-left: 20px;"> 塵芥の種類 <ul style="list-style-type: none"> └── 木片、空缶、枯草等のかさ高物 └── コンクリート塊等の重量物 </div>	項 目	作業 内容 区分	規 格	塵芥 の 種類	DID 区間の 有無	運搬 距離	ダンプ トラック 持込・ 貸与	単 位	数 量	備 考	散在塵芥の収集・集積	○	×					m²			堆積塵芥の収集・集積	○	○					m³			散在塵芥収集	×		×	×	×	×	m ²			運搬（散在塵芥処理）	×			○	○	○	m ²			堆積塵芥の収集 （機械処理）	×		×	×	×	×	m ³			堆積塵芥の収集 （人力処理）	×		×	×	×	×	m ³			運搬（堆積塵芥処理）	○		○	○	○	○	m ³			<p>「散在塵芥収集」「運搬（散在塵芥処理）」「堆積塵芥の収集」及び「運搬（堆積塵芥処理）」の施工パッケージ化に伴う改正。</p> <p>「散在塵芥収集」「運搬（散在塵芥処理）」「堆積塵芥の収集」及び「運搬（堆積塵芥処理）」のそれぞれについて数量算出項目及び区分一覧表を修正。</p>
項 目	作業内容	規 格	単 位	数 量	備 考																																																																																																
散在塵芥の収集・集積	○	×	m ²																																																																																																		
堆積塵芥の収集・集積	○	○	m ³																																																																																																		
項 目	作業 内容 区分	規 格	塵芥 の 種類	DID 区間の 有無	運搬 距離	ダンプ トラック 持込・ 貸与	単 位	数 量	備 考																																																																																												
散在塵芥の収集・集積	○	×					m²																																																																																														
堆積塵芥の収集・集積	○	○					m³																																																																																														
散在塵芥収集	×		×	×	×	×	m ²																																																																																														
運搬（散在塵芥処理）	×			○	○	○	m ²																																																																																														
堆積塵芥の収集 （機械処理）	×		×	×	×	×	m ³																																																																																														
堆積塵芥の収集 （人力処理）	×		×	×	×	×	m ³																																																																																														
運搬（堆積塵芥処理）	○		○	○	○	○	m ³																																																																																														
積算上の注意事項																																																																																																					

改正理由	現行	改正	備考
	<p>3. 数量算出方法 数量の算出は、「第1編（共通編）1章基本事項」によるほか下記の方法によるものとする。</p> <p>(1) 運搬が必要な場合は往路と復路の平均運搬距離（Km）を算出する。 （30m程度の小運搬は除く）</p>	<p>34. 数量算出方法 数量の算出は、「第1編（共通編）1章基本事項」によるほか、下記の方法によるものとする。</p> <p>(1) 運搬が必要な場合は往路と復路の平均運搬距離（Km）を算出する。 （30m程度の小運搬は除く）運搬距離は片道であり、往路と復路が異なる場合は、平均値とする。</p>	<p>基準書の記述に修正。</p>
積算上の注意事項			

改正理由	現行	改正	改正現行	備考																																																	
	<p>4.8 笠コンクリートブロック据付工</p> <p>1. 適用</p> <p>矢板護岸工に使用する1.1t未満のプレキャスト笠コンクリートブロックの据付に適用する。</p> <p>2. 数量算出項目</p> <p>笠コンクリートブロックの延長、中詰コンクリートの体積を区分ごとに算出する。</p> <p>(1) 数量算出項目一覧表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>区分</th> <th>規格</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>笠コンクリートブロック</td> <td></td> <td>○</td> <td>m</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>中詰コンクリート</td> <td></td> <td>○</td> <td>m³</td> <td></td> <td>(型枠の有無)</td> </tr> </tbody> </table> <p>注) 中詰コンクリートは設計量を算出する。</p> <p>(2) 規格区分</p> <p>1. 笠コンクリートブロック 規格には笠コンクリートブロック1個当りの寸法を記載する。 注) 100m当りのブロック個数も算出すること。</p> <p>2. 中詰コンクリート 使用するコンクリートの規格を記載する。 注) 100m当りの設計量(m³)も算出すること。</p>	項目	区分	規格	単位	数量	備考	笠コンクリートブロック		○	m			中詰コンクリート		○	m ³		(型枠の有無)	<p>4.8 笠コンクリートブロック据付工</p> <p>1. 適用</p> <p>矢板護岸工に使用する1.1t未満のプレキャスト笠コンクリートブロックの据付に適用する。</p> <p>2. 数量算出項目</p> <p>笠コンクリートブロックの延長、中詰コンクリートの体積を区分ごとに算出する。</p> <p>3. 区分</p> <p>区分は、中詰コンクリート型枠の有無、中詰コンクリート規格、中詰コンクリート100m当り設計量とする。</p> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">項目</th> <th rowspan="2">区分</th> <th>規格</th> <th>中詰コンクリート型枠の有無</th> <th>中詰コンクリート規格</th> <th>中詰コンクリート100m当り設計量</th> <th rowspan="2">単位</th> <th rowspan="2">数量</th> <th rowspan="2">備考</th> </tr> <tr> <th>⊖</th> <th>○</th> <th>○</th> <th>○</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>笠コンクリートブロック</td> <td></td> <td>⊖</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>m</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>中詰コンクリート</td> <td></td> <td>⊖</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>m³</td> <td></td> <td>(型枠の有無)</td> </tr> </tbody> </table> <p>注) 中詰コンクリートは設計量を算出する。</p> <p>注) 基礎碎石の敷均し厚は、10cm以下を標準とし、材料の種別・規格を問わない。</p> <p>(2) 規格区分</p> <p>1. 笠コンクリートブロック 規格には、笠コンクリートブロック1個当りの寸法を記載する。 注) 100m当りのブロック個数も算出すること。</p> <p>2. 中詰コンクリート 使用するコンクリートの規格を記載する。 注) 100m当りの設計量(m³)も算出すること。</p>	項目	区分	規格	中詰コンクリート型枠の有無	中詰コンクリート規格	中詰コンクリート100m当り設計量	単位	数量	備考	⊖	○	○	○	笠コンクリートブロック		⊖	○	○	○	m			中詰コンクリート		⊖				m³		(型枠の有無)		<p>「笠コンクリートブロック」の施工パッケージ化に伴う改正。</p> <p>「笠コンクリートブロック」の区分一覧表の修正。</p>
項目	区分	規格	単位	数量	備考																																																
笠コンクリートブロック		○	m																																																		
中詰コンクリート		○	m ³		(型枠の有無)																																																
項目	区分	規格	中詰コンクリート型枠の有無	中詰コンクリート規格	中詰コンクリート100m当り設計量	単位	数量	備考																																													
		⊖	○	○	○																																																
笠コンクリートブロック		⊖	○	○	○	m																																															
中詰コンクリート		⊖				m³		(型枠の有無)																																													
積算上の注意事項																																																					

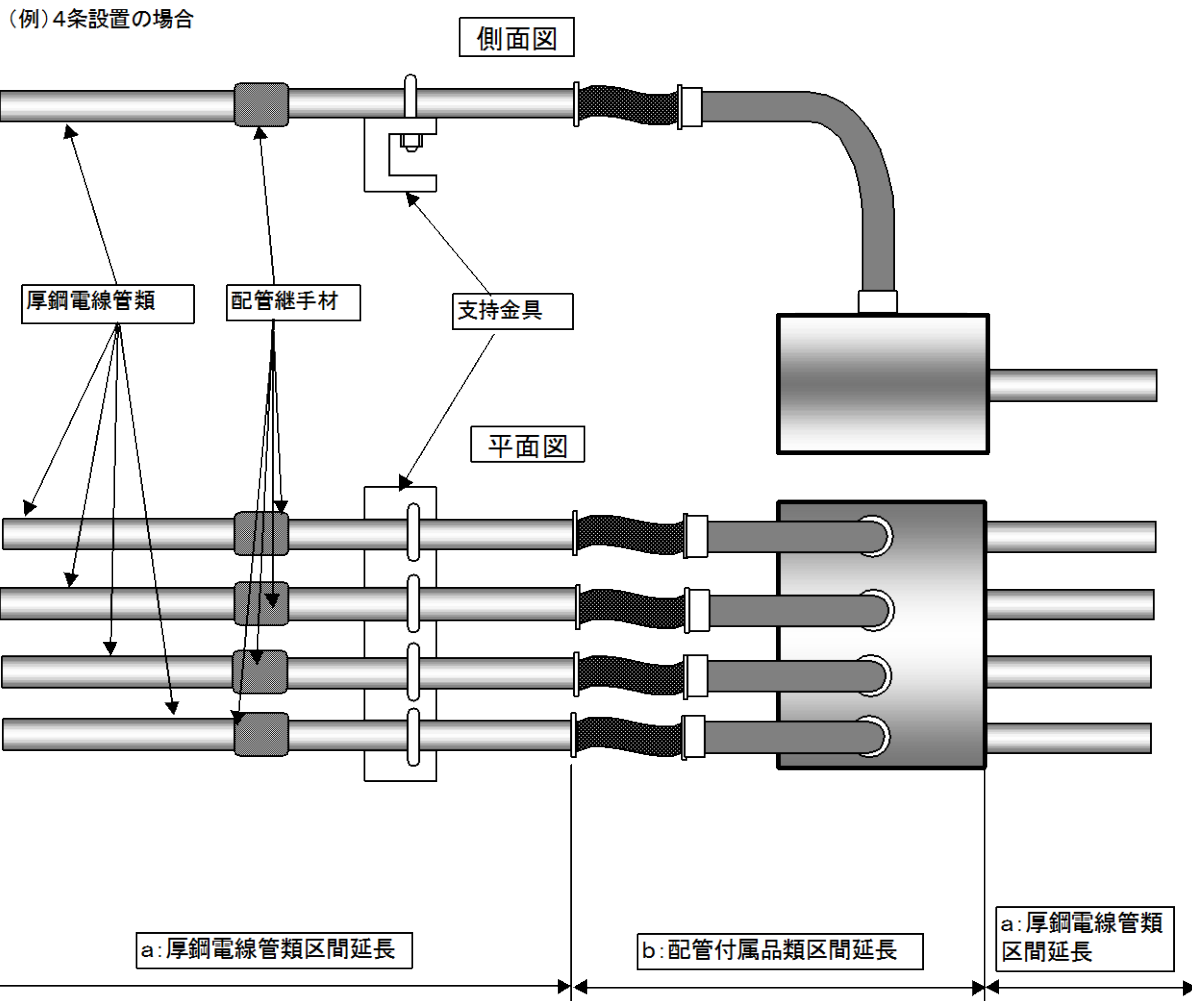
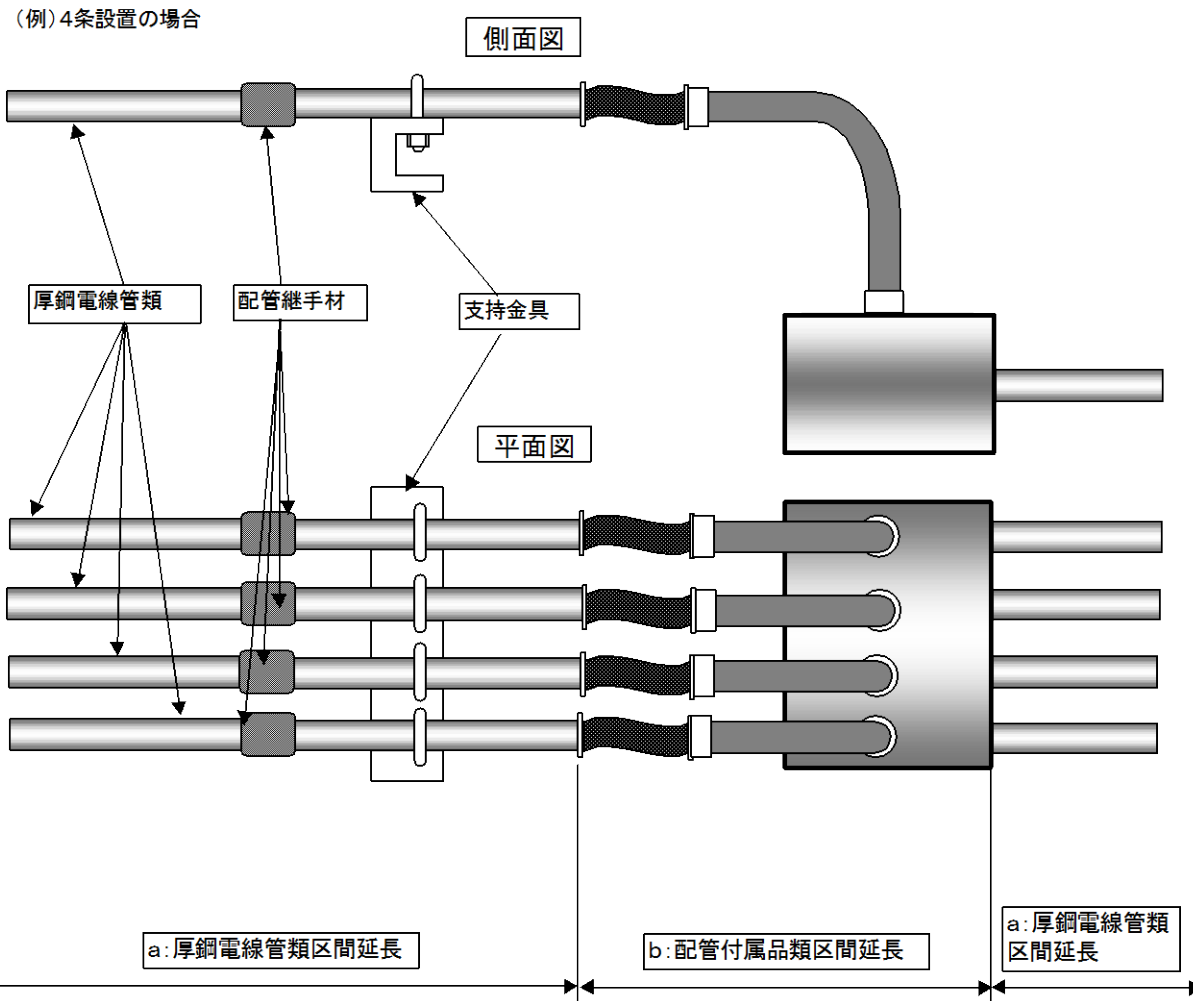
改正理由	現 行	改 正	備 考																																																
	<p>8章 光ケーブル工</p> <p>8.1 光ケーブル配管工</p> <p>8.1.1 適用</p> <p>1. 適用</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">河川堤防に布設する光ケーブル配管工事に適用する。</div> <p>8.1.2 土工</p> <p>1. 適用</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">光ケーブル配管工事の土工に適用する。</div> <p>2. 数量算出項目</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">掘削、埋戻しの土量を区分ごとに算出する。</div> <p>3. 区分</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">区分は、土質、施工形態とする。</div> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th>項目 \ 区分</th> <th>土質</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備 考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>掘 削</td> <td>×</td> <td>m³</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>埋戻し・締固め</td> <td>○</td> <td>m³</td> <td></td> <td>レキ質、砂・砂質土、粘性土に適用</td> </tr> <tr> <td>残土処理</td> <td>×</td> <td>m³</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>(注) 1. 掘削及び残土処理数量は、地山数量とする。 2. 埋戻し・締固め数量は、締固め後数量とする。</p> <p>(2) 土質区分</p> <p style="margin-left: 20px;">土質による区分は、以下のとおりとする。</p> <div style="margin-left: 40px;"> <table style="border: none;"> <tr> <td style="padding-right: 10px;">土質</td> <td style="border-left: 1px solid black; padding-left: 10px;">土砂</td> </tr> <tr> <td></td> <td style="border-left: 1px solid black; padding-left: 10px;">敷砂・保護砂</td> </tr> </table> </div>	項目 \ 区分	土質	単位	数量	備 考	掘 削	×	m ³			埋戻し・締固め	○	m ³		レキ質、砂・砂質土、粘性土に適用	残土処理	×	m ³			土質	土砂		敷砂・保護砂	<p>8章 光ケーブル工</p> <p>8.1 光ケーブル配管工</p> <p>8.1.1 適用</p> <p>1. 適用</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">河川堤防に布設する光ケーブル配管工事に適用する。</div> <p>8.1.2 土工</p> <p>1. 適用</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">光ケーブル配管工事の土工に適用する。</div> <p>2. 数量算出項目</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">掘削、埋戻しの土量を区分ごとに算出する。</div> <p>3. 区分</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">区分は、土質、施工形態とするなし。</div> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th>項目 \ 区分</th> <th>土質</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備 考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>掘削 (光ケーブル配管)</td> <td>×</td> <td>m³</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>埋戻し 締固め</td> <td>○</td> <td>m³</td> <td></td> <td>レキ質、砂・砂質土、粘性土に適用</td> </tr> <tr> <td>残土処理</td> <td>×</td> <td>m³</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>(注) 1. 掘削及び残土処理数量は、地山数量とする。 2. 埋戻し 締固め 数量の土量は、締固め後 数量の土量とする。</p> <p>(2) 土質区分</p> <p style="margin-left: 20px;">土質による区分は、以下のとおりとする。</p> <div style="margin-left: 40px;"> <table style="border: none;"> <tr> <td style="padding-right: 10px;">土質</td> <td style="border-left: 1px solid black; padding-left: 10px;">土砂</td> </tr> <tr> <td></td> <td style="border-left: 1px solid black; padding-left: 10px;">敷砂・保護砂</td> </tr> </table> </div>	項目 \ 区分	土質	単位	数量	備 考	掘削 (光ケーブル配管)	×	m ³			埋戻し 締固め	○	m ³		レキ質、砂・砂質土、粘性土に適用	残土処理	×	m³			土質	土砂		敷砂・保護砂	<p>「光ケーブル配管工」の施工パッケージ化に伴う改正。</p> <p>「掘削(光ケーブル配管)」「埋戻し締固め」の区分を修正。</p>
項目 \ 区分	土質	単位	数量	備 考																																															
掘 削	×	m ³																																																	
埋戻し・締固め	○	m ³		レキ質、砂・砂質土、粘性土に適用																																															
残土処理	×	m ³																																																	
土質	土砂																																																		
	敷砂・保護砂																																																		
項目 \ 区分	土質	単位	数量	備 考																																															
掘削 (光ケーブル配管)	×	m ³																																																	
埋戻し 締固め	○	m ³		レキ質、砂・砂質土、粘性土に適用																																															
残土処理	×	m³																																																	
土質	土砂																																																		
	敷砂・保護砂																																																		
積算上の注意事項																																																			

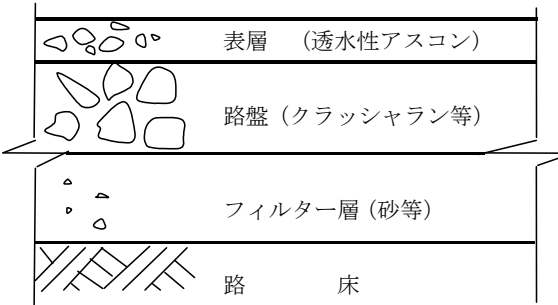
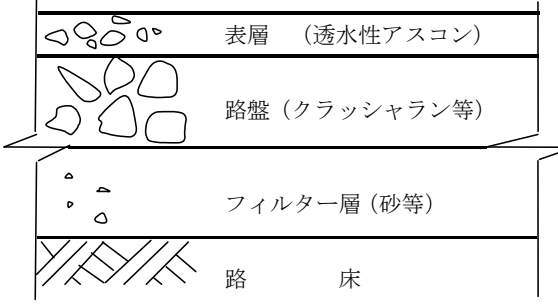
改正理由	現 行	改 正	改 正 行 現	備 考																																																																																																																																																																													
	<p>8.1.3 配管設置</p> <p>1. 適用</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">配管及び付属品の設置に適用する。</div> <p>2. 数量算出項目</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">配管の設置延長を区分ごとに算出する。</div> <p>3. 区分</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">区分は、施工区分、規格・仕様とする。</div> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th>項 目</th> <th>区 分</th> <th>施工区分</th> <th>規格・仕様</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備 考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>配管延長（多孔保護管使用区間）及び多孔保護管使用数量</td> <td></td> <td>×</td> <td>○</td> <td>m組</td> <td></td> <td>配管条数及び材質を明記する。</td> </tr> <tr> <td>配管延長（多孔保護管未使用区間）</td> <td></td> <td>×</td> <td>○</td> <td>m</td> <td></td> <td>〃</td> </tr> <tr> <td>厚鋼電線管類延長</td> <td></td> <td>×</td> <td>○</td> <td>m</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>配管支持金具</td> <td></td> <td>×</td> <td>○</td> <td>個</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>プルボックス</td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td>個</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>可とう電線管</td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td>m</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>伸縮継手</td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td>個</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>ノーマルベンド</td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td>個</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>注) 1. 配管継手材の材料延長は、配管類の設置延長に含める。 2. 配管延長は、埋設部の設置延長を算出する。 3. 厚鋼電線管類延長は、露出部の設置延長を算出する。</p>	項 目	区 分	施工区分	規格・仕様	単位	数量	備 考	配管延長（多孔保護管使用区間）及び多孔保護管使用数量		×	○	m組		配管条数及び材質を明記する。	配管延長（多孔保護管未使用区間）		×	○	m		〃	厚鋼電線管類延長		×	○	m			配管支持金具		×	○	個			プルボックス		○	○	個			可とう電線管		○	○	m			伸縮継手		○	○	個			ノーマルベンド		○	○	個			<p>8.1.3 配管設置</p> <p>1. 適用</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">配管及び付属品の設置に適用する。</div> <p>2. 数量算出項目</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">配管の設置延長を区分ごとに算出する。</div> <p>3. 区分</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">区分は、施工区分、規格・仕様多孔保護管の有無、配管材設計数量/対象延長、設置条数とする。</div> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">項 目</th> <th colspan="2">区 分</th> <th rowspan="2">多孔保護管の有無</th> <th rowspan="2">配管材設計数量/対象延長</th> <th rowspan="2">設置条数</th> <th rowspan="2">単位</th> <th rowspan="2">数量</th> <th rowspan="2">備 考</th> </tr> <tr> <th>施工区分</th> <th>規格・仕様</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>配管延長（多孔保護管使用区間）及び多孔保護管使用数量</td> <td>×</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>m組</td> <td></td> <td>配管条数及び材質を明記する。</td> </tr> <tr> <td>配管延長（多孔保護管未使用区間）</td> <td>×</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>m</td> <td></td> <td>〃</td> </tr> <tr> <td>厚鋼電線管類延長</td> <td>×</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>m</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>配管設置（埋設部）</td> <td></td> <td></td> <td>○</td> <td>×</td> <td>○</td> <td>m</td> <td></td> <td>注) 1</td> </tr> <tr> <td>配管設置（露出部）</td> <td></td> <td></td> <td>×</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>m</td> <td></td> <td>注) 2. 3</td> </tr> <tr> <td>配管支持金具（材料費）</td> <td>×</td> <td>○</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>個</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>プルボックス（材料費）</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>個</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>可とう電線管（材料費）</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>m</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>伸縮継手（材料費）</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>個</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>ノーマルベンド（材料費）</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>個</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>多孔保護管（材料費）</td> <td></td> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>m</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	項 目	区 分		多孔保護管の有無	配管材設計数量/対象延長	設置条数	単位	数量	備 考	施工区分	規格・仕様	配管延長（多孔保護管使用区間）及び多孔保護管使用数量	×	○				m組		配管条数及び材質を明記する。	配管延長（多孔保護管未使用区間）	×	○				m		〃	厚鋼電線管類延長	×	○				m			配管設置（埋設部）			○	×	○	m		注) 1	配管設置（露出部）			×	○	○	m		注) 2. 3	配管支持金具（材料費）	×	○	×	×	×	個			プルボックス（材料費）	○	○	×	×	×	個			可とう電線管（材料費）	○	○	×	×	×	m			伸縮継手（材料費）	○	○	×	×	×	個			ノーマルベンド（材料費）	○	○	×	×	×	個			多孔保護管（材料費）			×	×	×	m				<p style="color: red;">基準書の適用範囲の記述に修正。</p> <p style="color: red;">「配管設置（埋設部）」「配管設置（露出部）」及び各種材料費の区分を修正。</p>
項 目	区 分	施工区分	規格・仕様	単位	数量	備 考																																																																																																																																																																											
配管延長（多孔保護管使用区間）及び多孔保護管使用数量		×	○	m組		配管条数及び材質を明記する。																																																																																																																																																																											
配管延長（多孔保護管未使用区間）		×	○	m		〃																																																																																																																																																																											
厚鋼電線管類延長		×	○	m																																																																																																																																																																													
配管支持金具		×	○	個																																																																																																																																																																													
プルボックス		○	○	個																																																																																																																																																																													
可とう電線管		○	○	m																																																																																																																																																																													
伸縮継手		○	○	個																																																																																																																																																																													
ノーマルベンド		○	○	個																																																																																																																																																																													
項 目	区 分		多孔保護管の有無	配管材設計数量/対象延長	設置条数	単位	数量	備 考																																																																																																																																																																									
	施工区分	規格・仕様																																																																																																																																																																															
配管延長（多孔保護管使用区間）及び多孔保護管使用数量	×	○				m組		配管条数及び材質を明記する。																																																																																																																																																																									
配管延長（多孔保護管未使用区間）	×	○				m		〃																																																																																																																																																																									
厚鋼電線管類延長	×	○				m																																																																																																																																																																											
配管設置（埋設部）			○	×	○	m		注) 1																																																																																																																																																																									
配管設置（露出部）			×	○	○	m		注) 2. 3																																																																																																																																																																									
配管支持金具（材料費）	×	○	×	×	×	個																																																																																																																																																																											
プルボックス（材料費）	○	○	×	×	×	個																																																																																																																																																																											
可とう電線管（材料費）	○	○	×	×	×	m																																																																																																																																																																											
伸縮継手（材料費）	○	○	×	×	×	個																																																																																																																																																																											
ノーマルベンド（材料費）	○	○	×	×	×	個																																																																																																																																																																											
多孔保護管（材料費）			×	×	×	m																																																																																																																																																																											
積算上の注意事項																																																																																																																																																																																	

改正理由		改正 現行	
現行	改正		備考
<p>(2) 施工区分</p> <p>1. 埋設部、露出部ごとに算出する。</p> <p>注) 露出部とは管路を構造物等に添架して設置する部分をいう。</p>	<p>注) 1. 配管継手材の材料延長は、配管類の設置延長に含める。埋設部の対象延長（設計数量）は、配管設置箇所の掘削延長（継手含む）とし、配管の条数に関係なく算出する。</p> <p>2. 配管延長は、埋設部の設置延長を算出する。露出部の対象延長（設計数量）は、継手材及び配管付属品類を含んだ区間延長とし、配管の条数に関係なく算出する。</p> <p>3. 厚鋼電線管類延長は、露出部の設置延長を算出する。配管材設計数量/対象延長の条件区分は、参考図2における a/(a+b) の比率による。</p> <p>(2) 施工区分</p> <p>1. 埋設部、露出部ごとに算出する。</p> <p>注) 露出部とは、管路を構造物等に添架して設置する部分をいう。</p>		
積算上の注意事項			

改正理由		改正 現行																															
現行	改正		備考																														
<p>8.1.4 ハンドホール設置</p> <p>1. 適用</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">ハンドホール、蓋等の設置に適用する。</div> <p>2. 数量算出項目</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">ハンドホール、蓋を区分ごとに算出する。</div> <p>3. 区分</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">区分は、規格・仕様とする。</div> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1" data-bbox="145 783 1113 972"> <thead> <tr> <th>項目 \ 区分</th> <th>規格・仕様</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ハンドホール</td> <td>○</td> <td>個</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>蓋</td> <td>○</td> <td>枚</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	項目 \ 区分	規格・仕様	単位	数量	備考	ハンドホール	○	個			蓋	○	枚			<p>8.1.4 ハンドホール設置</p> <p>1. 適用</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">ハンドホール、蓋等の設置に適用する。</div> <p>2. 数量算出項目</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">ハンドホール、蓋を区分ごとに算出する。</div> <p>3. 区分</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">区分は、規格・仕様とする。</div> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1" data-bbox="1368 783 2335 972"> <thead> <tr> <th>項目 \ 区分</th> <th>規格・仕様</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ハンドホール</td> <td>○</td> <td>個</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>蓋</td> <td>○</td> <td>枚</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>		項目 \ 区分	規格・仕様	単位	数量	備考	ハンドホール	○	個			蓋	○	枚			
項目 \ 区分	規格・仕様	単位	数量	備考																													
ハンドホール	○	個																															
蓋	○	枚																															
項目 \ 区分	規格・仕様	単位	数量	備考																													
ハンドホール	○	個																															
蓋	○	枚																															
積算上の注意事項																																	

改正理由	現行	改正 現行	備考
	<p>[参考図1] 埋設部配管数量算出について (例)4条設置の場合</p> <p>対象延長(掘削延長) = ※a - bとする。 ※ハンドホール幅は除き、配管継手材等は含む。</p> <p>配管材料使用量 設計数量 × 条数 ※設計数量 = FEP管類延長 FEP管類延長とは、対象延長(掘削延長) = a - bとする。 諸雑費には、配管継手材を含む。</p>	<p>[参考図1] 埋設部配管数量算出について (例)4条設置の場合</p> <p>対象延長(掘削延長) = ※a - bとする。 ※ハンドホール幅は除き、配管継手材等は含む。</p> <p>配管材料使用量 設計数量 × 条数 ※設計数量 = FEP管類延長 FEP管類延長とは、対象延長(掘削延長) = a - bとする。 諸雑費には、配管継手材を含む。</p>	
積算上の注意事項			

改正理由		改正 現行	備考
	<p>現行</p> <p>[参考図 2] 露出部配管数量算出について</p> <p>(例) 4条設置の場合</p>  <p>厚鋼電線管類 配管継手材 支持金具</p> <p>側面図 平面図</p> <p>a: 厚鋼電線管類区間延長 b: 配管付属品類区間延長 a: 厚鋼電線管類区間延長</p> <p>対象延長=※a+b ※a: 厚鋼電線管類区間延長とは 配管類の設置延長であり、継手材の材料延長は含まれている。</p> <p>b: 配管付属品類区間延長とは 配管及び配管継手以外の配管部品の設置延長である。 (例) プルボックス、可とう電線管、伸縮継手、ノーマルベント、その他必要な部品</p> <p>配管材料使用量 設計数量×条数 ※設計数量=a: 厚鋼電線管類区間延長 諸雑費には、配管継手材の材料費等を含む。 支持金具及び配管付属品類は、別途必要量を計上する。</p>	<p>改正</p> <p>[参考図 2] 露出部配管数量算出について</p> <p>(例) 4条設置の場合</p>  <p>厚鋼電線管類 配管継手材 支持金具</p> <p>側面図 平面図</p> <p>a: 厚鋼電線管類区間延長 b: 配管付属品類区間延長 a: 厚鋼電線管類区間延長</p> <p>対象延長=※a+b ※a: 厚鋼電線管類区間延長とは 配管類の設置延長であり、継手材の材料延長は含まれている。</p> <p>b: 配管付属品類区間延長とは 配管及び配管継手以外の配管部品の設置延長である。 (例) プルボックス、可とう電線管、伸縮継手、ノーマルベント、その他必要な部品</p> <p>配管材料使用量 設計数量×条数 ※設計数量=a: 厚鋼電線管類区間延長 諸雑費には、配管継手材の材料費等を含む。 支持金具及び配管付属品類は、別途必要量を計上する。</p>	
積算上の注意事項			

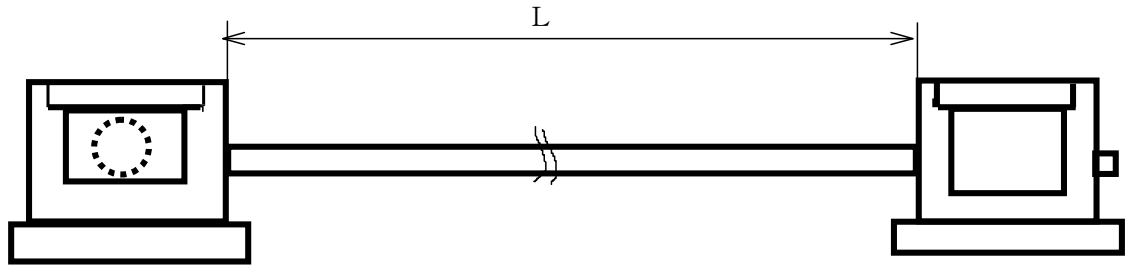
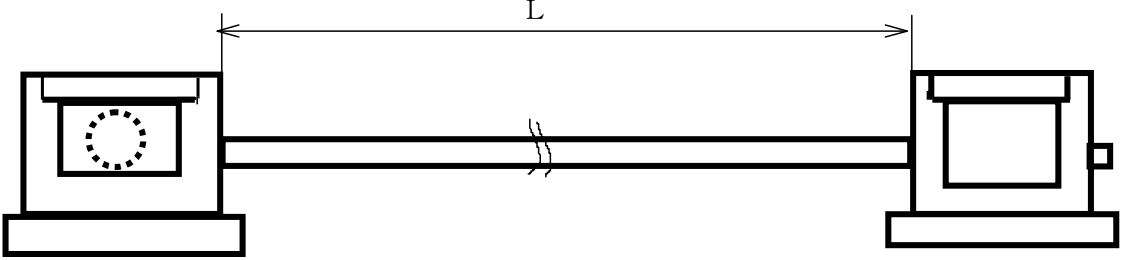
改正理由	現 行	改 正	改 正 現 行	備 考																																																														
	<p>1. 7透水性アスファルト舗装工</p> <p>1. 適用</p> <p>歩道における透水性アスファルト舗装工に適用する。</p> <p>2. 数量算出項目</p> <p>フィルター層面積、透水性アスファルト舗装面積を区分ごとに算出する。 なお、路盤の数量は、「1. 2路盤工」により算出する。</p> <p>3. 区分</p> <p>区分は、舗装厚、敷設厚、規格、施工幅とする。</p> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>区分</th> <th>舗装厚</th> <th>敷設厚</th> <th>規格 (材料)</th> <th>施工幅</th> <th>単 位</th> <th>数 量</th> <th>備 考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>フィルター層</td> <td></td> <td>—</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>—</td> <td>m²</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>透水性アスファルト舗装</td> <td></td> <td>○</td> <td>—</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>m²</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>(2) 舗装厚区分 透水性アスファルト舗装面積を舗装厚ごとに区分して算出する。</p> <p>(3) 敷設厚区分 フィルター層面積を敷設厚ごとに区分して算出する。</p> <p>(4) 規格区分 材料の規格を示すとともに、空隙率（フィルター層は除く）も示す。</p> <p>(5) 施工幅区分 透水性アスファルト舗装の施工幅（W）による区分は、下記のとおりとする。 ① W ≥ 1.4m ② W < 1.4m</p> <p>(透水性アスファルト舗装の構成例)</p> 	項目	区分	舗装厚	敷設厚	規格 (材料)	施工幅	単 位	数 量	備 考	フィルター層		—	○	○	—	m ²			透水性アスファルト舗装		○	—	○	○	m ²			<p>1. 7透水性アスファルト舗装工</p> <p>1. 適用</p> <p>歩道における透水性アスファルト舗装工に適用する。</p> <p>2. 数量算出項目</p> <p>フィルター層面積、透水性アスファルト舗装面積を区分ごとに算出する。 なお、路盤の数量は、「1. 2路盤工」により算出する。</p> <p>3. 区分</p> <p>区分は、平均幅員、舗装平均厚さ、敷設厚、規格、施工幅締固め後密度とする。</p> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>区分</th> <th>舗装厚</th> <th>敷設厚</th> <th>規格 (材料)</th> <th>施工幅</th> <th>平均幅員</th> <th>平均厚さ</th> <th>締固め後密度</th> <th>単 位</th> <th>数 量</th> <th>備 考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>フィルター層</td> <td></td> <td>—</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>—</td> <td></td> <td>○</td> <td></td> <td>m²</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>透水性アスファルト舗装</td> <td></td> <td>○</td> <td>—</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>m²</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>(2) 舗装厚区分平均厚さ区分 透水性アスファルト舗装面積を舗装厚平均厚さごとに区分して算出する。</p> <p>(3) 敷設厚区分 フィルター層面積を敷設厚ごとに区分して算出する。</p> <p>(4) 規格区分 材料の規格を示すとともに、空隙率（フィルター層は除く）も示す。</p> <p>(5) 施工幅平均幅員区分 透水性アスファルト舗装の施工幅平均幅員（W）による区分は、下記のとおりとする。 ① W ≥ 1.4m ② W < 1.4m</p> <p>(透水性アスファルト舗装の構成例)</p> 	項目	区分	舗装厚	敷設厚	規格 (材料)	施工幅	平均幅員	平均厚さ	締固め後密度	単 位	数 量	備 考	フィルター層		—	○	○	—		○		m ²			透水性アスファルト舗装		○	—	○	○	○	○	○	m ²			<p>「透水性アスファルト舗装工」の施工パッケージ化に伴う改正。</p> <p>「フィルター層」及び「透水性アスファルト舗装工」の施工パッケージ化に伴い、区分の修正。</p>
項目	区分	舗装厚	敷設厚	規格 (材料)	施工幅	単 位	数 量	備 考																																																										
フィルター層		—	○	○	—	m ²																																																												
透水性アスファルト舗装		○	—	○	○	m ²																																																												
項目	区分	舗装厚	敷設厚	規格 (材料)	施工幅	平均幅員	平均厚さ	締固め後密度	単 位	数 量	備 考																																																							
フィルター層		—	○	○	—		○		m ²																																																									
透水性アスファルト舗装		○	—	○	○	○	○	○	m ²																																																									
積算上の注意事項																																																																		

改正理由	現 行	改 正	改 正 現 行	備 考																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
	<p>2章 付属施設工</p> <p>2.1 排水構造物工</p> <p>1. 適用</p> <p>排水構造物工としてプレキャスト製品によるU型側溝（落蓋形、鉄筋コンクリートベンチフリュームを含む）、L形側溝、ヒューム管、ボックスカルバート、蓋版、PC管、自由勾配側溝（プレキャスト製品を設置し、底部コンクリートを現場打する）、暗渠排水管（硬質塩化ビニル管、ポリエチレン管等の有孔・無孔管）、管（函）渠型側溝、集水樹、コルゲートパイプ、コルゲートフリューム、マンホール、鉄筋コンクリート台付管を施工する場合に適用する。</p> <p>2. 数量算出項目</p> <p>排水構造物工の延長、又は設置基数を区分ごとに算出する。</p> <p>3. 区分</p> <p>区分は、規格、施工箇所、基礎とする。</p> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">項 目</th> <th rowspan="2">区 分</th> <th rowspan="2">規格</th> <th rowspan="2">施工箇所</th> <th colspan="2">基 礎</th> <th rowspan="2">単位</th> <th rowspan="2">数量</th> <th rowspan="2">備考</th> </tr> <tr> <th>必要性の有無</th> <th>数 量</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>U型側溝</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>—</td><td>○</td><td>m</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>L形側溝</td><td>○</td><td>×</td><td>×</td><td>○</td><td>× 注1</td><td>m</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>ヒューム管</td><td>○</td><td>×</td><td>×</td><td>—</td><td>—</td><td>m</td><td></td><td></td></tr> <tr><td> 巻きコンクリート</td><td>○</td><td>×</td><td>×</td><td>○</td><td>× 注1</td><td>m3</td><td></td><td>注3</td></tr> <tr><td> 鉄筋</td><td>○</td><td>×</td><td>×</td><td>×</td><td>×</td><td>t</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>ボックスカルバート</td><td>○</td><td>×</td><td>×</td><td>○</td><td>× 注1</td><td>m</td><td></td><td>注4</td></tr> <tr><td>蓋版</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>—</td><td>—</td><td>枚</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>PC管</td><td>○</td><td>×</td><td>×</td><td>—</td><td>○</td><td>m</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>自由勾配側溝</td><td>○</td><td>×</td><td>×</td><td>—</td><td>○</td><td>m</td><td></td><td>注5</td></tr> <tr><td>暗渠排水管</td><td>○</td><td>×</td><td>×</td><td>—</td><td>—</td><td>m</td><td></td><td>注6</td></tr> <tr><td> フィルター材</td><td>○</td><td>×</td><td>×</td><td>×</td><td>×</td><td>m3</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>管（函）渠型側溝</td><td>○</td><td>×</td><td>×</td><td>○</td><td>× 注1</td><td>m</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>集水樹</td><td>○</td><td>×</td><td>×</td><td>○</td><td>× 注1</td><td>基</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>コルゲートパイプ</td><td>○</td><td>×</td><td>×</td><td>—</td><td>○</td><td>m</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>コルゲートフリューム</td><td>○</td><td>×</td><td>×</td><td>—</td><td>○</td><td>m</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>マンホール</td><td>○</td><td>×</td><td>×</td><td>○</td><td>× 注1,2</td><td>基</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>鉄筋コンクリート台付管</td><td>○</td><td>×</td><td>×</td><td>○</td><td>× 注1</td><td>m</td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>	項 目	区 分	規格	施工箇所	基 礎		単位	数量	備考	必要性の有無	数 量	U型側溝	○	○	○	—	○	m			L形側溝	○	×	×	○	× 注1	m			ヒューム管	○	×	×	—	—	m			巻きコンクリート	○	×	×	○	× 注1	m3		注3	鉄筋	○	×	×	×	×	t			ボックスカルバート	○	×	×	○	× 注1	m		注4	蓋版	○	○	○	—	—	枚			PC管	○	×	×	—	○	m			自由勾配側溝	○	×	×	—	○	m		注5	暗渠排水管	○	×	×	—	—	m		注6	フィルター材	○	×	×	×	×	m3			管（函）渠型側溝	○	×	×	○	× 注1	m			集水樹	○	×	×	○	× 注1	基			コルゲートパイプ	○	×	×	—	○	m			コルゲートフリューム	○	×	×	—	○	m			マンホール	○	×	×	○	× 注1,2	基			鉄筋コンクリート台付管	○	×	×	○	× 注1	m			<p>2章 付属施設工</p> <p>2.1 排水構造物工</p> <p>2.1.1 排水構造物工(プレキャスト製品)</p> <p>1. 適用</p> <p>排水構造物工としてプレキャスト製品によるU型側溝（落蓋形、鉄筋コンクリートベンチフリュームを含む）、L形側溝、ヒューム管、ボックスカルバート、蓋版、PC管、自由勾配側溝（プレキャスト製品を設置し、底部コンクリートを現場打する）、暗渠排水管（硬質塩化ビニル管、ポリエチレン管等の有孔・無孔管）、管（函）渠型側溝、集水樹、コルゲートパイプ、コルゲートフリューム、マンホール、鉄筋コンクリート台付管を施工する場合に適用する。</p> <p>2. 数量算出項目</p> <p>排水構造物工の延長、又は設置基数を区分ごとに算出する。</p> <p>3. 区分</p> <p>区分は、規格、施工箇所、基礎数量算出項目及び区分一覧表によるものとする。</p> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">項 目</th> <th rowspan="2">区 分</th> <th rowspan="2">規格</th> <th rowspan="2">施工箇所</th> <th colspan="2">基 礎</th> <th rowspan="2">単位</th> <th rowspan="2">数量</th> <th rowspan="2">備考</th> </tr> <tr> <th>必要性の有無</th> <th>数 量</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>U型側溝</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>—</td><td>○</td><td>m</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>L形側溝</td><td>○</td><td>×</td><td>×</td><td>○</td><td>× 注1</td><td>m</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>ヒューム管</td><td>○</td><td>×</td><td>×</td><td>—</td><td>—</td><td>m</td><td></td><td></td></tr> <tr><td> 巻きコンクリート</td><td>○</td><td>×</td><td>×</td><td>○</td><td>× 注1</td><td>m3</td><td></td><td>注3</td></tr> <tr><td> 鉄筋</td><td>○</td><td>×</td><td>×</td><td>×</td><td>×</td><td>t</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>ボックスカルバート</td><td>○</td><td>×</td><td>×</td><td>○</td><td>× 注1</td><td>m</td><td></td><td>注4</td></tr> <tr><td>蓋版</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>—</td><td>—</td><td>枚</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>PC管</td><td>○</td><td>×</td><td>×</td><td>—</td><td>○</td><td>m</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>自由勾配側溝</td><td>○</td><td>×</td><td>×</td><td>—</td><td>○</td><td>m</td><td></td><td>注5</td></tr> <tr><td>暗渠排水管</td><td>○</td><td>×</td><td>×</td><td>—</td><td>—</td><td>m</td><td></td><td>注6</td></tr> <tr><td> フィルター材</td><td>○</td><td>×</td><td>×</td><td>×</td><td>×</td><td>m3</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>管（函）渠型側溝</td><td>○</td><td>×</td><td>×</td><td>○</td><td>× 注1</td><td>m</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>集水樹</td><td>○</td><td>×</td><td>×</td><td>○</td><td>× 注1</td><td>基</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>コルゲートパイプ</td><td>○</td><td>×</td><td>×</td><td>—</td><td>○</td><td>m</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>コルゲートフリューム</td><td>○</td><td>×</td><td>×</td><td>—</td><td>○</td><td>m</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>マンホール</td><td>○</td><td>×</td><td>×</td><td>○</td><td>× 注1,2</td><td>基</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>鉄筋コンクリート台付管</td><td>○</td><td>×</td><td>×</td><td>○</td><td>× 注1</td><td>m</td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>	項 目	区 分	規格	施工箇所	基 礎		単位	数量	備考	必要性の有無	数 量	U型側溝	○	○	○	—	○	m			L形側溝	○	×	×	○	× 注1	m			ヒューム管	○	×	×	—	—	m			 巻きコンクリート	○	×	×	○	× 注1	m3		注3	 鉄筋	○	×	×	×	×	t			ボックスカルバート	○	×	×	○	× 注1	m		注4	蓋版	○	○	○	—	—	枚			PC管	○	×	×	—	○	m			自由勾配側溝	○	×	×	—	○	m		注5	暗渠排水管	○	×	×	—	—	m		注6	 フィルター材	○	×	×	×	×	m3			管（函）渠型側溝	○	×	×	○	× 注1	m			集水樹	○	×	×	○	× 注1	基			コルゲートパイプ	○	×	×	—	○	m			コルゲートフリューム	○	×	×	—	○	m			マンホール	○	×	×	○	× 注1,2	基			鉄筋コンクリート台付管	○	×	×	○	× 注1	m			<p>「排水構造物工」の施工パッケージ化に伴う改正。</p> <p>排水構造物の現場打ちを追加したため、プレキャスト製品を項立て。</p> <p>数量算出項目及び区分一覧表は排水構造物毎に作成。</p>
項 目	区 分					規格	施工箇所				基 礎		単位	数量	備考																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
		必要性の有無	数 量																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																								
U型側溝	○	○	○	—	○	m																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
L形側溝	○	×	×	○	× 注1	m																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
ヒューム管	○	×	×	—	—	m																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
巻きコンクリート	○	×	×	○	× 注1	m3		注3																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																			
鉄筋	○	×	×	×	×	t																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
ボックスカルバート	○	×	×	○	× 注1	m		注4																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																			
蓋版	○	○	○	—	—	枚																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
PC管	○	×	×	—	○	m																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
自由勾配側溝	○	×	×	—	○	m		注5																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																			
暗渠排水管	○	×	×	—	—	m		注6																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																			
フィルター材	○	×	×	×	×	m3																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
管（函）渠型側溝	○	×	×	○	× 注1	m																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
集水樹	○	×	×	○	× 注1	基																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
コルゲートパイプ	○	×	×	—	○	m																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
コルゲートフリューム	○	×	×	—	○	m																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
マンホール	○	×	×	○	× 注1,2	基																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
鉄筋コンクリート台付管	○	×	×	○	× 注1	m																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
項 目	区 分	規格	施工箇所	基 礎		単位	数量	備考																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																			
				必要性の有無	数 量																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																						
U型側溝	○	○	○	—	○	m																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
L形側溝	○	×	×	○	× 注1	m																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
ヒューム管	○	×	×	—	—	m																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
 巻きコンクリート	○	×	×	○	× 注1	m3		注3																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																			
 鉄筋	○	×	×	×	×	t																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
ボックスカルバート	○	×	×	○	× 注1	m		注4																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																			
蓋版	○	○	○	—	—	枚																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
PC管	○	×	×	—	○	m																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
自由勾配側溝	○	×	×	—	○	m		注5																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																			
暗渠排水管	○	×	×	—	—	m		注6																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																			
 フィルター材	○	×	×	×	×	m3																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
管（函）渠型側溝	○	×	×	○	× 注1	m																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
集水樹	○	×	×	○	× 注1	基																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
コルゲートパイプ	○	×	×	—	○	m																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
コルゲートフリューム	○	×	×	—	○	m																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
マンホール	○	×	×	○	× 注1,2	基																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
鉄筋コンクリート台付管	○	×	×	○	× 注1	m																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
積算上の注意事項																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																											

改正理由	現 行	改 正	改 正 現 行	備 考																																																																								
	<p>注) 1. 基礎碎石の敷均し厚が 20cm を超える場合は、「第 1 編 (共通編) 9. 1 碎石基礎工」により数量を算出する。</p> <p>2. 基礎碎石が円形断面以外となる場合は、「第 1 編 (共通編) 9. 1 碎石基礎工」により数量を算出する。</p> <p>3. 固定基礎の形式 (90° 巻き、180° 巻き、360° 巻き)、小運搬の作業の有無についても区分し、数量を算出する。</p> <p>4. PC 鋼材による縦締めの有無についても区分し、数量を算出する。</p> <p>5. 自由勾配側溝の底部コンクリートの数量は別途算出する。</p> <p>6. 管種別が波状管及び網状管の場合、継手の必要の有無についても区分し、数量を算出する。</p>	<p>注) 1. 基礎碎石の敷均し厚が 20cm を超える場合は、「第 1 編 (共通編) 9. 1 碎石基礎工」により数量を算出する。</p> <p>2. 基礎碎石が円形断面以外となる場合は、「第 1 編 (共通編) 9. 1 碎石基礎工」により数量を算出する。</p> <p>3. 固定基礎の形式 (90° 巻き、180° 巻き、360° 巻き)、小運搬の作業の有無についても区分し、数量を算出する。</p> <p>4. PC 鋼材による縦締めの有無についても区分し、数量を算出する。</p> <p>5. 自由勾配側溝の底部コンクリートの数量は別途算出する。</p> <p>6. 管種別が波状管及び網状管の場合、継手の必要の有無についても区分し、数量を算出する。</p> <p>①ヒューム管 (B形管)</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th style="width: 15%;">項目</th> <th style="width: 10%;">区 分</th> <th style="width: 10%;">作業 区分</th> <th style="width: 10%;">管径</th> <th style="width: 10%;">固定 基礎</th> <th style="width: 10%;">基礎 碎石</th> <th style="width: 10%;">規格</th> <th style="width: 10%;">生コン リート 規格</th> <th style="width: 10%;">単 位</th> <th style="width: 10%;">数 量</th> <th style="width: 10%;">備 考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ヒューム管 (B形管)</td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>m</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>注) 1. ヒューム管、B形管 (ソケット管) の据付、撤去、据付・撤去の場合である。</p> <p>2. 基礎碎石の敷均し厚は、20 cm以下を標準としており、これにより難しい場合は、別途考慮する。</p> <p>3. 基礎碎石は、材料の種別・規格にかかわらず適用できる。</p> <p>②ボックスカルバート</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th style="width: 15%;">項目</th> <th style="width: 10%;">区 分</th> <th style="width: 10%;">作業 区分</th> <th style="width: 10%;">製品長</th> <th style="width: 10%;">内空幅 ・ 内空高</th> <th style="width: 10%;">基礎材 種別</th> <th style="width: 10%;">PC鋼材 による 締固め</th> <th style="width: 10%;">単 位</th> <th style="width: 10%;">数 量</th> <th style="width: 10%;">備 考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ボックスカルバート</td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>m</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>注) 1. 1ブロックを1部材で構成するプレキャスト製ボックスカルバート (内空断面が台形タイプの物を含む) の据付、撤去、据付・撤去の場合である。</p> <p>2. 対象としている製品は、1ブロックを1部材で構成するボックスカルバートである。</p> <p>3. 内空断面が台形タイプの場合やインバート形状の場合の内空高、内空幅は、最大値とする。</p> <p>4. 縦締めは、直線部にのみ適用する。</p> <p>5. 基礎碎石の敷均し厚は、20 cm以下を標準としており、これにより難しい場合は、別途考慮する。</p> <p>6. 基礎碎石、均しコンクリートの材料は、種別・規格にかかわらず適用できる。</p> <p>③暗渠排水管</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th style="width: 15%;">項目</th> <th style="width: 10%;">区 分</th> <th style="width: 10%;">作業 区分</th> <th style="width: 10%;">管種別</th> <th style="width: 10%;">呼び径</th> <th style="width: 10%;">継手 材料費</th> <th style="width: 10%;">単 位</th> <th style="width: 10%;">数 量</th> <th style="width: 10%;">備 考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>暗渠排水管</td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>m</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>注) 1. 硬質塩化ビニル管、ポリエチレン管等の有孔・無孔管の据付、撤去、据付・撤去の場合である。</p> <p>2. 暗渠排水管の敷設であり、埋設を行わない地上露出配管の敷設は、別途考慮する。</p> <p>④フィルター材</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th style="width: 15%;">項目</th> <th style="width: 10%;">区 分</th> <th style="width: 10%;">フィルター材の種類</th> <th style="width: 10%;">単 位</th> <th style="width: 10%;">数 量</th> <th style="width: 10%;">備 考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>フィルター材</td> <td></td> <td>○</td> <td>m³</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>注) 1. 暗渠排水管の敷設に伴うフィルター材 (クラッシュラン・単粒度碎石等) の敷設の場合である。</p>	項目	区 分	作業 区分	管径	固定 基礎	基礎 碎石	規格	生コン リート 規格	単 位	数 量	備 考	ヒューム管 (B形管)		○	○	○	○	○	○	m			項目	区 分	作業 区分	製品長	内空幅 ・ 内空高	基礎材 種別	PC鋼材 による 締固め	単 位	数 量	備 考	ボックスカルバート		○	○	○	○	○	m			項目	区 分	作業 区分	管種別	呼び径	継手 材料費	単 位	数 量	備 考	暗渠排水管		○	○	○	○	m			項目	区 分	フィルター材の種類	単 位	数 量	備 考	フィルター材		○	m ³				数量算出項目及び区分一覧表は排水構造物毎に作成。
項目	区 分	作業 区分	管径	固定 基礎	基礎 碎石	規格	生コン リート 規格	単 位	数 量	備 考																																																																		
ヒューム管 (B形管)		○	○	○	○	○	○	m																																																																				
項目	区 分	作業 区分	製品長	内空幅 ・ 内空高	基礎材 種別	PC鋼材 による 締固め	単 位	数 量	備 考																																																																			
ボックスカルバート		○	○	○	○	○	m																																																																					
項目	区 分	作業 区分	管種別	呼び径	継手 材料費	単 位	数 量	備 考																																																																				
暗渠排水管		○	○	○	○	m																																																																						
項目	区 分	フィルター材の種類	単 位	数 量	備 考																																																																							
フィルター材		○	m ³																																																																									
積算上の注意事項																																																																												

改正理由	現 行	改 正	改 正 現 行	備 考																																																														
		<p>⑤管（函）渠型側溝</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 20%;">項目</th> <th style="width: 10%;">区 分</th> <th style="width: 10%;">作業 区分</th> <th style="width: 10%;">内径 又は 内空 幅</th> <th style="width: 10%;">基礎 碎石 の 有無</th> <th style="width: 10%;">単 位</th> <th style="width: 10%;">数 量</th> <th style="width: 10%;">備 考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>管（函）渠型側溝</td> <td></td> <td style="text-align: center;">○</td> <td style="text-align: center;">○</td> <td style="text-align: center;">○</td> <td style="text-align: center;">m2</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>注) 1. 車道部、歩道部等の側溝を兼ねた排水構造物の据付、撤去、据付・撤去の場合である。 2. 基礎碎石の敷均し厚は、20 cm以下を標準としており、これにより難しい場合は、別途考慮する。 3. 撤去作業の場合、基礎碎石は含まない。 4. 基礎碎石は、材料の種別・規格にかかわらず適用できる。</p> <p>⑥プレキャスト集水桝</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 20%;">項目</th> <th style="width: 10%;">区 分</th> <th style="width: 10%;">作業 区分</th> <th style="width: 10%;">製品 質量</th> <th style="width: 10%;">基礎 碎石 の 有無</th> <th style="width: 10%;">単 位</th> <th style="width: 10%;">数 量</th> <th style="width: 10%;">備 考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>プレキャスト集水桝</td> <td></td> <td style="text-align: center;">○</td> <td style="text-align: center;">○</td> <td style="text-align: center;">○</td> <td style="text-align: center;">基</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>注) 1. プレキャスト製集水桝の据付、撤去、据付・撤去の場合である。 2. 蓋版の有無にかかわらず適用できる。 3. 基礎碎石の敷均し厚は、20 cm以下を標準としており、これにより難しい場合は、別途考慮する。 4. 撤去作業の場合、基礎碎石は含まない。 5. 基礎碎石は、材料の種別・規格にかかわらず適用できる。</p> <p>⑦鉄筋コンクリート台付管</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 20%;">項目</th> <th style="width: 10%;">区 分</th> <th style="width: 10%;">作業 区分</th> <th style="width: 10%;">管 径</th> <th style="width: 10%;">単 位</th> <th style="width: 10%;">数 量</th> <th style="width: 10%;">備 考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>鉄筋コンクリート台付管</td> <td></td> <td style="text-align: center;">○</td> <td style="text-align: center;">○</td> <td style="text-align: center;">m</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>注) 1. 管断面の内側の形状が円形又は卵形であって、かつ、管断面の外側の下部もしくは上下部の一部がフラットになっている（管断面の外側の形状が方形もしくは六角形になっているものを含む）プレキャスト製鉄筋コンクリート台付管の据付、撤去、据付・撤去の場合である。 2. 断面が卵形の場合の管径は、内幅とする。 3. 基礎碎石の敷均し厚は、20 cm以下を標準としており、これにより難しい場合は、別途考慮する。 4. 撤去作業の場合、基礎碎石は含まない。 5. 基礎碎石は、材料の種別・規格にかかわらず適用できる。</p> <p>⑧プレキャストL形側溝</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 20%;">項目</th> <th style="width: 10%;">区 分</th> <th style="width: 10%;">作業 区分</th> <th style="width: 10%;">基礎 碎石 の 有無</th> <th style="width: 10%;">L型 側溝 の 種類</th> <th style="width: 10%;">単 位</th> <th style="width: 10%;">数 量</th> <th style="width: 10%;">備 考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>プレキャストL形側溝</td> <td></td> <td style="text-align: center;">○</td> <td style="text-align: center;">○</td> <td style="text-align: center;">○</td> <td style="text-align: center;">m</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>注) 1. プレキャスト製L形側溝の据付、撤去、据付・撤去の場合である。 2. 基礎碎石の敷均し厚は、20 cm以下を標準としており、これにより難しい場合は、別途考慮する。 3. 撤去作業の場合、基礎碎石は含まない。 4. 基礎碎石は、材料の種別・規格にかかわらず適用できる。</p>	項目	区 分	作業 区分	内径 又は 内空 幅	基礎 碎石 の 有無	単 位	数 量	備 考	管（函）渠型側溝		○	○	○	m2			項目	区 分	作業 区分	製品 質量	基礎 碎石 の 有無	単 位	数 量	備 考	プレキャスト集水桝		○	○	○	基			項目	区 分	作業 区分	管 径	単 位	数 量	備 考	鉄筋コンクリート台付管		○	○	m			項目	区 分	作業 区分	基礎 碎石 の 有無	L型 側溝 の 種類	単 位	数 量	備 考	プレキャストL形側溝		○	○	○	m				<p>施工パッケージ化に伴い、数量算出項目及び区分一覧表は排水構造物毎に作成。</p>
項目	区 分	作業 区分	内径 又は 内空 幅	基礎 碎石 の 有無	単 位	数 量	備 考																																																											
管（函）渠型側溝		○	○	○	m2																																																													
項目	区 分	作業 区分	製品 質量	基礎 碎石 の 有無	単 位	数 量	備 考																																																											
プレキャスト集水桝		○	○	○	基																																																													
項目	区 分	作業 区分	管 径	単 位	数 量	備 考																																																												
鉄筋コンクリート台付管		○	○	m																																																														
項目	区 分	作業 区分	基礎 碎石 の 有無	L型 側溝 の 種類	単 位	数 量	備 考																																																											
プレキャストL形側溝		○	○	○	m																																																													
積算上の注意事項																																																																		

改正理由	現行	改正 現行	備考																																																																		
		<p>⑨プレキャストマンホール</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>区分</th> <th>作業区分</th> <th>製品質量</th> <th>基礎碎石の有無</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>プレキャストマンホール</td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>基</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>注) 1. プレキャスト製マンホールの据付、撤去、据付・撤去の場合である。 2. 基礎碎石の敷均し厚は、20 cm以下を標準としており、これにより難しい場合は、別途考慮する。 3. 撤去作業の場合、基礎碎石は含まない。 4. 基礎碎石は、材料の種別・規格にかかわらず適用できる。</p> <p>⑩PC管</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>区分</th> <th>作業区分</th> <th>管径</th> <th>固定基礎</th> <th>生コンクリート規格</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>PC管</td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>m</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>注) 1. PC管の据付、撤去、据付・撤去の場合である。 2. 撤去作業、据付・撤去作業は、PC管のみを対象としている。</p> <p>⑪コルゲートパイプ</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>区分</th> <th>作業区分</th> <th>規格</th> <th>パイプ径</th> <th>形式</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>コルゲートパイプ</td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>m</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>注) 1. コルゲートパイプの据付、撤去、据付・撤去の場合である。</p> <p>⑫コルゲートフリューム</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>区分</th> <th>作業区分</th> <th>規格</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>コルゲートフリューム</td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td>m</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>注) 1. コルゲートフリュームの据付、撤去、据付・撤去の場合である。</p>	項目	区分	作業区分	製品質量	基礎碎石の有無	単位	数量	備考	プレキャストマンホール		○	○	○	基			項目	区分	作業区分	管径	固定基礎	生コンクリート規格	単位	数量	備考	PC管		○	○	○	○	m			項目	区分	作業区分	規格	パイプ径	形式	単位	数量	備考	コルゲートパイプ		○	○	○	○	m			項目	区分	作業区分	規格	単位	数量	備考	コルゲートフリューム		○	○	m			<p>施工パッケージ化に伴い、数量算出項目及び区分一覧表は排水構造物毎に作成。</p>
項目	区分	作業区分	製品質量	基礎碎石の有無	単位	数量	備考																																																														
プレキャストマンホール		○	○	○	基																																																																
項目	区分	作業区分	管径	固定基礎	生コンクリート規格	単位	数量	備考																																																													
PC管		○	○	○	○	m																																																															
項目	区分	作業区分	規格	パイプ径	形式	単位	数量	備考																																																													
コルゲートパイプ		○	○	○	○	m																																																															
項目	区分	作業区分	規格	単位	数量	備考																																																															
コルゲートフリューム		○	○	m																																																																	
積算上の注意事項																																																																					

改正理由	現行	改正	備考																														
	<p>(2) 施工箇所区分 施工箇所区分は下表のとおりとする。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 15%;">項</th> <th style="width: 15%;">目</th> <th style="width: 70%;">施 工 箇 所 区 分</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3" style="text-align: center;">U 型 側 溝</td> <td></td> <td style="text-align: center;">一 般 部</td> </tr> <tr> <td></td> <td style="text-align: center;">法 面 小 段 面 部</td> </tr> <tr> <td></td> <td style="text-align: center;">法 面 縦 排 水 部</td> </tr> <tr> <td rowspan="2" style="text-align: center;">蓋 版</td> <td></td> <td style="text-align: center;">一 般 部</td> </tr> <tr> <td></td> <td style="text-align: center;">法 面 小 段 面 部</td> </tr> </tbody> </table> <p>(3) 基礎区分 必要性の有無：基礎砕石、均し（基礎）コンクリートについて判定する。 数 量：必要に応じて、基礎砕石、均し（基礎）コンクリートの数量を算出する。 ・基礎砕石は、「第1編（共通編）9. 1 砕石基礎工」により数量を算出する。 ・均し（基礎）コンクリートは、「第1編（共通編）4. 1 コンクリート工」により数量を算出する。 ・コルゲートパイプ、コルゲートフリームの場合は、必要に応じて敷砂の数量も算出する。</p> <p>4. 数量算出方法 数量の算出は、「第1編（共通編）1章基本事項」によるほか下記の方法によるものとする。</p> <p>(1) 施工延長（L）のとり方は、下図のとおりとする。</p>  <p>(2) 各項目の土工（床掘り・埋戻し）、自由勾配側溝の底部コンクリートの数量は別途算出する。</p>	項	目	施 工 箇 所 区 分	U 型 側 溝		一 般 部		法 面 小 段 面 部		法 面 縦 排 水 部	蓋 版		一 般 部		法 面 小 段 面 部	<p>(2) 施工箇所区分 施工箇所区分は、下表のとおりとする。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 15%;">項</th> <th style="width: 15%;">目</th> <th style="width: 70%;">施 工 箇 所 区 分</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3" style="text-align: center;">U 型 側 溝</td> <td></td> <td style="text-align: center;">一 般 部</td> </tr> <tr> <td></td> <td style="text-align: center;">法 面 小 段 面 部</td> </tr> <tr> <td></td> <td style="text-align: center;">法 面 縦 排 水 部</td> </tr> <tr> <td rowspan="2" style="text-align: center;">蓋 版</td> <td></td> <td style="text-align: center;">一 般 部</td> </tr> <tr> <td></td> <td style="text-align: center;">法 面 小 段 面 部</td> </tr> </tbody> </table> <p>(3) 基礎区分 必要性の有無：基礎砕石、均し（基礎）コンクリートについて判定する。 数 量：必要に応じて、基礎砕石、均し（基礎）コンクリートの数量を算出する。 ・基礎砕石は、「第1編（共通編）9. 1 砕石基礎工」により数量を算出する。 ・均し（基礎）コンクリートは、「第1編（共通編）4. 1 コンクリート工」により数量を算出する。 ・コルゲートパイプ、コルゲートフリームの場合は、必要に応じて敷砂の数量も算出する。</p> <p>4. 数量算出方法 数量の算出は、「第1編（共通編）1章基本事項」によるほか、下記の方法によるものとする。</p> <p>(1) 施工延長（L）のとり方は、下図のとおりとする。</p>  <p>(2) 各項目の土工（床掘り・埋戻し）、自由勾配側溝の底部コンクリートの数量は、別途算出する。</p>	項	目	施 工 箇 所 区 分	U 型 側 溝		一 般 部		法 面 小 段 面 部		法 面 縦 排 水 部	蓋 版		一 般 部		法 面 小 段 面 部	
項	目	施 工 箇 所 区 分																															
U 型 側 溝		一 般 部																															
		法 面 小 段 面 部																															
		法 面 縦 排 水 部																															
蓋 版		一 般 部																															
		法 面 小 段 面 部																															
項	目	施 工 箇 所 区 分																															
U 型 側 溝		一 般 部																															
		法 面 小 段 面 部																															
		法 面 縦 排 水 部																															
蓋 版		一 般 部																															
		法 面 小 段 面 部																															
積算上の注意事項																																	

改正理由	現 行	改 正	備 考																		
		<p>2. 1. 2 排水構造物工(現場打ち水路)</p> <p>1. 適用</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">現場打ちのU型側溝(本体)(落蓋型を含む)に適用する。</div> <p>2. 数量算出項目</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">現場打ち水路(本体)の延長を区分ごとに算出する。</div> <p>3. 区分</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">区分は、コンクリート規格、内空高、10m当りコンクリート使用量、養生工の種類とする。</div> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th style="width: 15%;">項目</th> <th style="width: 10%;">区分</th> <th style="width: 10%;">コンクリート規格</th> <th style="width: 10%;">内空高</th> <th style="width: 10%;">10m当りコンクリート使用量</th> <th style="width: 10%;">養生工の種類</th> <th style="width: 10%;">単位</th> <th style="width: 10%;">数量</th> <th style="width: 10%;">備 考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>現場打ち水路(本体)</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>m</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>注) 1. 基礎碎石の敷均し厚は、20cm以下を標準とする。</p>	項目	区分	コンクリート規格	内空高	10m当りコンクリート使用量	養生工の種類	単位	数量	備 考	現場打ち水路(本体)	○	○	○	○	○	m			<p>「排水構造物工(現場打ち水路)」の施工パッケージ化に伴い、数量算出要領に新たに追加。</p>
項目	区分	コンクリート規格	内空高	10m当りコンクリート使用量	養生工の種類	単位	数量	備 考													
現場打ち水路(本体)	○	○	○	○	○	m															
積算上の注意事項																					

改正理由	現行	改正	備考																
		<p>2.1.3 排水構造物工(現場打ち集水枡・街渠枡)</p> <p>1. 適用</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">現場打ちの集水枡・街渠枡(本体)に適用する。</div> <p>2. 数量算出項目</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">現場打ち集水枡・街渠枡(本体)の箇所数を区分ごとに算出する。</div> <p>3. 区分</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">区分は、コンクリート規格、1箇所当りコンクリート使用量、養生工の種類とする。</div> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1" data-bbox="1380 789 2433 932"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>区分</th> <th>コンクリート規格</th> <th>1箇所当りコンクリート使用量</th> <th>養生工の種類</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>現場打ち集水枡・街渠枡(本体)</td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>箇所</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>注) 1. 基礎碎石の敷均し厚は、20cm以下を標準とする。</p>	項目	区分	コンクリート規格	1箇所当りコンクリート使用量	養生工の種類	単位	数量	備考	現場打ち集水枡・街渠枡(本体)		○	○	○	箇所			<p>「排水構造物工(現場打ち集水枡・街渠枡)」の施工パッケージ化に伴い、数量算出要領に新たに追加。</p>
項目	区分	コンクリート規格	1箇所当りコンクリート使用量	養生工の種類	単位	数量	備考												
現場打ち集水枡・街渠枡(本体)		○	○	○	箇所														
積算上の注意事項																			

改正理由		改正 現行																																																								
現行	改正	備考																																																								
<p>2.2.2 立入防止柵工</p> <p>1. 適用 柵高2m以下、支柱間隔2mの人力建込みによる立入防止柵（金網柵）の設置・撤去・再利用設置に適用する。</p> <p>2. 数量算出項目 立入防止柵の延長を区分ごとに算出する。</p> <p>3. 区分 区分は、規格、作業区分とする。</p> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1" data-bbox="151 869 1264 1115"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>区分</th> <th>規格</th> <th>作業区分</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>基礎ブロック（立入防止柵）</td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td>個</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>金網（フェンス）・支柱（立入防止柵）</td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td>m</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>支柱工</td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td>本</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>(注) 1. 支柱のみを設置、撤去、撤去・再設置する場合は支柱工で算出する。</p> <p>(2) 作業区分 ①基礎ブロック（立入防止柵）、金網（フェンス）・支柱（立入防止柵） 作業区分は下記のとおりとする。 ①設置 ②撤去 ③再利用設置</p> <p>②支柱工 作業区分は下記のとおりとする。 ①設置 ②撤去 ③撤去・再設置</p> <p>4. 数量算出方法 数量の算出は、「第1編（共通編）1章基本事項」によるほか下記の方法によるものとする。</p> <p>(1) 基礎ブロック（立入防止柵）については総個数、金網（フェンス）・支柱（立入防止柵）については総延長、支柱工については総本数を上記作業区分ごとに算出する。</p>	項目	区分	規格	作業区分	単位	数量	備考	基礎ブロック（立入防止柵）		○	○	個			金網（フェンス）・支柱（立入防止柵）		○	○	m			支柱工		○	○	本			<p>2.2.2 立入防止柵工</p> <p>1. 適用 柵高2m以下、支柱間隔2mの人力建込みによる立入防止柵（金網柵）の設置・撤去・再利用設置に適用する。</p> <p>2. 数量算出項目 立入防止柵の基礎ブロックの個数、金網（フェンス）・支柱（立入防止柵）の延長、支柱の本数を区分ごとに算出する。</p> <p>3. 区分 区分は、規格、作業区分とする。</p> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1" data-bbox="1377 869 2490 1115"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>区分</th> <th>規格</th> <th>作業区分</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>基礎ブロック（立入防止柵）</td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td>個</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>金網（フェンス）・支柱（立入防止柵）</td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td>m</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>支柱工</td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td>本</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>(注) 1. 支柱のみを設置、撤去、撤去・再設置する場合は、支柱工で算出する。</p> <p>(2) 作業区分 ①基礎ブロック（立入防止柵）、金網（フェンス）・支柱（立入防止柵）、支柱 作業区分は、下記のとおりとする。 ①設置 ②撤去 ③再利用設置</p> <p>②支柱工 作業区分は下記のとおりとする。 ①設置 ②撤去 ③撤去・再設置</p> <p>4. 数量算出方法 数量の算出は、「第1編（共通編）1章基本事項」によるほか、下記の方法によるものとする。</p> <p>(1) 基礎ブロック（立入防止柵）については総個数、金網（フェンス）・支柱（立入防止柵）については、総延長、支柱工については総本数を上記作業区分ごとに算出する。</p>	項目	区分	規格	作業区分	単位	数量	備考	基礎ブロック（立入防止柵）		○	○	個			金網（フェンス）・支柱（立入防止柵）		○	○	m			支柱 工		○	○	本			<p>「支柱」の施工パッケージ化に伴う改正。</p> <p>「支柱」の区分を修正。</p> <p>①に支柱を追記して統合し、②支柱工の記述を削除。</p>
項目	区分	規格	作業区分	単位	数量	備考																																																				
基礎ブロック（立入防止柵）		○	○	個																																																						
金網（フェンス）・支柱（立入防止柵）		○	○	m																																																						
支柱工		○	○	本																																																						
項目	区分	規格	作業区分	単位	数量	備考																																																				
基礎ブロック（立入防止柵）		○	○	個																																																						
金網（フェンス）・支柱（立入防止柵）		○	○	m																																																						
支柱 工		○	○	本																																																						
積算上の注意事項																																																										

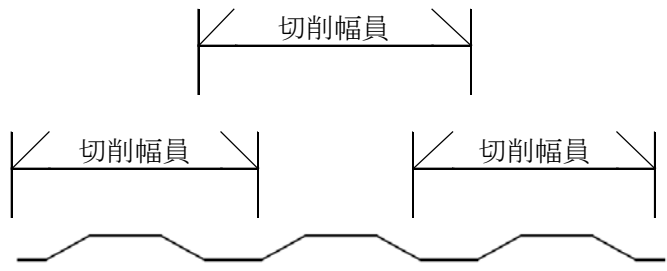

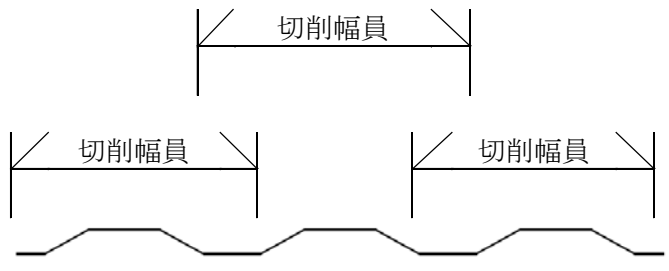

改正理由		改正 現行																																																				
現行	改正	備考																																																				
<p>2.2.3 車止めポスト設置工</p> <p>1. 適用</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">車止めポストの設置工に適用する。</div> <p>2. 数量算出項目</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">車止めポストの本数を区分ごとに算出する。</div> <p>3. 区分</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">区分は、規格とする。</div> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1" data-bbox="172 783 1068 903"> <thead> <tr> <th>項目 \ 区分</th> <th>規格</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>車止めポスト</td> <td>○</td> <td>本</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>4. 数量算出方法</p> <p>数量の算出は、「第1編（共通編）1章基本事項」によるほか下記の方法によるものとする。</p> <p>(1) 車止めポストの内訳は下記の項目で算出する。</p> <table border="1" data-bbox="172 1104 1068 1283"> <thead> <tr> <th>項目 \ 区分</th> <th>規格</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>車止めポスト</td> <td>○</td> <td>本</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>基礎ブロック</td> <td>○</td> <td>個</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	項目 \ 区分	規格	単位	数量	備考	車止めポスト	○	本			項目 \ 区分	規格	単位	数量	備考	車止めポスト	○	本			基礎ブロック	○	個			<p>2.2.3 車止めポスト設置工</p> <p>1. 適用</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">車止めポストの設置工に適用する。</div> <p>2. 数量算出項目</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">車止めポストの本数を区分ごとに算出する。</div> <p>3. 区分</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">区分は、規格、作業区分とする。</div> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1" data-bbox="1380 783 2412 903"> <thead> <tr> <th>項目 \ 区分</th> <th>規格</th> <th>作業区分</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>車止めポスト</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>本</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>注) 基礎ブロックの設置は、含まない。</p> <p>4. 数量算出方法</p> <p>数量の算出は、「第1編（共通編）1章基本事項」によるほか下記の方法によるものとする。</p> <p>(1) 車止めポストの内訳は下記の項目で算出する。</p> <table border="1" data-bbox="1391 1104 2294 1283"> <thead> <tr> <th>項目 \ 区分</th> <th>規格</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>車止めポスト</td> <td>○</td> <td>本</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>基礎ブロック</td> <td>○</td> <td>個</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	項目 \ 区分	規格	作業区分	単位	数量	備考	車止めポスト	○	○	本			項目 \ 区分	規格	単位	数量	備考	車止めポスト	○	本			基礎ブロック	○	個			<p>「車止めポスト」の施工パッケージ化に伴う改正。</p> <p>施工パッケージ化に伴う区分を修正、追加。</p> <p>(1)の注釈に基礎ブロックを含まない旨を追記したため、左記の表は削除。</p>
項目 \ 区分	規格	単位	数量	備考																																																		
車止めポスト	○	本																																																				
項目 \ 区分	規格	単位	数量	備考																																																		
車止めポスト	○	本																																																				
基礎ブロック	○	個																																																				
項目 \ 区分	規格	作業区分	単位	数量	備考																																																	
車止めポスト	○	○	本																																																			
項目 \ 区分	規格	単位	数量	備考																																																		
車止めポスト	○	本																																																				
基礎ブロック	○	個																																																				
積算上の注意事項																																																						

改正理由	現 行	改 正	改 正 現 行	備 考																																																																																															
	<p>2.6.2 路側工</p> <p>1. 適用</p> <p>歩車道境界ブロック、地先境界ブロック、インターロッキングブロック、ブロック規格が30cm×30cm及び40cm×40cmの平板ブロック（透水性ブロック含む）及び視覚障害者誘導用ブロック（点状ブロック、線状ブロック）の設置工及び撤去工に適用する。</p> <p>2. 数量算出項目</p> <p>歩車道境界ブロック、地先境界ブロックの延長、及びインターロッキングブロック、平板ブロック及び視覚障害者誘導用ブロックの面積を区分ごとに算出する。</p> <p>3. 区分</p> <p>区分は、規格とする。</p> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>区 分</th> <th>規 格</th> <th>単 位</th> <th>数 量</th> <th>備 考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>歩 車 道 境 界 ブ ロ ッ ク</td> <td>○</td> <td></td> <td>m</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>地 先 境 界 ブ ロ ッ ク</td> <td>○</td> <td></td> <td>m</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>イ ン タ ー ロ ッ キ ン グ ブ ロ ッ ク</td> <td>○</td> <td></td> <td>m²</td> <td></td> <td>敷材料の厚さと種類を明記</td> </tr> <tr> <td>平 板 ブ ロ ッ ク</td> <td>○</td> <td></td> <td>m²</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>視 覚 障 害 者 誘 導 用 ブ ロ ッ ク</td> <td>○</td> <td></td> <td>m²</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>(2) 規格区分</p> <p style="margin-left: 40px;"> 平板ブロック 30cm×30cm └── 40cm×40cm </p> <p>4. 数量算出方法</p> <p>数量の算出は、「第1編（共通編）1章基本事項」によるほか下記の方法によるものとする。</p> <p>(1) 土工（床掘り・埋戻し）、基礎（砕石・コンクリート等）、舗装版切断等が必要な場合は別途算出する。</p>	項目	区 分	規 格	単 位	数 量	備 考	歩 車 道 境 界 ブ ロ ッ ク	○		m			地 先 境 界 ブ ロ ッ ク	○		m			イ ン タ ー ロ ッ キ ン グ ブ ロ ッ ク	○		m ²		敷材料の厚さと種類を明記	平 板 ブ ロ ッ ク	○		m ²			視 覚 障 害 者 誘 導 用 ブ ロ ッ ク	○		m ²			<p>2.6.2 路側工</p> <p>1. 適用</p> <p>歩車道境界ブロック、地先境界ブロック、インターロッキングブロック、ブロック規格が30cm×30cm及び40cm×40cmの平板ブロック（透水性ブロック含む）及び視覚障害者誘導用ブロック（点状ブロック、線状ブロック）の設置工及び撤去工に適用する。</p> <p>2. 数量算出項目</p> <p>歩車道境界ブロック、地先境界ブロックの延長、及びインターロッキングブロック、平板ブロック及び視覚障害者誘導用ブロックの面積を区分ごとに算出する。</p> <p>3. 区分</p> <p>区分は、規格、作業区分、均し基礎コンクリートの有無、養生工の種類、現場内小運搬の有無とする。</p> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>区 分</th> <th>規 格</th> <th>作 業 区 分</th> <th>均し基礎 コンクリートの 有無</th> <th>養 生 工 の 種 類</th> <th>現 場 内 小 運 搬 の 有 無</th> <th>単 位</th> <th>数 量</th> <th>備 考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>歩 車 道 境 界 ブ ロ ッ ク</td> <td>○</td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>m</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>地 先 境 界 ブ ロ ッ ク</td> <td>○</td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>m</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>イ ン タ ー ロ ッ キ ン グ ブ ロ ッ ク</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>m²</td> <td></td> <td>敷材料の厚さと種類を明記</td> </tr> <tr> <td>平 板 ブ ロ ッ ク</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>m²</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>視 覚 障 害 者 誘 導 用 ブ ロ ッ ク</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>m²</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>(2) 規格区分</p> <p style="margin-left: 40px;"> 平板ブロック 30cm×30cm └── 40cm×40cm </p> <p>4. 数量算出方法</p> <p>数量の算出は、「第1編（共通編）1章基本事項」によるほか、下記の方法によるものとする。</p> <p>(1) 土工（床掘り・埋戻し）、基礎（砕石・コンクリート等）、舗装版切断等が必要な場合は、別途算出する。</p>	項目	区 分	規 格	作 業 区 分	均し基礎 コンクリートの 有無	養 生 工 の 種 類	現 場 内 小 運 搬 の 有 無	単 位	数 量	備 考	歩 車 道 境 界 ブ ロ ッ ク	○		○	○	○	○	m			地 先 境 界 ブ ロ ッ ク	○		○	○	○	○	m			イ ン タ ー ロ ッ キ ン グ ブ ロ ッ ク	○						m ²		敷材料の厚さと種類を明記	平 板 ブ ロ ッ ク	○						m ²			視 覚 障 害 者 誘 導 用 ブ ロ ッ ク	○						m ²			<p style="color: red;">「歩車道境界ブロック」及び「地先境界ブロック」の施工パッケージ化に伴う改正。</p> <p style="color: red;">「歩車道境界ブロック」及び「地先境界ブロック」の区分を追記。</p>
項目	区 分	規 格	単 位	数 量	備 考																																																																																														
歩 車 道 境 界 ブ ロ ッ ク	○		m																																																																																																
地 先 境 界 ブ ロ ッ ク	○		m																																																																																																
イ ン タ ー ロ ッ キ ン グ ブ ロ ッ ク	○		m ²		敷材料の厚さと種類を明記																																																																																														
平 板 ブ ロ ッ ク	○		m ²																																																																																																
視 覚 障 害 者 誘 導 用 ブ ロ ッ ク	○		m ²																																																																																																
項目	区 分	規 格	作 業 区 分	均し基礎 コンクリートの 有無	養 生 工 の 種 類	現 場 内 小 運 搬 の 有 無	単 位	数 量	備 考																																																																																										
歩 車 道 境 界 ブ ロ ッ ク	○		○	○	○	○	m																																																																																												
地 先 境 界 ブ ロ ッ ク	○		○	○	○	○	m																																																																																												
イ ン タ ー ロ ッ キ ン グ ブ ロ ッ ク	○						m ²		敷材料の厚さと種類を明記																																																																																										
平 板 ブ ロ ッ ク	○						m ²																																																																																												
視 覚 障 害 者 誘 導 用 ブ ロ ッ ク	○						m ²																																																																																												
積算上の注意事項																																																																																																			

改正理由	現 行	改 正	改 正 現 行	備 考																																																																																					
	<p>2.6.4 道路付属物工</p> <p>1. 適用</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">視線誘導標、距離標、道路鋏、車線分離標の設置工及び撤去工に適用する。</div> <p>2. 数量算出項目</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">視線誘導標、距離標、道路鋏、車線分離標の数量を区分ごとに算出する。</div> <p>3. 区分</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">区分は、規格、設置形式とする。</div> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th>区分 項目</th> <th>規 格</th> <th>設 置 形 式</th> <th>単 位</th> <th>数 量</th> <th>備 考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>視線誘導標</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>本</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>距 離 標</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>枚</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>道 路 鋏</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>個</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>車線分離標</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>本</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>注) 視線誘導標は、標準型とスノーポール併用型に区分して算出する。</p> <p>(2) 規格区分 規格による区分は、下記のとおりとする。</p> <p>1) 視線誘導標〔標準型・スノーポール併用型〕</p> <table style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%;"> <1> 両面・片面の区分 ①両面反射 ②片面反射 </td> <td style="width: 50%;"> <2> 反射体の径 ①φ100mm以下 ②φ300mm </td> </tr> </table> <p><3> 支柱径（標準型の反射体径100mm以下のみ）</p> <table style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%;"> ①φ34mm ②φ60.5mm ③φ89mm </td> <td style="width: 50%; text-align: center;"> 土中建込用・コンクリート建込用 </td> </tr> </table> <p><4> 取り付け方式（標準型のみ）</p> <table style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%;"> ①バンド式 ②ボルト式 ③かぶせ式 ④側壁用 ⑤ベースプレート式 </td> <td style="width: 50%; text-align: center;"> 防護柵取付用 構造物取付用 </td> </tr> </table> <p><5> 反射体数（スノーポール併用型のみ）</p> <table style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%;"> ①1個 ②2個 </td> <td style="width: 50%;"></td> </tr> </table>	区分 項目	規 格	設 置 形 式	単 位	数 量	備 考	視線誘導標	○	○	本			距 離 標	○	○	枚			道 路 鋏	○	○	個			車線分離標	○	○	本			<1> 両面・片面の区分 ①両面反射 ②片面反射	<2> 反射体の径 ①φ100mm以下 ②φ300mm	①φ34mm ②φ60.5mm ③φ89mm	土中建込用・コンクリート建込用	①バンド式 ②ボルト式 ③かぶせ式 ④側壁用 ⑤ベースプレート式	防護柵取付用 構造物取付用	①1個 ②2個		<p>2.6.4 道路付属物工</p> <p>1. 適用</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">視線誘導標、距離標、道路鋏、車線分離標の設置工及び撤去工に適用する。</div> <p>2. 数量算出項目</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">視線誘導標、距離標、道路鋏、車線分離標の数量を区分ごとに算出する。</div> <p>3. 区分</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">区分は、規格、設置形式、作業区分、施工区分とする。</div> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th>区分 項目</th> <th>規 格</th> <th>設 置 形 式</th> <th>作 業 区 分</th> <th>施 工 区 分</th> <th>単 位</th> <th>数 量</th> <th>備 考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>視線誘導標</td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td>本</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>距 離 標</td> <td>⊖</td> <td>⊖</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>枚本</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>道 路 鋏</td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td>個</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>車線分離標</td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td>本</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>注) 視線誘導標は、標準型とスノーポール併用型に区分して算出する。</p> <p>(2) 規格区分 規格による区分は、下記のとおりとする。</p> <p>1) 視線誘導標〔標準型・スノーポール併用型〕</p> <table style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%;"> <1> 両面・片面の区分 ①両面反射 ②片面反射 </td> <td style="width: 50%;"> <2> 反射体の径 ①φ100mm以下 ②φ300mm </td> </tr> </table> <p><3> 支柱径（標準型の反射体径100mm以下のみ）</p> <table style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%;"> ①φ34mm ②φ60.5mm ③φ89mm </td> <td style="width: 50%; text-align: center;"> 土中建込用・コンクリート建込用 </td> </tr> </table> <p><4> 取り付け方式（標準型のみ）</p> <table style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%;"> ①バンド式 ②ボルト式 ③かぶせ式 ④側壁用 ⑤ベースプレート式 </td> <td style="width: 50%; text-align: center;"> 防護柵取付用 構造物取付用 </td> </tr> </table> <p><5> 反射体数（スノーポール併用型のみ）</p> <table style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%;"> ①1個 ②2個 </td> <td style="width: 50%;"></td> </tr> </table>	区分 項目	規 格	設 置 形 式	作 業 区 分	施 工 区 分	単 位	数 量	備 考	視線誘導標	○	○			本			距 離 標	⊖	⊖	○	○	枚 本			道 路 鋏	○	○			個			車線分離標	○	○			本			<1> 両面・片面の区分 ①両面反射 ②片面反射	<2> 反射体の径 ①φ100mm以下 ②φ300mm	①φ34mm ②φ60.5mm ③φ89mm	土中建込用・コンクリート建込用	①バンド式 ②ボルト式 ③かぶせ式 ④側壁用 ⑤ベースプレート式	防護柵取付用 構造物取付用	①1個 ②2個		<p>「距離標」の施工パッケージ化に伴う改正。</p> <p>「距離標」の区分を修正。</p>
区分 項目	規 格	設 置 形 式	単 位	数 量	備 考																																																																																				
視線誘導標	○	○	本																																																																																						
距 離 標	○	○	枚																																																																																						
道 路 鋏	○	○	個																																																																																						
車線分離標	○	○	本																																																																																						
<1> 両面・片面の区分 ①両面反射 ②片面反射	<2> 反射体の径 ①φ100mm以下 ②φ300mm																																																																																								
①φ34mm ②φ60.5mm ③φ89mm	土中建込用・コンクリート建込用																																																																																								
①バンド式 ②ボルト式 ③かぶせ式 ④側壁用 ⑤ベースプレート式	防護柵取付用 構造物取付用																																																																																								
①1個 ②2個																																																																																									
区分 項目	規 格	設 置 形 式	作 業 区 分	施 工 区 分	単 位	数 量	備 考																																																																																		
視線誘導標	○	○			本																																																																																				
距 離 標	⊖	⊖	○	○	枚 本																																																																																				
道 路 鋏	○	○			個																																																																																				
車線分離標	○	○			本																																																																																				
<1> 両面・片面の区分 ①両面反射 ②片面反射	<2> 反射体の径 ①φ100mm以下 ②φ300mm																																																																																								
①φ34mm ②φ60.5mm ③φ89mm	土中建込用・コンクリート建込用																																																																																								
①バンド式 ②ボルト式 ③かぶせ式 ④側壁用 ⑤ベースプレート式	防護柵取付用 構造物取付用																																																																																								
①1個 ②2個																																																																																									
積算上の注意事項																																																																																									

改 正 理 由	現 行	改 正	改 正 現 行	備 考
	<p>2) 距離標</p> <p>〈1〉 距離標種別</p> <p>①キロ標</p> <p>②百米標</p> <p>3) 道路鋸</p> <p>〈1〉 道路鋸の種類</p> <p>①大型鋸 (高さ 30mm を超え 50mm 以下)</p> <p>②小型鋸 (高さ 30mm 以下)</p> <p>〈2〉 両面・片面の区分</p> <p>①両面反射</p> <p>②片面反射</p> <p>〈3〉 材質</p> <p>①アルミ製</p> <p>②樹脂製</p> <p>〈4〉 設置幅区分</p> <p>①30cm } 大型鋸</p> <p>②20cm }</p> <p>③15cm } 小型鋸</p> <p>④10cm }</p> <p>※設置幅は、道路上に設置したときの幅であり、材料本体の幅ではない。</p> <p>4) 車線分離標</p> <p>〈1〉 高さ</p> <p>①400mm</p> <p>②650mm</p> <p>③800mm</p> <p>(3) 設置形式区分</p> <p>設置形式による区分は、下記のとおりとする。</p> <p>1) 視線誘導標</p> <p>①土中建込用</p> <p>②コンクリート建込用 (削孔含む)</p> <p>③コンクリート建込用 (削孔含まない)</p> <p>④防護柵取付用</p> <p>⑤構造物取付用</p> <p>2) 距離標</p> <p>①土中建込用</p> <p>②コンクリート建込用</p> <p>③構造物取付用</p> <p>3) 道路鋸</p> <p>①穿孔式</p> <p>②貼付式</p> <p>4) 車線分離標</p> <p>①可変式</p> <p>②着脱式</p> <p>③固定式</p> <p>4. 数量算出方法</p> <p>数量の算出は、「第1編 (共通編) 1章基本事項」によるほか下記の方法によるものとする。</p> <p>(1) 視線誘導標</p> <p>土中建込用においては、基礎を使用する場合も含めて算出すること。</p> <p>(2) 距離標</p> <p>距離標は、基礎 (既製、現場打別) 及び取付用アンカーボルト等の材料を別途算出する。</p>	<p>2) 距離標</p> <p>〈1〉 距離標種別</p> <p>①キロ標</p> <p>②百米標</p> <p>3) 道路鋸</p> <p>〈1〉 道路鋸の種類</p> <p>①大型鋸 (高さ 30mm を超え 50mm 以下)</p> <p>②小型鋸 (高さ 30mm 以下)</p> <p>〈2〉 両面・片面の区分</p> <p>①両面反射</p> <p>②片面反射</p> <p>〈3〉 材質</p> <p>①アルミ製</p> <p>②樹脂製</p> <p>〈4〉 設置幅区分</p> <p>①30cm } 大型鋸</p> <p>②20cm }</p> <p>③15cm } 小型鋸</p> <p>④10cm }</p> <p>※設置幅は、道路上に設置したときの幅であり、材料本体の幅ではない。</p> <p>4) 車線分離標</p> <p>〈1〉 高さ</p> <p>①400mm</p> <p>②650mm</p> <p>③800mm</p> <p>(3) 設置形式区分</p> <p>設置形式による区分は、下記のとおりとする。</p> <p>1) 視線誘導標</p> <p>①土中建込用</p> <p>②コンクリート建込用 (削孔含む)</p> <p>③コンクリート建込用 (削孔含まない)</p> <p>④防護柵取付用</p> <p>⑤構造物取付用</p> <p>2) 距離標</p> <p>①土中建込用</p> <p>②コンクリート建込用</p> <p>③構造物取付用</p> <p>3) 道路鋸</p> <p>①穿孔式</p> <p>②貼付式</p> <p>4) 車線分離標</p> <p>①可変式</p> <p>②着脱式</p> <p>③固定式</p> <p>4. 数量算出方法</p> <p>数量の算出は、「第1編 (共通編) 1章基本事項」によるほか、下記の方法によるものとする。</p> <p>(1) 視線誘導標</p> <p>土中建込用においては、基礎を使用する場合も含めて算出すること。</p> <p>(2) 距離標</p> <p>距離標は、基礎 (既製、現場打別) 及び取付用アンカーボルト等の材料を別途算出する。</p>		
積算上の注意事項				

改正理由	現 行	改 正	改 正 現 行	備 考																																																																																													
	<h3>3章 道路維持修繕工</h3> <h4>3.1 路面切削工</h4> <p>1. 適用</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">路面切削機によるアスファルト舗装路面の切削工に適用する。</div> <p>2. 数量算出項目</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">切削面積、平均切削深、切削量を区分ごとに算出する。</div> <p>3. 区分</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">区分は、施工箇所、施工形態とする。</div> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>区分</th> <th>施工箇所</th> <th>施工形態</th> <th>単 位</th> <th>数 量</th> <th>備 考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>切 削 面 積</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>m²</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>平 均 切 削 深</td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> <td>cm</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>切 削 量</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>(t) m³</td> <td>()</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>(2) 施工箇所区分 特殊結合材、特殊骨材及び熱可塑性樹脂入アスファルト等の特殊アスファルト区間は、各々別箇所とする。</p>	項目	区分	施工箇所	施工形態	単 位	数 量	備 考	切 削 面 積				m ²			平 均 切 削 深	○	○		cm			切 削 量				(t) m ³	()		<h3>3章 道路維持修繕工</h3> <h4>3.1 路面切削工</h4> <p>1. 適用</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">路面切削機によるアスファルト舗装路面の切削工に適用する。</div> <p>2. 数量算出項目</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">切削面積、平均切削深、切削量を区分ごとに算出する。</div> <p>3. 区分</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">区分は、施工箇所、施工形態施工区分、段差すりつけの撤去作業、D I D区間の有無、運搬距離とする。</div> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>区分</th> <th>施工箇所</th> <th>施工形態</th> <th>施工区分</th> <th>段差すりつけの撤去作業</th> <th>D I D区間の有無</th> <th>運搬距離</th> <th>単 位</th> <th>数 量</th> <th>備 考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>切 削 面 積</td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>m²</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>平 均 切 削 深</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>cm</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>切 削 量</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>(t) m³</td> <td>()</td> <td></td> </tr> <tr> <td>路 面 切 削</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td>m²</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>殻運搬 (路面切削)</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td>m³</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>(2) 施工箇所区分：平均切削深さ区分 特殊結合材、特殊骨材及び熱可塑性樹脂入アスファルト等の特殊アスファルト区間は、各々別箇所とする。 施工区分：平均切削深さによる区分は、以下のとおりとする。</p> <div style="margin-left: 40px;"> <p>施工区分：</p> <ul style="list-style-type: none"> — 全面切削 6cm 以下 (4000m² 以下) — 全面切削 6cm 以下 (4000m² を超え) — 全面切削 6cm を超え 12cm 以下 — 帯状切削 3cm 以下 </div>	項目	区分	施工箇所	施工形態	施工区分	段差すりつけの撤去作業	D I D区間の有無	運搬距離	単 位	数 量	備 考	切 削 面 積		○	○					m²			平 均 切 削 深								cm			切 削 量								(t) m³	()		路 面 切 削				○	○			m ²			殻運搬 (路面切削)						○	○	m ³			<p>「路面切削」及び「殻運搬 (路面切削)」の施工パッケージ化に伴う改正。</p> <p>「路面切削」及び「殻運搬 (路面切削)」の区分に修正。</p>
項目	区分	施工箇所	施工形態	単 位	数 量	備 考																																																																																											
切 削 面 積				m ²																																																																																													
平 均 切 削 深	○	○		cm																																																																																													
切 削 量				(t) m ³	()																																																																																												
項目	区分	施工箇所	施工形態	施工区分	段差すりつけの撤去作業	D I D区間の有無	運搬距離	単 位	数 量	備 考																																																																																							
切 削 面 積		○	○					m²																																																																																									
平 均 切 削 深								cm																																																																																									
切 削 量								(t) m³	()																																																																																								
路 面 切 削				○	○			m ²																																																																																									
殻運搬 (路面切削)						○	○	m ³																																																																																									
積算上の注意事項																																																																																																	

改 正 理 由		改 正 現 行	
	現 行	改 正	備 考
	<p>(3) 施工形態区分 1) 施工形態による区分は、切削形態により下記のとおりとする。</p> <p>① 全面切削 (切削幅が重複作業となるような作業形態の場合)</p>  <p>② 帯状切削 不陸部の切削幅が、路面切削機の切削幅より狭く、切削幅が重複作業とならない作業形態の場合</p>  <p>2) 1 施工箇所において、全面切削と帯状切削が混在する場合は、全面、帯状ごとに数量を算出する。</p> <p>4. 数量算出方法 数量の算出は、「第1編（共通編）1章基本事項」によるほか下記の方法によるものとする。</p> <p>(1) 平均切削深 平均切削深（H）は、次式により算出する。</p> $H = \frac{A v}{W} \times 100$ <p>H : 1 現場の平均切削深さ（cm） A v : 1 現場の平均切削断面積（m²） W : 平均切削幅員（m） なお、帯状切削の場合は、W = 2 m とする。</p> <p>(2) 帯状切削の施工面積 帯状切削の施工面積は、次式により算出する。 延べ施工面積 = 切削機の作業幅（2 m）× 延べ施工延長</p>	<p>(3) 施工形態区分 1) 施工形態による区分は、切削形態により下記のとおりとする。</p> <p>① 全面切削 (切削幅が重複作業となるような作業形態の場合)</p>  <p>② 帯状切削 不陸部の切削幅が、路面切削機の切削幅より狭く、切削幅が重複作業とならない作業形態の場合</p>  <p>2) 1 施工箇所において、全面切削と帯状切削が混在する場合は、全面、帯状ごとに数量を算出する。</p> <p>4. 数量算出方法 数量の算出は、「第1編（共通編）1章基本事項」によるほか、下記の方法によるものとする。</p> <p>(1) 平均切削深 平均切削深（H）は、次式により算出する。</p> $H = \frac{A v}{W} \times 100$ <p>H : 1 現場の平均切削深さ（cm） A v : 1 現場の平均切削断面積（m²） W : 平均切削幅員（m） なお、帯状切削の場合は、W = 2 m とする。</p> <p>(2) 帯状切削の施工面積 帯状切削の施工面積は、次式により算出する。 延べ施工面積 = 切削機の作業幅（2 m）× 延べ施工延長</p>	
積算上の注意事項			

改正理由	現 行	改 正	改 正 現 行	備 考																																																																																																																																														
	<p>3. 10 道路附属構造物塗替工</p> <p>1. 適用</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 道路標識柱、道路照明柱、防護柵等の道路附属構造物の現地塗替作業に適用するものであり、その内容は3種ケレン及び下塗、中塗、上塗の各作業である。 なお、橋梁（横断歩道橋を含む）については別途算出する。 </div> <p>2. 数量算出項目</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 道路附属物塗替の面積を区分ごとに算出する。 </div> <p>3. 区分</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 区分は、対象構造物、規格とする。 </div> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>区 分</th> <th>対象構造物</th> <th>規 格</th> <th>単 位</th> <th>数 量</th> <th>備 考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>素地調整</td> <td></td> <td>○</td> <td>×</td> <td>m²</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>下 塗</td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td>m²</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>中 塗</td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td>m²</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>上 塗</td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td>m²</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>(2) 対象構造物区分</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th>名 称</th> <th>構 造 物 名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ポール類</td> <td>道路標識柱、道路照明柱等</td> </tr> <tr> <td>防護柵類</td> <td>ガードレール、ガードパイプ、ガードフェンス等</td> </tr> <tr> <td>落石防止柵類</td> <td>防雪柵、落石防止柵、落石防止網、落石防護柵等</td> </tr> </tbody> </table> <p>(3) 規格区分 道路附属物塗替の面積を塗料の種類と色ごとに区分して算出する。</p>	項目	区 分	対象構造物	規 格	単 位	数 量	備 考	素地調整		○	×	m ²			下 塗		○	○	m ²			中 塗		○	○	m ²			上 塗		○	○	m ²			名 称	構 造 物 名	ポール類	道路標識柱、道路照明柱等	防護柵類	ガードレール、ガードパイプ、ガードフェンス等	落石防止柵類	防雪柵、落石防止柵、落石防止網、落石防護柵等	<p>3. 10 道路附属構造物塗替工</p> <p>1. 適用</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 道路標識柱、道路照明柱、防護柵等の道路附属構造物の現地塗替作業に適用するものであり、その内容は3種ケレン及び下塗、中塗、上塗の各作業である。 なお、橋梁（横断歩道橋を含む）については別途算出する。 </div> <p>2. 数量算出項目</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 道路附属物塗替の面積を区分ごとに算出する。 </div> <p>3. 区分</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 区分は、対象構造物、規格塗装種別、構造物区分、ペイント100m²/回当り使用量、塗装回数、機械使用区分とする。 </div> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">項 目</th> <th rowspan="2">区 分</th> <th>対象</th> <th>規格</th> <th>塗装</th> <th>構造</th> <th>ペイント</th> <th>塗装</th> <th>機械</th> <th rowspan="2">単 位</th> <th rowspan="2">数 量</th> <th rowspan="2">備 考</th> </tr> <tr> <th>構造</th> <th>規格</th> <th>種別</th> <th>物</th> <th>100m²</th> <th>回数</th> <th>使用</th> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <th>物</th> <th></th> <th></th> <th>区分</th> <th>/回当り</th> <th></th> <th>区分</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>素地調整</td> <td></td> <td>⊖</td> <td>×</td> <td></td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td>○</td> <td>m²</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>下 塗</td> <td></td> <td>⊖</td> <td>⊖</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>m²</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>中 塗</td> <td></td> <td>⊖</td> <td>⊖</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>m²</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>上 塗</td> <td></td> <td>⊖</td> <td>⊖</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>m²</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>附属構造物塗替</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>m²</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>注) 1. 素地調整作業の種別は、3種ケレンを標準とする。 2. 塗装作業の施工方法は、下塗、中塗、上塗とも刷毛塗りとする。</p> <p>(2) 対象構造物区分</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th>名 称</th> <th>構 造 物 名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ポール類</td> <td>道路標識柱、道路照明柱等</td> </tr> <tr> <td>防護柵類</td> <td>ガードレール、ガードパイプ、ガードフェンス等</td> </tr> <tr> <td>落石防止柵類</td> <td>防雪柵、落石防止柵、落石防止網、落石防護柵等</td> </tr> </tbody> </table> <p>(3) 規格区分 道路附属物塗替の面積を塗料の種類と色ごとに区分して算出する。</p>	項 目	区 分	対象	規格	塗装	構造	ペイント	塗装	機械	単 位	数 量	備 考	構造	規格	種別	物	100m ²	回数	使用			物			区分	/回当り		区分				素地調整		⊖	×		○			○	m ²			下 塗		⊖	⊖						m²			中 塗		⊖	⊖						m²			上 塗		⊖	⊖						m²			附属構造物塗替				○	○	○	○	○	m ²			名 称	構 造 物 名	ポール類	道路標識柱、道路照明柱等	防護柵類	ガードレール、ガードパイプ、ガードフェンス等	落石防止柵類	防雪柵、落石防止柵、落石防止網、落石防護柵等		<p>「素地調整」及び「附属構造物塗替」の施工パッケージ化に伴う改正。</p> <p>「素地調整」及び「附属構造物塗替」の区分に修正。</p>
項目	区 分	対象構造物	規 格	単 位	数 量	備 考																																																																																																																																												
素地調整		○	×	m ²																																																																																																																																														
下 塗		○	○	m ²																																																																																																																																														
中 塗		○	○	m ²																																																																																																																																														
上 塗		○	○	m ²																																																																																																																																														
名 称	構 造 物 名																																																																																																																																																	
ポール類	道路標識柱、道路照明柱等																																																																																																																																																	
防護柵類	ガードレール、ガードパイプ、ガードフェンス等																																																																																																																																																	
落石防止柵類	防雪柵、落石防止柵、落石防止網、落石防護柵等																																																																																																																																																	
項 目	区 分	対象	規格	塗装	構造	ペイント	塗装	機械	単 位	数 量	備 考																																																																																																																																							
		構造	規格	種別	物	100m ²	回数	使用																																																																																																																																										
		物			区分	/回当り		区分																																																																																																																																										
素地調整		⊖	×		○			○	m ²																																																																																																																																									
下 塗		⊖	⊖						m²																																																																																																																																									
中 塗		⊖	⊖						m²																																																																																																																																									
上 塗		⊖	⊖						m²																																																																																																																																									
附属構造物塗替				○	○	○	○	○	m ²																																																																																																																																									
名 称	構 造 物 名																																																																																																																																																	
ポール類	道路標識柱、道路照明柱等																																																																																																																																																	
防護柵類	ガードレール、ガードパイプ、ガードフェンス等																																																																																																																																																	
落石防止柵類	防雪柵、落石防止柵、落石防止網、落石防護柵等																																																																																																																																																	
積算上の注意事項																																																																																																																																																		

改正理由	現行	改正	備考
	<p>4. 数量算出方法 数量の算出は、「第1編（共通編）1章基本事項」によるほか下記の方法によるものとする。</p> <p>(1) ポール類は下記の区分で算出する。</p> <p>ポール類高さ</p> <ul style="list-style-type: none"> — 4 m未満 — 4 m以上10 m未満 — 10 m以上12 m以下 — 12 mを越えるもの <p>なお、ポール類の高さは、路面からの高さとする。</p>	<p>4. 数量算出方法 数量の算出は、「第1編（共通編）1章基本事項」によるほか、下記の方法によるものとする。</p> <p>(1) ポール類は、下記の区分で算出する。</p> <p>ポール類高さ</p> <ul style="list-style-type: none"> — 4 m未満 — 4 m以上10 m未満 — 10 m以上12 m以下 — 12 mを越えるもの <p>なお、ポール類の高さは、路面からの高さとする。</p>	
積算上の注意事項			

改正理由	現 行	改 正	改 正 現 行	備 考																																																																																				
	<p>3. 13 道路清掃工</p> <p>3. 13. 1 路面清掃工</p> <p>1. 適用</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">車道、路肩部、歩道、横断歩道橋、地下道等の道路清掃作業に適用する。</div> <p>2. 数量算出項目</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">路面清掃の延長または面積を算出する。</div> <p>3. 区分</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">区分は作業区分とする。</div> <p>(1) 数量算出項目一覧表</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th>項 目</th> <th>作業区分</th> <th>単 位</th> <th>数 量</th> <th>備 考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>路面清掃（車道）</td> <td>○</td> <td>km</td> <td></td> <td>(機械)</td> </tr> <tr> <td>路面清掃（歩道）</td> <td>○</td> <td>km</td> <td></td> <td>(機械)</td> </tr> <tr> <td>路面清掃（路肩）</td> <td>○</td> <td>km</td> <td></td> <td>(人力)</td> </tr> <tr> <td>路面清掃（歩道）</td> <td>○</td> <td>m²</td> <td></td> <td>(人力)</td> </tr> <tr> <td>路面清掃（地下道 横断歩道橋）</td> <td>○</td> <td>m²</td> <td></td> <td>(人力)</td> </tr> <tr> <td>路面清掃 (中央分離帯)</td> <td>○</td> <td>m²</td> <td></td> <td>(人力)</td> </tr> </tbody> </table> <p>(2) 作業区分 機械による作業区分は以下のとおりとする。 ①塵埃量 0.1m³/km 未満 ②塵埃量 0.1m³/km 以上 0.2m³/km 未満 ③塵埃量 0.2m³/km 以上 1.0m³/km 未満</p> <p>人力による作業区分は別表を標準とする。</p> <p>4. 数量算出方法 数量の算出は、「第1編（共通編）1章基本事項」によるほか下記の方法によるものとする。</p> <p>(1) 機械による清掃は実作業延長と移動距離を算出する。 ただし、現場と現場の間の移動で1箇所の移動距離が50m未満の場合は清掃延長に含めて算出するものとする。</p>	項 目	作業区分	単 位	数 量	備 考	路面清掃（車道）	○	km		(機械)	路面清掃（歩道）	○	km		(機械)	路面清掃（路肩）	○	km		(人力)	路面清掃（歩道）	○	m ²		(人力)	路面清掃（地下道 横断歩道橋）	○	m ²		(人力)	路面清掃 (中央分離帯)	○	m ²		(人力)	<p>3. 13 道路清掃工</p> <p>3. 13. 1 路面清掃工</p> <p>1. 適用</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">車道、路肩部、歩道、横断歩道橋、地下道等、中央分離帯の道路清掃作業に適用する。</div> <p>2. 数量算出項目</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">路面清掃の延長、または面積を区分ごとに算出する。</div> <p>3. 区分</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">区分は作業区分、施工場所、塵埃量とする。</div> <p>(1) 数量算出項目一覧表</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th>項 目</th> <th>作業区分</th> <th>施工場所</th> <th>塵埃量</th> <th>単 位</th> <th>数 量</th> <th>備 考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>路面清掃（車道）</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td>km</td> <td></td> <td>(機械)</td> </tr> <tr> <td>路面清掃（歩道）</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td>km</td> <td></td> <td>(機械)</td> </tr> <tr> <td>路面清掃（路肩部・人力）</td> <td>⊖</td> <td></td> <td>○</td> <td>km</td> <td></td> <td>(人力)</td> </tr> <tr> <td>路面清掃（歩道等・人力）</td> <td>⊖</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>m²</td> <td></td> <td>(人力)</td> </tr> <tr> <td>路面清掃（地下道 横断歩道橋）</td> <td>⊖</td> <td></td> <td></td> <td>m²</td> <td></td> <td>(人力)</td> </tr> <tr> <td>路面清掃 (中央分離帯)</td> <td>⊖</td> <td></td> <td></td> <td>m²</td> <td></td> <td>(人力)</td> </tr> </tbody> </table> <p>(2) 作業区分 機械による作業区分は、以下のとおりとする。 ①塵埃量 0.1m³/km 未満 ②塵埃量 0.1m³/km 以上 0.2m³/km 未満 ③塵埃量 0.2m³/km 以上 1.0m³/km 未満</p> <p>人力による作業区分は別表を標準とする。</p> <p>4. 数量算出方法 数量の算出は、「第1編（共通編）1章基本事項」によるほか、下記の方法によるものとする。</p> <p>(1) 機械による清掃は、実作業延長と移動距離を算出する。 ただし、現場と現場の間の移動で1箇所の移動距離が50m未満の場合は、清掃延長に含めて算出するものとする。</p>	項 目	作業区分	施工場所	塵埃量	単 位	数 量	備 考	路面清掃（車道）	○			km		(機械)	路面清掃（歩道）	○			km		(機械)	路面清掃（路肩部・人力）	⊖		○	km		(人力)	路面清掃（歩道等・人力）	⊖	○	○	m ²		(人力)	路面清掃（地下道 横断歩道橋）	⊖			m²		(人力)	路面清掃 (中央分離帯)	⊖			m²		(人力)		<p style="color: red;">「路面清掃工(人力清掃工)」の施工パッケージ化に伴う改正。</p> <p style="color: red;">「路面清掃（路肩部・人力）」及び「路面清掃（歩道等・人力）」の区分に修正。</p>
項 目	作業区分	単 位	数 量	備 考																																																																																				
路面清掃（車道）	○	km		(機械)																																																																																				
路面清掃（歩道）	○	km		(機械)																																																																																				
路面清掃（路肩）	○	km		(人力)																																																																																				
路面清掃（歩道）	○	m ²		(人力)																																																																																				
路面清掃（地下道 横断歩道橋）	○	m ²		(人力)																																																																																				
路面清掃 (中央分離帯)	○	m ²		(人力)																																																																																				
項 目	作業区分	施工場所	塵埃量	単 位	数 量	備 考																																																																																		
路面清掃（車道）	○			km		(機械)																																																																																		
路面清掃（歩道）	○			km		(機械)																																																																																		
路面清掃（路肩部・人力）	⊖		○	km		(人力)																																																																																		
路面清掃（歩道等・人力）	⊖	○	○	m ²		(人力)																																																																																		
路面清掃（地下道 横断歩道橋）	⊖			m²		(人力)																																																																																		
路面清掃 (中央分離帯)	⊖			m²		(人力)																																																																																		
積算上の注意事項																																																																																								

改正理由	現 行	改 正	改 正 現 行	備 考																																																																																																						
	<p>5. 参考資料 人力における作業区分別作業内容</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">施工場所</th> <th rowspan="2">作業区分</th> <th rowspan="2">作 業 内 容</th> <th colspan="2">塵 埃 量</th> </tr> <tr> <th>単 位</th> <th>範 囲</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">路肩部</td> <td>少ない</td> <td>塵埃量が比較的少なく、土砂、紙屑等が散在している場合</td> <td rowspan="3">m³/km</td> <td>2.0未満</td> </tr> <tr> <td>普通</td> <td>塵埃量が多く、土砂、紙屑等の散在に加え部分的に土砂が堆積している場合</td> <td>2.0以上 6.0未満</td> </tr> <tr> <td>多い</td> <td>塵埃が極めて多く、土砂、紙屑等の散在に加え土砂が連続的に堆積している場合</td> <td>6.0以上</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">歩 道</td> <td>少ない</td> <td>塵埃量が比較的少なく、土砂、紙屑等が散在している場合</td> <td rowspan="3">m³/100m²</td> <td>0.3未満</td> </tr> <tr> <td>普通</td> <td>塵埃量が多く、土砂、紙屑等の散在に加え部分的に土砂が堆積している場合</td> <td>0.3以上 1.0未満</td> </tr> <tr> <td>多い</td> <td>塵埃量が極めて多く、土砂、紙屑等の散在に加え連続的に土砂が堆積している場合</td> <td>1.0以上</td> </tr> <tr> <td>草のせり上等処理</td> <td>上記作業区分（[普通]，[多い]）に加え路側からの草のせり上がり処理が必要な場合</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">横断歩道 地下道</td> <td>少ない</td> <td>塵埃量が少なく、紙屑、すいがら等が部分的に散在している場合</td> <td rowspan="3">m³/100m²</td> <td>0.01未満</td> </tr> <tr> <td>普通</td> <td>塵埃量が比較的少なく、紙屑、すいがら等の散在に加え土砂が部分的に散在している場合</td> <td>0.01以上 0.03未満</td> </tr> <tr> <td>多い</td> <td>塵埃が多く、紙屑、すいがら等の散在に加え土砂が連続的に堆積している場合</td> <td>0.03以上</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">中 央 分離帯</td> <td>普通</td> <td>塵埃量が少なく、紙屑、空カン等が部分的に散在している場合</td> <td rowspan="2">m³/100m²</td> <td>0.05未満</td> </tr> <tr> <td>多い</td> <td>塵埃量が多く、紙屑、空カン等が連続的に散在している場合</td> <td>0.05以上</td> </tr> </tbody> </table> <p>(注) 1. 路肩部の清掃とは、路肩部単独作業で路肩付近に堆積した土砂、紙屑等の塵埃清掃をするものであり、作業区分はのべ延長当りで判断すること。 2. 歩道の清掃は、歩道上の土砂、紙屑等の塵埃清掃作業であり、路面清掃車による掃き出しの清掃作業は除く。 3. 横断歩道橋及び地下道の清掃は、手摺、壁面等の水洗い作業は含まない。</p>	施工場所	作業区分	作 業 内 容	塵 埃 量		単 位	範 囲	路肩部	少ない	塵埃量が比較的少なく、土砂、紙屑等が散在している場合	m ³ /km	2.0未満	普通	塵埃量が多く、土砂、紙屑等の散在に加え部分的に土砂が堆積している場合	2.0以上 6.0未満	多い	塵埃が極めて多く、土砂、紙屑等の散在に加え土砂が連続的に堆積している場合	6.0以上	歩 道	少ない	塵埃量が比較的少なく、土砂、紙屑等が散在している場合	m ³ /100m ²	0.3未満	普通	塵埃量が多く、土砂、紙屑等の散在に加え部分的に土砂が堆積している場合	0.3以上 1.0未満	多い	塵埃量が極めて多く、土砂、紙屑等の散在に加え連続的に土砂が堆積している場合	1.0以上	草のせり上等処理	上記作業区分（[普通]，[多い]）に加え路側からの草のせり上がり処理が必要な場合	—	横断歩道 地下道	少ない	塵埃量が少なく、紙屑、すいがら等が部分的に散在している場合	m ³ /100m ²	0.01未満	普通	塵埃量が比較的少なく、紙屑、すいがら等の散在に加え土砂が部分的に散在している場合	0.01以上 0.03未満	多い	塵埃が多く、紙屑、すいがら等の散在に加え土砂が連続的に堆積している場合	0.03以上	中 央 分離帯	普通	塵埃量が少なく、紙屑、空カン等が部分的に散在している場合	m ³ /100m ²	0.05未満	多い	塵埃量が多く、紙屑、空カン等が連続的に散在している場合	0.05以上	<p>5. 参考資料 人力における作業区分別作業内容</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">施工場所</th> <th rowspan="2">作業区分</th> <th rowspan="2">作 業 内 容</th> <th colspan="2">塵 埃 量</th> </tr> <tr> <th>単 位</th> <th>範 囲</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">路肩部</td> <td>少ない</td> <td>塵埃量が比較的少なく、土砂、紙屑等が散在している場合</td> <td rowspan="3">m³/km</td> <td>2.0未満</td> </tr> <tr> <td>普通</td> <td>塵埃量が多く、土砂、紙屑等の散在に加え部分的に土砂が堆積している場合</td> <td>2.0以上 6.0未満</td> </tr> <tr> <td>多い</td> <td>塵埃が極めて多く、土砂、紙屑等の散在に加え土砂が連続的に堆積している場合</td> <td>6.0以上</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">歩道部</td> <td>少ない</td> <td>塵埃量が比較的少なく、土砂、紙屑等が散在している場合</td> <td rowspan="3">m³/100m²</td> <td>0.3未満</td> </tr> <tr> <td>普通</td> <td>塵埃量が多く、土砂、紙屑等の散在に加え部分的に土砂が堆積している場合</td> <td>0.3以上 1.0未満</td> </tr> <tr> <td>多い</td> <td>塵埃量が極めて多く、土砂、紙屑等の散在に加え連続的に土砂が堆積している場合</td> <td>1.0以上</td> </tr> <tr> <td>(草のせり上等処理)</td> <td>上記作業区分（[普通]，[多い]）に加え路側からの草のせり上がり処理が必要な場合</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">横断歩道橋 地下道</td> <td>少ない</td> <td>塵埃量が少なく、紙屑、すいがら吸殻等が部分的に散在している場合</td> <td rowspan="3">m³/100m²</td> <td>0.01未満</td> </tr> <tr> <td>普通</td> <td>塵埃量が比較的少なく、紙屑、すいがら吸殻等の散在に加え土砂が部分的に散在している場合</td> <td>0.01以上 0.03未満</td> </tr> <tr> <td>多い</td> <td>塵埃が多く、紙屑、すいがら吸殻等の散在に加え土砂が連続的に堆積している場合</td> <td>0.03以上</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">中央分離帯</td> <td>普通</td> <td>塵埃量が少なく、紙屑、空カン等が部分的に散在している場合</td> <td rowspan="2">m³/100m²</td> <td>0.05未満</td> </tr> <tr> <td>多い</td> <td>塵埃量が多く、紙屑、空カン等が連続的に散在している場合</td> <td>0.05以上</td> </tr> </tbody> </table> <p>(注) 1. 路肩部の清掃とは、路肩部単独作業で路肩付近に堆積した土砂、紙屑等の塵埃清掃をするものであり、作業区分は、のべ延長当りで判断すること。 2. 歩道の清掃は、歩道上の土砂、紙屑等の塵埃清掃作業であり、路面清掃車による掃き出しの清掃作業は除く。 3. 横断歩道橋及び地下道の清掃は、手摺すり、壁面等の水洗い作業は含まない。</p>	施工場所	作業区分	作 業 内 容	塵 埃 量		単 位	範 囲	路肩部	少ない	塵埃量が比較的少なく、土砂、紙屑等が散在している場合	m ³ /km	2.0未満	普通	塵埃量が多く、土砂、紙屑等の散在に加え部分的に土砂が堆積している場合	2.0以上 6.0未満	多い	塵埃が極めて多く、土砂、紙屑等の散在に加え土砂が連続的に堆積している場合	6.0以上	歩道部	少ない	塵埃量が比較的少なく、土砂、紙屑等が散在している場合	m ³ /100m ²	0.3未満	普通	塵埃量が多く、土砂、紙屑等の散在に加え部分的に土砂が堆積している場合	0.3以上 1.0未満	多い	塵埃量が極めて多く、土砂、紙屑等の散在に加え連続的に土砂が堆積している場合	1.0以上	(草のせり上等処理)	上記作業区分（[普通]，[多い]）に加え路側からの草のせり上がり処理が必要な場合	—	横断歩道橋 地下道	少ない	塵埃量が少なく、紙屑、 すいがら 吸殻等が部分的に散在している場合	m ³ /100m ²	0.01未満	普通	塵埃量が比較的少なく、紙屑、 すいがら 吸殻等の散在に加え土砂が部分的に散在している場合	0.01以上 0.03未満	多い	塵埃が多く、紙屑、 すいがら 吸殻等の散在に加え土砂が連続的に堆積している場合	0.03以上	中央分離帯	普通	塵埃量が少なく、紙屑、空カン等が部分的に散在している場合	m ³ /100m ²	0.05未満	多い	塵埃量が多く、紙屑、空カン等が連続的に散在している場合	0.05以上		<p>「路面清掃（路肩部・人力）」及び「路面清掃（歩道等・人力）」の区分に修正。</p> <p>基準書の記述に修正。</p>
施工場所	作業区分				作 業 内 容	塵 埃 量																																																																																																				
		単 位	範 囲																																																																																																							
路肩部	少ない	塵埃量が比較的少なく、土砂、紙屑等が散在している場合	m ³ /km	2.0未満																																																																																																						
	普通	塵埃量が多く、土砂、紙屑等の散在に加え部分的に土砂が堆積している場合		2.0以上 6.0未満																																																																																																						
	多い	塵埃が極めて多く、土砂、紙屑等の散在に加え土砂が連続的に堆積している場合		6.0以上																																																																																																						
歩 道	少ない	塵埃量が比較的少なく、土砂、紙屑等が散在している場合	m ³ /100m ²	0.3未満																																																																																																						
	普通	塵埃量が多く、土砂、紙屑等の散在に加え部分的に土砂が堆積している場合		0.3以上 1.0未満																																																																																																						
	多い	塵埃量が極めて多く、土砂、紙屑等の散在に加え連続的に土砂が堆積している場合		1.0以上																																																																																																						
	草のせり上等処理	上記作業区分（[普通]，[多い]）に加え路側からの草のせり上がり処理が必要な場合	—																																																																																																							
横断歩道 地下道	少ない	塵埃量が少なく、紙屑、すいがら等が部分的に散在している場合	m ³ /100m ²	0.01未満																																																																																																						
	普通	塵埃量が比較的少なく、紙屑、すいがら等の散在に加え土砂が部分的に散在している場合		0.01以上 0.03未満																																																																																																						
	多い	塵埃が多く、紙屑、すいがら等の散在に加え土砂が連続的に堆積している場合		0.03以上																																																																																																						
中 央 分離帯	普通	塵埃量が少なく、紙屑、空カン等が部分的に散在している場合	m ³ /100m ²	0.05未満																																																																																																						
	多い	塵埃量が多く、紙屑、空カン等が連続的に散在している場合		0.05以上																																																																																																						
施工場所	作業区分	作 業 内 容	塵 埃 量																																																																																																							
			単 位	範 囲																																																																																																						
路肩部	少ない	塵埃量が比較的少なく、土砂、紙屑等が散在している場合	m ³ /km	2.0未満																																																																																																						
	普通	塵埃量が多く、土砂、紙屑等の散在に加え部分的に土砂が堆積している場合		2.0以上 6.0未満																																																																																																						
	多い	塵埃が極めて多く、土砂、紙屑等の散在に加え土砂が連続的に堆積している場合		6.0以上																																																																																																						
歩道部	少ない	塵埃量が比較的少なく、土砂、紙屑等が散在している場合	m ³ /100m ²	0.3未満																																																																																																						
	普通	塵埃量が多く、土砂、紙屑等の散在に加え部分的に土砂が堆積している場合		0.3以上 1.0未満																																																																																																						
	多い	塵埃量が極めて多く、土砂、紙屑等の散在に加え連続的に土砂が堆積している場合		1.0以上																																																																																																						
	(草のせり上等処理)	上記作業区分（[普通]，[多い]）に加え路側からの草のせり上がり処理が必要な場合	—																																																																																																							
横断歩道橋 地下道	少ない	塵埃量が少なく、紙屑、 すいがら 吸殻等が部分的に散在している場合	m ³ /100m ²	0.01未満																																																																																																						
	普通	塵埃量が比較的少なく、紙屑、 すいがら 吸殻等の散在に加え土砂が部分的に散在している場合		0.01以上 0.03未満																																																																																																						
	多い	塵埃が多く、紙屑、 すいがら 吸殻等の散在に加え土砂が連続的に堆積している場合		0.03以上																																																																																																						
中央分離帯	普通	塵埃量が少なく、紙屑、空カン等が部分的に散在している場合	m ³ /100m ²	0.05未満																																																																																																						
	多い	塵埃量が多く、紙屑、空カン等が連続的に散在している場合		0.05以上																																																																																																						
積算上の注意事項																																																																																																										

改正理由	現 行	改 正	改 正 現 行	備 考																																																								
	<p>3. 14 排水施設清掃工</p> <p>3. 14. 1 側溝清掃工、管渠清掃工</p> <p>1. 適用</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">管渠清掃、側溝清掃作業に適用する。</div> <p>2. 数量算出項目</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">側溝清掃、管渠清掃の延長を算出する。</div> <p>3. 区分</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">区分は作業区分とする。</div> <p>(1) 数量算出項目一覧表</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>作業区分</th> <th>単 位</th> <th>数 量</th> <th>備 考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>管渠清掃</td> <td>○</td> <td>m</td> <td></td> <td>組合せ作業 (機械)</td> </tr> <tr> <td>側溝清掃</td> <td>○</td> <td>m</td> <td></td> <td>組合せ作業 (機械)</td> </tr> <tr> <td>側溝清掃</td> <td>○</td> <td>m</td> <td></td> <td>単独作業 (機械)</td> </tr> <tr> <td>側溝清掃</td> <td>○</td> <td>m</td> <td></td> <td>(人力)</td> </tr> </tbody> </table> <p>(2) 作業区分 管渠と、管渠と組合せの側溝清掃の区分は以下による。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;"> <p>管渠</p> <ul style="list-style-type: none"> — 管径 φ200mm 以上 φ400mm 未満 — 管径 φ400mm 以上 φ800mm 未満 — 管径 φ800mm 以上 φ1000mm 以下 <p>側溝</p> <ul style="list-style-type: none"> — 断面積 0.125m²未満 — 断面積 0.125m²以上 0.5m²未満 <p>堆積率</p> <ul style="list-style-type: none"> — 50%未満 — 50%以上 <p>(管渠清掃) 堆積率 (%) = 堆積土厚 / 管径 × 100 (側溝清掃) " = 堆積土厚 / 側溝深さ × 100</p> </div> <div style="width: 45%;"> <p>側溝</p> <ul style="list-style-type: none"> — 断面積 0.125m²未満 — 断面積 0.125m²以上 0.5m²未満 <p>堆積率</p> <ul style="list-style-type: none"> — 50%未満 — 50%以上 <p>(管渠清掃) 堆積率 (%) = 堆積土厚 / 管径 × 100 (側溝清掃) " = 堆積土厚 / 側溝深さ × 100</p> </div> </div> <p>(3) 機械による単独の側溝清掃</p> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;"> <p>蓋</p> <ul style="list-style-type: none"> — 有 蓋 — 無 蓋 <p>有蓋の場合は下記の蓋質量により区分する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ①蓋質量 40kg 未満 ②蓋質量 40kg 以上 80 kg 以下 ③蓋質量 80 kg を超え 120 kg 以下 </div> <div style="width: 45%;"> <p>蓋</p> <ul style="list-style-type: none"> — 有 蓋 — 無 蓋 <p>有蓋の場合は、下記の蓋質量により区分する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ①蓋質量 40kg 未満 ②蓋質量 40kg 以上 80 kg 以下 ③蓋質量 80 kg を超え 120 kg 以下 </div> </div>	項目	作業区分	単 位	数 量	備 考	管渠清掃	○	m		組合せ作業 (機械)	側溝清掃	○	m		組合せ作業 (機械)	側溝清掃	○	m		単独作業 (機械)	側溝清掃	○	m		(人力)	<p>3. 14 排水施設清掃工</p> <p>3. 14. 1 側溝清掃工、管渠清掃工</p> <p>1. 適用</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">管渠清掃、側溝清掃作業に適用する。</div> <p>2. 数量算出項目</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">側溝清掃、管渠清掃の延長を区分ごとに算出する。</div> <p>3. 区分</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">区分は作業区分、側溝蓋規格とする。</div> <p>(1) 数量算出項目一覧表</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>作業区分</th> <th>側溝蓋規格</th> <th>単 位</th> <th>数 量</th> <th>備 考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>管渠清掃</td> <td>○</td> <td></td> <td>m</td> <td></td> <td>組合せ作業 (機械)</td> </tr> <tr> <td>側溝清掃</td> <td>○</td> <td></td> <td>m</td> <td></td> <td>組合せ作業 (機械)</td> </tr> <tr> <td>側溝清掃</td> <td>○</td> <td></td> <td>m</td> <td></td> <td>単独作業 (機械)</td> </tr> <tr> <td>側溝清掃 (人力清掃工)</td> <td>⊖</td> <td>○</td> <td>m</td> <td></td> <td>(人力)</td> </tr> </tbody> </table> <p>(2) 作業区分 管渠と、管渠と組合せの側溝清掃の区分は、以下による。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;"> <p>管渠</p> <ul style="list-style-type: none"> — 管径 φ200mm 以上 φ400mm 未満 — 管径 φ400mm 以上 φ800mm 未満 — 管径 φ800mm 以上 φ1000mm 以下 <p>側溝</p> <ul style="list-style-type: none"> — 断面積 0.125m²未満 — 断面積 0.125m²以上 0.5m²未満 <p>堆積率</p> <ul style="list-style-type: none"> — 50%未満 — 50%以上 <p>(管渠清掃) 堆積率 (%) = 堆積土厚 / 管径 × 100 (側溝清掃) " = 堆積土厚 / 側溝深さ × 100</p> </div> <div style="width: 45%;"> <p>側溝</p> <ul style="list-style-type: none"> — 断面積 0.125m²未満 — 断面積 0.125m²以上 0.5m²未満 <p>堆積率</p> <ul style="list-style-type: none"> — 50%未満 — 50%以上 <p>(管渠清掃) 堆積率 (%) = 堆積土厚 / 管径 × 100 (側溝清掃) " = 堆積土厚 / 側溝深さ × 100</p> </div> </div> <p>(3) 機械による単独の側溝清掃</p> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;"> <p>蓋</p> <ul style="list-style-type: none"> — 有 蓋 — 無 蓋 <p>有蓋の場合は下記の蓋質量により区分する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ①蓋質量 40kg 未満 ②蓋質量 40kg 以上 80 kg 以下 ③蓋質量 80 kg を超え 120 kg 以下 </div> <div style="width: 45%;"> <p>蓋</p> <ul style="list-style-type: none"> — 有 蓋 — 無 蓋 <p>有蓋の場合は、下記の蓋質量により区分する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ①蓋質量 40kg 未満 ②蓋質量 40kg 以上 80 kg 以下 ③蓋質量 80 kg を超え 120 kg 以下 </div> </div>	項目	作業区分	側溝蓋規格	単 位	数 量	備 考	管渠清掃	○		m		組合せ作業 (機械)	側溝清掃	○		m		組合せ作業 (機械)	側溝清掃	○		m		単独作業 (機械)	側溝清掃 (人力清掃工)	⊖	○	m		(人力)			<p style="color: red;">「側溝清掃(人力清掃工)」の施工パッケージ化に伴う改正。</p> <p style="color: red;">「側溝清掃(人力清掃工)」の区分を追記。</p>
項目	作業区分	単 位	数 量	備 考																																																								
管渠清掃	○	m		組合せ作業 (機械)																																																								
側溝清掃	○	m		組合せ作業 (機械)																																																								
側溝清掃	○	m		単独作業 (機械)																																																								
側溝清掃	○	m		(人力)																																																								
項目	作業区分	側溝蓋規格	単 位	数 量	備 考																																																							
管渠清掃	○		m		組合せ作業 (機械)																																																							
側溝清掃	○		m		組合せ作業 (機械)																																																							
側溝清掃	○		m		単独作業 (機械)																																																							
側溝清掃 (人力清掃工)	⊖	○	m		(人力)																																																							
積算上の注意事項																																																												

改正理由	現行	改正	備考
	<p>(4) 人力による側溝清掃</p> <p style="margin-left: 20px;">蓋 ———— 無蓋</p> <p style="margin-left: 40px;"> </p> <p style="margin-left: 40px;"> ——— コンクリート蓋</p> <p style="margin-left: 40px;"> ——— 鋼蓋</p> <p>4. 数量算出方法</p> <p>数量の算出は、「第1編（共通編）1章基本事項」によるほか下記の方法によるものとする。</p> <p>(1) 機械による清掃は清掃延長（m）と移動距離（km）を算出する。 ただし、現場と現場の間の移動で1箇所の移動距離が50m未満の場合は清掃延長に含めて算出するものとする。</p> <p>(2) 機械による単独の側溝清掃の場合は、m当りの平均泥土量（m³/m）を算出する。</p>	<p>(4) 人力による側溝清掃側溝蓋規格区分 側溝蓋規格による区分は、以下のとおりとする。</p> <p style="margin-left: 20px;">側溝蓋規格 ———— 無蓋</p> <p style="margin-left: 40px;"> </p> <p style="margin-left: 40px;"> ——— 有蓋 コンクリート蓋</p> <p style="margin-left: 40px;"> ——— 有蓋 鋼蓋</p> <p>4. 数量算出方法</p> <p>数量の算出は、「第1編（共通編）1章基本事項」によるほか、下記の方法によるものとする。</p> <p>(1) 機械による清掃は、清掃延長（m）と移動距離（km）を算出する。 ただし、現場と現場の間の移動で1箇所の移動距離が50m未満の場合は、清掃延長に含めて算出するものとする。</p> <p>(2) 機械による単独の側溝清掃の場合は、m当りの平均泥土量（m³/m）を算出する。</p>	<p>「側溝清掃（人力清掃工）」の区分を修正。</p>
積算上の注意事項			

改正理由	現行	改正	改正 現行	備考																																																																																							
	<p>4.1.2 付属物</p> <p>1. 適用</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">鋼橋上部工の付属物（落橋防止、排水装置、支承、高欄、防護柵、伸縮継手、検査路、耐震連結装置、その他）に適用する。</div> <p>（注）構造形式別数量集計方法は、「鋼道路橋数量集計マニュアル（案） 第1章概要 II. 数量集計方法」によるものとする。</p> <p>2. 数量算出項目</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">材片数、材片質量、部材数、加工鋼材質量を区分ごとに算出する。</div> <p>3. 区分</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">区分は、構造名称、材種、材質、寸法とする。</div> <p>（1）数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">項目</th> <th rowspan="2">区分</th> <th rowspan="2">構造名称</th> <th colspan="3">規格</th> <th rowspan="2">単位</th> <th rowspan="2">数量</th> <th rowspan="2">備考</th> </tr> <tr> <th>材種</th> <th>材質</th> <th>寸法</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>材片数</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>個</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>材片質量</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>t</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>部材数</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>個</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>加工鋼材質量</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>t</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>（2）構造名称区分 構造名称による区分は、以下の通りとする。</p> <div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="margin-right: 10px;">構造名称</div> <div style="border-left: 1px solid black; padding-left: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> — 落橋防止 — 排水装置 — 支承 — 高欄 — 防護柵 — 伸縮継手 — 検査路 — 耐震連結装置 — その他 </div> </div> <p>（3）材種区分 材種による区分は、「4.1.1 橋梁本体 3. 区分（3）. 材種区分」によるものとする。</p> <p>（4）材質区分 材質による区分は、「4.1.1 橋梁本体 3. 区分（4）. 材質区分」によるものとする。</p> <p>（5）寸法区分 寸法による区分は、「4.1.1 橋梁本体 3. 区分（5）. 寸法区分」によるものとする。</p>	項目	区分	構造名称	規格			単位	数量	備考	材種	材質	寸法	材片数	○	○	○	○	個			材片質量	○	○	○	○	t			部材数	○	○	○	○	個			加工鋼材質量	○	○	○	○	t			<p>4.1.2 付属物</p> <p>1. 適用</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">鋼橋上部工の付属物（落橋防止、排水装置、支承、高欄、防護柵、伸縮継手、検査路、耐震連結装置、その他）に適用する。</div> <p>（注）構造形式別数量集計方法は、「鋼道路橋数量集計マニュアル（案） 第1章概要 II. 数量集計方法」によるものとする。</p> <p>2. 数量算出項目</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">材片数、材片質量、部材数、加工鋼材質量を区分ごとに算出する。</div> <p>3. 区分</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">区分は、構造名称、材種、材質、寸法とする。</div> <p>（1）数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">項目</th> <th rowspan="2">区分</th> <th rowspan="2">構造名称</th> <th colspan="3">規格</th> <th rowspan="2">単位</th> <th rowspan="2">数量</th> <th rowspan="2">備考</th> </tr> <tr> <th>材種</th> <th>材質</th> <th>寸法</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>材片数</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>個</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>材片質量</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>t</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>部材数</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>個</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>加工鋼材質量</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>t</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>（2）構造名称区分 構造名称による区分は、以下のとおりとする。</p> <div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="margin-right: 10px;">構造名称</div> <div style="border-left: 1px solid black; padding-left: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> — 落橋防止 — 排水装置 — 支承 — 高欄 — 防護柵 — 伸縮継手 — 検査路 — 耐震連結装置 — その他 </div> </div> <p>（3）材種区分 材種による区分は、「4.1.1 橋梁本体 3. 区分（3）. 材種区分」によるものとする。</p> <p>（4）材質区分 材質による区分は、「4.1.1 橋梁本体 3. 区分（4）. 材質区分」によるものとする。</p> <p>（5）寸法区分 寸法による区分は、「4.1.1 橋梁本体 3. 区分（5）. 寸法区分」によるものとする。</p>	項目	区分	構造名称	規格			単位	数量	備考	材種	材質	寸法	材片数	○	○	○	○	個			材片質量	○	○	○	○	t			部材数	○	○	○	○	個			加工鋼材質量	○	○	○	○	t			<p>「橋梁付属施設設置工」の施工パッケージ化に伴う記載内容の変更なし。</p>
項目	区分				構造名称	規格					単位	数量	備考																																																																														
		材種	材質	寸法																																																																																							
材片数	○	○	○	○	個																																																																																						
材片質量	○	○	○	○	t																																																																																						
部材数	○	○	○	○	個																																																																																						
加工鋼材質量	○	○	○	○	t																																																																																						
項目	区分	構造名称	規格			単位	数量	備考																																																																																			
			材種	材質	寸法																																																																																						
材片数	○	○	○	○	個																																																																																						
材片質量	○	○	○	○	t																																																																																						
部材数	○	○	○	○	個																																																																																						
加工鋼材質量	○	○	○	○	t																																																																																						
積算上の注意事項																																																																																											

改正理由	現 行	改 正	改 正 現 行	備 考																																																																
	<p>4.7.2 排水装置工</p> <p>1. 適用</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">鋼橋上部工の排水管の設置工に適用する。</div> <p>2. 数量算出項目</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">排水管、取付金具、アンカーボルトの数量を算出する。</div> <p>(1) 数量算出項目一覧表</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th>項 目</th> <th>規格・仕様</th> <th>単 位</th> <th>数 量</th> <th>備 考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">排 水 管 (φ100～φ200)</td> <td>V P 管</td> <td>m</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>鋼 管</td> <td>m</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>取 付 金 具</td> <td></td> <td>kg</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>アンカーボルト</td> <td></td> <td>本</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>注) 1. 流心延長も算出する。 2. 排水径は、φ100～φ200 とする。</p>	項 目	規格・仕様	単 位	数 量	備 考	排 水 管 (φ100～φ200)	V P 管	m			鋼 管	m			取 付 金 具		kg			アンカーボルト		本			<p>4.7.2 橋梁排水管装置設置工</p> <p>1. 適用</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">鋼橋上部工の排水管の設置工に適用する鋼管、V P 管 (φ100mm～200mm) による各種系統タイプ及び溝部の橋梁排水管を設置する作業に適用し、排水樹設置及び排水管製作は含まない。</div> <p>2. 数量算出項目</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">排水管設置の延長、取付金具、アンカーボルトの数量を区分ごとに算出する。</div> <p>3. 区分</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">区分は、管種区分、支持金具区分とする。</div> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th>項 目</th> <th>規格・仕様</th> <th>管種区分</th> <th>支持金具区分</th> <th>単 位</th> <th>数 量</th> <th>備 考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">排 水 管 (φ100～φ200)</td> <td>V P 管</td> <td></td> <td></td> <td>m</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>鋼 管</td> <td></td> <td></td> <td>m</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>取 付 金 具</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>kg</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>アンカーボルト</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>本</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>排 水 管 設 置</td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td>m</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>注) 1. 流心延長も算出する。 2. 排水径は、φ100～φ200 とする。</p> <p>(2) 管種区分 管種区分は、以下のとおりとする。</p> <div style="margin-left: 40px;"> <p>管種区分</p> <ul style="list-style-type: none"> — V P 管 — 鋼管 </div> <p>(3) 支持金具区分 支持金具区分は、以下のとおりとする。</p> <div style="margin-left: 40px;"> <p>支持金具区分</p> <ul style="list-style-type: none"> — 支持金具なし — 0.75m 以上 1.25m 未満 — 1.25m 以上 1.75m 未満 — 1.75m 以上 2.25m 未満 </div> <p>注) 支持金具区分の算出は、配水管延長を支持金具設置個数で除した値 (平均値) とする。</p>	項 目	規格・仕様	管種区分	支持金具区分	単 位	数 量	備 考	排 水 管 (φ100～φ200)	V P 管			m			鋼 管			m			取 付 金 具				kg			アンカーボルト				本			排 水 管 設 置		○	○	m			<p>「橋梁排水管設置工」の施工パッケージ化に伴う改正。</p> <p>「排水管設置」の区分を追記。</p>
項 目	規格・仕様	単 位	数 量	備 考																																																																
排 水 管 (φ100～φ200)	V P 管	m																																																																		
	鋼 管	m																																																																		
取 付 金 具		kg																																																																		
アンカーボルト		本																																																																		
項 目	規格・仕様	管種区分	支持金具区分	単 位	数 量	備 考																																																														
排 水 管 (φ100～φ200)	V P 管			m																																																																
	鋼 管			m																																																																
取 付 金 具				kg																																																																
アンカーボルト				本																																																																
排 水 管 設 置		○	○	m																																																																
積算上の注意事項																																																																				

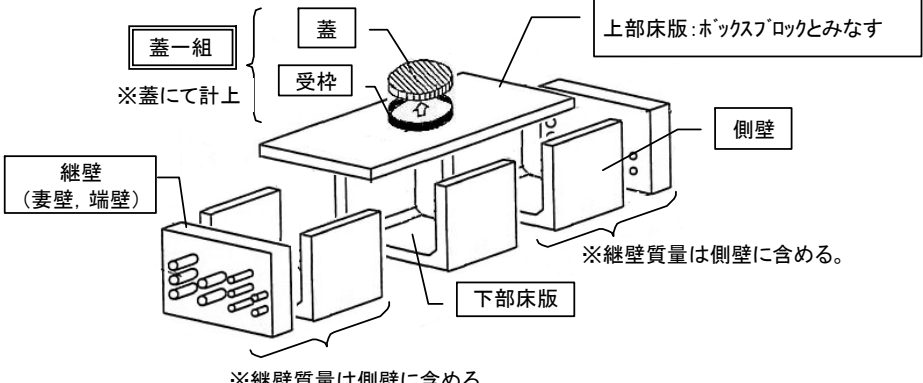
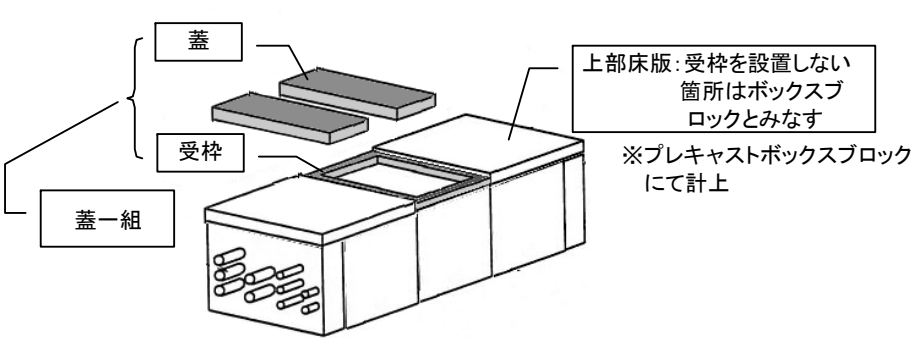
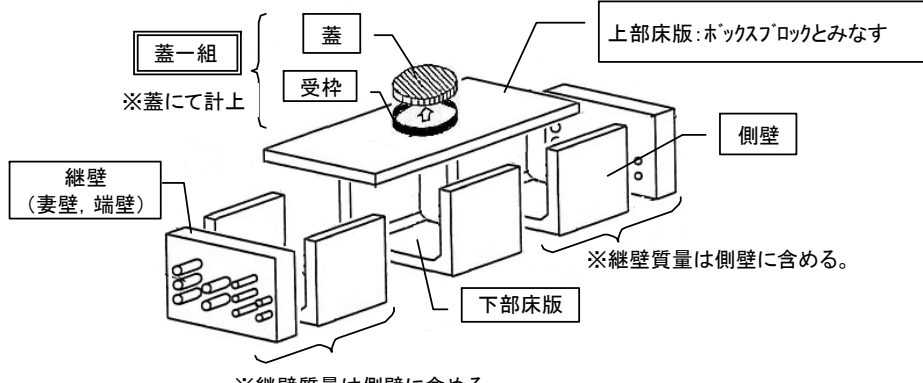
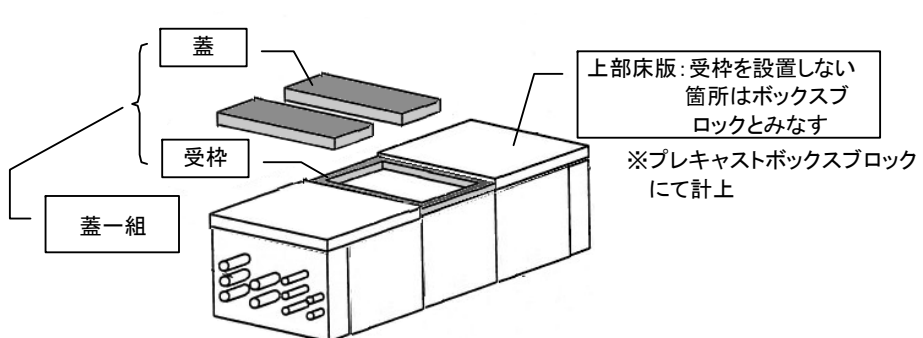
改正理由		改正 現行	
現行	改正		備考
<p>3. 数量算出方法 数量の算出は、「第1編（共通編）1章基本事項」によるほか下記の方法によるものとする。</p> <p>1) 排水管は、曲管、ジョイント管に区分して算出する。</p>	<p>34. 数量算出方法 数量の算出は、「第1編（共通編）1章基本事項」によるほか、下記の方法によるものとする。</p> <p>1) 排水管は、曲管、ジョイント管に区分して算出する。</p>		
積算上の注意事項			

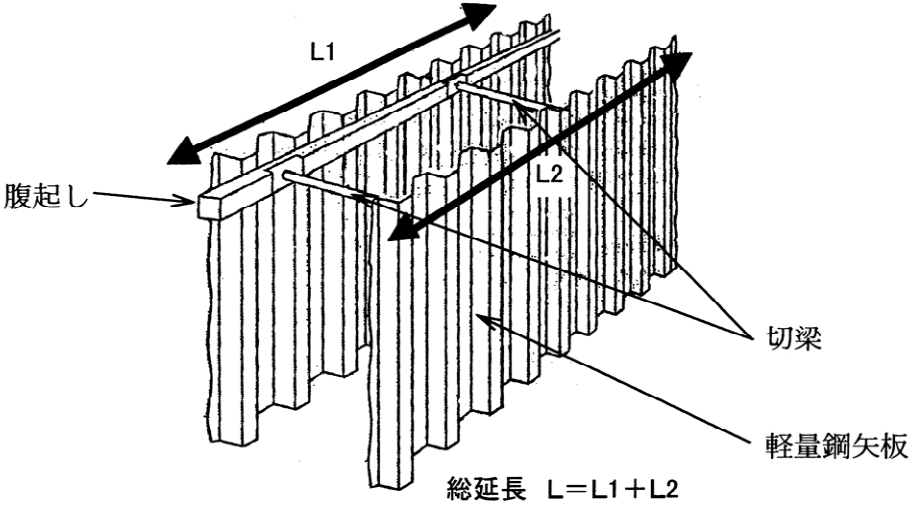
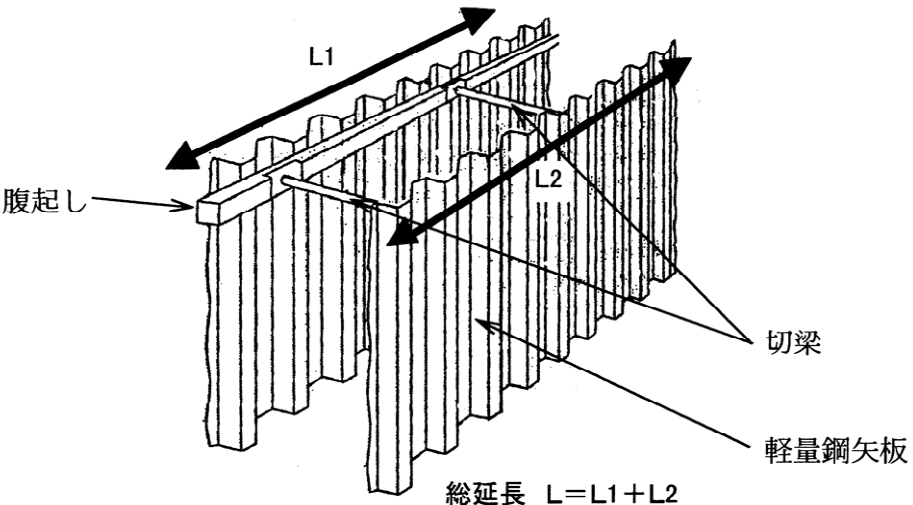
改正理由	現行	改正	改正現行	備考
	<p>5.7 橋梁付属物工</p> <p>5.7.1 伸縮装置工</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">伸縮装置の数量は、「4章鋼橋上部工 4.7 橋梁付属物工」により算出する。</div> <p>5.7.2 排水装置工</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">排水装置の数量は、「4章鋼橋上部工 4.7 橋梁付属物工」により算出する。</div>	<p>5.7 橋梁付属物工</p> <p>5.7.1 伸縮装置工</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">伸縮装置の数量は、「4章鋼橋上部工 4.7 橋梁付属物工」により算出する。</div> <p>5.7.2 橋梁排水管装置設置工</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">排水装置管設置の数量は、「4章鋼橋上部工 4.7 橋梁付属物工」により算出する。</div> <p>5.7.3 橋梁付属施設設置工</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">排水枡、橋名板取付、橋梁用高欄、橋梁用高欄一体式（材料費）、飾り高欄、飾り高欄（材料費）の数量は、「4章鋼橋上部工 4.1.2（1）付属物（1）」により算出する。</div>		<p>「橋梁排水管設置工」の施工パッケージ化に伴い、工種名称、数量算出項目名を修正。</p> <p>「橋梁付属施設設置工」の施工パッケージ化した付属物を「5章コンクリート橋上部工」にも追記。</p>
積算上の注意事項				

改正理由			改正 現行	備考									
現 行		改 正											
<p>10.3 電線共同溝(C.C.BOX)工</p> <p>10.3.1 適用</p> <p>1. 適用</p> <p>電線共同溝(C・C・BOX)工事に適用する。</p> <p>10.3.2 舗装版破碎積込</p> <p>アスファルト舗装版破碎積込の数量は、「3.2 舗装版破碎工」により算出する。</p> <p>(注) 舗装版切断が必要な場合は、「3.3 舗装版切断工」により数量を算出する。</p>		<p>10.3 電線共同溝(C.C.BOX)工</p> <p>10.3.1 適用</p> <p>1. 適用</p> <p>電線共同溝(C・C・BOX)工事に適用する。</p> <p>10.3.2 舗装版破碎積込</p> <p>アスファルト舗装版破碎積込の数量は、「3.2 舗装版破碎工」により算出する。</p> <p>(注) 舗装版切断が必要な場合は、「3.3 舗装版切断工」により数量を算出する。</p> <p>1. 適用</p> <p>電線共同溝(C・C・BOX)の設置工事の舗装版破碎積込に適用する。</p> <p>・舗装版破碎積込：厚さが15cm以下のアスファルト舗装版の破碎及び積込作業の場合</p> <p>2. 数量算出項目</p> <p>舗装版破碎積込を算出する。</p> <p>(1) 数量算出項目一覧表</p> <table border="1" data-bbox="1389 1129 2228 1251"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>区 分</th> <th>単 位</th> <th>数 量</th> <th>備 考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>舗装版破碎積込</td> <td></td> <td>m²</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	項目	区 分	単 位	数 量	備 考	舗装版破碎積込		m ²			<p>「電線共同溝(C.C.BOX)工」の施工パッケージ化に伴う改正。</p> <p>「舗装版破碎積込」の施工パッケージ化に伴い、数量算出項目を追記。</p>
	項目		区 分	単 位	数 量	備 考							
舗装版破碎積込		m ²											
積算上の注意事項													

改正理由	現 行	改 正	備 考																														
	<p>10.3.3 土工</p> <p>1. 適用</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">電線共同溝（C・C・BOX）工事の土工に適用する。</div> <p>2. 数量算出項目</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">床掘、埋戻し・締固めの土量を区分ごとに算出する。</div> <p>3. 区分</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">区分は、土質とする。</div> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th>項 目 \ 区 分</th> <th>土 質</th> <th>単 位</th> <th>数 量</th> <th>備 考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>床 掘</td> <td>×</td> <td>m³</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>埋 戻 し 締 固 め</td> <td>○</td> <td>m³</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>(2) 土質区分 土質による区分は、以下の通りとする。</p> <div style="margin-left: 40px;"> 土 質 ———— 土 砂 └——— 中 埋 砂 </div>	項 目 \ 区 分	土 質	単 位	数 量	備 考	床 掘	×	m ³			埋 戻 し 締 固 め	○	m ³			<p>10.3.3 土工</p> <p>1. 適用</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> 電線共同溝（C・C・BOX）工事の土工に適用する。 ・床掘り：土質が土砂（砂質土及び砂、粘性土、レキ質土）の床掘り作業の場合 ・埋戻し・締固め：管路材及びプレキャストボックス設置後の埋戻し・締固め作業の場合 </div> <p>2. 数量算出項目</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">床掘り、埋戻し・締固めの土量を区分ごとに算出する。</div> <p>3. 区分</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">区分は、土質とする。</div> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th>項 目 \ 区 分</th> <th>土 質</th> <th>単 位</th> <th>数 量</th> <th>備 考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>床 掘</td> <td>×</td> <td>m³</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>埋 戻 し 締 固 め</td> <td>○</td> <td>m³</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>(2) 土質区分 土質による区分は、以下の通りとする。</p> <div style="margin-left: 40px;"> 土 質 ———— 土砂 └——— 中埋砂 </div>	項 目 \ 区 分	土 質	単 位	数 量	備 考	床 掘	×	m ³			埋 戻 し 締 固 め	○	m ³			
項 目 \ 区 分	土 質	単 位	数 量	備 考																													
床 掘	×	m ³																															
埋 戻 し 締 固 め	○	m ³																															
項 目 \ 区 分	土 質	単 位	数 量	備 考																													
床 掘	×	m ³																															
埋 戻 し 締 固 め	○	m ³																															
積算上の注意事項																																	

改正理由	現 行	改 正	改 正 現 行	備 考																																																																																																																								
	<p>10.3.4 基礎工</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 基礎工の数量は、「第1編（共通編） 4章コンクリート工 4.1 コンクリート工及び9章基礎工 9.1 砕石基礎工」により算出する。 </div> <p>10.3.5 管路工</p> <p>1. 適用</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 管路部及び特殊部の設置工に適用する。 </div> <p>2. 数量算出項目</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 管路、受金具、支持金具、管路受台、プレキャストボックス、蓋を区分ごとに算出する。 </div> <p>3. 区分</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 区分は、施工区分、規格・仕様とする。 </div> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th style="width: 15%;">項目</th> <th style="width: 10%;">区 分</th> <th style="width: 10%;">施 工 区 分</th> <th style="width: 10%;">規 格 ・ 仕 様</th> <th style="width: 10%;">単 位</th> <th style="width: 10%;">数 量</th> <th style="width: 45%;">備 考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>管 路 延 長</td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td>m</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>受 金 具</td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td>個</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>支 持 金 具</td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td>個</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>管 路 受 台</td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td>個</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>プレキャストボックス</td> <td></td> <td>—</td> <td>○</td> <td>箇所</td> <td></td> <td>(3)その他 1)</td> </tr> <tr> <td>蓋</td> <td></td> <td>—</td> <td>○</td> <td>組</td> <td></td> <td>(3)その他 2)</td> </tr> </tbody> </table>	項目	区 分	施 工 区 分	規 格 ・ 仕 様	単 位	数 量	備 考	管 路 延 長		○	○	m			受 金 具		○	○	個			支 持 金 具		○	○	個			管 路 受 台		○	○	個			プレキャストボックス		—	○	箇所		(3)その他 1)	蓋		—	○	組		(3)その他 2)	<p>10.3.4 基礎工</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 基礎工の数量は、「第1編（共通編） 4章コンクリート工 4.1 コンクリート工及び9章基礎工 9.1 砕石基礎工」により算出する。 </div> <p>10.3.5 管路工</p> <p>1. 適用</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 管路部及び特殊部の設置工電線共同溝（C・C・BOX）の設置工事の管路工に適用する。 ・管路材設置：管路呼び径150mm以下の単管を露出部及び埋設部に設置する場合 ・プレキャストボックス工：質量が11,000kg以下のプレキャストボックスブロックの設置作業の場合 ・蓋設置工：質量が2,000kg以下の蓋の設置作業の場合 </div> <p>2. 数量算出項目</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 管路工、受金具（材料費）、支持金具（材料費）、管路受台（スパーサ）（材料費）、プレキャストボックス工、蓋設置、蓋（材料費）を区分ごとに算出する。 </div> <p>3. 区分</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 区分は、施工区分規格・仕様、作業区分、ボックスブロック1個当り質量、蓋1組当り質量とする。 </div> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th style="width: 15%;">項目</th> <th style="width: 10%;">区 分</th> <th style="width: 10%;">施 工 区 分</th> <th style="width: 10%;">規 格 ・ 仕 様</th> <th style="width: 10%;">作 業 区 分</th> <th style="width: 10%;">ボク スブ ロック 1個 当り 質 量</th> <th style="width: 10%;">蓋1組 当り 質 量</th> <th style="width: 10%;">単 位</th> <th style="width: 10%;">数 量</th> <th style="width: 45%;">備 考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>管 路 延 長 工</td> <td></td> <td>⊖</td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td>m</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>受 金 具 (材 料 費)</td> <td></td> <td>⊖</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>個</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>支 持 金 具 (材 料 費)</td> <td></td> <td>⊖</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>個</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>管 路 受 台 (ス パ ー サ) (材 料 費)</td> <td></td> <td>⊖</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>個</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>プレキャストボックス工</td> <td></td> <td>—</td> <td>○</td> <td></td> <td>○</td> <td></td> <td>箇所 個</td> <td></td> <td>注2 (35)その他 1)</td> </tr> <tr> <td>蓋 設 置</td> <td></td> <td>—</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td>○</td> <td>組</td> <td></td> <td>注3 (35)その他 2)</td> </tr> </tbody> </table> <p>注) 1. 埋設部・露出部毎に算出する。なお、露出部とは、橋梁添架及びトンネル内等設置により露出管路となる部分をいう。 2. 特殊部（プレキャストボックス）は、下部床版、側壁、継壁、上部床版からなる個々のブロックより構成される。計上するボックスブロック個数は、継壁、蓋、受枠を除くブロック数を計上する。なお、継壁質量は隣接する側壁に含めるものとする。また、上部床版質量は、蓋及び受枠質量は含めないものとする。 3. 蓋1組当り質量は、受枠も含めた1組当り質量を計上する。</p>	項目	区 分	施 工 区 分	規 格 ・ 仕 様	作 業 区 分	ボク スブ ロック 1個 当り 質 量	蓋1組 当り 質 量	単 位	数 量	備 考	管 路 延 長 工		⊖	○	○			m			受 金 具 (材 料 費)		⊖	○				個			支 持 金 具 (材 料 費)		⊖	○				個			管 路 受 台 (ス パ ー サ) (材 料 費)		⊖	○				個			プレキャストボックス工		—	○		○		箇所 個		注2 (3 5)その他 1)	蓋 設 置		—	○			○	組		注3 (3 5)その他 2)			管路工の施工パッケージ化に伴い、数量算出項目・区分を修正。
項目	区 分	施 工 区 分	規 格 ・ 仕 様	単 位	数 量	備 考																																																																																																																						
管 路 延 長		○	○	m																																																																																																																								
受 金 具		○	○	個																																																																																																																								
支 持 金 具		○	○	個																																																																																																																								
管 路 受 台		○	○	個																																																																																																																								
プレキャストボックス		—	○	箇所		(3)その他 1)																																																																																																																						
蓋		—	○	組		(3)その他 2)																																																																																																																						
項目	区 分	施 工 区 分	規 格 ・ 仕 様	作 業 区 分	ボク スブ ロック 1個 当り 質 量	蓋1組 当り 質 量	単 位	数 量	備 考																																																																																																																			
管 路 延 長 工		⊖	○	○			m																																																																																																																					
受 金 具 (材 料 費)		⊖	○				個																																																																																																																					
支 持 金 具 (材 料 費)		⊖	○				個																																																																																																																					
管 路 受 台 (ス パ ー サ) (材 料 費)		⊖	○				個																																																																																																																					
プレキャストボックス工		—	○		○		箇所 個		注2 (3 5)その他 1)																																																																																																																			
蓋 設 置		—	○			○	組		注3 (3 5)その他 2)																																																																																																																			
積算上の注意事項																																																																																																																												

改正理由	現行	改正	改正 現行	備考
	<p>(2) 施工区分 埋設部・露出部毎に算出する。 なお、露出部とは、橋梁添架及びトンネル内等設置により露出管路となる部分をいう。</p> <p>(3) その他 1) プレキャストボックス 下図のとおり、プレキャストボックス1箇所ごとにプレキャストボックスブロック質量区分別個数を算出する。ただし、個々のプレキャストボックスブロック質量を併記すること。</p>  <p>※継壁質量は側壁に含める。</p> <p>プレキャストボックスブロック1個当り質量区分 ① 1000kg以下 ② 1000kg超～4000kg以下 ③ 4000kg超～11000kg以下</p> <p>2) 蓋 下図のとおり、蓋1組当りの質量を算出し、質量区分ごとに組数を算出する。</p>  <p>※プレキャストボックスブロックにて計上</p> <p>蓋1組当り質量区分 ① 200kg以下 ② 200kg超～800kg以下 ③ 800kg超～2000kg以下</p>	<p>(2) 施工区分 埋設部・露出部毎に算出する。 なお、露出部とは、橋梁添架及びトンネル内等設置により露出管路となる部分をいう。</p> <p>(3) その他 1) プレキャストボックス 下図のとおり、プレキャストボックス1箇所ごとにプレキャストボックスブロック質量区分別個数を算出する。ただし、個々のプレキャストボックスブロック質量を併記すること。</p>  <p>※継壁質量は側壁に含める。</p> <p>プレキャストボックスブロック1個当り質量区分 ① 1,000kg以下 ② 1,000kg超～4,000kg以下 ③ 4,000kg超～11,000kg以下</p> <p>2) 蓋 下図のとおり、蓋1組当りの質量を算出し、質量区分ごとに組数を算出する。</p>  <p>※プレキャストボックスブロックにて計上</p> <p>蓋1組当り質量区分 ① 200kg以下 ② 200kg超～800kg以下 ③ 800kg超～2,000kg以下</p>		
積算上の注意事項				

改正理由	現行	改正	備考															
	<p>10.3.6 仮設工</p> <p>1. 適用</p> <p>軽量鋼矢板による土留、路面覆工等の仮設工に適用する。</p> <p>2. 数量算出項目</p> <p>第1編（共通編） 11章仮設工 11.1 土留・仮締切工により算出する。但し、軽量鋼矢板による簡易土留の場合は、矢板設置延長を算出する。</p> <p>3. 参考図</p> 	<p>10.3.6 仮設工</p> <p>1. 適用</p> <p>電線共同溝（C・C・BOX）の設置工事軽量鋼矢板による土留、路面覆工等の仮設工に適用する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・軽量鋼矢板設置・撤去：土留工における軽量鋼矢板の設置及び撤去作業の場合 ・覆工板設置・撤去：覆工板の設置及び撤去作業の場合 <p>2. 数量算出項目</p> <p>第1編（共通編） 11章仮設工 11.1 土留・仮締切工により算出する。但し、軽量鋼矢板による簡易土留の場合は、矢板設置延長を算出する。 軽量鋼矢板設置・撤去の延長、及び覆工板設置・撤去の面積を算出する。</p> <p>(1) 数量算出項目一覧表</p> <table border="1" data-bbox="1389 793 2228 972"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>区分</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>軽量鋼矢板設置・撤去</td> <td></td> <td>m</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>覆工板設置・撤去</td> <td></td> <td>m²</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>注) 1. 矢板設置延長は、総延長とする。 2. 覆工板設置撤去の施工数量は、工事中の延べ設置・撤去面積とする。</p> <p>3. 参考図</p> 	項目	区分	単位	数量	備考	軽量鋼矢板設置・撤去		m			覆工板設置・撤去		m ²			<p>仮設工の施工パッケージ化に伴い、数量算出項目を修正。</p>
項目	区分	単位	数量	備考														
軽量鋼矢板設置・撤去		m																
覆工板設置・撤去		m ²																
積算上の注意事項																		